# 第１０回山口県地震・津波防災対策検討委員会

令和８年１０月１９日（月）

山口県庁 議会棟６階 第１特別委員会室

# 次　第

１　令和８年熊本地震を踏まえた防災・減災対策の方向性　【資料１】

２　今後のスケジュールについて（被害想定）　【資料２】

３　県内活断層に係る地震被害想定の見直しについて
（震度、想定地震 等）　【資料３】

４　日本海側の地震に係る地震・津波被害想定の見直しについて
（津波高（暫定）及び想定地震 等）　【資料４】

［配布資料］

資料１－１　今後のスケジュールについて（令和８年熊本地震を踏まえた防災・減災対策の方向性）

資料１－１（参考）　令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化について

資料１－２　令和８年熊本地震の現況

資料１－３　令和８年熊本地震に伴う行政職員派遣者の主な意見

資料１－４　令和８年熊本地震に伴う保健師等チームの派遣

資料１－５　令和８年熊本地震を踏まえた検証･検討項目､対策の方向性（案）

資料１－６　検証・検討項目、対策の方向性の追加等

資料２　今後のスケジュールについて（被害想定）

資料３　県内活断層に係る地震被害想定の見直しについて
（震度等の推計、想定地震）

資料４　日本海の津波高の推計について

# 山口県地震・津波防災対策検討委員会　委員名簿

| 所属・役職 | 氏名 | 備考 |
|---|---|---|
| 山口大学　名誉教授 | 三浦　房紀 | 会長 |
| 山口大学　名誉教授 | 山本　晴彦 | 御欠席 |
| 山口大学　工学部長 | 鈴木　素之 | Web 参加 |
| 山口大学大学院創成科学研究科　教授 | 朝位　孝二 | |
| 山口大学大学院創成科学研究科　教授 | 麻生　稔彦 | 御欠席 |
| 山口大学大学院創成科学研究科　教授 | 太田　岳洋 | |
| 山口大学大学院創成科学研究科　講師 | 秋田　知芳 | 御欠席 |
| 山口大学人文学部　教授 | 高橋　征仁 | Web 参加 |
| 山口大学教育学部　准教授 | 楮原　京子 | |
| 下関地方気象台　台長 | 別府　寿男 | |
| 日本防災士会山口県支部　女性部長 | 坂本　京子 | |
| 山陽小野田セーフティネットワーク　会長 | 岡本　志俊 | |
| 下関市総務部防災危機管理課　課長 | 上部　博範 | |
| 山口市総務部防災危機管理課　課長 | 植村　　昇 | |
| 萩市総務部防災危機管理課　課長 | 小野　彰彦 | |
| 岩国市総務部危機管理課　課長 | 佐伯　欽三 | |

資料１－１

第１０回
山口県地震・津波防災対策検討委員会

# 今後のスケジュールについて

（令和８年熊本地震を踏まえた防災・減災対策の方向性）

令和８年１０月１９日

# 令和８年熊本地震を踏まえた防災・減災対策の流れ

**第10回検討委員会（R8.10.19開催）**

**○熊本地震の課題や改善点の提示**

**○検証・検討項目、防災・減災対策の方向性の提示**

・今後のスケジュール（令和８年熊本地震を踏まえた防災・減災対策の方向性）（資料１－１）
・令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化（資料１－１(参考)）
・令和８年熊本地震の現況（資料１－２）
・令和８年熊本地震に伴う行政職員派遣者の主な意見（資料１－３）
・令和８年熊本地震に伴う保健師等チームの派遣（資料１－４）
・令和８年熊本地震を踏まえた検証・検討項目、対策の方向性（案）（資料１－５）
・検証・検討項目、対策の方向性の追加等（資料１－６）

**第11回検討委員会（秋～冬頃）**

**○防災・減災対策[取組概要]の提示**

**第12回検討委員会（冬頃）**

**○防災・減災対策[具体的事業]の提示**

**※積み残した課題については、令和９年度以降も継続して検証や対策を実施**

資料１－１(参考)

第４回
山口県地震・津波防災対策検討委員会

# 令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化について

令和７年３月18日

# 令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化

「体制」「物流」「避難」「その他」の区分毎に課題の抽出を行うとともに、検証すべき項目と対応の方向性について整理
※下線部は、Ｒ７年度事業

| 体制 | 検証・検討項目 | ①広域応援体制・受援体制の明確化　②ネットワーク環境の早期確保<br>③応援職員の受入体制及び業務実施体制の確保 |
|---|---|---|

| 主な防災・減災対策 | 主な取組内容 |
|---|---|
| ①・業務継続計画発動・受援調整体制確認訓練の実施及び 県災害時広域受援計画等の見直し | ・災害対策本部開設机上訓練の実施（R7.1）<br>机上訓練を踏まえた各種計画の改正（R7.3予定） |
| ・研修会開催等による市町災害時受援計画の策定支援 | ・市町職員を対象とした受援体制の構築に関する研修会の開催（R7.1） |
| ・研修の充実強化（全職員向けの防災研修の実施、市町トップセミナーの開催検討） | ・拡 **地域防災力充実強化事業（P7）** |
| ・広域応援体制に関する計画・マニュアル等の見直し | ・各種マニュアル(中国地方知事会)の改正（R7.3予定） |
| ②・衛星インターネットを活用した通信環境整備に向けた検討 | ・新 **防災ＤＸによる広域避難体制整備事（P7）** |
| ③・災害時応援職員の生活拠点の確保に向けた県計画・災害時応援協定基礎資料等の見直し、関係事業者との協定見直し・締結の検討 | ・災害時応援協定基礎資料等の改正（R7.2） |

# 令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化

| 物流 | 検証・検討項目 | ①自治体備蓄･支援物資等の供給体制の整備<br>②支援物資輸送に係る体制の整備、災害時に孤立する可能性のある集落等への対応<br>③緊急輸送道路、輸送手段の確保 |
|---|---|---|

| 主な防災・減災対策 | 主な取組内容 |
|---|---|
| ①・物資調達・輸送調整等支援システムへの適切な備蓄品等登録及びシステム操作訓練の実施 | ・内閣府物資システム操作訓練の実施（R7.3） |
| ・支援物資物流マニュアルの見直し | ・「緊急支援物資対策チーム」の体制見直し（R7.3） |
| ②・物資搬送ドローンを活用した緊急物資輸送体制の整備に向けた検討 | ・ 新 **物資搬送ドローンによる緊急物資輸送体制整備事業（P8）** |
| ・離島を想定した物資配送訓練の実施 | ・下関市六連島において物資配送訓練を実施（R6.11） |
| ③・山口県道路啓開計画の見直し | ・地震・津波被害想定の見直し等を踏まえた、山口県道路啓開計画の見直し（R7以降） |
| ・橋梁・漁港等の耐震化の推進 | ・優先順位の高い橋梁等から、順次、耐震化等を実施（継続実施） |

# 令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化

| 避難 | 検証・検討項目 | ①広域避難体制の整備<br>②指定避難所以外の避難者の把握と支援（自主避難、車中泊等）<br>③避難所における適切な環境整備、生活環境の改善 |
|---|---|---|

| 主な防災・減災対策 | 主な取組内容 |
|---|---|
| ①・広域避難所の整備に向けた検討 | ・新 避難所環境改善推進事業(P8) |
| ・被災者の受入れ先確保に向けた広域避難体制の整備 | ・新 (再掲)防災ＤＸによる広域避難体制整備事業（P7） |
| ②・避難所運営・避難者管理に係るシステム導入の検討 | ・新 (再掲)防災ＤＸによる広域避難体制整備事業（P7） |
| ③・避難所の生活環境改善に必要な資機材の整備支援 | ・新 (再掲)避難所環境改善推進事業（P8） |
| ・避難所運営マニュアル策定のための基本指針の見直し | ・避難所運営検討部会での検討を踏まえ、避難所運営に係る指針の見直しを実施（R7年度） |
| ・災害時の保健活動に係る情報共有・研修会の実施 | ・保健師等地域関係職員を対象とした、災害時の保健活動に係る研修会の開催（R6.9） |

# 令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化

| 避難 | 検証・検討項目 | ④要配慮者対策、福祉避難所の確保<br>⑤被災住民による避難所運営への移行に向けたロードマップの整備 |
|---|---|---|

| 主な防災・減災対策 | 主な取組内容 |
|---|---|
| ④・個別避難計画作成に向けたヒアリング･研修会の実施 | ・市町ヒアリングを踏まえ、課題や先進的な取組等について共有する研修会を開催（R6.10） |
| ⑤・自主防災アドバイザースキルアップ研修等を通じた地域・市町の連携強化 | ・自主防災アドバイザー及び市町職員を対象とし、避難所運営をテーマとしてスキルアップ研修を開催（R7.2） |
| ・地域住民による自主的な避難所運営ガイドラインの見直し | ・ 拡 （再掲）域防災力充実強化事業（P7） |

# 令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化

| その他 | 検証・検討項目 | ①防災意識の高揚　②住宅、福祉施設等の耐震化の促進<br>③上下水道一体での復旧対応　④公共土木施設等の整備・早期復旧 |
|---|---|---|

| 主な防災・減災対策 | 主な取組内容 |
|---|---|
| ①・災害体験ＶＲの整備、防災シンポジウムの開催 | ・災害体験ＶＲ（地震･津波･風水害）の貸出（R6.7～）<br>やまぐち防災シンポジウムの開催（R7.2） |
| ②・耐震改修に係る補助、普及啓発・低コスト工法に係る講習会の実施 | ・新 **住宅耐震改修エキスパート人材育成事業（P9）** |
| ③・上水・下水の部局間の連携体制の構築による、上下水道一体での情報共有・連絡調整の実施 | ・上下水道一体での市町への復旧支援のための情報共有ツールを活用した庁内情報共有体制の構築（R6.5） |
| ④・道路整備の計画的かつ着実な推進による、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの整備促進 | ・幹線道路・生活道路等の計画的かつ着実な整備促進（継続実施） |
| ・公共土木施設等の耐震化の促進（砂防えん堤、急傾斜地崩壊防止施設、河川管理施設、海岸保全施設、下水道施設等） | ・公共土木施設等の計画的かつ着実な耐震化促進（継続実施） |

# 令和６年能登半島地震の課題を踏まえた防災・減災対策の強化

| その他 | 検証・検討項目 | ⑤企業の事業継続計画策定の推進<br>⑥災害時における要配慮者等への支援体制の強化<br>⑦デジタル技術を活用した防災・減災対策の推進 |
|---|---|---|

| 主な防災・減災対策 | 主な取組内容 |
|---|---|
| ①・山口県建設工事入札参加資格審査の見直し | ・「事業継続力強化計画認定制度」により認定された企業について、加点対象とするよう検討（R7年度） |
| ・事業継続力強化計画の策定・認定支援等の実施による企業ＢＣＰの策定支援 | ・新 防災・減災対策支援資金(中小企業制度融資)(P9) |
| ・地震・津波被害想定の見直しを踏まえた周知強化 | ・防災体制整備拡充費（P10） |
| ②・災害福祉支援センターを中心とした福祉支援体制の強化 | ・災害時福祉支援体制整備事業費（P10）<br>※その他災害時の保健医療活動の体制強化 |
| | 拡 救急休日夜間医療対策事業（P11） |
| | 新 災害派遣精神科医療チーム体制整備事業（P11） |
| ③・行政データのデジタル化、共有化、ＧＩＳ化の推進 | ・新 県民に安心・安全を届ける災害対策のＤＸ化(P12) |
| ・システムによる公共土木施設の一元管理 | ・県施設のデータを同一地図上で一元的に管理するシステムの構築（R7年度運用開始） |
| ・災害情報共有システムによる市町との被災状況の共有 | ・災害情報共有システムによる市町との連携強化（継続実施） |

# 令和７年度当初予算の概要（防災・減災対策）

## 拡 地域防災力充実強化事業

［総務部 防災危機管理課］ （7,534千円）

**◆趣　　旨**

大規模な自然災害等の発生に備え、自主防災組織の活性化や住民の防災意識の向上など、自助・共助の取組を促進することにより、地域の防災力を充実強化し、災害に強い県づくりを推進します。

**◆事業の概要**

**○自主防災組織の活性化**

地域防災の要である自主防災組織を活性化するため、自主防災組織に指導・助言を行う自主防災アドバイザーを養成して地域に派遣するほか、スキルアップ研修を充実し、アドバイザーの活動を強化します。

**○若い世代の防災意識の向上**

若い世代の防災意識の向上を促進するため、小学生を対象にしたＡＲ機器やＶＲ機器を活用した体験型の防災学習講座を実施します。



**新 「地域住民による自主的な避難所運営ガイドライン」の見直し**

能登半島地震での課題を踏まえ、被災住民による避難所運営への円滑な移行に向け、ガイドラインの見直しを実施します。



**新 トップセミナーの開催**

市町長がリーダーシップを十分発揮し、的確な初動対応を行えるよう、市町長を対象としたトップセミナーを市町と連携し開催します。

## 新 防災ＤＸによる広域避難体制整備事業

［総務部 防災危機管理課］ （42,650千円）

**◆趣　　旨**

大規模災害時に、早期に被災者の生活環境の確保を図るため、市町を超える広域避難実施に係る体制を整備します。

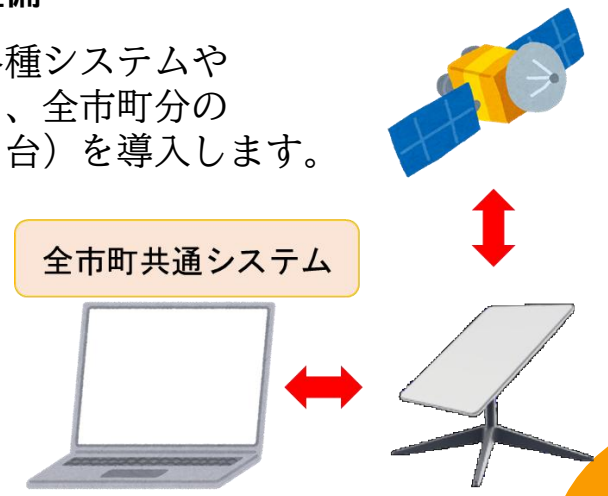
**◆事業の概要**

**○被災者生活再建支援システムの改修による機能追加**
（避難所運営・避難者管理機能、個別避難計画の作成機能）

全市町共通のシステムにより、避難者の状況を把握・管理するとともに、迅速な広域調整を実施します。

**○衛星インターネット機器の整備**

県内各避難所で災害時にも各種システムや情報通信が使用可能となるよう、全市町分の衛星インターネット機器（２０台）を導入します。



# 令和７年度当初予算の概要（防災・減災対策）

## 新　物資搬送ドローンによる緊急物資輸送体制整備事業

［総務部　防災危機管理課］　（24,934千円）

**◆趣　　旨**

大規模災害時に、速やかに孤立集落等へ支援物資を輸送できるよう、物資搬送ドローンを活用した緊急物資輸送体制を構築します。

**◆事業の概要**

**○物資搬送ドローンの目視外飛行での搬送に係る実証**

地理的特性ごと（県内４箇所：半島、離島、山間部、漁村部等）に、ドローンによる、モバイル通信を用いた目視外飛行での物資搬送に係る実証事業を実施します。

**○物資搬送ドローン運用マニュアルの作成**

実証事業を踏まえ、運行ルート上の支障物や通信環境、航空局への申請等、運航に係るマニュアルを作成し、県内各地で物資搬送ドローンによる目視外飛行が運用可能な体制を構築します。





## 新　避難所環境改善推進事業

［総務部　防災危機管理課］　（114,012千円）

**◆趣　　旨**

避難所における良好な生活環境を早期に確保するため、必要な資機材を整備するとともに、広域避難の受け皿となる広域避難所の整備に向けた検討を実施します。

**◆事業の概要**

**○避難所環境改善に必要な資機材の整備**

簡易トイレ、炊き出し用資機材、簡易ベッド・テント式パーティション等の資機材を各地域に整備するとともに、必要に応じて市町へ貸出を行うことにより、各市町避難所等への広域支援体制を構築します。



**○避難所運営検討部会の設置**

能登半島地震での課題等を踏まえ、適切な避難所環境を早期に確保するとともに、市町を越える広域避難を実施することができるよう、有識者や市町等の多様な視点から避難所運営に係る検討を行う避難所運営検討部会を設置します。

**○広域避難所運営計画の作成**

広域避難所を適切に設置・運営できるよう、広域避難所の設置・運営に係る計画を作成します。

# 令和７年度当初予算の概要（防災・減災対策）

## 新　住宅耐震改修エキスパート人材育成事業

［土木建築部　住宅課］　（9,266千円）

**◆趣　　旨**

比較的安価に施工できる住宅の低コストな耐震改修工法を普及させるため、当該工法を熟知した技術者を育成し、住宅の耐震化を促進します。

**◆事業の概要**

| 区分 | 事業内容 |
|---|---|
| 住宅耐震エキスパート人材の育成 | ○アドバイザーの伴走型支援による技術者の育成 |
| 技術者の連携強化 | ○設計者と施工者の連携強化を図る技術者交流会等の実施 |
| 普及啓発 | ○技術者向けの低コストな工法に係る動画教材や解説リーフレットの作成 |

**Point**

工事費や工期の縮減により
住宅所有者の負担軽減へ




## 新　防災・減災対策支援資金（中小企業制度融資）

［産業労働部　経営金融課］　（融資枠　10億円）

**◆趣　　旨**

中小企業者による施設･設備の耐震化などの緊急事態に備えた防災･減災対策及び事業継続計画策定を支援します。

**◆資金の概要**

| | |
|---|---|
| 融資対象 | ▽　施設･設備の耐震化などの事業継続計画に基づく対策･計画策定を行う中小企業者等 |
| 融資利率 | 5年以内　：　年1.8%(年1.6%)<br>5 年 超　：　年1.9%(年1.7%)<br>10年超　：　年2.1%(年1.9%) |
| 融資限度額 | 8千万円 |
| 保証料率 | 年0.34 ～ 1.76% |
| 融資期間 | 15年(据置2年)以内 |

※ 融資利率の( )書きは、責任共有制度対象外の場合

**Point**

中小企業者による施設・設備の耐震化などの緊急事態に備えた防災・減災対策及び事業継続計画策定を資金面から後押し

# 令和７年度当初予算の概要（防災・減災対策）

## 継 防災体制整備拡充費

［総務部 防災危機管理課］ （95,517千円）

**◆趣　　旨**

令和６年能登半島地震を踏まえ、本県における地震・津波被害想定を見直し、防災・減災対策を更に推進します。

**◆事業の概要**

**〇地震・津波防災対策検討委員会を運営**

有識者による地震・津波防災対策検討委員会を設置し、地震・津波被害想定の見直しを実施するとともに、被害想定を踏まえた周知強化による防災意識の高揚、本県の防災・減災対策の見直し・検討を行います。

**〇地震・津波被害想定の見直し**

防災・減災対策の基礎的資料となる県内の地震・津波被害想定の見直しを実施します。

・南海トラフ巨大地震・周防灘断層群の地震・津波被害想定
（令和６年度～令和７年度）

・県内活断層の地震被害想定
（令和７年度～令和８年度）

・日本海側の地震・津波被害想定
（令和８年度）

## 継 災害時福祉支援体制整備事業

［健康福祉部 厚政課］ （9,800千円）

**◆趣　　旨**

被災者に切れ目のない一貫した福祉支援を行うため、「災害福祉支援センター」の運営を支援し、研修・訓練の実施等による災害派遣福祉チーム（DWAT）や災害ボランティアセンターの機能強化を図ります。



**◆事業の概要**

**〇災害福祉支援センターの運営**

被災者支援のためのコーディネーターを配置し、平時から関係機関との連携体制を構築するとともに、災害時における迅速な支援を実施します。

**〇災害派遣福祉チーム（ＤＷＡＴ）の機能強化**

避難所等において、要配慮者（高齢者・障害者・子ども等）へ適切な福祉支援を行い、二次被害の防止を図るため、ＤＷＡＴチーム員への研修や訓練の企画運営を実施します。

**〇災害ボランティアセンターの機能強化**

災害ボランティアセンターの運営を効率的に行い、早期に被災者支援を行うため、ＩＣＴを活用した運営模擬訓練等を実施します。

# 令和７年度当初予算の概要（防災・減災対策）

## 拡 救急休日夜間医療対策事業

［健康福祉部　医療政策課］　（117,857千円）

**◆趣　　旨**

県民に必要な救急医療や災害医療が提供できるよう、救急医療体制の核となる救命救急センター等の機能強化、災害時における関係機関の連携体制の充実等に取り組みます。

**◆事業の概要**

**【救急医療】**

・救命救急センターや病院群輪番制病院における設備整備等への助成

・病院前救護体制の充実を図るための救急救命士病院実習受入への助成

**【災害医療】**

・災害発生時に、二次医療圏単位で医療提供体制等のコーディネートを行う人材(地域災害医療コーディネーター)の養成研修の実施

・災害時の迅速な対応に向けた本部運営訓練の実施

・県内災害医療関係者の連携体制の構築

新 **災害支援ナースの研修や派遣調整の実施**

## 新 災害派遣精神医療チーム体制整備事業

［健康福祉部　健康増進課］　（3,180千円）

**◆趣　　旨**

大規模災害発生時に被災地域へ専門性の高い精神科医療及び精神保健活動の支援を行うため、災害派遣精神医療チーム（ＤＰＡＴ）の養成と養成後の質を確保するための訓練、研修等を実施します。

**◆事業の概要**

**○山口県ＤＰＡＴ研修**

県内が被災した場合に精神科医療及び精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム(ＤＰＡＴ)を養成します。

**○ＤＰＡＴ先遣隊大規模地震時医療活動訓練**

大規模地震時医療活動に係る組織体制の機能と実効性の検証及び防災関係機関相互の協力の円滑化を図るため、国、地方公共団体等が連携して行う実動訓練へＤＰＡＴ先遣隊を派遣します。

**○ＤＰＡＴ運営委員会**

人材育成・確保、受援体制の整備、派遣体制の整備を平時から行うため、ＤＰＡＴ運営委員会を開催します。

# 令和７年度当初予算の概要（防災・減災対策）

新 **県民に安心・安全を届ける災害対策のＤＸ化**

［警察本部警備部　警備課］　　（73,190千円）

**◆趣　　旨**

災害発生時等において、県民に対する正確な情報の速やかな発信や迅速な救出救助活動ができるよう、警察内部及び防災部局の情報を一元的に管理する体制を構築し、県民の安心・安全を確保します。

**◆事業の概要**

・県警本部（災害警備本部）・警察署の災害対応機能を強化

・県警本部と各警察署、防災部局との情報共有・連携を強化するためのシステムを導入

・SNS等を活用して県民に対して正確な情報を素早く発信

・情報収集の迅速化により一層的確な救出救助活動を実現

＜イメージ＞

①情報収集・集約・共有　　②迅速な情報発信　③迅速な救出救助



山口県



資料１－２

# 令和８年熊本地震の現況

令和８年１０月１９日

第１０回地震・津波防災対策検討委員会

# 令和８年熊本地震の概要

| | |
|---|---|
| 発生日時 | 令和８年７月２８日（火）　１６時２７分 |
| 震源地 | 熊本県熊本地方 |
| 震源の深さ | 16km |
| 地震の規模 | マグニチュード7.1 |
| 最大震度 | 震度７（熊本県宇城市、氷川町） |
| 県内最大震度 | 震度４（下関市、宇部市） |
| 警報／注意報 | 津波注意報（有明・八代海） |
| | 山口県は津波注意報の対象外 |

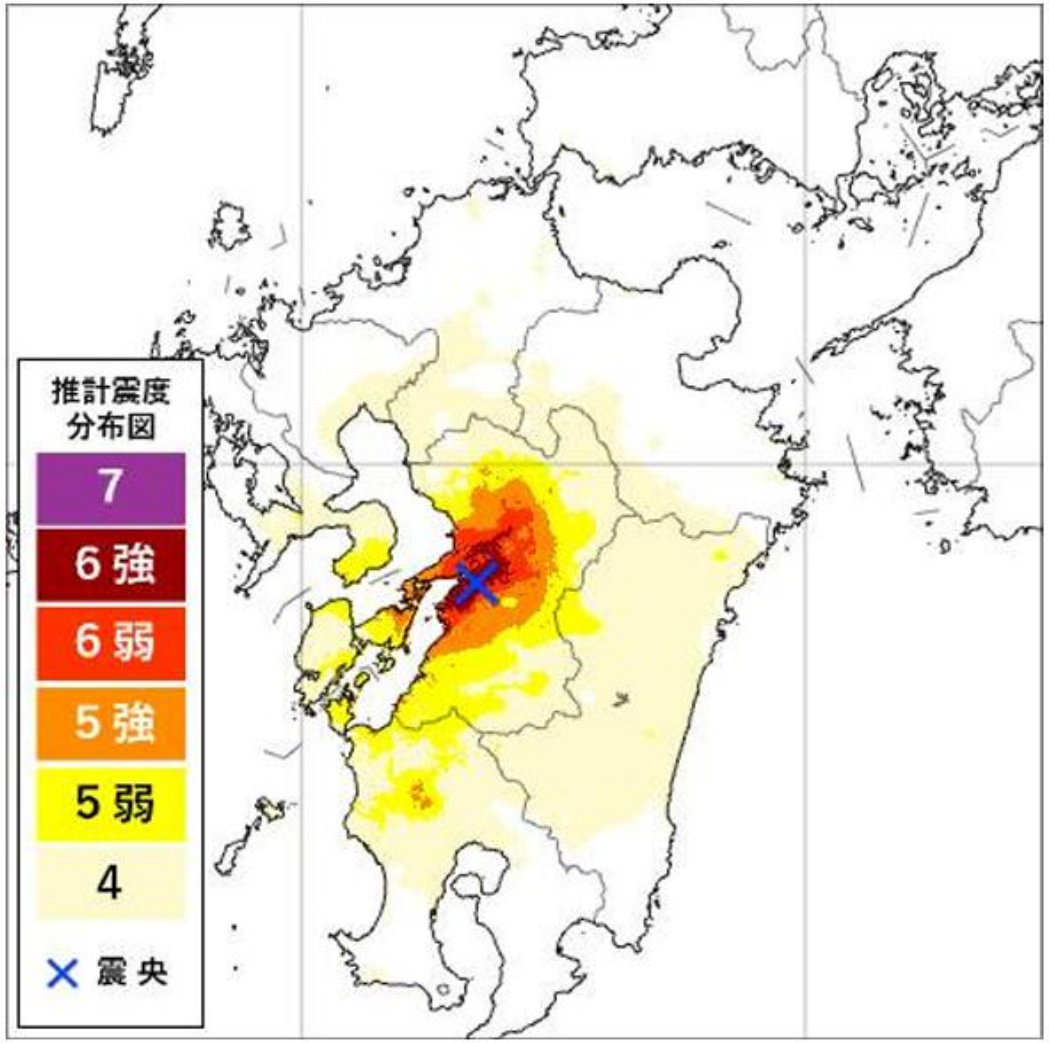
# 令和８年熊本地震の概要

出典：気象庁　作成（R8.7.28）
令和8年7月28日16時27分頃の熊本県熊本地方の地震について

## 各地域の震度




## 推計震度分布図



# 被害の概要　①人的・住家被害

出典：熊本県　作成（R8.10.8）
第６回令和８年熊本地震復旧・復興本部会議
出典：令和８年熊本地震に係る第22回政府非常災害現地対策本部会議　第29回熊本県災害対策本部会議（R8.8.31）
出典：熊本県　作成（R8.10.2）
応急仮設住宅等の入居状況について（9月30日現在）

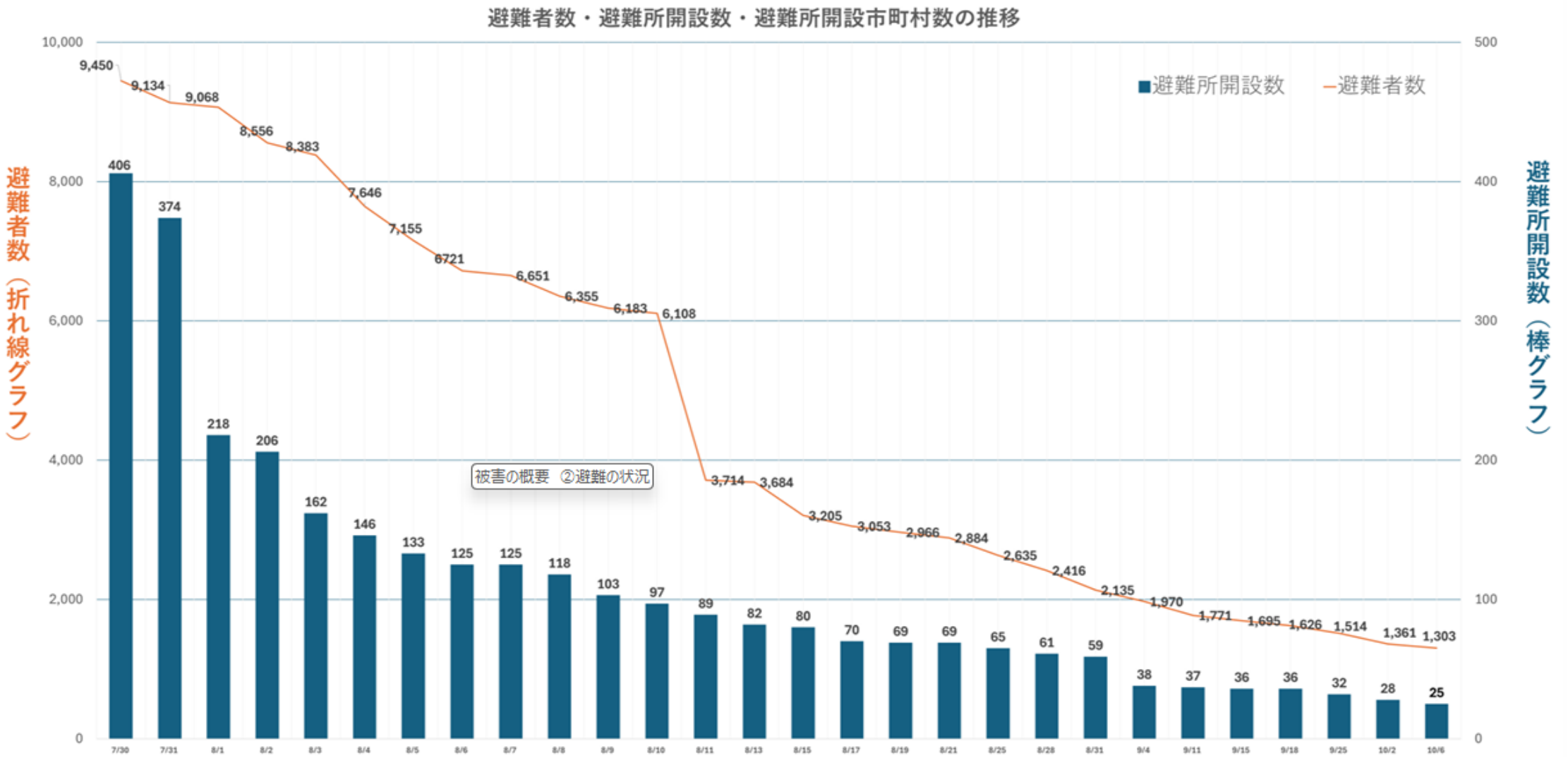
| | |
|---|---|
| 死者 | 38人（うち災害関連死の可能性がある死者２人） |
| 負傷者 | 374人（重傷 44人、中等症 97人、軽症 72人、分類未確定 161人） |
| 住家被害 | 75,298棟（全壊 2,515棟、半壊 6,896棟、一部損壊 61,870棟　等） |
| 避難者 | 最大 9,450人<br>現在 1,303人 |
| ホテル等避難 | 申込 1,478件<br>マッチング済 554件・1,202人　調整中 304件　辞退 569件　不通 47件 (8/31) |
| 公営住宅 | 33戸・62人 (9/30) |
| 賃貸型応急住宅 | 382戸・891人 (9/30) |
| 建設型仮設住宅 | 168戸・346人 (9/30) |

# 被害の概要　②避難の状況

出典：熊本県　作成（R8.10.8）
第６回令和８年熊本地震復旧･復興本部会議

**【避難に関する情報】**※R8.10.6（火）14:00時点

避難所開設数：**25**カ所（**7**市町）、避難者数：**1,303**名（**7**市町）



# 被害の概要
# ③ライフライン

| | |
|---|---|
| 電力 | 最大約 49,000戸 停電<br>※R8.7.31までに復旧 |
| 水道 | 最大約 108,000戸 断水<br>※8/28までに復旧<br>※井戸については、約4,500世帯<br>(八代市)の被害が発生 |
| ガス | 最大 9,400戸 供給休止<br>※8/14までに復旧 |

出典：内閣官房防災庁設置準備室（令和8年10月8日）
「防災局の業務に関する方向性・論点について」



# 現地の様子

山口県職員撮影
（熊本県八代市カウンターパート支援派遣）



イオンモール熊本（嘉島町）



建物の破損状況（八代市）



倒壊の様子（八代市）



沿道の様子（八代市）



支援物資の受入・集積（八代市）



避難所の状況（八代市）



避難所の状況（八代市）



炊出しの様子（八代市）

# 平成28年熊本地震・能登半島地震・令和８年熊本地震の被害比較

**死者**
**H28:275人　R6:744人　R8:38人**

**最大避難者数**
**H28:183,882人　R6:40,688人　R8:9,450人**

**住家被害計**
**H28:198,385棟　R6:116,524棟　R6:75,298棟**

| 区分 | 項目 | 平成28年熊本地震 | 令和6年能登半島地震 | 令和８年熊本地震 |
|---|---|---|---|---|
| **死者** | **死者** | **275人** | **744人** | **38人** |
| | うち災害関連死等 | 225人 | 516人 | （※1）2人 |
| **負傷者** | 負傷者 | 2,739人 | 1,277人 | 374人 |
| | **人的被害計** | **3,014人** | （※2）**2,023人** | **412人** |
| **避難** | **避難者数（最大）** | **183,882人** | **40,688人** | **9,450人** |
| | 避難所数（最大） | 855か所 | 423か所 | 465か所 |
| **住家被害** | 全壊 | 8,657棟 | 6,168棟 | 2,515棟 |
| | 半壊 | 34,489棟 | 18,724棟 | 6,896棟 |
| | その他 | 155,239棟 | 91,632棟 | 65,887棟 |
| | **住家被害計** | **198,385棟** | **116,524棟** | **75,298棟** |

※1 令和８年の「２人」は災害関連死として確定した値ではなく、災害による負傷悪化等により死亡した可能性のある死者。
※2 能登半島地震の人的被害計は、死者744人、行方不明者２人、負傷者1,277人の合計。
出典：熊本県「検証報告書」（H30.3）、石川県「被害状況（第233報）」（R8.9.30）、中央防災会議「令和６年能登半島地震を踏まえた災害対応の在り方について（報告書）」（R6.11）

# 本県における支援

山口県支援状況（R8.10.14時点）

**発災直後から、避難生活支援・生活再建支援まで、県・市町・関係機関が連携し、切れ目なく支援**

**職員派遣**
**142人**
県104人・市町38人
避難所運営、住家被害認定調査等

**医療・福祉**
**DMAT 18チーム**
JMAT、DPAT、災害支援ナース、
DWATを派遣

**被災者支援**
**県営住宅 10戸程度**
相談窓口、義援金箱を設置

**給水支援**
**58人・30台**
延べ18市町等が応援給水

## 1　職員派遣：被災地ニーズに応じた人的支援

- 避難所運営等・住家被害認定調査　97人
- 保健師等応援派遣　31人
- 下水道被災状況調査　８人
- 被災建築物応急危険度判定　６人

※八代市支援は、避難所運営から住家被害認定調査へ移行

## 2　医療・福祉支援

- DMAT　18チーム
- JMAT　２チーム
- DPAT　１チーム
- 災害支援ナース　52名
- DWAT　27名

## 3　被災者・給水支援

- 相談窓口を設置
  住まい・生活等を案内
- 県営住宅10戸程度
  家賃免除等を実施
- 応援給水
  58人・30台

# 令和８年熊本地震に伴う行政職員派遣者の主な意見
# ～　現地業務・避難所運営に関する課題・気付き等　～

資料１－３

## １　支援物資の確保・輸送・適正な配分

○ 発災当初は、物資集積拠点から避難所までの輸送が十分に機能せず、避難所間で食料・衛生用品等の在庫に偏りが生じた。また、物資を要請しても、何が、いつ、どの程度届くのか把握できず、在庫管理や配布の判断が難しい状況があった。

○ 避難所入所者に加え、在宅・車中泊避難者等への物資提供も求められる中、どこまで、誰に、どの程度配布するかの判断が難しく、避難所ごとに対応が異なる場面もあった。避難所外避難者を含めた物資配布の考え方や基準をあらかじめ整理しておく必要がある。

## ２　食事等への対応

○ 食事は、アルファ米、パン、カップ麺等に偏り、野菜やたんぱく質等が不足するなど、避難生活の長期化に伴う栄養バランスや食事の飽きへの対応が課題となった。高齢者、乳幼児、アレルギー等の個別ニーズに対応した食品の確保も必要である。

# 令和８年熊本地震に伴う行政職員派遣者の主な意見
# ～　現地業務・避難所運営に関する課題・気付き等　～

## ３　トイレ・衛生・入浴・感染症対策

○ 断水により、水洗トイレや手洗いが利用できず、簡易トイレの処理、清掃、生活用水の確保等に大きな負担が生じた。特に高齢者にとって屋外の仮設トイレ等への移動が負担となり、衛生面と利用者の身体的負担の双方を考慮したトイレ環境の確保が必要。

○ 感染症発生時の隔離場所の確保、衛生用品の不足、パーティション内の整理・清掃が十分でない避難者への対応等も課題となった。避難所開設時から、隔離スペースや感染症対策用品を確保し、避難者への継続的な声掛けや衛生管理が必要と感じた。

## ４　避難所の運営

○ 住民による自主運営が進んだ避難所では、その取組を尊重しながら行政がどこまで関与するかの判断が難しかった。自治会等と意見交換を行い、行政は必要な部分を補完するなど、避難所の状況に応じて支援の形を変えていく必要がある。

# 令和８年熊本地震に伴う行政職員派遣者の主な意見
# ～　現地業務・避難所運営に関する課題・気付き等　～

## 5　避難者情報の把握

○ 避難者名簿について、発災時の情報から更新されていない、健康・医療・介護等の情報が十分に活用されていないなど、実際に避難所にいる人や必要な支援を正確に把握することが難しい状況があった。

## 6　避難所集約・生活再建への移行期の対応

○ 発災から約１か月が経過すると、ライフラインや商店等が徐々に復旧する一方、行政による物資提供や個別ニーズへの対応をいつまで、どこまで継続するかという課題が生じた。応急的な支援から通常の生活・地域経済へ移行する時期を見極め、支援内容を段階的に見直す必要がある。

# 令和８年熊本地震に伴う保健師等チームの派遣

## ～ 在宅避難者に関する課題･気付き等 ～

資料１－４

## １　活動の概要




| | |
|---|---|
| **派 遣 先** | 熊本県**八代市** |
| **派遣期間** | 令和８年**８月５日～９月１９日**　各班６日間の活動 |
| **班 編 成 (全9班)** | 第1～5班：各**３名**（保健師2名※、事務1名）　※県中心（3班は下関市混合）<br>第6～9班：各**４名**（保健師2名※、栄養士1名、事務1名）※県＋市の混合 |
| **活動目的** | 目的：**災害関連死を防ぐ・二次健康被害を最小化**にする。<br>目標：災害関連死・感染症・生活不活発病の予防<br>在宅避難者の調査を早急に進めていく。 |
| **活動内容** | ○**個別訪問**<br>在宅の要配慮者（75歳以上の独居等）の健康状態確認及び要支援者の把握<br>○**避難所**<br>避難所の健康管理（保健師）・食環境整備（管理栄養士） |

# 令和８年熊本地震に伴う保健師等チームの派遣
## ～　在宅避難者に関する課題･気付き等　～

## 2　活動実績（第1班～第9班）

○**個別訪問**：要配慮者の健康状態確認及び要支援者の把握

- ◆　訪問件数　425 件
- ◆　健康状態確認件数　292 件
- ◆　うち要支援人数　7 人
- ◆　不在件数　143 件

**«個別訪問　要支援者事例»**
- ●空腹により衰弱しており、定期訪問の対象となった
- ●冷蔵庫、クーラーなしで生活し、栄養面も懸念され、配食サービスの調整がとられた

○**避難所**

《避難所の健康管理》
- ◆ 7日間（3避難所）
- ◆ 健康相談：21件
- ◆ 栄養相談：　2件

《食環境整備》
- ◆ 支援物資（食品）の仕分け
- ◆ 啓発用チラシの作成（栄養バランス、食中毒予防等）
- ◆ 特殊栄養食品（減塩食・嚥下食など）の管理
- ◆ 食中毒予防（食事場所や調理作業場所の衛生確認等）

# 3　課題･気付き

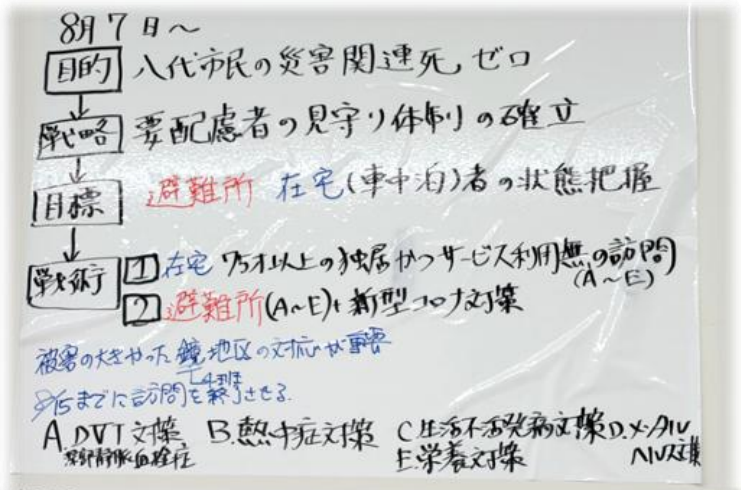
## (1) 情報共有･情報の一元化

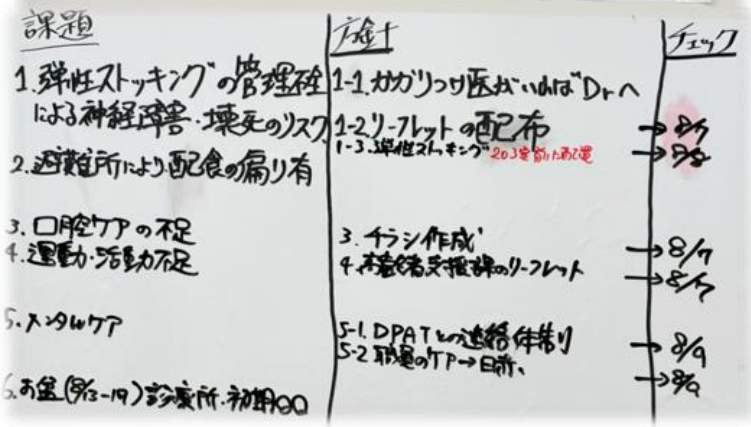





○ 活動当初は、被災自治体の組織体系や活動方針などの情報が少なかった。

○ 多くの保健医療福祉チーム（DMAT、DHEAT、保健師等チーム、JMAT、日赤、災害支援ナース、DPAT、JRAT、JDA-DAT、DWATなど）が支援に入っており、他の支援チームの動きなど、支援の全体像が把握しにくかった。<u>活動方針や支援チームの動きの見える化や、共有システムを用いて情報を集約・統合し、情報を一元化することが必要</u>である。



# 3　課題･気付き

## (2) 在宅の要配慮者の対応

○ 給水所やスーパーまで徒歩で数十分かかる人などは、自宅への配達希望が多かった。在宅の要配慮者に飲食物等を継続的に届ける方法の確保が必要である。

○ 断水により、水洗トイレや風呂、洗濯、手洗いができず、生活用水の確保に大きな負担が生じた。

○ クーラーや扇風機がない（震災により壊れて使えなくなった場合も含む）家では、猛暑や断水の中、熱中症予防が課題となった。

○ 個別訪問では不在者も多く、要配慮者の全戸訪問に時間を要した。効率的に要支援者の把握を行うために、訪問と併せて、住民から健康状態等を登録する仕組みも必要となる。







資料１－５

# 令和８年熊本地震を踏まえた検証・検討項目、対策の方向性（案）

| 区分 | 検証・検討項目 | 対策の方向性 |
|---|---|---|
| Ⅰ 体制 | ①広域応援体制・受援体制の明確化 | 業務継続体制の確保、受援調整体制の強化 |
| | | 研修・訓練の充実による職員対応力の強化 |
| | | 広域応援体制の強化 |
| | **災害対策本部の機能強化** | **災害対策本部運営の実効性の向上** |
| | ②ネットワーク環境の早期確保 | 通信環境の確保に係る施策の検討・推進 |
| | ③応援職員の受入体制及び業務実施体制の確保 | 災害時応援職員執務場所等の明確化 |
| | | 災害時応援職員の生活拠点の確保 |
| Ⅱ 物流 | ①自治体備蓄・支援物資等の供給体制の整備 | 広域輸送拠点の機能強化 |
| | | 物資調達・輸送調整等支援システムを活用した物資供給体制の強化 |
| | **避難所へのラストワンマイル輸送の確保** | **地域内輸送拠点から避難所等への物資輸送体制の実効性の向上** |
| | ②支援物資輸送に係る体制の整備、災害時に孤立する可能性のある集落等への対応 | 災害時に孤立する可能性のある集落等への物資配送体制の強化 |
| | ③緊急輸送道路、輸送手段の確保 | 緊急輸送関連施設の耐震化の推進 |
| | | 港湾・空港に係る物流機能等の強化 |
| | ④緊急輸送道路、輸送手段の確保 | 山口県道路啓開計画に基づく啓開体制の強化 |
| Ⅲ 避難 | ①広域避難体制の整備 | 広域避難所の整備に向けた検討 |
| | **②指定避難所以外の避難者の把握と支援（自主避難、車中泊等）** | 指定避難所以外の避難所の実態把握手法の検討 |
| | | **指定避難所外避難者への対応検討** |
| | ③避難所における適切な環境整備、生活環境の改善 | 避難所の衛生環境の確保、感染症対策、ペット同行避難対策の促進 |
| | | 女性視点を活かした避難所運営の促進 |
| | **猛暑下における避難生活への対応** | **どの季節でも安心して快適に過ごせる避難所づくり** |
| | ④要配慮者対策、福祉避難所の確保 | 個別避難計画の作成促進 |
| | | 避難者の適切な把握・管理 |
| | ⑤被災住民による避難所運営への移行に向けたロードマップの整備 | 避難所運営の手引きの作成促進 |
| | | 地域住民による自主的な避難所運営ガイドラインの見直し |
| | **⑥二次避難や応急的な住まいへの円滑な移行** | **二次避難等への円滑な移行体制の整備** |

# 令和８年熊本地震を踏まえた検証・検討項目、対策の方向性（案）

| 区分 | 検証・検討項目 | 対策の方向性（案） |
|---|---|---|
| Ⅳ<br>その他 | ①防災意識の高揚 | 地域住民等に対する防災普及啓発活動の充実・強化 |
| | ②住宅、福祉施設等の耐震化の促進 | 住宅耐震化の促進 |
| | | 社会福祉施設の耐震化の促進 |
| | ③上下水道一体での復旧対応 | 上下水道関係者の連携体制の構築 |
| | ④公共土木施設等の整備・早期復旧 | 地質・地形リスクの事前把握 |
| | | 災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの整備促進 |
| | | 公共土木施設等の耐震化の促進 |
| | ⑤企業の事業継続計画策定の推進 | 建設業者の事業継続計画策定の推進 |
| | ⑥災害時における要配慮者等への支援体制の強化 | 災害時の福祉支援体制の強化 |
| | | 被災者情報の一元管理 |
| | ⑦デジタル技術を活用した防災・減災対策の推進 | 行政データのデジタル化の推進 |
| | | 公共土木施設等データのデジタル化、GISの災害活用 |

資料１－６

# 検証・検討項目、対策の方向性の追加等

| | |
|---|---|
| **① 災害対策本部の機能強化** | 災害対策本部運営の実効性の向上<br>（情報集約、庁内連携、応援受入の実効性の確保） |
| **② 避難所へのラストワンマイル輸送の確保** | 地域内輸送拠点から避難所等への物資輸送体制の実効性の向上<br>（ラストワンマイル、避難所のニーズ把握・連携） |
| **③ 指定避難所以外の避難者の把握と支援<br>（自主避難、車中泊等）** | 指定避難所外避難者への対応検討<br>（自主避難、在宅避難、車中泊等に対する対応） |
| **④ 猛暑下における避難生活への対応** | どの季節でも安心して快適に過ごせる避難所づくり<br>（空調、断水、トイレ、入浴、洗濯、要配慮者支援） |
| **⑤ 二次避難や応急的な住まいへの円滑な移行** | 二次避難等への円滑な移行体制の整備<br>（避難所からホテル・旅館、公営住宅等への移行） |

# 検証・検討項目、対策の方向性１
# 災害対策本部の機能強化

## 災害対策本部運営の実効性の向上（情報集約、庁内連携、応援受入の実効性の確保）

発災・災害対策本部設置 → 国現地本部設置 → 合同会議 → 支援ニーズ把握 → **応援職員調整**

### ❶ 県庁・庁内体制
- 発災直後から災害対策本部を設置
- 全庁的に情報集約・意思決定

### ❷ 国・関係機関
- ７月30日　国が県防災センター内に現地対策本部
- 自衛隊・警察・消防等と連携

### ❸ 全国自治体等
- 総務省の調整により、全国の自治体等から応援職員を派遣し、早期に被害の大きい市町を支援



**熊本県 災害対策本部**
支援を集約・調整する「司令塔」



### 対応状況

○ 発災直後から庁内・関係機関との連携体制を構築し、情報集約・意思決定を迅速に実施
○ 被災地の支援ニーズを早期に把握し、国・自治体等からの人的・物的支援を迅速に調整することで、受援力を発揮

※画像は現地での対応を生成AIによるイメージで作成したもの。

# 検証・検討項目、対策の方向性２
# 避難所へのラストワンマイル輸送の確保

## 地域内輸送拠点から避難所等への物資輸送体制の実効性の向上（ラストワンマイル、避難所のニーズ把握・連携）

国のプッシュ型支援<br>他県等の物資調達 → 広域輸送拠点<br>（県） → 仕分け・在庫<br>配送調整・実施 → 地域内輸送拠点<br>（市町） → 仕分け・在庫<br>配送調整 ・実施 → 配送事業者等 → 避難所・<br>福祉施設等



広域輸送拠点での受入・仕分け



避難所でのニーズ把握・受領

**国の主な支援物資（内閣府資料）**
**※発災後１週間後のプッシュ型支援による輸送物資**

- 飲料　約31万本、主食　約11万食
- 液体ミルク　約1,300本
- エアコン・クーラー　約930台
- 携帯トイレ　約45,000回分
- 段ボールベッド　約2,200個
- おむつ　約30,000枚
- 生理用品　約11,000枚

**国の主な支援物資（内閣府資料）**
**※発災後１か月後のプッシュ型支援による輸送物資**

- 飲料　約139万本、主食　約59万食
- ブルーシート　約35,000枚
- 水循環型シャワー　145台
- おむつ　約106,000枚
- 段ボールベッド　約5,000個

## 課　題

○ 広域輸送拠点に物資が到着しても、市町の避難所までの配送がボトルネック化しやすい。
○ 発注・在庫管理、配送状況、受領確認を一連で確認できるよう、国システムの習熟等が必要
○ 物資拠点における受入や仕分けが迅速に実施できるよう、発災直後からの物流業者との連携が必要

出典：内閣府「令和８年熊本地震に係る被害状況等について」（R8.8.４ 07:30現在）、内閣府「令和８年熊本地震に係る被害状況等について」（R8.8.25 10:00現在）
※画像は現地での対応を生成AIによるイメージで作成したもの。

# 検証・検討項目、対策の方向性３
# 指定避難所以外の避難者の把握と支援（自主避難、車中泊等）

## 指定避難所外避難者への対応検討
## （自主避難、在宅避難、車中泊等に対する対応）

自主避難　在宅避難　車中泊





**避難所に「いない」被災者も、把握して必要な支援につなぐ**

熊本地震で見えた課題：指定避難所以外では、所在や健康状態が見えにくく、支援が届きにくい

### ① 把握
- Web・電話で自己申告
- 巡回・声かけで把握

### ② 支援
- 食料・物資を届ける
- 健康相談・医療福祉につなぐ

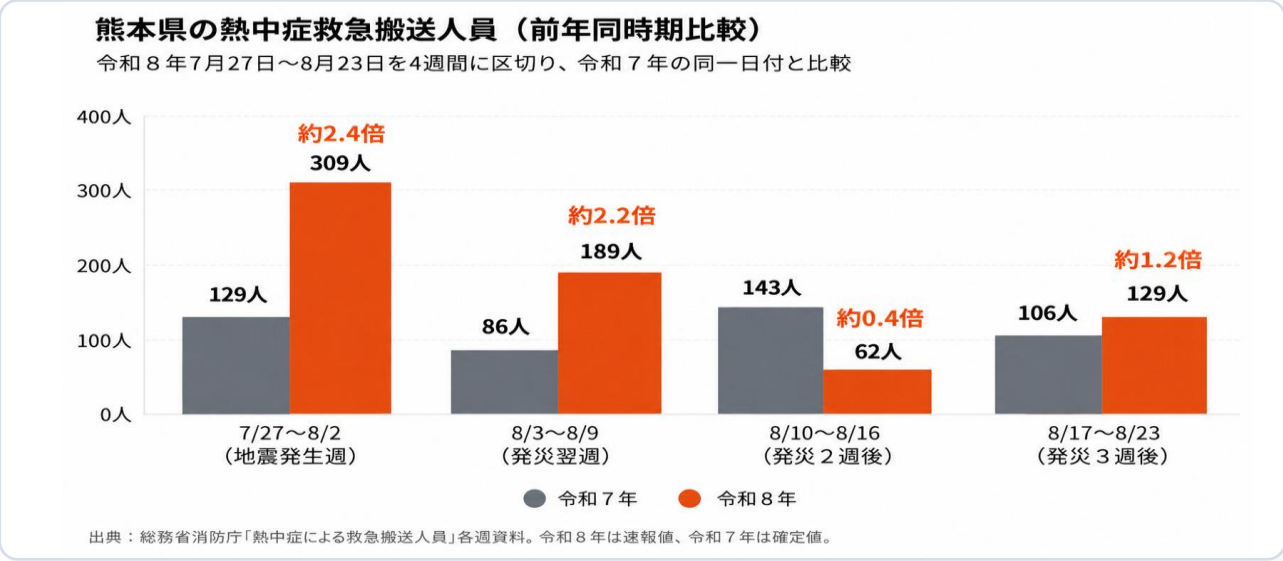
### ③ 継続
- 安否・健康状態を確認
- ニーズの変化を把握

### 課　題
○ 平時から、車中泊等の避難所外避難者を把握する方法や、関係機関との情報共有体制を整理しておく必要
○ 把握した避難者のニーズを確認し、必要な支援につなげるとともに、継続的に状況を確認する体制が必要

※画像は現地での対応を生成AIによるイメージで作成したもの。

# 検証・検討項目、対策の方向性４
# 猛暑下における避難生活への対応

## どの季節でも安心して快適に過ごせる避難所づくり（空調、断水、トイレ、入浴、洗濯、要配慮者支援）




### 避難所空調確保の動き

国のプッシュ型支援・設置工事を時系列に整理

- **7/28** 地震発生
- **7/29** 持ち運び型エアコン約300台を緊急輸送
- **8/4** 持ち運び型エアコン約900台が物資集積拠点に到着
- **8/9** 持ち運び型エアコン約1,100台が物資集積拠点に到着





### 大規模断水時における飲料水・生活用水の確保

①大規模断水の発生（最大約10.8万戸が断水）
②避難生活への影響（飲料水に加え、トイレ・入浴等の生活用水の確保）
③応急的な対応（全国から給水車約200台の応援を受け、応急給水を実施）






写真：国交省、消防庁

### 課　題

○ 例年を上回る厳しい暑さの中、発災直後には、熱中症患者が前年度の約2.4倍発生
○ 大規模断水時には、飲料水に加え、トイレ・入浴等に必要な生活用水をの確保が必要

# 検証・検討項目、対策の方向性５
# 二次避難や応急的な住まいへの円滑な移行

## 二次避難等への円滑な移行体制の整備（避難所からホテル・旅館、公営住宅等への移行）

避難所等 → ホテル等避難 → 賃貸型応急住宅、建設型応急住宅 等 → 恒久的な住まい

### ホテル等避難

**申込 1,478件　うちマッチング済 554件・1,202人**　調整中 304件　辞退 569件　不通 47件
**※8/3からチラシ等で周知。申請フォームによる受付。コールセンターの設置**　※8/31時点の数値




### 賃貸型応急住宅

**入居：382戸**・891人

### 建設型応急住宅

**整備：760戸**（203戸完成(10/2)）
**入居：168戸**・346人

### 対応状況

○ ホテル・旅館等を活用した二次避難の受入・移行を推進
○ 特例的な対応として自宅敷地内への建設型応急住宅設置も実施



避難者の皆様

熊本県観光文化部観光振興課

**ホテル等避難のご案内**

避難所での生活が長引く中、少しでも心身の負担を軽くし、安心してお過ごしいただけるよう、「ホテル・旅館への避難（ホテル等避難）」をご案内します。

**★被災されてホテル等への避難を希望される方であればどなたでも申し込みいただけます。**

出典：熊本県作成「ホテル等避難のご案内」チラシ(8/3版)　写真：内閣府

資料２

第10回
山口県地震・津波防災対策検討委員会

# 今後のスケジュールについて
# （被害想定）

令和８年10月19日

# 山口県地震・津波被害想定調査の流れ

**第10回検討委員会**

今後のスケジュールについて（被害想定）（資料２）

県内活断層に係る地震被害想定の見直しについて
（震度等の推計、想定地震）（資料３）

日本海の津波高の推計について（資料４）

**第11回検討委員会**　**県内活断層の被害想定 速報**
**日本海の浸水予測の進捗報告**
**啓発資料（骨子）の提示**

**第12回検討委員会**　**県内活断層及び日本海の被害想定報告書（案）の提示**
**報告書概要版（案）の提示**
**啓発資料（案）の提示**

# 今後のスケジュール

| 検討委員会 | 開催日 | 主な議題 |
|---|---|---|
| 第10回 | 2026年10月19日 | ・県内活断層及び日本海の震度等の推計<br>・日本海の津波高の推計（暫定）<br>・県内活断層及び日本海の想定地震の決定 |
| 第11回 | 冬頃 | ・県内活断層の被害想定 速報<br>・日本海の浸水予測の進捗報告<br>・啓発資料（骨子）の提示 |
| 第12回 | | ・県内活断層及び日本海の被害想定報告書（案）の提示<br>・報告書概要版（案）の提示<br>・啓発資料（案）の提示 |
| ー | 2027年3月 | ・県内活断層被害想定 公表<br>・日本海被害想定 公表 |

資料 3

# 第 10 回
# 山口県地震・津波防災対策検討委員会

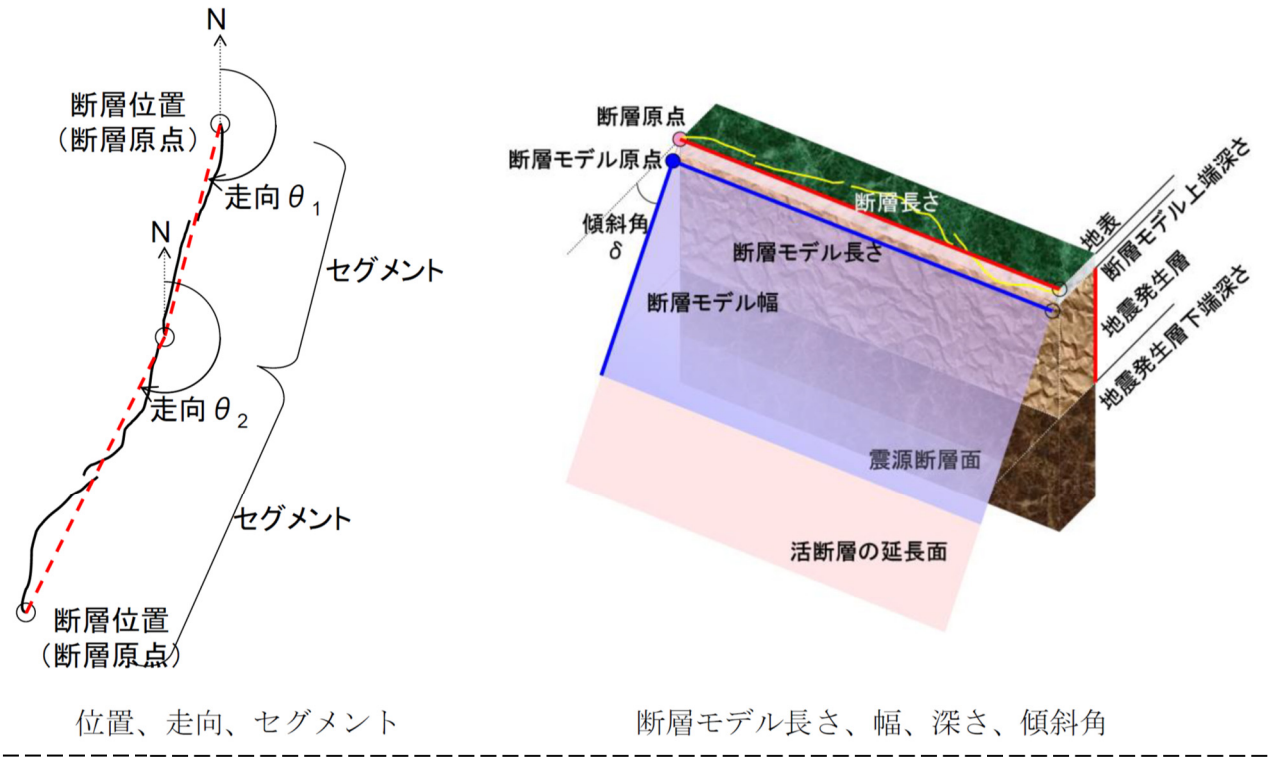
## 県内活断層に係る地震被害想定の見直しについて

〈震度等の推計、想定地震〉

# 【 地震動計算および想定地震の選定（案）】

## 1．各断層の震源特性の設定

・レシピ（震源断層を特定した地震の強震動予測手法）に準拠し、各断層の断層モデル、断層パラメータ等の必要な諸元を設定した。



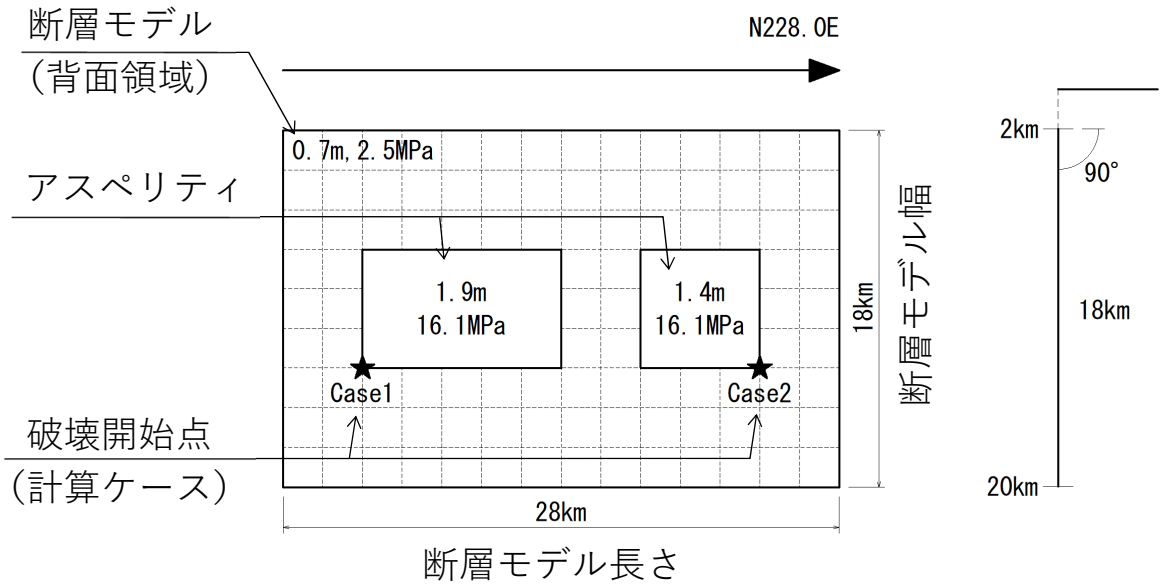

※「レシピ」（震源断層を特定した地震の強震動予測手法）より抜粋。

図-1　震源断層モデルのイメージ

・各断層モデルにおいて、アスペリティ、破壊開始点を設定し、各断層での地震動計算ケース（複数）を設定した。

（アスペリティ）

断層面の中で周囲より大きな応力降下量とすべり量を持ち、強い地震波を発生させる領域。




（アスペリティ配置の反転）

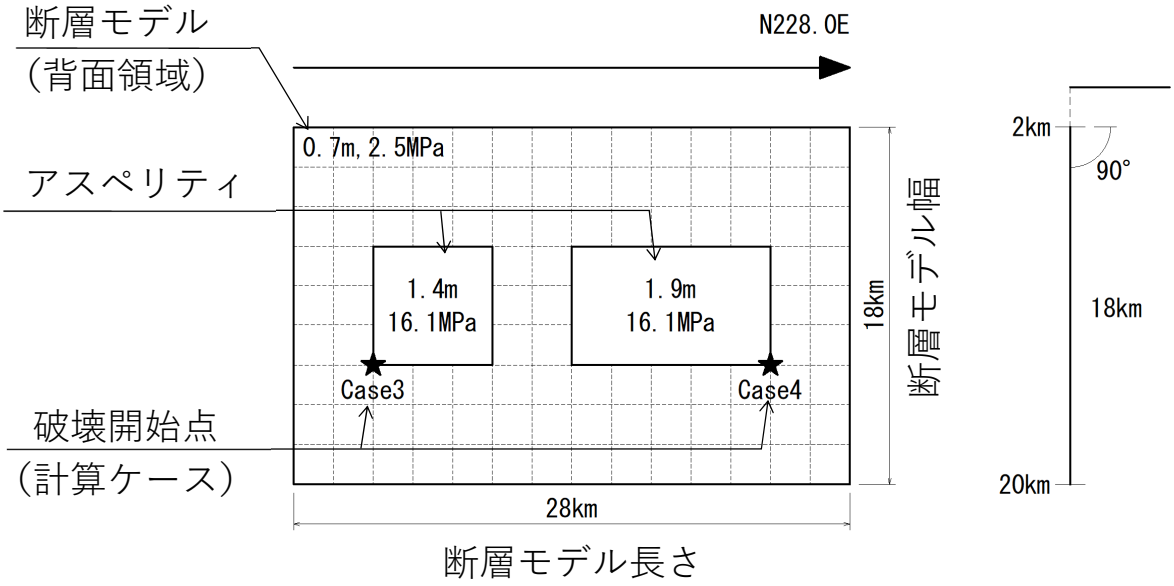



図-2　アスペリティおよび破壊開始点の設定イメージ
（例：大竹断層（小方－小瀬断層））

## ２．全断層での地震動計算の実施

・各断層において,「**１.**」で設定された複数の地震動計算を行い、**震度５強以上の曝露人口比率が最大となるケースをその断層の地震計算ケースに設定した。**

・参考として、震度６弱以上の曝露人口比率が最大となるケースも示す。

各断層において設定した地震動計算ケースと計算結果の一覧を表-1～表-4 に示す。

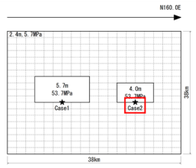
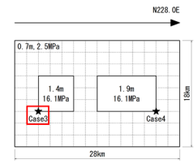
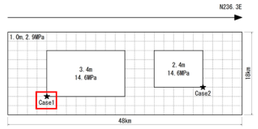
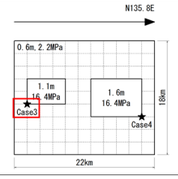
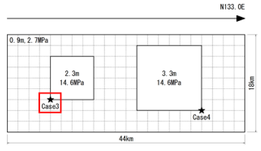
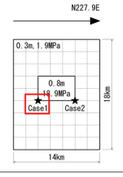
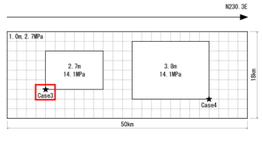
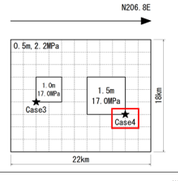
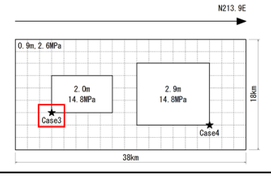
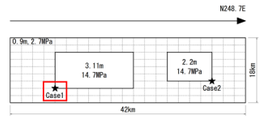
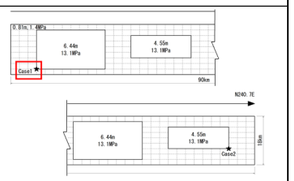
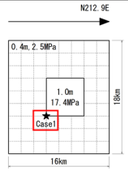
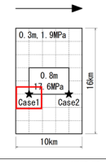
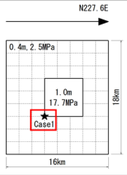
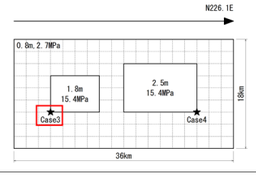
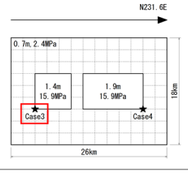
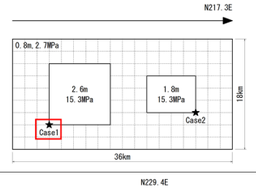
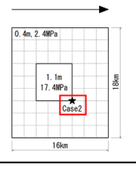
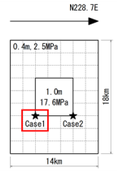
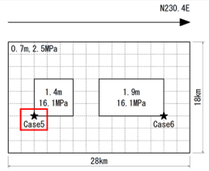
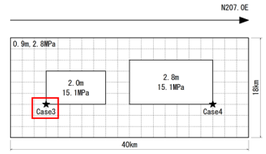
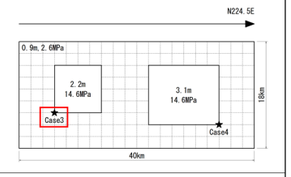
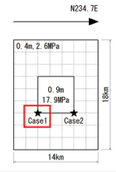
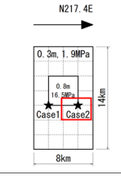
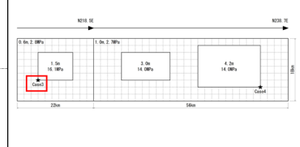
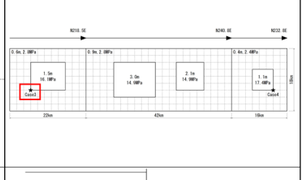
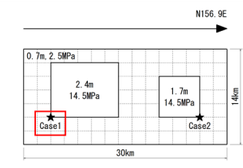
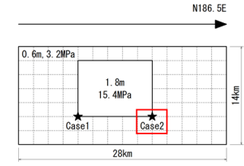
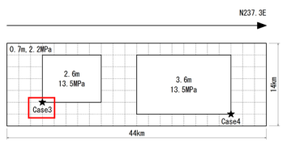
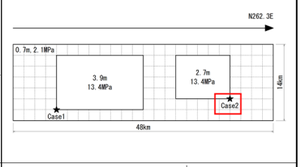
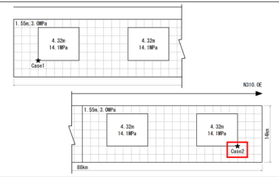
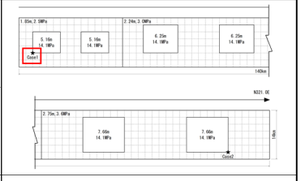
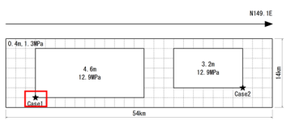
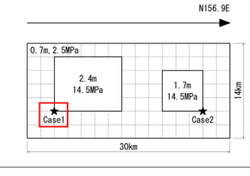
なお、各断層における全計算ケースの結果(震度分布図含む)は、11 ページ以降に示す。

- ➢ 表-1　地震動計算結果および選定ケース一覧
- ➢ 表-2　地震動計算選定ケース 結果一覧
  (震度 5 強以上の曝露人口比率が最大となるケースの場合)
- ➢ 表-3　地震動計算選定ケース 結果一覧
  (震度 6 弱以上の曝露人口比率が最大となるケースの場合)
- ➢ 表-4　地震動計算選定ケース 結果一覧
  (対象震度範囲の違いで曝露人口比率が最大となるケースが異なる場合の比較)

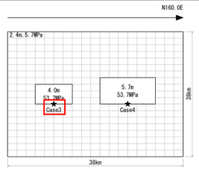
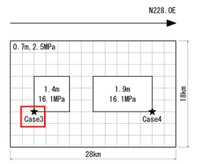
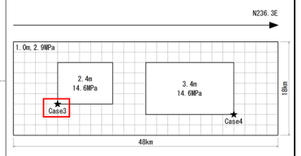
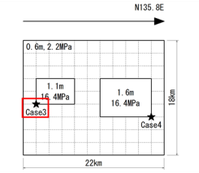
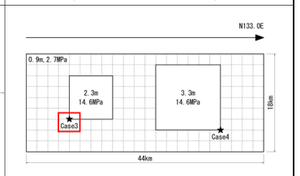
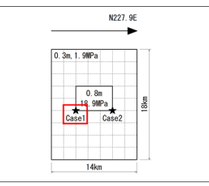
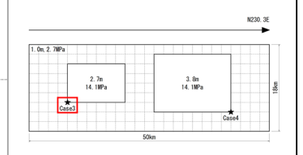
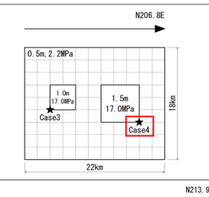
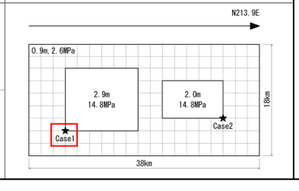
# 表-1　地震動計算結果および選定ケース一覧

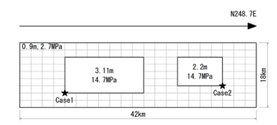
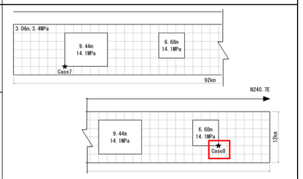
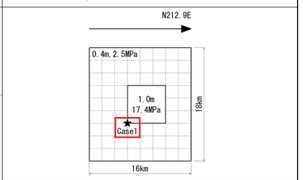
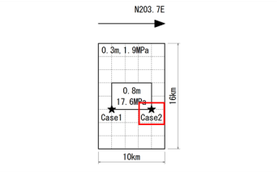
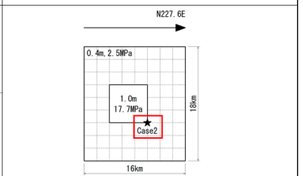
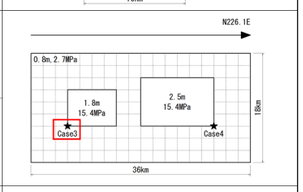
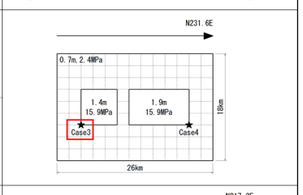
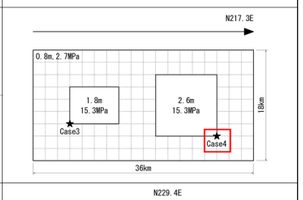
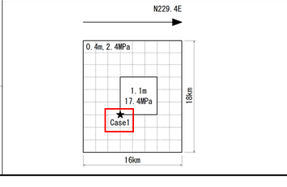
| | 断層名 | 震度範囲 | | | | 選定ケース |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 5 強以上 | | 6 弱以上 | | |
| | | 決定ｹｰｽ | 曝露人口比率 | 決定ｹｰｽ | 曝露人口比率 | |
| 県内活断層 | ① 安芸灘～伊予灘の地震 | Case2 | 0.108 | Case3 | 0.001 | Case2 |
| | ②-1 大竹断層(小方-小瀬断層) | Case3 | 0.248 | Case3 | 0.098 | Case3 |
| | ②-2 大原断層(小方-小瀬断層)〈岩国－五日市断層帯(岩国断層区間)〉 | Case1 | 0.338 | Case3 | 0.238 | Case1 |
| | ③-1 菊川断層 | Case3 | 0.280 | Case3 | 0.071 | Case3 |
| | ③-2 菊川断層〈菊川断層帯(中部区間)〉 | Case3 | 0.325 | Case3 | 0.163 | Case3 |
| | ④-1 大原湖断層系(山口盆地北西縁断層) | Case1 | 0.192 | Case1 | 0.079 | Case1 |
| | ④-2 大原湖断層系(山口盆地北西縁断層)〈大原湖断層〉 | Case3 | 0.485 | Case3 | 0.241 | Case3 |
| | ⑤-1 大原湖断層系(宇部東部断層－下郷断層) | Case4 | 0.357 | Case4 | 0.190 | Case4 |
| | ⑤-2 大原湖断層系(宇部東部断層－下郷断層)〈小郡断層〉 | Case3 | 0.459 | Case1 | 0.321 | Case3 |
| | ⑥ 中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部区間) | Case1 | 0.005 | － | － | Case1 |
| | ⑥ 中央構造線断層帯(伊予灘区間) | Case1 | 0.020 | Case8 | 0.004 | Case1 |
| | ⑦ 渋木断層 | Case1 | 0.053 | Case1 | 0.014 | Case1 |
| | ⑧ 厚狭東方断層 | Case1 | 0.139 | Case2 | 0.021 | Case1 |
| | ⑨ 萩北断層 | Case1 | 0.044 | Case2 | 0.017 | Case1 |
| | ⑩ 才ケ峠断層 | Case3 | 0.383 | Case3 | 0.158 | Case3 |
| | ⑪ 徳佐-地福断層 | Case3 | 0.154 | Case3 | 0.020 | Case3 |
| | ⑫ 佐波川断層 | Case1 | 0.379 | Case4 | 0.174 | Case1 |
| | ⑬ 大河内断層 | Case2 | 0.2019 | Case1 | 0.080 | Case2 |
| | ⑭ 日積断層 | Case1 | 0.111 | Case1 | 0.027 | Case1 |
| | ⑮ 安芸灘断層帯 | Case5 | 0.160 | Case3 | 0.061 | Case5 |
| | ⑯ 広島湾－岩国沖断層帯 | Case3 | 0.189 | Case3 | 0.113 | Case3 |
| | ⑰ 弥栄断層(※弥畝山西断層) | Case3 | 0.009 | Case3 | 0.002 | Case3 |
| | ⑱ 奈古断層(※河内断層) | Case1 | 0.014 | Case1 | 0.002 | Case1 |
| | ⑲ 栄谷断層 | Case2 | 0.1361 | Case2 | 0.053 | Case2 |
| | ⑳-1 防予諸島沖の海底活断層_2 分割 | Case3 | 0.189 | Case1 | 0.055 | Case3 |
| | ⑳-1 防予諸島沖の海底活断層_3 分割 | Case3 | 0.115 | Case1 | 0.034 | Case3 |
| | ⑳-2 防予諸島沖の海底活断層_76km | Case4 | 0.218 | Case4 | 0.053 | Case4 |
| | ㉑ 見島西縁断層 | Case1 | 0.021 | Case2 | 0.00052 | Case1 |
| | ㉒ 小倉東断層 | Case2 | 0.188 | Case2 | 0.119 | Case2 |
| 日本海側海底活断層 | ① 見島付近西部断層 | Case3 | 0.0004 | － | － | Case3 |
| | ③ 対馬海盆南方断層 | Case2 | 0.007 | － | － | Case2 |
| | ⑤ F59 断層(② 神田岬沖断層を包含) | Case2 | 0.330 | Case2 | 0.170 | Case2 |
| | ⑥ F60 断層 | Case1 | 0.059 | Case1 | 0.002 | Case1 |
| | ⑦ F58 断層 | Case1 | 0.012 | Case1 | 0.002 | Case1 |
| | ⑧ 見島西縁断層 | Case1 | 0.021 | Case2 | 0.00052 | Case1 |

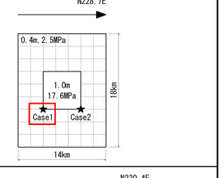
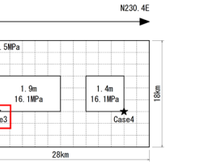
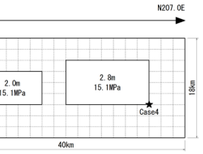
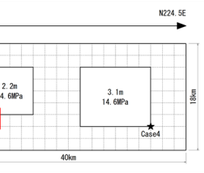
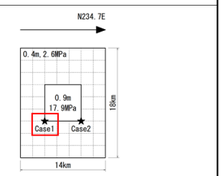
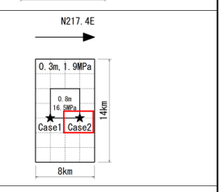
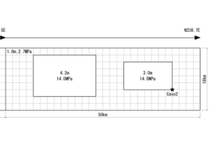
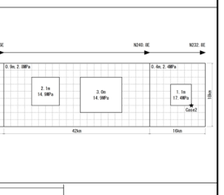
# 表-2　地震動計算選定ケース 結果一覧（震度５強以上の曝露人口の比率が最大となるケースの場合）

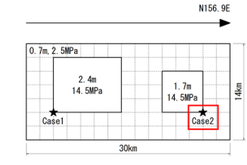
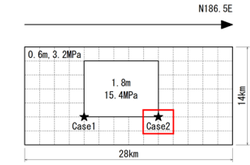
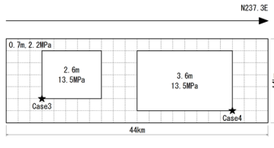
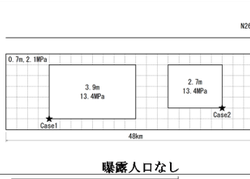
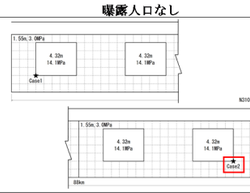
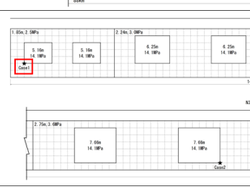
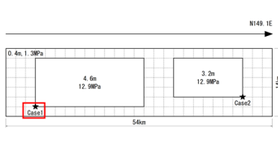
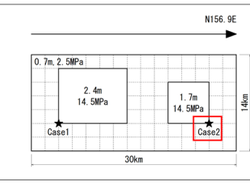
| | 断層名 | 決定Case<br>曝露人口比率 | 破壊開始点 |
|---|---|---|---|
| 県内活断層 | 安芸灘～伊予灘の地震 | Case2<br>0.108 |  |
| 県内活断層 | 大竹断層（小方-小瀬断層） | Case3<br>0.248 |  |
| 県内活断層 | 大竹断層（小方-小瀬断層）<br>（岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）） | Case1<br>0.338 |  |
| 県内活断層 | 菊川断層 | Case3<br>0.280 |  |
| 県内活断層 | 菊川断層<br>（菊川断層帯（中部区間）） | Case3<br>0.325 |  |
| 県内活断層 | 大原湖断層系<br>（山口盆地北西縁断層） | Case1<br>0.192 |  |
| 県内活断層 | 大原湖断層系<br>（山口盆地北西縁断層）<br>（大原湖断層） | Case3<br>0.485 |  |
| 県内活断層 | 大原湖断層系<br>（宇部東部断層-下郷断層） | Case4<br>0.357 |  |
| 県内活断層 | 大原湖断層系<br>（小郡断層） | Case3<br>0.459 |  |
| 県内活断層 | 中央構造線断層帯<br>（石鎚山脈北縁西部区間） | Case1<br>0.005 |  |
| 県内活断層 | 中央構造線断層帯<br>（伊予灘区間） | Case1<br>0.020 |  |
| 県内活断層 | 渋木断層 | Case1<br>0.053 |  |
| 県内活断層 | 厚狭東方断層 | Case1<br>0.139 |  |
| 県内活断層 | 萩北断層 | Case1<br>0.044 |  |
| 県内活断層 | 才ケ峠断層 | Case3<br>0.383 |  |
| 県内活断層 | 徳佐-地福断層 | Case3<br>0.154 |  |
| 県内活断層 | 佐波川断層 | Case1<br>0.379 |  |
| 県内活断層 | 大河内断層 | Case2<br>0.202 |  |
| 県内活断層 | 日積断層 | Case1<br>0.111 |  |
| 県内活断層 | 安芸灘断層帯 | Case5<br>0.160 |  |
| 県内活断層 | 広島湾－岩国沖<br>断層帯 | Case3<br>0.189 |  |
| 県内活断層 | 弥栄断層 | Case3<br>0.009 |  |
| 県内活断層 | 奈古断層 | Case1<br>0.014 |  |
| 県内活断層 | 栄谷断層 | Case2<br>0.136 |  |
| 県内活断層 | 防予諸島沖の<br>海底活断層_2分割 | Case3<br>0.189 |  |
| 県内活断層 | 防予諸島沖の<br>海底活断層_3分割 | Case3<br>0.115 |  |
| 県内活断層 | 防予諸島沖の<br>海底活断層_76km | Case4<br>0.218 |  |
| 日本海側海底活断層 | 見島西縁断層 | Case1<br>0.021 |  |
| 日本海側海底活断層 | 小倉東断層 | Case2<br>0.188 |  |
| 日本海側海底活断層 | 見島付近西部断層 | Case3<br>0.0004 |  |
| 日本海側海底活断層 | 対馬海盆南方断層 | Case2<br>0.007 |  |
| 日本海側海底活断層 | F59断層 | Case2<br>0.330 |  |
| 日本海側海底活断層 | F60断層 | Case1<br>0.059 |  |
| 日本海側海底活断層 | F58断層 | Case1<br>0.012 |  |
| 日本海側海底活断層 | 見島西縁断層 | Case1<br>0.021 |  |

# 表-3　地震動計算選定決定ケース 結果一覧（震度 6 弱以上の曝露人口の比率が最大となるケースの場合）

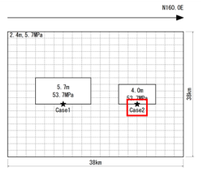
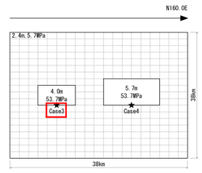
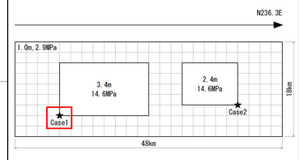
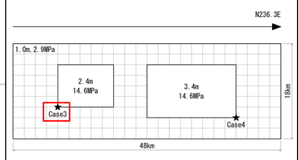
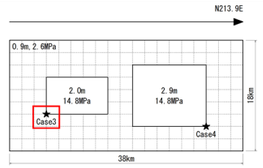
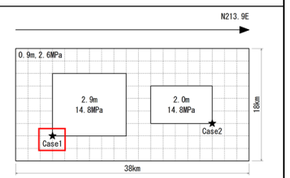
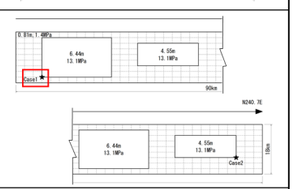
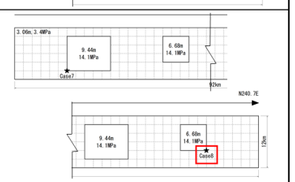
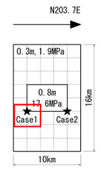
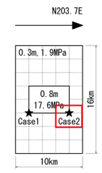
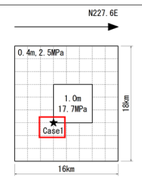
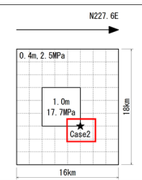
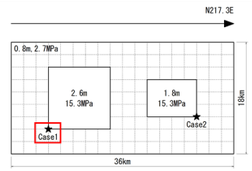
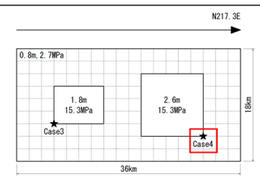
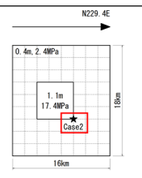
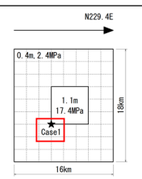
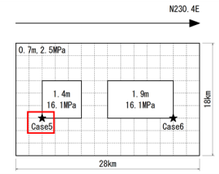
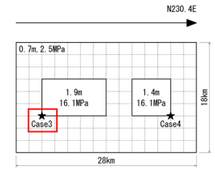
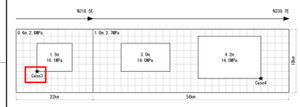
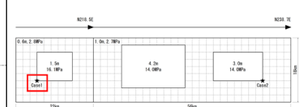
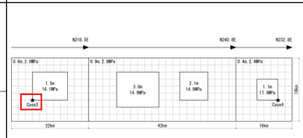
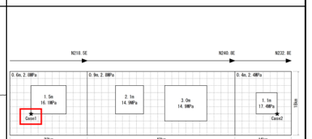
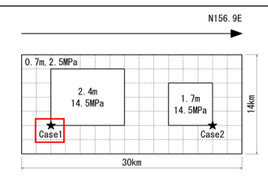
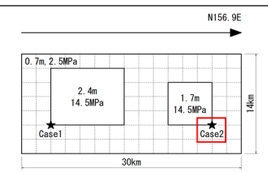
| | 断層名 | 決定Case<br>曝露人口比率 | 破壊開始点 |
|---|---|---|---|
| 県内活断層 | 安芸灘～伊予灘<br>の地震<br><br>※Case4も同一の曝露<br>人口比率となる。 | Case3 |  |
| | | 0.001 | |
| | 大竹断層（小方-小瀬断層） | Case3 |  |
| | | 0.098 | |
| | 大竹断層（小方-小瀬断層）<br>〈岩国－五日市断層帯<br>（岩国断層区間）〉 | Case3 |  |
| | | 0.238 | |
| | 菊川断層 | Case3 |  |
| | | 0.07128 | |
| | 菊川断層<br>〈菊川断層帯（中部区間）〉 | Case3 |  |
| | | 0.163 | |
| | 大原湖断層系<br>（山口盆地北西縁断層） | Case1 |  |
| | | 0.079 | |
| | 大原湖断層系<br>（山口盆地北西縁断層）<br>〈大原湖断層〉 | Case3 |  |
| | | 0.241 | |
| | 大原湖断層系<br>（宇部東部断層-下郷断層） | Case4 |  |
| | | 0.190 | |
| | 大原湖断層系<br>〈小郡断層〉 | Case1 |  |
| | | 0.321 | |

| | 断層名 | 決定Case<br>曝露人口比率 | 破壊開始点 |
|---|---|---|---|
| 県内活断層 | 中央構造線断層帯<br>（石鎚山脈北縁西部区間） | – |  |
| | | – | 曝露人口なし |
| | 中央構造線断層帯<br>（伊予灘区間） | Case8 |  |
| | | 0.004 | |
| | 渋木断層 | Case1 |  |
| | | 0.014 | |
| | 厚狭東方断層 | Case2 |  |
| | | 0.021 | |
| | 萩北断層 | Case2 |  |
| | | 0.017 | |
| | 才ケ峠断層 | Case3 |  |
| | | 0.158 | |
| | 徳佐-地福断層 | Case3 |  |
| | | 0.020 | |
| | 佐波川断層 | Case4 |  |
| | | 0.174 | |
| | 大河内断層 | Case1 |  |
| | | 0.080 | |

| | 断層名 | 決定Case<br>曝露人口比率 | 破壊開始点 |
|---|---|---|---|
| 県内活断層 | 日積断層 | Case1 |  |
| | | 0.027 | |
| | 安芸灘断層帯 | Case3 |  |
| | | 0.061 | |
| | 広島湾－岩国沖<br>断層帯 | Case3 |  |
| | | 0.113 | |
| | 弥栄断層 | Case3 |  |
| | | 0.002 | |
| | 奈古断層 | Case1 |  |
| | | 0.002 | |
| | 栄谷断層 | Case2 |  |
| | | 0.053 | |
| | 防予諸島沖の<br>海底活断層_2分割 | Case1 |  |
| | | 0.055 | |
| | 防予諸島沖の<br>海底活断層_3分割 | Case1 |  |
| | | 0.034 | |
| | 防予諸島沖の<br>海底活断層_76km | Case4 |  |
| | | 0.053 | |

| | 断層名 | 決定Case<br>曝露人口比率 | 破壊開始点 |
|---|---|---|---|
| 県内活断層 | 見島西縁断層 | Case2 |  |
| | | 0.001 | |
| | 小倉東断層 | Case2 |  |
| | | 0.119 | |
| | 見島付近西部断層 | – |  |
| | | – | 曝露人口なし |
| | 対馬海盆南方断層 | – |  |
| | | – | 曝露人口なし |
| | F59断層 | Case2 |  |
| | | 0.170 | |
| | F60断層 | Case1 |  |
| | | 0.002 | |
| | F58断層 | Case1 |  |
| | | 0.002 | |
| | 見島西縁断層 | Case2 |  |
| | | 0.001 | |
| | | | |
| | | | |

# 表-4　地震動計算 選定ケース結果一覧（対象震度範囲の違いでの曝露人口比率の最大ケース異なる場合の比較）

| | 断層名 | 曝露人口比率算定震度 | 決定Case 曝露人口比率 | 破壊開始点 |
|---|---|---|---|---|
| 県内活断層 | 安芸灘～伊予灘の地震 | 5強以上 | Case2<br>0.108 |  |
| | | 6弱以上<br>※Case4も同一の曝露人口比率となる | Case3<br>0.001 |  |
| | 大竹断層（小方-小瀬断層）〈岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）〉 | 5強以上 | Case1<br>0.338 |  |
| | | 6弱以上 | Case3<br>0.238 |  |
| | 大原湖断層系〈小郡断層〉 | 5強以上 | Case3<br>0.459 |  |
| | | 6弱以上 | Case1<br>0.321 |  |
| | 中央構造線断層帯（伊予灘区間） | 5強以上 | Case1<br>0.020 |  |
| | | 6弱以上 | Case8<br>0.004 |  |
| 県内活断層 | 厚狭東方断層 | 5強以上 | Case1<br>0.139 |  |
| | | 6弱以上 | Case2<br>0.021 |  |
| | 萩北断層 | 5強以上 | Case1<br>0.044 |  |
| | | 6弱以上 | Case2<br>0.017 |  |
| | 佐波川断層 | 5強以上 | Case1<br>0.379 |  |
| | | 6弱以上 | Case4<br>0.174 |  |
| | 大河内断層 | 5強以上 | Case2<br>0.202 |  |
| | | 6弱以上 | Case1<br>0.080 |  |
| 県内活断層 | 安芸灘断層帯 | 5強以上 | Case5<br>0.160 |  |
| | | 6弱以上 | Case3<br>0.061 |  |
| | 防予諸島沖の海底活断層_2分割 | 5強以上 | Case3<br>0.189 |  |
| | | 6弱以上 | Case1<br>0.055 |  |
| | 防予諸島沖の海底活断層_3分割 | 5強以上 | Case3<br>0.115 |  |
| | | 6弱以上 | Case1<br>0.034 |  |
| | 見島西縁断層 | 5強以上 | Case1<br>0.021 |  |
| | | 6弱以上 | Case2<br>0.001 |  |

## ３．想定地震（被害想定用断層）の設定

・「**２.**」で設定した各断層の地震計算ケースについて、市町ごとに曝露人口比率および震度（計測震度）の最大値を算出した。

・以下の整理により、被害想定を行う想定地震を選定した。

➢ 第９回検討委員会において，いくつかの区間に分かれている断層を一体として活動する断層として設定した参考ケースについて、想定地震動の設定対象から除外。

〈 想定地震動対象から除外した断層 〉
・大竹断層(小方－小瀬断層)〈岩国－五日市断層帯(岩国断層区間)〉
・菊川断層〈菊川断層帯（中部区間)〉
・大原湖断層系(山口盆地北西縁断層)〈大原湖断層〉
・大原湖断層系(宇部東部断層－下郷断層)〈小郡断層〉
・防予諸島沖の海底活断層（76km，大分県の地震設定）

➢ 各市町で曝露人口比率または計測震度の最大値が算定された断層は想定地震動に設定。

➢ 同じ値の曝露人口比率または計測震度が複数あった場合は，同一断層の曝露人口比率と計測震度を組合せ、地震規模として大きいと判断される方の断層を選定。

➢ 前回調査（H20.3）において主要断層に設定した断層については、本調査においても想定地震動として設定。

県内活断層に対する想定地震（被害想定用断層）の設定結果を表-5 に示す。

➢ 表-5　想定地震（被害想定用断層）
の設定（県内活断層）

# 表-5　想定地震（被害想定用断層）の設定（県内活断層）

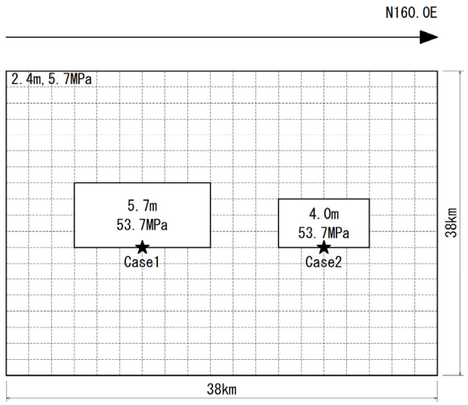
| No | 断層名 | ケース | 算定項目 | 市町名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 算定結果による断層選定 | | 前回調査(H20.3) | 被害想定 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 下関市 | 宇部市 | 山口市 | 萩市 | 防府市 | 下松市 | 岩国市 | 光市 | 長門市 | 柳井市 | 美祢市 | 周南市 | 山陽小野田市 | 周防大島町 | 和木町 | 上関町 | 田布施町 | 平生町 | 阿武町 | 県全体 | 曝露人口 | 震　度 | での主要想定断層 | 実施断層 | （決定理由等） |
| 1 | ① 安芸灘～伊予灘の地震 | Case2 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.714 | 0.134 | 0.000 | 0.619 | 0.000 | 0.018 | 0.000 | 0.586 | 0.365 | 0.034 | 0.523 | 0.388 | 0.000 | 0.108 | | | ○ | ○ | 前回調査の主要断層 |
| | | | 最大計測震度 | 4.5 | 4.9 | 4.8 | 4.5 | 4.7 | 4.8 | 5.4 | 5.1 | 3.9 | 5.3 | 4.1 | 5.1 | 4.3 | 5.7 | 5.3 | 5.3 | 5.1 | 5.1 | 4.8 | 5.7 | | | | | 地震発生確率が高い |
| 2 | ②-1 大竹断層(小方-小瀬断層) | Case3 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.798 | 0.976 | 0.938 | 0.000 | 0.884 | 0.000 | 0.427 | 0.000 | 0.182 | 1.000 | 0.000 | 0.808 | 0.572 | 0.000 | 0.248 | ○ | | ○ | ○ | 前回調査の主要断層 |
| | | | 最大計測震度 | 4.1 | 4.4 | 4.6 | 4.2 | 4.8 | 5.5 | 6.1 | 5.6 | 3.6 | 5.8 | 3.8 | 5.9 | 3.8 | 5.2 | 5.8 | 4.7 | 5.5 | 5.2 | 4.5 | 6.1 | | | | | 前回調査で被害が最大 |
| 3 | ②-2 大竹断層(小方－小瀬断層)〈岩国－五日市断層帯(岩国断層区間)〉 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.018 | 0.005 | 0.002 | 0.218 | 0.997 | 0.992 | 0.993 | 0.000 | 0.838 | 0.000 | 0.979 | 0.000 | 0.203 | 1.000 | 0.000 | 0.918 | 0.654 | 0.000 | 0.338 | | | | | 参考ケースのため |
| | | | 最大計測震度 | 4.7 | 5.4 | 5.7 | 5.0 | 5.4 | 6.2 | 6.4 | 6.1 | 4.1 | 5.8 | 4.2 | 6.4 | 4.5 | 5.6 | 6.0 | 4.9 | 5.7 | 5.7 | 4.9 | 6.4 | | | | | 震度分布までの算出 |
| 4 | ③-1 菊川断層 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.873 | 0.564 | 0.002 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.013 | 0.000 | 0.581 | 0.000 | 0.798 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.280 | ○ | ○ | ○ | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 7.2 | 5.8 | 5.2 | 4.5 | 4.8 | 3.7 | 3.2 | 3.5 | 5.2 | 3.2 | 5.8 | 4.1 | 6.3 | 3.1 | 2.9 | 3.2 | 3.3 | 3.3 | 4.5 | 7.2 | | | | | なる市町がある |
| 5 | ③-2 菊川断層〈菊川断層帯(中部区間)〉 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.991 | 0.582 | 0.028 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.637 | 0.000 | 0.752 | 0.000 | 0.754 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.325 | | | | | 参考ケースのため |
| | | | 最大計測震度 | 6.7 | 5.9 | 5.7 | 5.0 | 4.8 | 3.9 | 3.7 | 3.9 | 5.9 | 3.5 | 6.2 | 4.4 | 6.5 | 3.3 | 3.2 | 3.5 | 3.6 | 3.5 | 4.8 | 6.7 | | | | | 震度分布までの算出 |
| 6 | ④-1 大原湖断層系(山口盆地北西縁断層) | Case1 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.165 | 0.880 | 0.000 | 0.502 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.146 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.192 | | | ○ | ○ | 前回調査の主要断層 |
| | | | 最大計測震度 | 5.0 | 5.5 | 6.0 | 5.3 | 5.7 | 4.2 | 3.9 | 4.0 | 4.4 | 3.7 | 5.4 | 4.8 | 4.9 | 3.3 | 3.2 | 3.4 | 3.7 | 3.6 | 4.4 | 6.0 | | | | | |
| 7 | ④-2 大原湖断層系(山口盆地北西縁断層)〈大原湖断層〉 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.044 | 0.796 | 1.000 | 0.834 | 0.999 | 0.367 | 0.003 | 0.013 | 0.100 | 0.000 | 0.773 | 0.767 | 0.280 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.016 | 0.000 | 0.301 | 0.485 | | | | | 参考ケースのため |
| | | | 最大計測震度 | 5.9 | 6.1 | 6.6 | 6.2 | 6.1 | 5.3 | 5.3 | 5.0 | 5.3 | 4.7 | 5.9 | 6.1 | 5.6 | 4.3 | 4.3 | 4.5 | 5.2 | 5.1 | 5.8 | 6.6 | | | | | 震度分布までの算出 |
| 8 | ⑤-1 大原湖断層系(宇部東部断層－下郷断層) | Case4 | 曝露人口比率 | 0.076 | 0.977 | 0.910 | 0.024 | 0.621 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.541 | 0.000 | 0.670 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.357 | ○ | ○ | ○ | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 6.1 | 6.7 | 6.6 | 5.0 | 5.9 | 4.5 | 4.1 | 4.3 | 4.6 | 3.9 | 5.6 | 4.9 | 5.8 | 3.6 | 3.3 | 4.0 | 4.0 | 3.9 | 4.5 | 6.7 | | | | | なる市町がある |
| 9 | ⑤-2 大原湖断層系(宇部東部断層－下郷断層)〈小郡断層〉 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.318 | 1.000 | 0.947 | 0.001 | 0.984 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.757 | 0.026 | 0.940 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.026 | 0.459 | | | | | 参考ケースのため |
| | | | 最大計測震度 | 6.0 | 7.1 | 6.9 | 5.4 | 6.1 | 4.8 | 4.2 | 4.5 | 4.8 | 4.1 | 5.6 | 5.2 | 6.0 | 3.8 | 3.6 | 4.1 | 4.3 | 4.2 | 5.1 | 7.1 | | | | | 震度分布までの算出 |
| 10 | ⑥ 中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部区間) | Case1 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.005 | | | ○ | ○ | 前回調査の主要断層 |
| | | | 最大計測震度 | 3.9 | 3.7 | 3.9 | 3.0 | 3.5 | 3.8 | 4.0 | 3.8 | 2.5 | 4.7 | 2.5 | 4.0 | 3.2 | 4.8 | 3.6 | 4.2 | 4.6 | 4.5 | 3.0 | 4.8 | | | | | |
| 11 | ⑥ 中央構造線断層帯(伊予灘区間) | Case1 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.001 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.015 | 0.027 | 0.000 | 0.170 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.571 | 0.000 | 0.684 | 0.117 | 0.552 | 0.000 | 0.020 | | | | | |
| | | | 最大計測震度 | 4.5 | 5.1 | 5.0 | 4.0 | 4.7 | 4.9 | 5.0 | 5.2 | 3.6 | 6.1 | 3.6 | 4.9 | 4.3 | 5.8 | 4.5 | 6.3 | 5.2 | 5.2 | 4.2 | 6.3 | | | | | |
| 12 | ⑦ 渋木断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.084 | 0.001 | 0.006 | 0.024 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.819 | 0.000 | 0.732 | 0.000 | 0.062 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.053 | ○ | ○ | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 6.0 | 5.1 | 5.4 | 5.1 | 4.7 | 3.6 | 3.4 | 3.5 | 5.8 | 3.0 | 5.9 | 4.3 | 5.7 | 3.0 | 2.9 | 3.3 | 3.2 | 3.2 | 4.6 | 6.0 | | | | | なる市町がある |
| 13 | ⑧ 厚狭東方断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.116 | 0.596 | 0.026 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.218 | 0.000 | 0.840 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.139 | ○ | | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 6.0 | 5.8 | 5.6 | 4.2 | 4.5 | 3.5 | 3.1 | 3.3 | 4.2 | 3.0 | 5.4 | 3.9 | 5.6 | 2.8 | 2.5 | 3.0 | 3.3 | 3.3 | 4.1 | 6.0 | | | | | なる市町がある |
| 14 | ⑨ 萩北断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.006 | 0.000 | 0.025 | 0.804 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.327 | 0.000 | 0.174 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.461 | 0.044 | | | | | |
| | | | 最大計測震度 | 5.5 | 4.8 | 5.0 | 5.9 | 4.6 | 3.9 | 3.7 | 3.6 | 5.7 | 3.2 | 5.8 | 4.5 | 4.8 | 3.2 | 3.2 | 3.2 | 3.4 | 3.3 | 5.1 | 5.9 | | | | | |
| 15 | ⑩ 才ケ峠断層 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.174 | 0.657 | 0.953 | 0.819 | 0.742 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.355 | 0.000 | 0.944 | 0.017 | 0.350 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.101 | 0.383 | ○ | ○ | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 6.0 | 6.1 | 6.3 | 6.1 | 5.9 | 4.8 | 4.4 | 4.5 | 5.5 | 4.1 | 6.3 | 5.3 | 5.6 | 3.9 | 3.7 | 3.9 | 4.1 | 4.1 | 5.6 | 6.3 | | | | | なる市町がある |
| 16 | ⑪ 徳佐-地福断層 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.008 | 0.075 | 0.760 | 0.472 | 0.144 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.083 | 0.029 | 0.011 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.293 | 0.154 | | | | | |
| | | | 最大計測震度 | 5.8 | 5.3 | 5.9 | 5.7 | 5.4 | 4.9 | 4.9 | 4.5 | 4.9 | 4.1 | 5.3 | 5.3 | 5.1 | 3.8 | 4.0 | 3.9 | 4.4 | 4.4 | 5.7 | 5.9 | | | | | |
| 17 | ⑫ 佐波川断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.004 | 0.216 | 0.900 | 0.060 | 1.000 | 0.679 | 0.006 | 0.359 | 0.000 | 0.000 | 0.012 | 0.873 | 0.087 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.013 | 0.000 | 0.026 | 0.379 | ○ | ○ | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 5.0 | 6.4 | 6.8 | 5.6 | 6.3 | 5.5 | 5.2 | 5.2 | 4.8 | 4.7 | 5.0 | 6.3 | 5.1 | 4.4 | 4.3 | 4.3 | 5.1 | 4.9 | 5.3 | 6.8 | | | | | なる市町がある |
| 18 | ⑬ 大河内断層 | Case2 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.996 | 0.337 | 0.987 | 0.000 | 0.569 | 0.000 | 0.618 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.868 | 0.648 | 0.000 | 0.202 | ○ | ○ | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 4.2 | 4.4 | 4.7 | 4.0 | 4.7 | 5.9 | 6.0 | 6.0 | 3.5 | 5.5 | 3.8 | 6.0 | 3.7 | 5.0 | 4.9 | 4.8 | 5.6 | 5.5 | 4.3 | 6.0 | | | | | なる市町がある |
| 19 | ⑭ 日積断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.026 | 0.410 | 0.458 | 0.000 | 0.990 | 0.000 | 0.060 | 0.000 | 0.469 | 0.000 | 0.034 | 0.975 | 0.962 | 0.000 | 0.111 | | ○ | | — | 算定値の組合せによる |
| | | | 最大計測震度 | 3.8 | 4.2 | 4.4 | 3.6 | 4.1 | 5.1 | 5.8 | 5.7 | 3.0 | 5.9 | 3.3 | 5.4 | 3.5 | 5.6 | 4.7 | 5.0 | 5.7 | 5.8 | 3.9 | 5.9 | | | | | 最大が他断層に包含 |
| 20 | ⑮ 安芸灘断層帯 | Case5 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.908 | 0.366 | 0.000 | 0.989 | 0.000 | 0.022 | 0.000 | 0.875 | 0.859 | 0.159 | 0.903 | 1.000 | 0.000 | 0.160 | ○ | | | — | 算定値の組合せによる |
| | | | 最大計測震度 | 4.1 | 4.1 | 4.4 | 3.9 | 4.2 | 4.9 | 6.1 | 5.5 | 3.4 | 6.0 | 3.6 | 5.3 | 3.8 | 5.9 | 5.3 | 5.2 | 5.6 | 5.7 | 4.2 | 6.1 | | | | | 最大が他断層に包含 |
| 21 | ⑯ 広島湾－岩国沖断層帯 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.125 | 0.979 | 0.683 | 0.000 | 0.990 | 0.000 | 0.089 | 0.000 | 0.686 | 1.000 | 0.087 | 0.970 | 0.999 | 0.000 | 0.189 | ○ | ○ | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 4.6 | 4.4 | 4.8 | 4.3 | 4.4 | 5.2 | 6.5 | 5.7 | 3.7 | 5.9 | 3.7 | 5.7 | 3.9 | 5.5 | 6.1 | 5.2 | 5.6 | 5.7 | 4.8 | 6.5 | | | | | なる市町がある |
| 22 | ⑰ 弥栄断層 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.005 | 0.000 | 0.021 | 0.117 | 0.000 | 0.000 | 0.010 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.003 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.038 | 0.009 | | | | | |
| | | | 最大計測震度 | 5.1 | 4.6 | 5.8 | 5.8 | 4.6 | 4.4 | 5.4 | 4.4 | 4.3 | 4.5 | 4.6 | 5.3 | 4.3 | 4.4 | 4.9 | 3.8 | 4.2 | 4.1 | 5.8 | 5.8 | | | | | |
| 23 | ⑱ 奈古断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.005 | 0.000 | 0.000 | 0.331 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.976 | 0.014 | ○ | ○ | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 5.0 | 4.4 | 4.9 | 5.8 | 4.0 | 3.9 | 4.3 | 3.5 | 4.8 | 3.2 | 4.7 | 4.2 | 4.1 | 3.1 | 3.3 | 3.2 | 3.5 | 3.3 | 5.9 | 5.9 | | | | | なる市町がある |
| 24 | ⑲ 栄谷断層 | Case2 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.962 | 0.002 | 0.130 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.891 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.136 | ○ | | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 3.9 | 4.5 | 5.1 | 4.1 | 5.0 | 5.8 | 5.3 | 5.4 | 3.3 | 4.6 | 3.8 | 5.9 | 3.8 | 4.4 | 4.2 | 4.3 | 4.8 | 4.6 | 4.1 | 5.9 | | | | | なる市町がある |
| 25 | ⑳-1 防予諸島沖の海底活断層_2分割 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.001 | 0.000 | 0.000 | 0.104 | 0.787 | 0.887 | 0.000 | 0.997 | 0.000 | 0.162 | 0.000 | 1.000 | 0.748 | 1.000 | 0.990 | 1.000 | 0.000 | 0.189 | ○ | ○ | | ○ | 県全体曝露人口比率 |
| | | | 最大計測震度 | 4.7 | 5.0 | 5.3 | 4.6 | 4.8 | 5.5 | 5.8 | 6.0 | 3.7 | 6.6 | 3.8 | 5.4 | 4.3 | 7.1 | 5.2 | 6.5 | 5.9 | 5.8 | 4.5 | 7.1 | | | | | が3分割より大きい |
| 26 | ⑳-1 防予諸島沖の海底活断層_3分割 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.001 | 0.000 | 0.000 | 0.118 | 0.055 | 0.917 | 0.000 | 0.932 | 0.000 | 0.165 | 0.000 | 1.000 | 0.000 | 1.000 | 0.984 | 1.000 | 0.000 | 0.115 | ○ | ○ | | ○（2分割と3分割の一方を選定） | |
| | | | 最大計測震度 | 4.7 | 5.0 | 5.2 | 4.2 | 4.8 | 5.4 | 5.5 | 6.0 | 3.6 | 6.5 | 3.7 | 5.5 | 4.2 | 6.3 | 4.6 | 6.6 | 6.2 | 5.8 | 4.5 | 6.6 | | | | | |
| 27 | ⑳-2 防予諸島沖の海底活断層_76km | Case4 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.019 | 0.012 | 0.000 | 0.146 | 0.393 | 0.772 | 0.939 | 0.000 | 0.999 | 0.000 | 0.182 | 0.000 | 1.000 | 0.300 | 1.000 | 1.000 | 1.000 | 0.000 | 0.218 | | | | | 参考ケースのため |
| | | | 最大計測震度 | 4.9 | 5.5 | 5.5 | 4.4 | 5.2 | 5.3 | 6.0 | 5.8 | 3.7 | 6.7 | 3.9 | 5.4 | 4.4 | 7.0 | 5.1 | 6.7 | 6.4 | 6.4 | 4.5 | 7.0 | | | | | 震度分布までの算出 |
| 28 | ㉑ 見島西縁断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.016 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.0210 | | ○ | | ○ | 算定値が最大と |
| | | | 最大計測震度 | 4.7 | 4.8 | 4.6 | 6.2 | 4.0 | 3.7 | 3.3 | 3.2 | 5.0 | 3.0 | 4.2 | 4.2 | 4.4 | 3.1 | 2.8 | 2.9 | 3.0 | 2.9 | 4.9 | 6.2 | | | | | なる市町がある |
| 29 | ㉒ 小倉東断層 | Case2 | 曝露人口比率 | 0.847 | 0.154 | 0.009 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.161 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.188 | | | | | |
| | | | 最大計測震度 | 6.6 | 5.6 | 5.3 | 3.9 | 4.5 | 3.8 | 3.3 | 3.4 | 4.6 | 3.3 | 4.8 | 4.3 | 5.5 | 2.9 | 3.3 | 3.1 | 3.4 | 3.3 | 3.8 | 6.6 | | | | | |

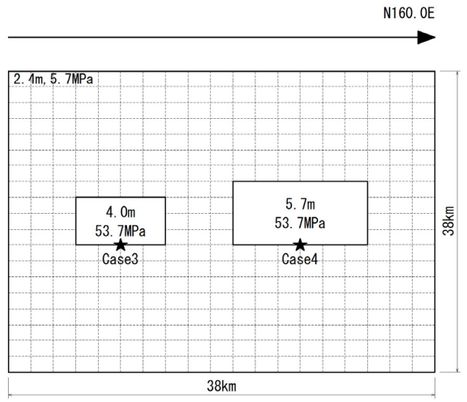
：各市町、県全体における最大曝露人口比率，　：各市町、県全体における最大計測震度，　：参考ケースのため想定地震動設定対象外の断層

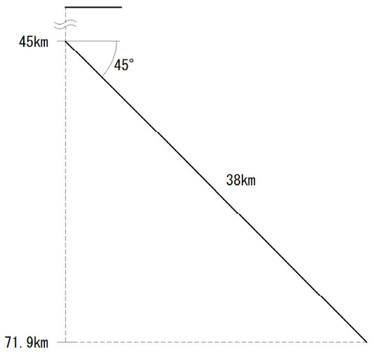
# 地震動算定結果（県内活断層）

# 地震動算定ケース案【安芸灘～伊予灘の地震，Mj=7.25】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

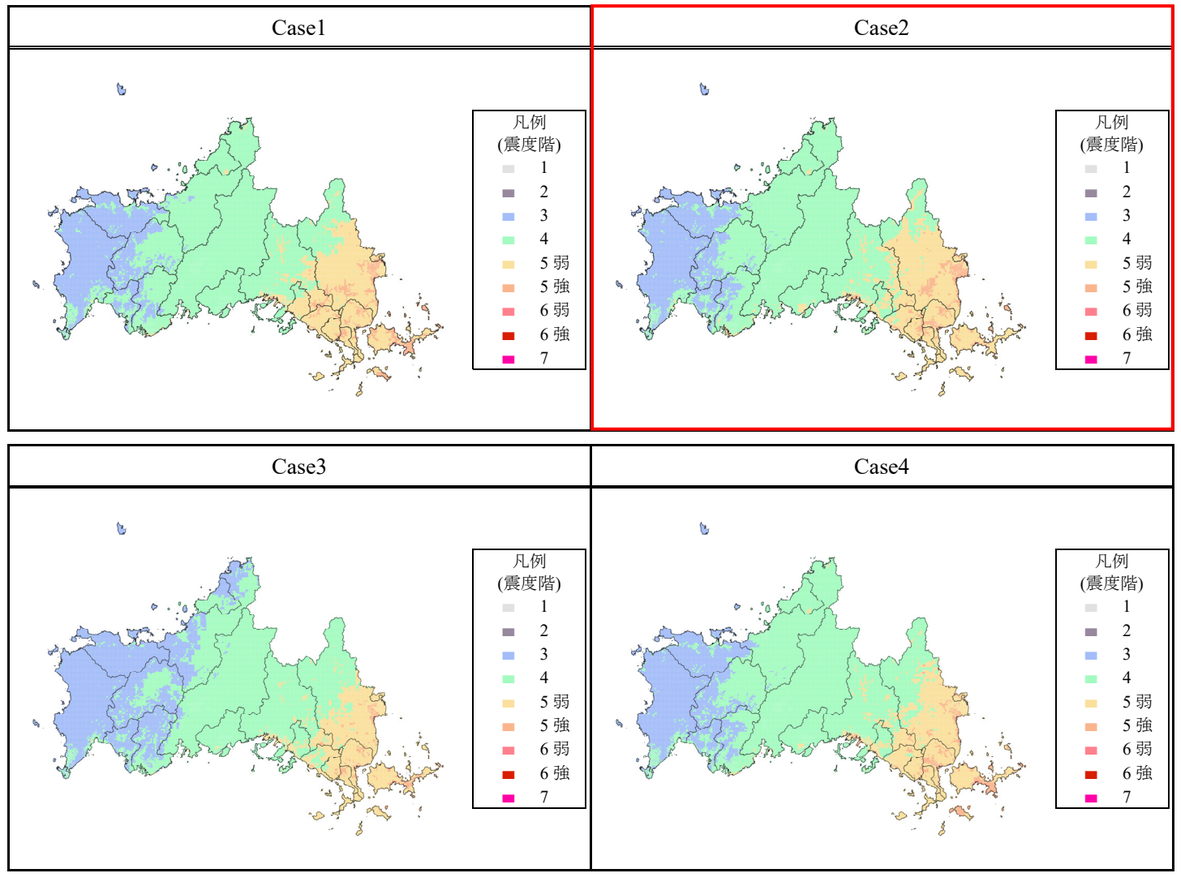
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.11 | 0.12 | 0.18 | 0.12 |
| 4 | 0.59 | 0.57 | 0.55 | 0.59 |
| 5弱 | 0.21 | 0.21 | 0.22 | 0.23 |
| 5強 | 0.098 | 0.107 | 0.046 | 0.065 |
| 6弱 | 0.001 | 0.001 | 0.001 | 0.001 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.099 | 0.108 | 0.047 | 0.066 |
| 6弱以上合計 | 0.0006 | 0.0008 | 0.0010 | 0.0010 |

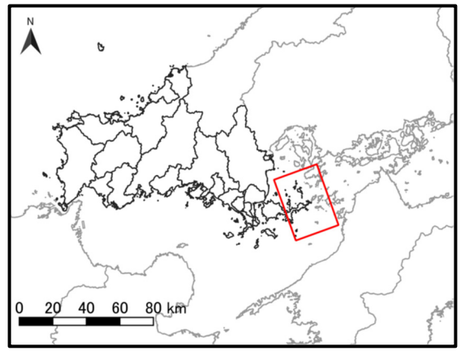
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ：震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ：震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース（2ケースで同一）

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case2」を提案する。

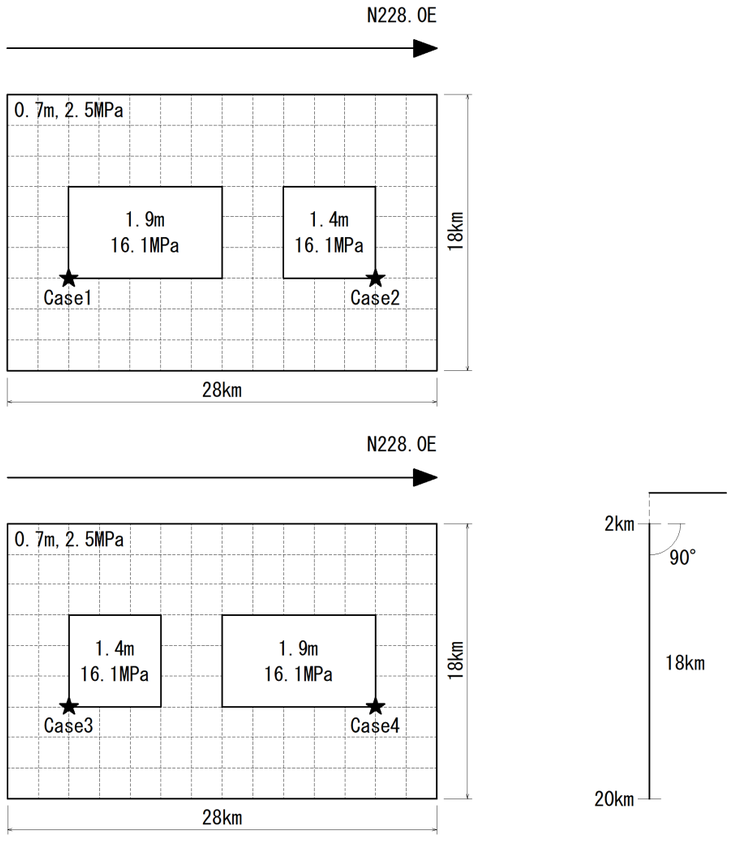
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【大竹断層（小方ー小瀬断層），Mj=7.2】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

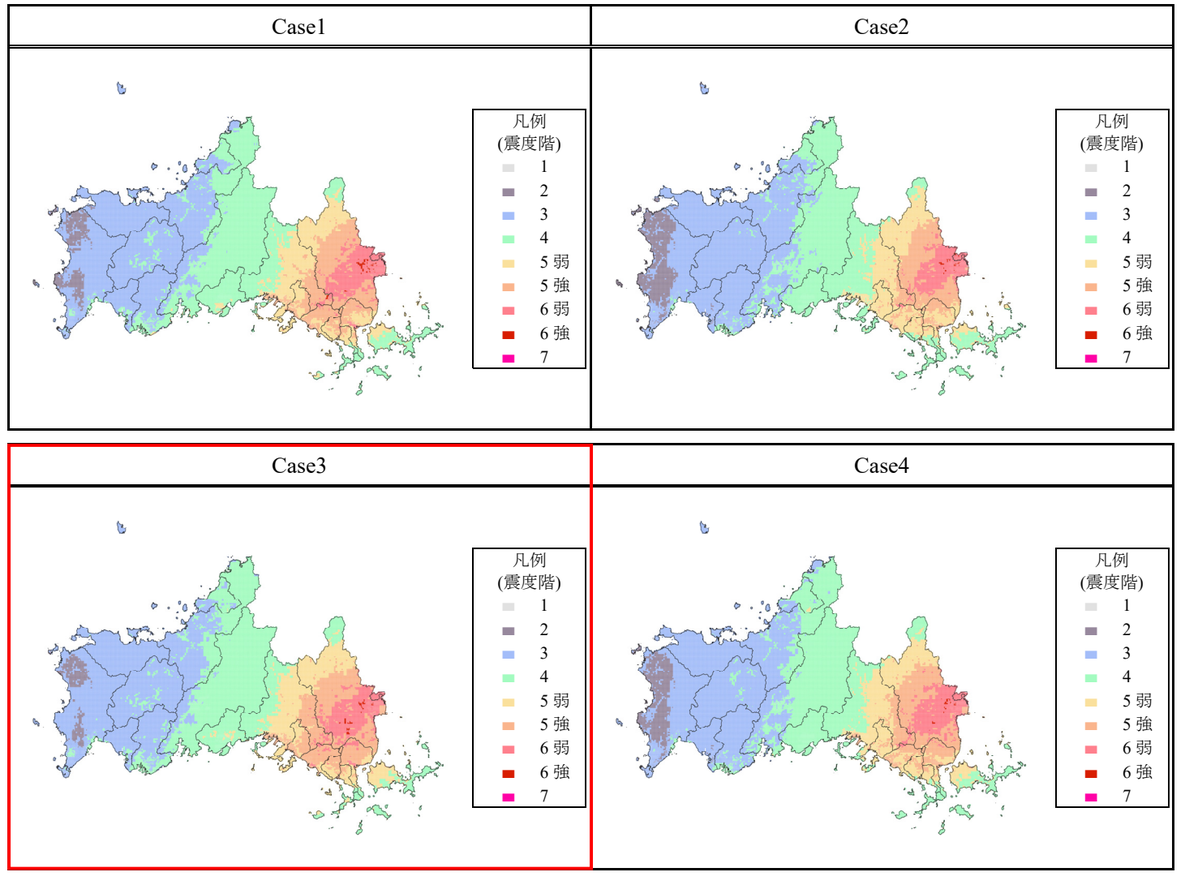
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.01 | 0.02 | 0.00 | 0.02 |
| 3 | 0.31 | 0.40 | 0.29 | 0.38 |
| 4 | 0.35 | 0.28 | 0.37 | 0.28 |
| 5弱 | 0.10 | 0.15 | 0.09 | 0.13 |
| 5強 | 0.144 | 0.069 | 0.150 | 0.097 |
| 6弱 | 0.085 | 0.081 | 0.094 | 0.085 |
| 6強 | 0.008 | 0.004 | 0.004 | 0.004 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.237 | 0.155 | 0.248 | 0.186 |
| 6弱以上合計 | 0.092 | 0.086 | 0.098 | 0.089 |

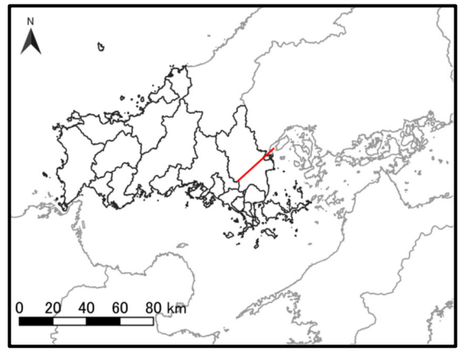
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

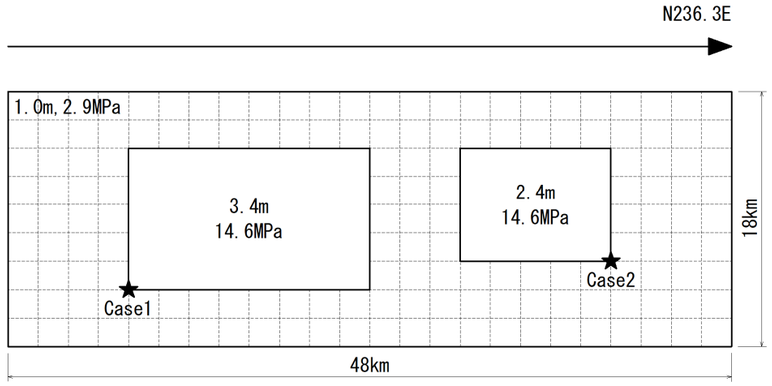
## ４．各ケースの震度分布図

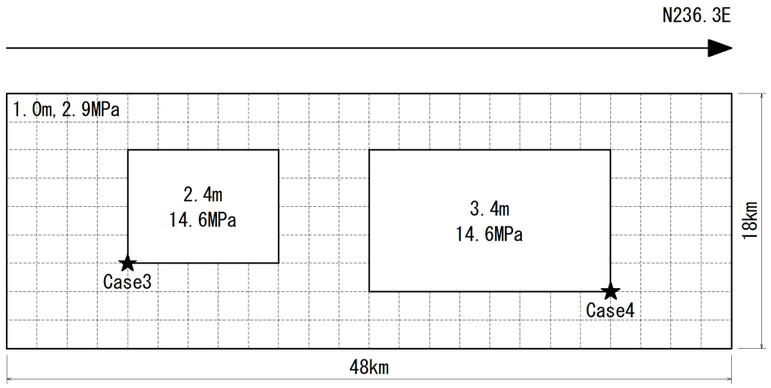


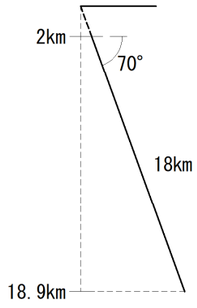



# 地震動算定ケース案【大竹断層（小方－小瀬断層）〈岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）〉，Mj=7.6】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

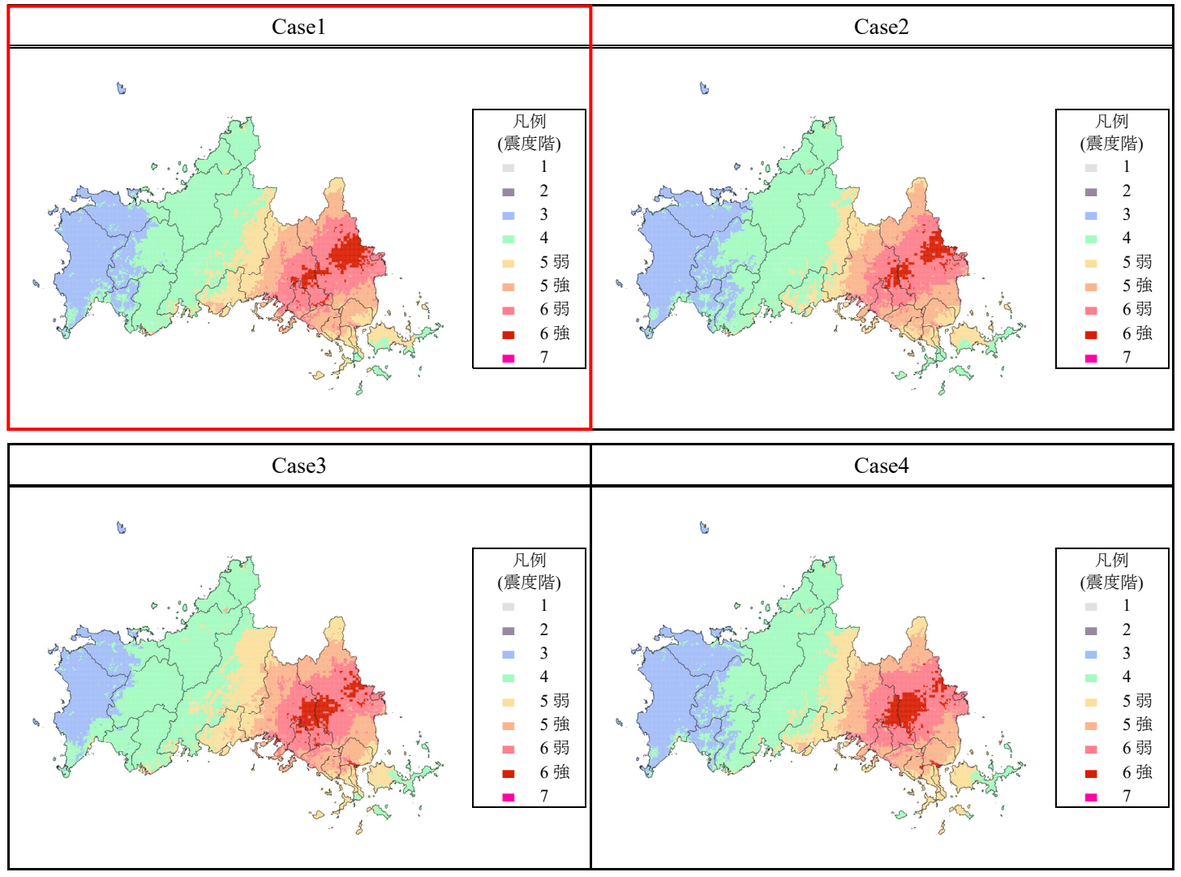
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.11 | 0.18 | 0.04 | 0.17 |
| 4 | 0.44 | 0.43 | 0.43 | 0.41 |
| 5弱 | 0.11 | 0.08 | 0.19 | 0.09 |
| 5強 | 0.110 | 0.115 | 0.096 | 0.132 |
| 6弱 | 0.212 | 0.180 | 0.217 | 0.188 |
| 6強 | 0.017 | 0.013 | 0.021 | 0.014 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.338 | 0.308 | 0.334 | 0.334 |
| 6弱以上合計 | 0.229 | 0.192 | 0.238 | 0.202 |

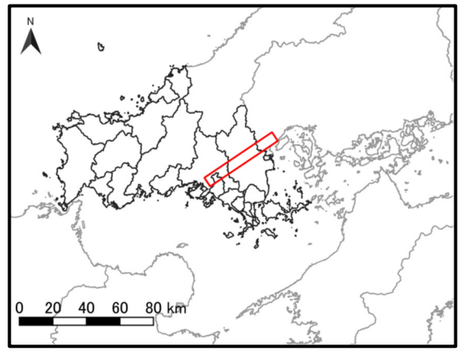
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ：震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ：震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

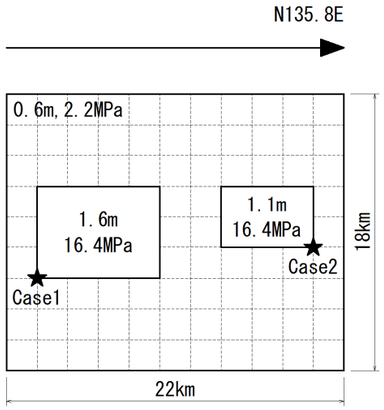
## 4．各ケースの震度分布図

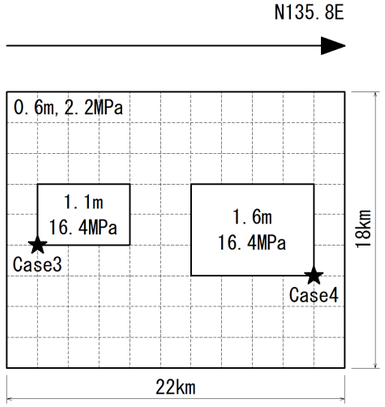


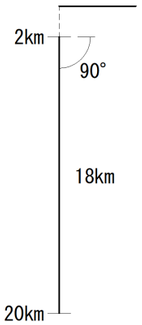



# 地震動算定ケース案【菊川断層，Mj=7.0】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

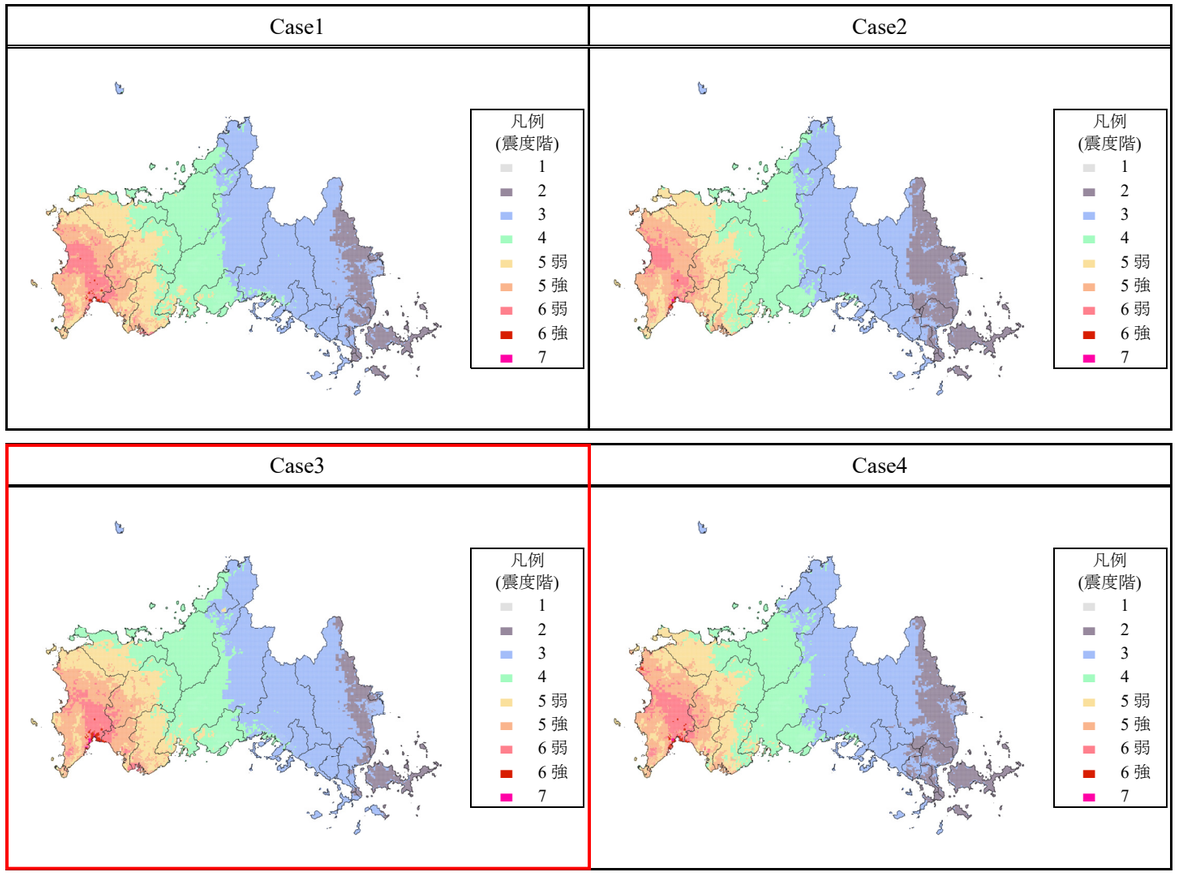
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.03 | 0.05 | 0.02 | 0.05 |
| 3 | 0.28 | 0.30 | 0.31 | 0.30 |
| 4 | 0.29 | 0.32 | 0.27 | 0.28 |
| 5弱 | 0.15 | 0.15 | 0.12 | 0.13 |
| 5強 | 0.184 | 0.135 | 0.209 | 0.169 |
| 6弱 | 0.064 | 0.044 | 0.063 | 0.065 |
| 6強 | 0.004 | 0.002 | 0.007 | 0.005 |
| 7 | 0.000 | 0.001 | 0.002 | 0.001 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.251 | 0.181 | 0.280 | 0.240 |
| 6弱以上合計 | 0.067 | 0.047 | 0.071 | 0.071 |

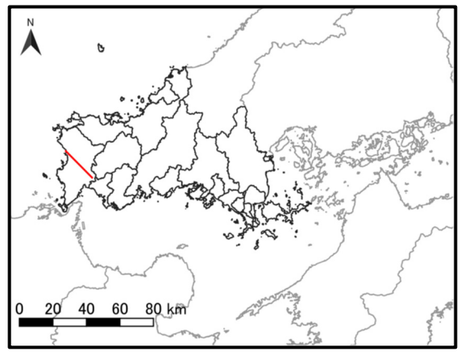
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ：震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ：震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

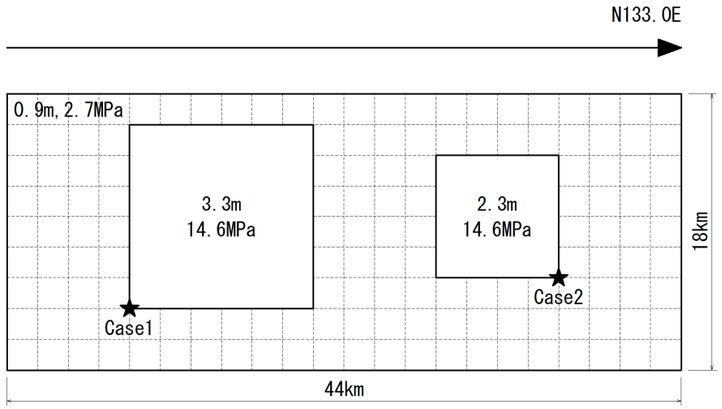
## ４．各ケースの震度分布図

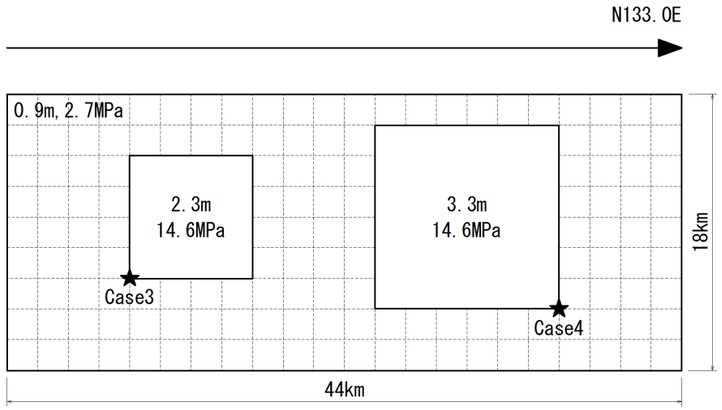


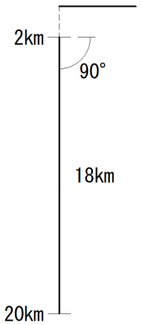



# 地震動算定ケース案【菊川断層〈菊川断層帯（中部区間）〉，Mj=7.6】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

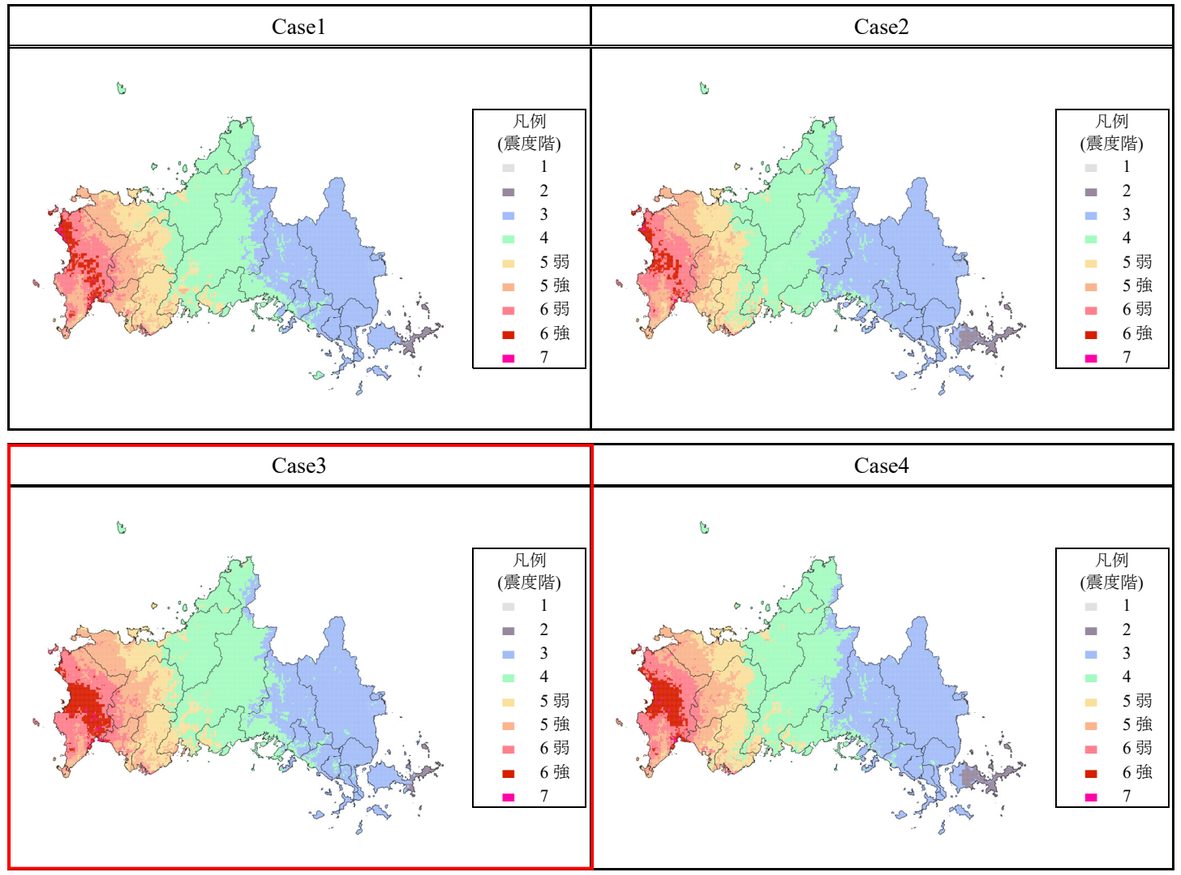
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.01 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.22 | 0.28 | 0.20 | 0.27 |
| 4 | 0.29 | 0.31 | 0.29 | 0.25 |
| 5弱 | 0.19 | 0.16 | 0.18 | 0.20 |
| 5強 | 0.156 | 0.138 | 0.161 | 0.136 |
| 6弱 | 0.099 | 0.088 | 0.124 | 0.106 |
| 6強 | 0.043 | 0.020 | 0.036 | 0.033 |
| 7 | 0.002 | 0.001 | 0.003 | 0.002 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.301 | 0.247 | 0.325 | 0.277 |
| 6弱以上合計 | 0.145 | 0.109 | 0.163 | 0.141 |

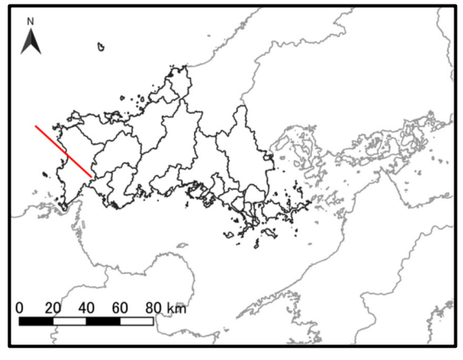
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ：震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ：震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

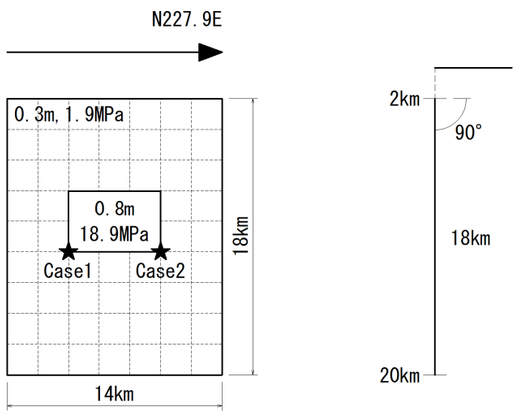
## 4．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【大原湖断層系(山口盆地北西縁断層), Mj=6.6】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

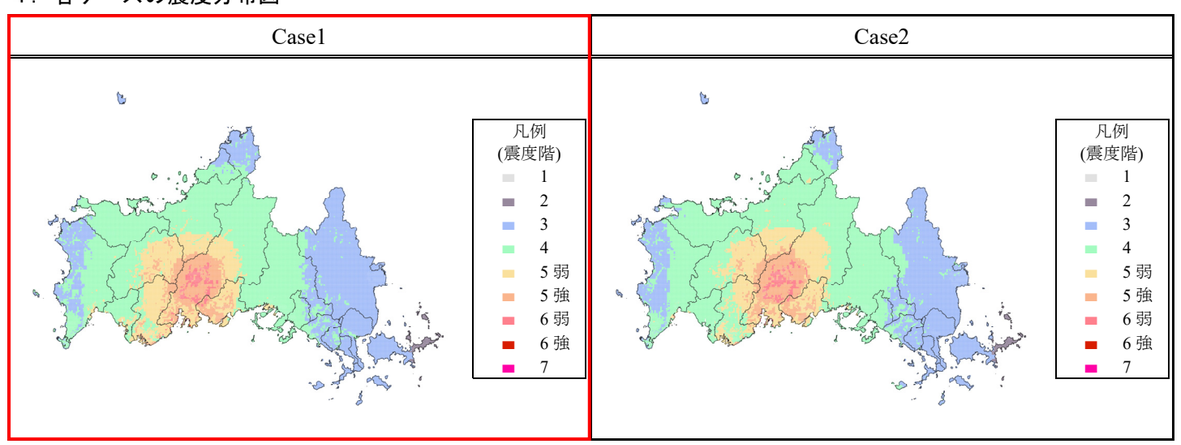
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.17 | 0.18 |
| 4 | 0.48 | 0.52 |
| 5弱 | 0.16 | 0.12 |
| 5強 | 0.113 | 0.109 |
| 6弱 | 0.079 | 0.068 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.192 | 0.177 |
| 6弱以上合計 | 0.079 | 0.068 |

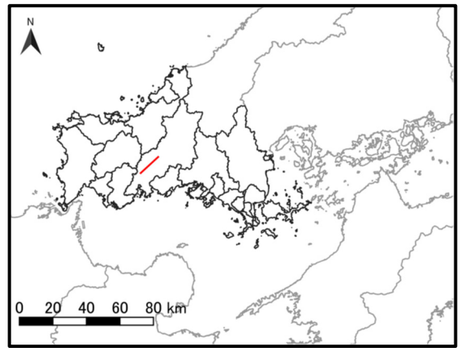
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

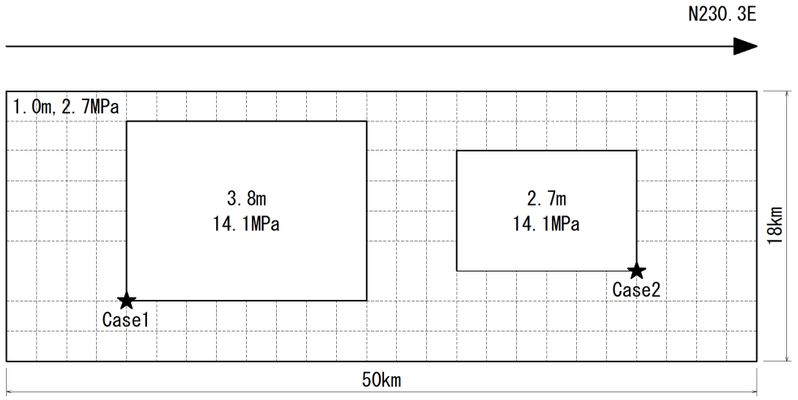
## ４．各ケースの震度分布図

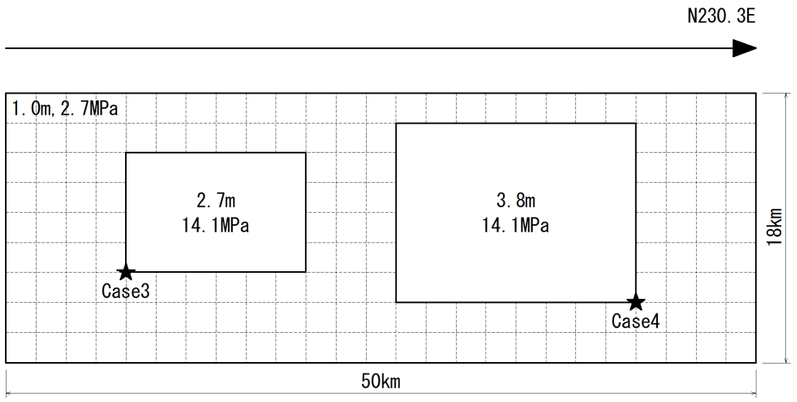


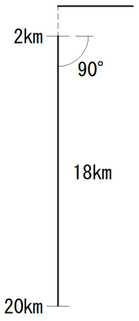



# 地震動算定ケース案【大原湖断層系(山口盆地北西縁断層)〈大原湖断層〉, Mj=7.7】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

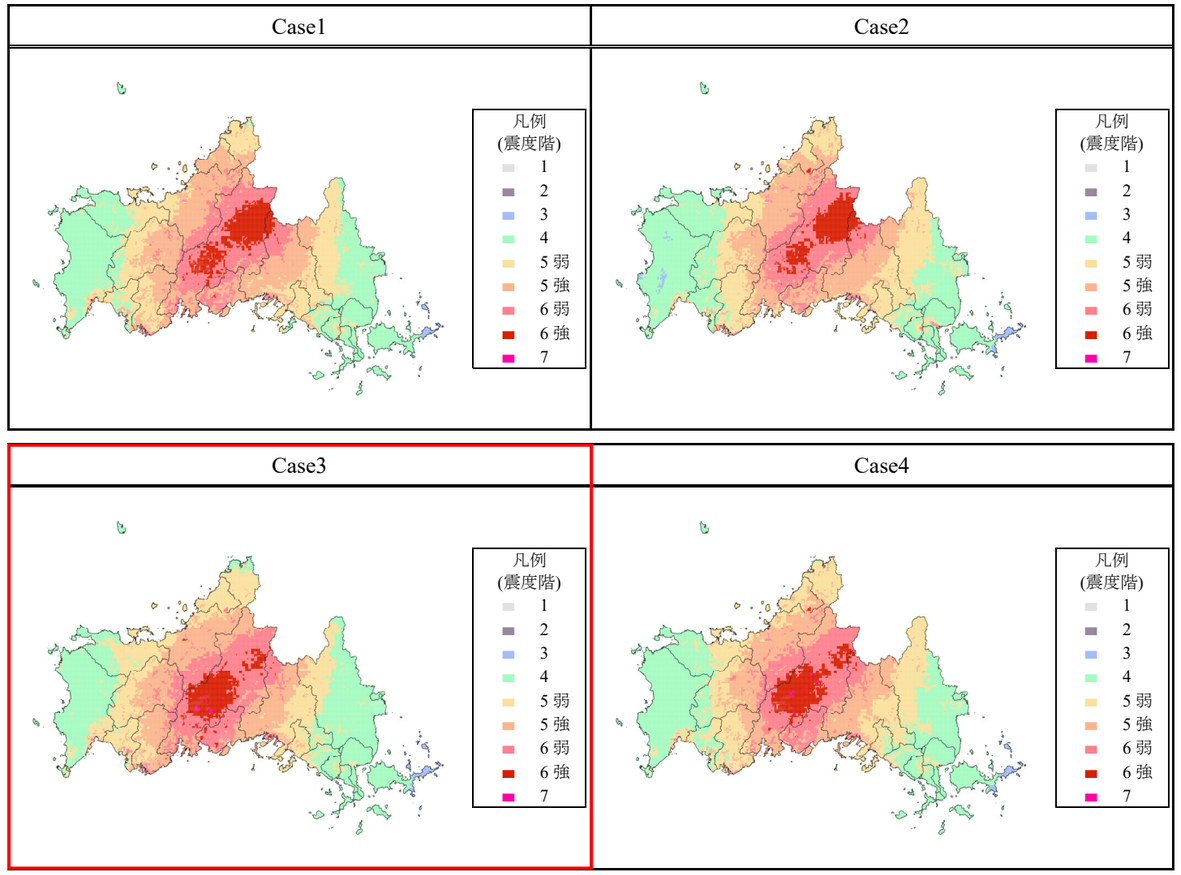
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 4 | 0.25 | 0.30 | 0.26 | 0.28 |
| 5弱 | 0.30 | 0.31 | 0.26 | 0.32 |
| 5強 | 0.249 | 0.227 | 0.244 | 0.203 |
| 6弱 | 0.122 | 0.113 | 0.138 | 0.121 |
| 6強 | 0.080 | 0.043 | 0.090 | 0.078 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.013 | 0.003 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.451 | 0.383 | 0.485 | 0.405 |
| 6弱以上合計 | 0.202 | 0.156 | 0.241 | 0.202 |

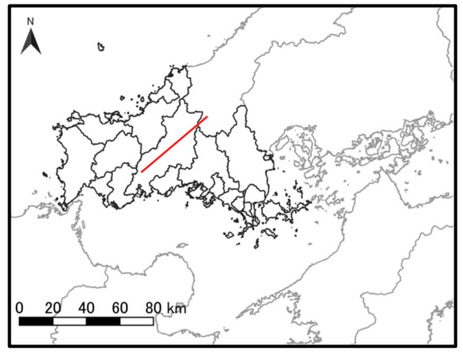
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

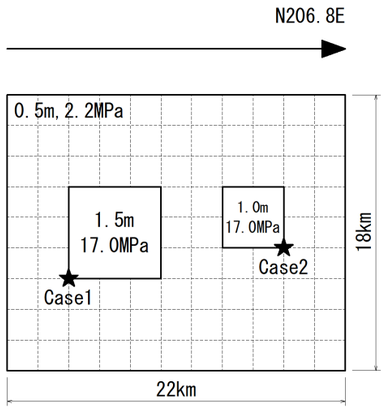
## 4．各ケースの震度分布図

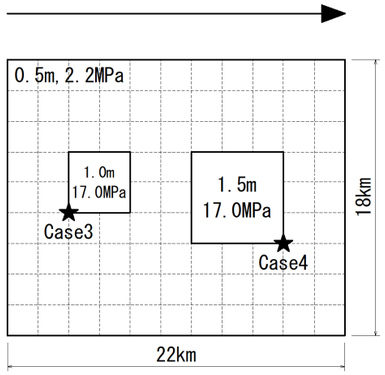


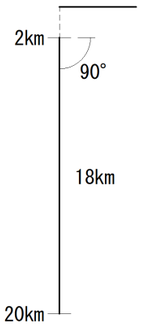



# 地震動算定ケース案【大原湖断層系(宇部東部断層－下郷断層)，Mj=7.0】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

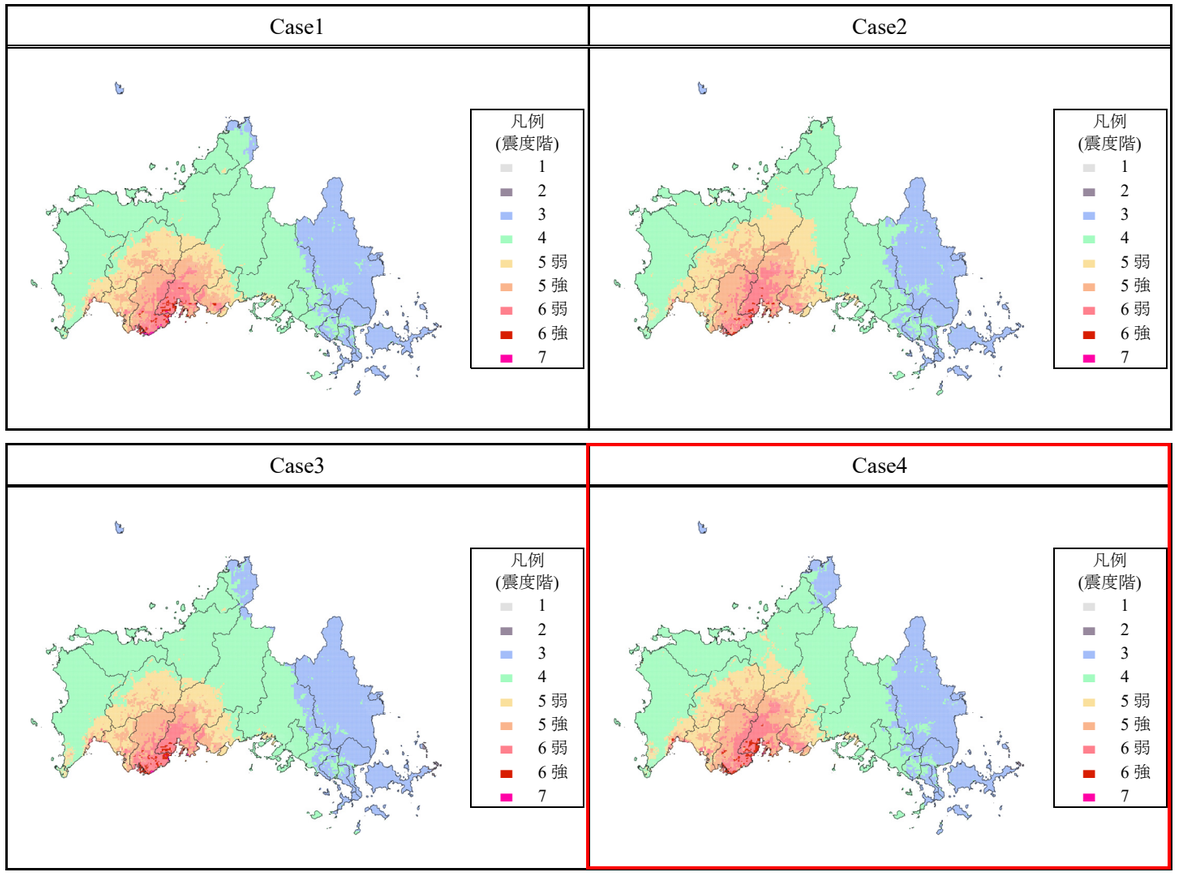
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.11 | 0.12 | 0.14 | 0.11 |
| 4 | 0.39 | 0.39 | 0.35 | 0.38 |
| 5弱 | 0.14 | 0.15 | 0.20 | 0.14 |
| 5強 | 0.190 | 0.171 | 0.153 | 0.167 |
| 6弱 | 0.144 | 0.151 | 0.128 | 0.172 |
| 6強 | 0.018 | 0.011 | 0.027 | 0.018 |
| 7 | 0.003 | 0.000 | 0.001 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.355 | 0.334 | 0.309 | 0.357 |
| 6弱以上合計 | 0.165 | 0.163 | 0.156 | 0.190 |

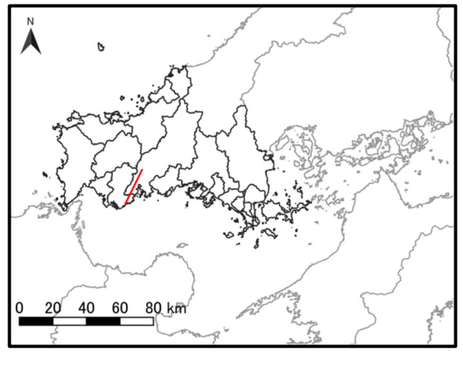
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case4」を提案する。

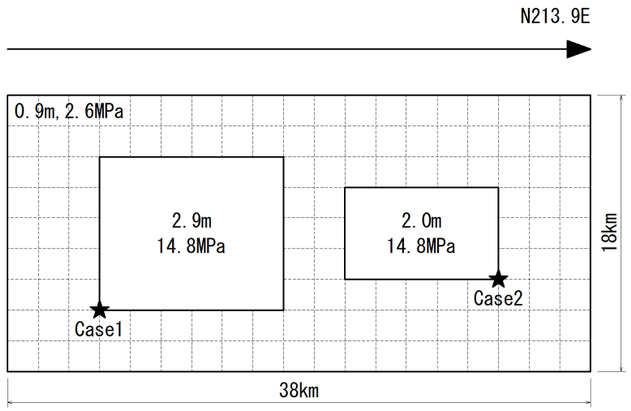
## ４．各ケースの震度分布図

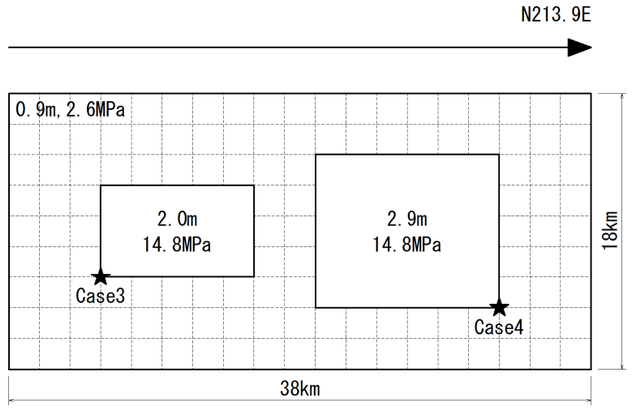


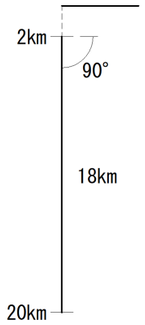



# 地震動算定ケース案【大原湖断層系(宇部東部断層－下郷断層)〈小郡断層〉, Mj=7.5】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

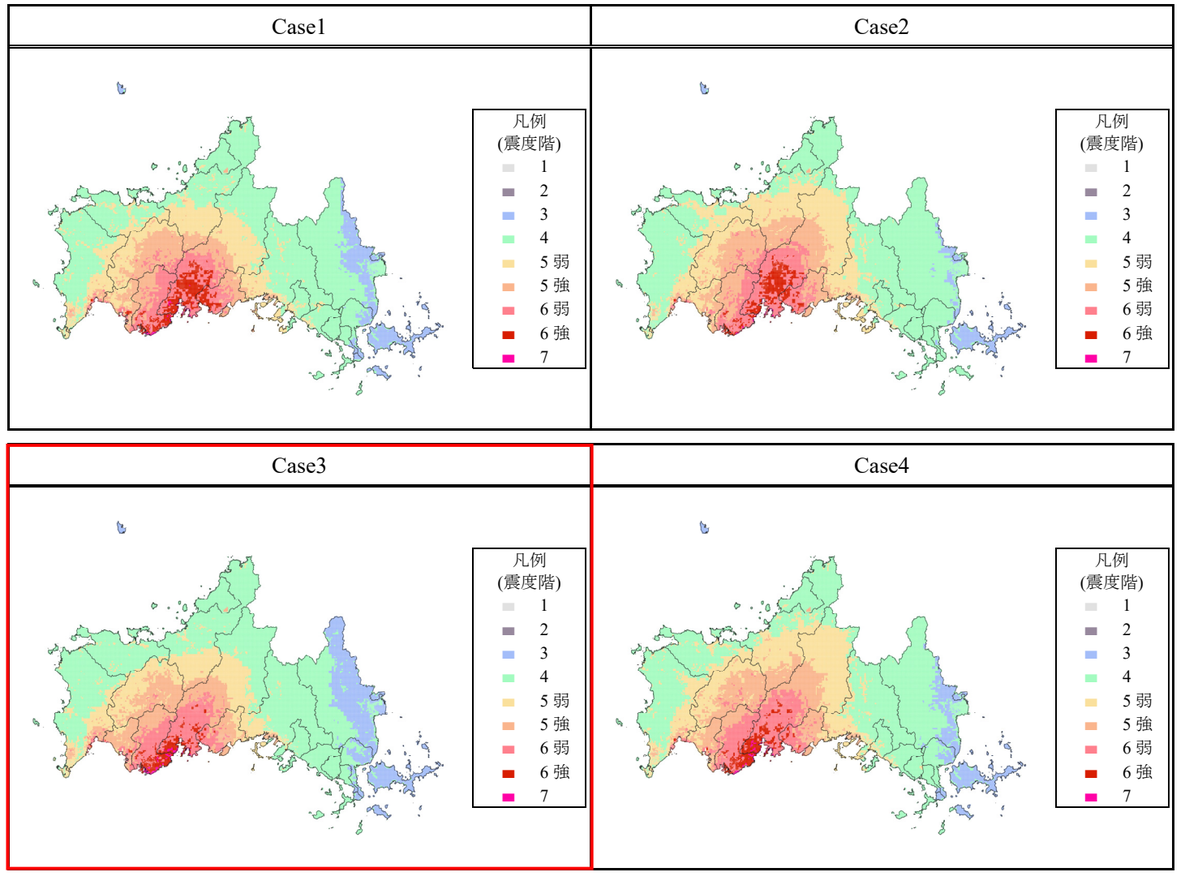
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.03 | 0.02 | 0.04 | 0.02 |
| 4 | 0.27 | 0.32 | 0.31 | 0.27 |
| 5弱 | 0.25 | 0.23 | 0.19 | 0.27 |
| 5強 | 0.126 | 0.116 | 0.158 | 0.141 |
| 6弱 | 0.179 | 0.196 | 0.196 | 0.200 |
| 6強 | 0.138 | 0.114 | 0.092 | 0.091 |
| 7 | 0.004 | 0.002 | 0.014 | 0.007 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.447 | 0.428 | 0.459 | 0.439 |
| 6弱以上合計 | 0.321 | 0.312 | 0.302 | 0.298 |

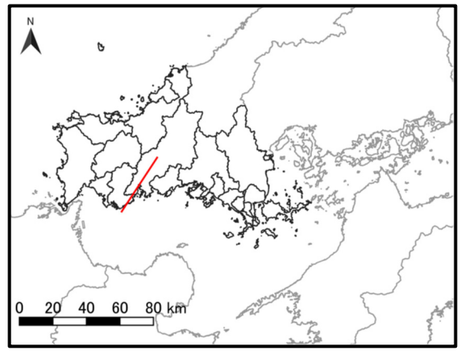
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

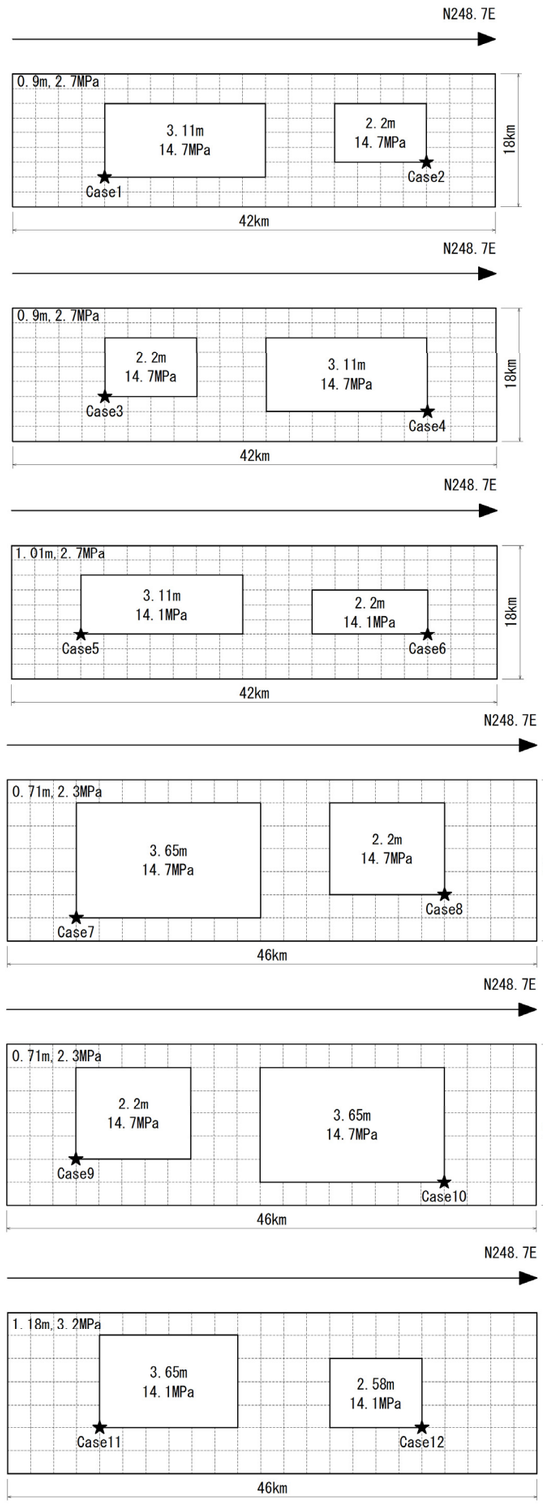
## 4．各ケースの震度分布図

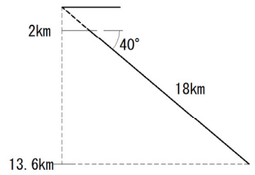


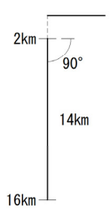



# 地震動算定ケース案【中央構造線構造帯（石鎚山脈北縁西部区間），Mj=7.5】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点(J-SHIS を引用）（F020107）




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 | Case5 | Case6 | Case7 | Case8 | Case9 | Case10 | Case11 | Case12 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.01 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.02 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.32 | 0.51 | 0.29 | 0.45 | 0.37 | 0.56 | 0.41 | 0.46 | 0.29 | 0.45 | 0.40 | 0.45 |
| 3 | 0.51 | 0.42 | 0.53 | 0.44 | 0.50 | 0.39 | 0.46 | 0.46 | 0.55 | 0.46 | 0.49 | 0.48 |
| 4 | 0.17 | 0.07 | 0.18 | 0.11 | 0.13 | 0.04 | 0.13 | 0.08 | 0.16 | 0.09 | 0.11 | 0.07 |
| 5弱 | 0.01 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 5強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6弱 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5弱以上合計 | 0.005 | 0.000 | 0.001 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6弱以上合計 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |

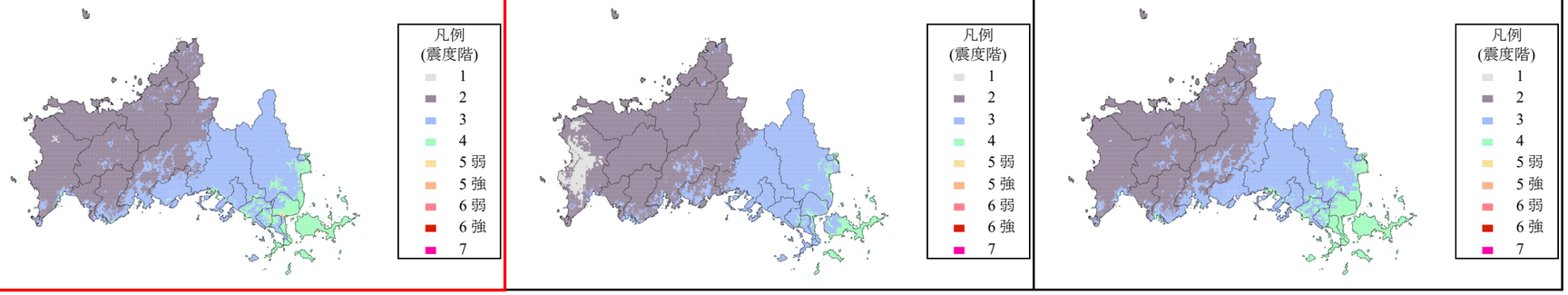
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上での曝露人口比率は全ケースで0.000となる

## ３．地震動算定ケース案

山口地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、最大震度となる震度 5 弱以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

## ４．各ケースの震度分布図

Case1



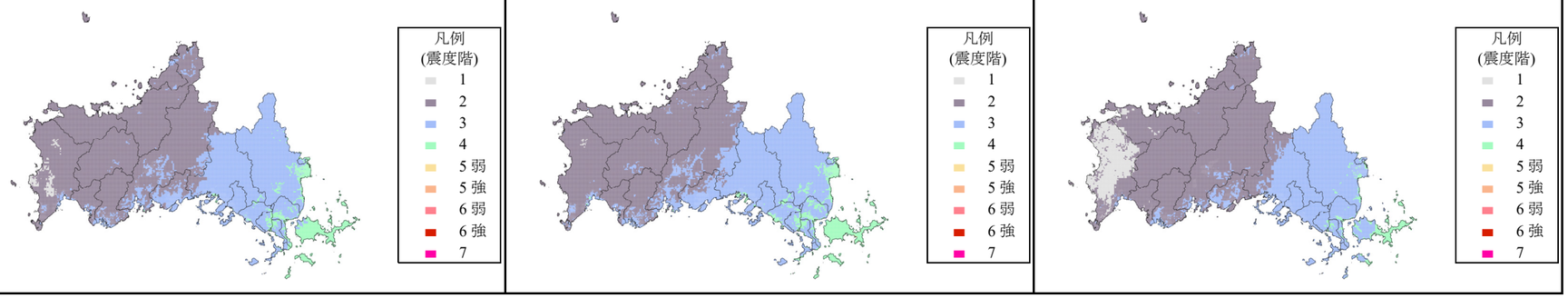

Case2




Case3




Case4

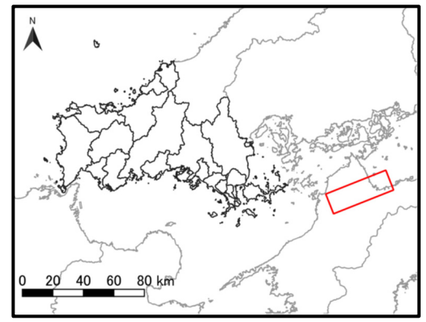



Case5

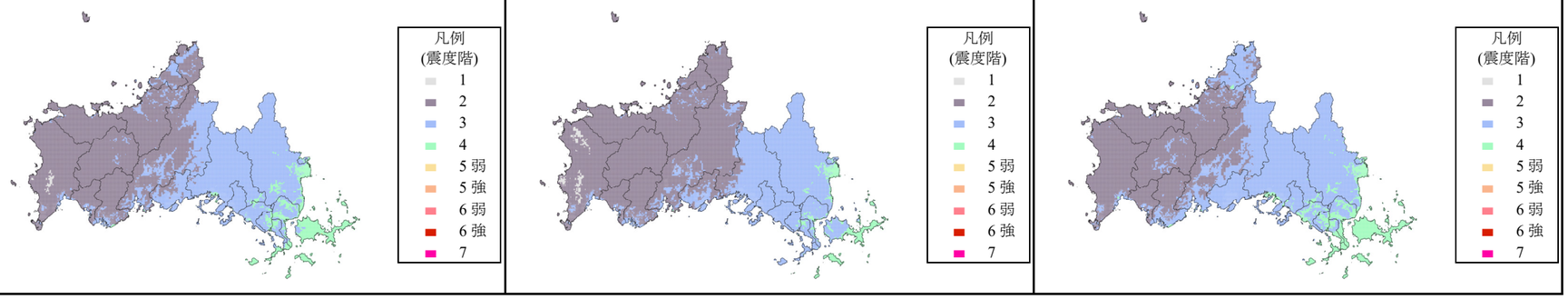



Case6




Case7



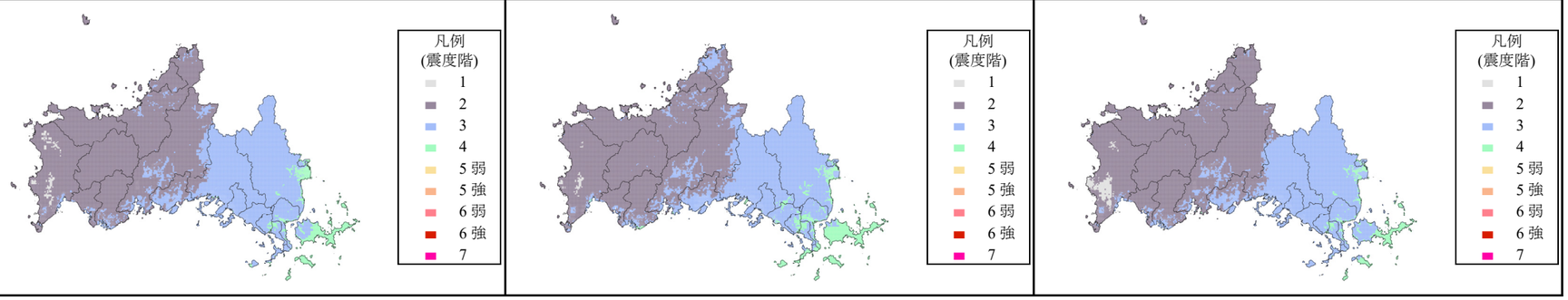

Case8




Case9




Case10

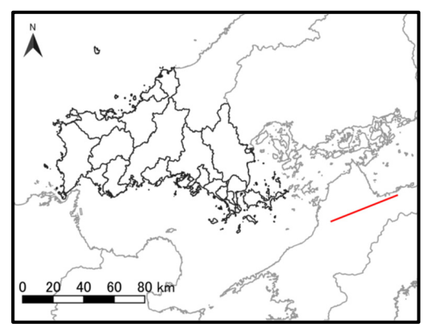



Case11



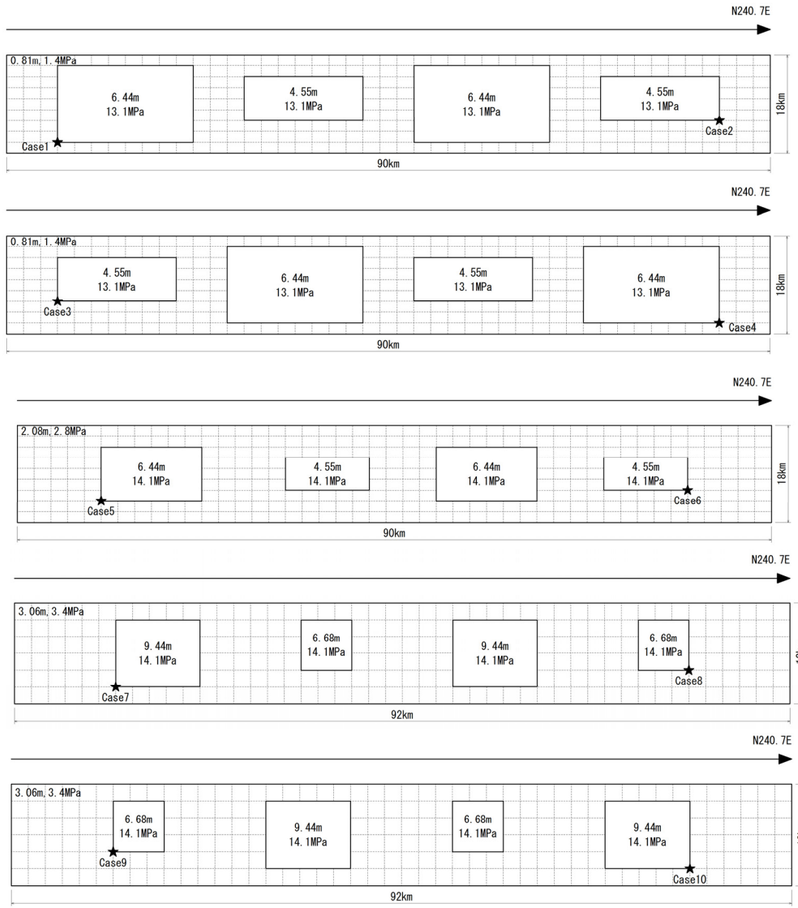

Case12

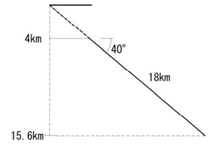


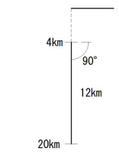



# 地震動算定ケース案【中央構造線構造帯（伊予灘区間），Mj=8.1】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点(J-SHIS を引用）（F020107）




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 | Case5 | Case6 | Case7 | Case8 | Case9 | Case10 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.01 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.27 | 0.33 | 0.21 | 0.29 | 0.34 | 0.33 | 0.27 | 0.33 | 0.24 | 0.30 |
| 4 | 0.55 | 0.51 | 0.62 | 0.54 | 0.51 | 0.52 | 0.60 | 0.56 | 0.61 | 0.56 |
| 5弱 | 0.16 | 0.14 | 0.16 | 0.15 | 0.13 | 0.13 | 0.12 | 0.10 | 0.14 | 0.13 |
| 5強 | 0.019 | 0.016 | 0.014 | 0.013 | 0.011 | 0.012 | 0.008 | 0.006 | 0.010 | 0.008 |
| 6弱 | 0.001 | 0.001 | 0.002 | 0.002 | 0.002 | 0.001 | 0.000 | 0.004 | 0.000 | 0.002 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.020 | 0.018 | 0.016 | 0.015 | 0.013 | 0.012 | 0.009 | 0.010 | 0.010 | 0.010 |
| 6弱以上合計 | 0.001 | 0.001 | 0.002 | 0.002 | 0.002 | 0.001 | 0.000 | 0.004 | 0.000 | 0.002 |

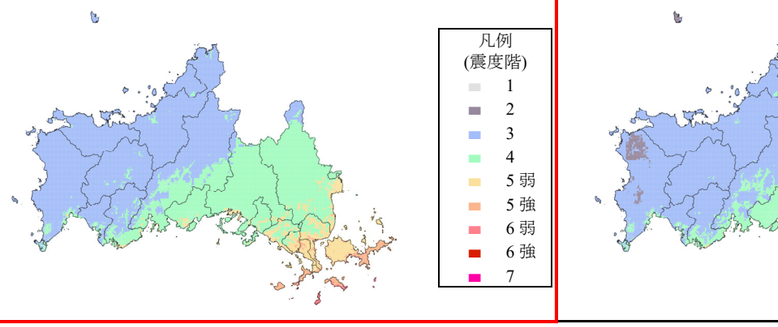
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

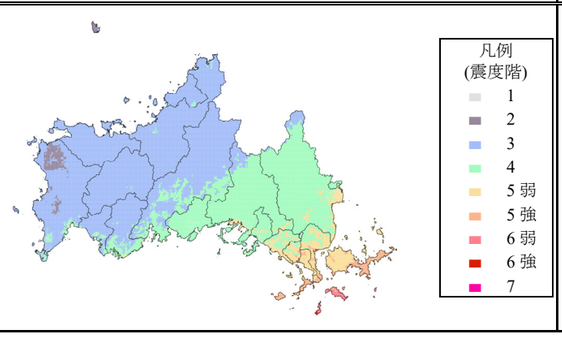
山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

## 4．各ケースの震度分布図

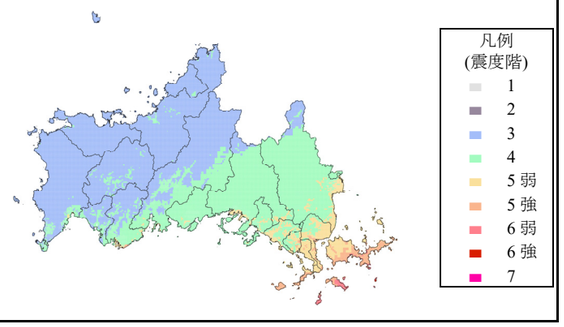
Case1



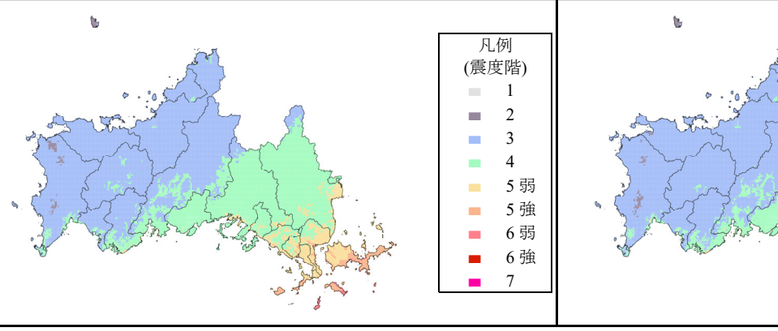

Case2



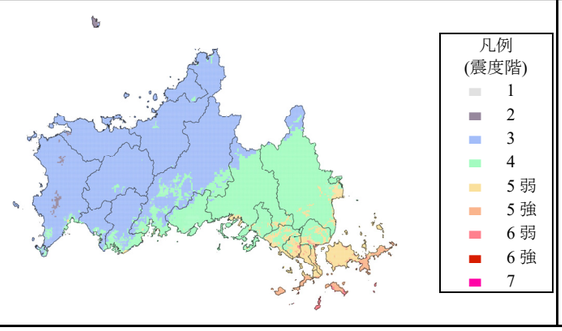

Case3



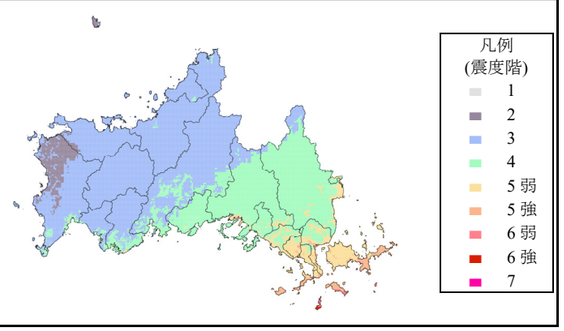

Case4

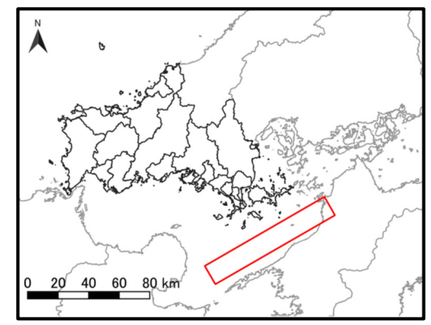



Case5

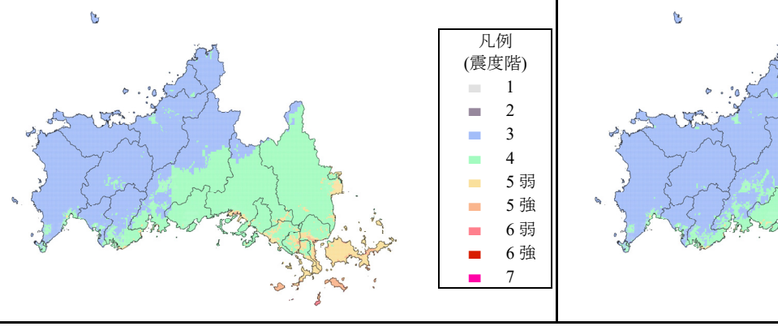



Case6

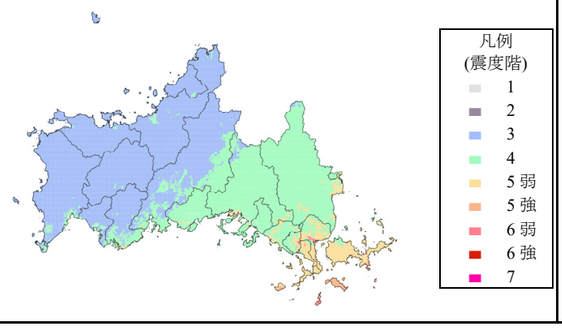


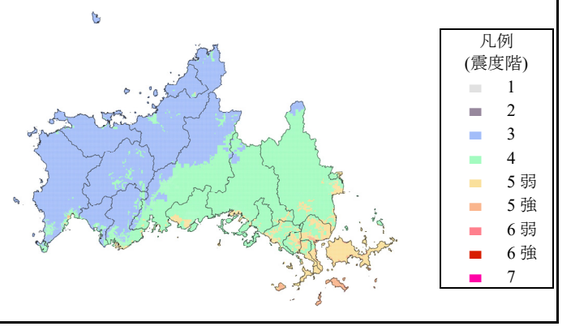

Case7



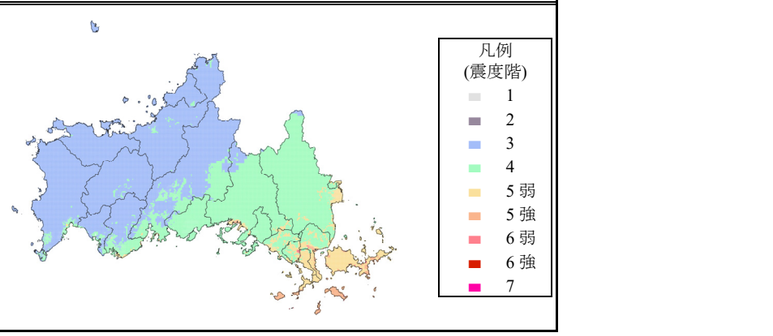

Case8

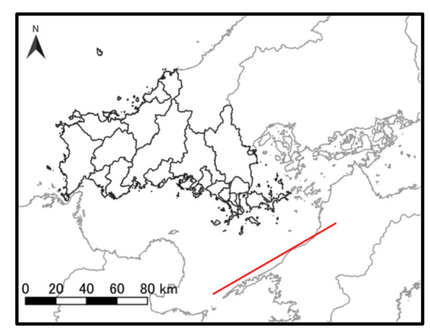



Case9



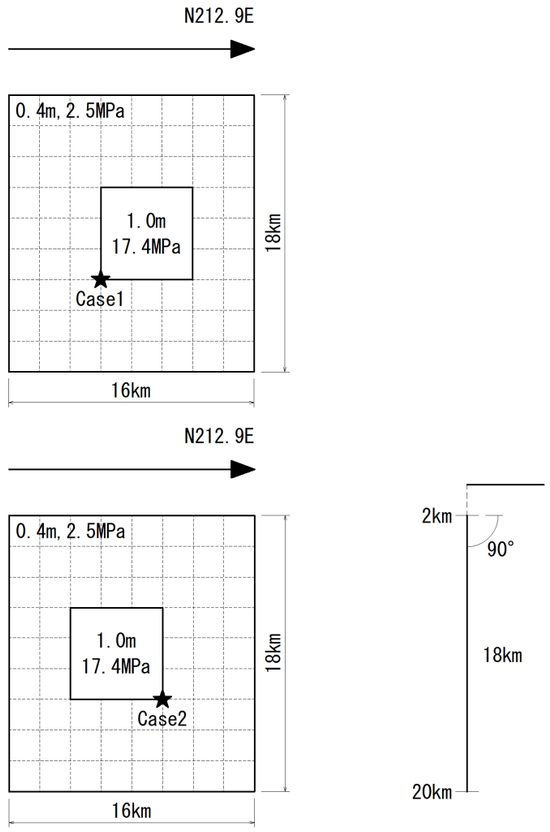

Case10



# 地震動算定ケース案【渋木断層，Mj=6.8】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

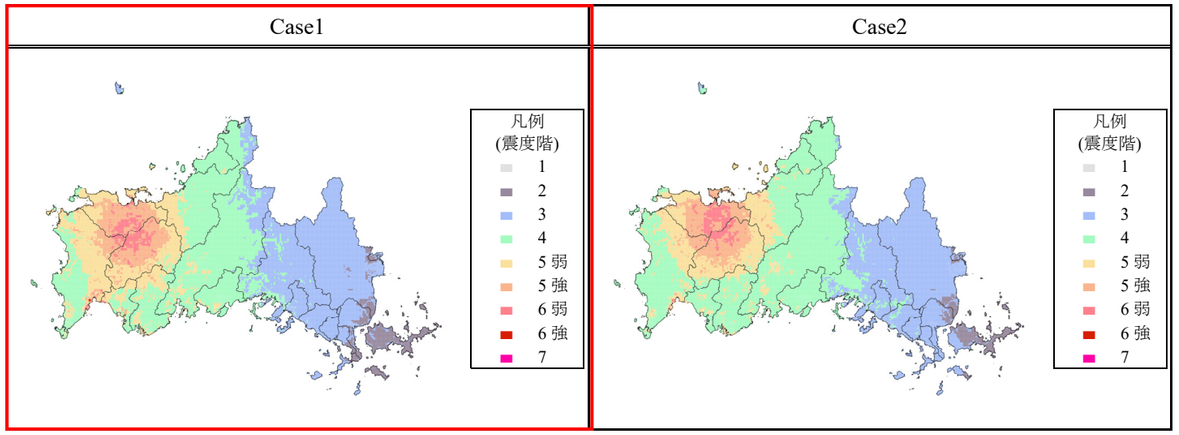
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.02 | 0.01 |
| 3 | 0.26 | 0.25 |
| 4 | 0.46 | 0.54 |
| 5弱 | 0.21 | 0.16 |
| 5強 | 0.039 | 0.027 |
| 6弱 | 0.014 | 0.014 |
| 6強 | 0.001 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.053 | 0.041 |
| 6弱以上合計 | 0.014 | 0.014 |

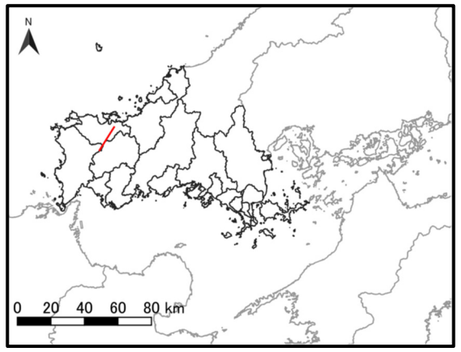
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

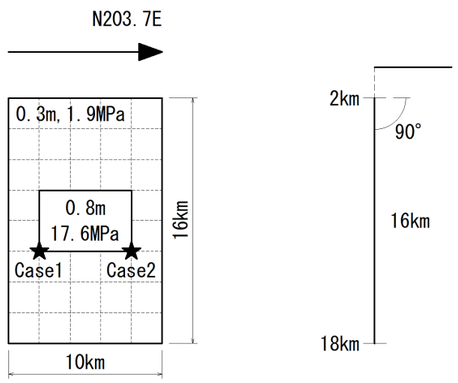
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【厚狭東方断層，Mj=6.5】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

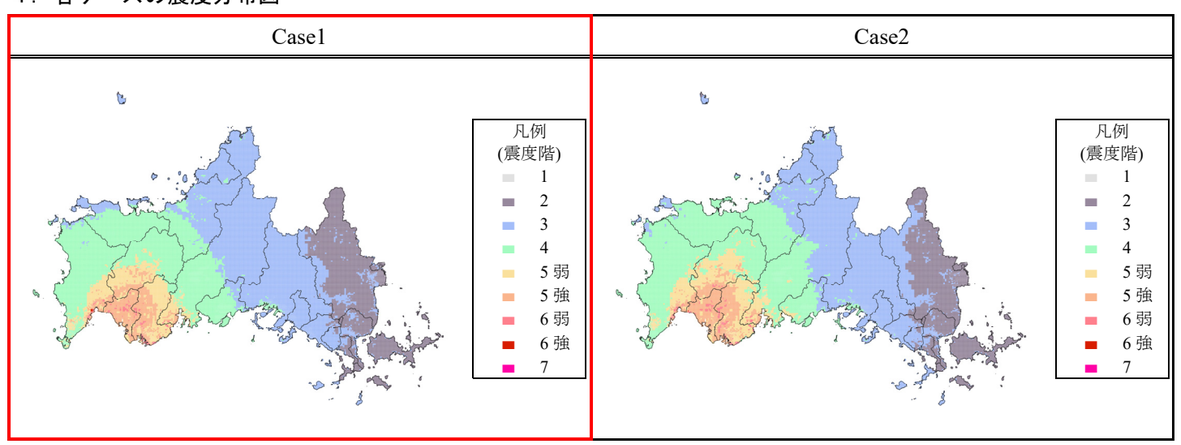
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.07 | 0.09 |
| 3 | 0.28 | 0.26 |
| 4 | 0.35 | 0.36 |
| 5弱 | 0.16 | 0.16 |
| 5強 | 0.120 | 0.109 |
| 6弱 | 0.019 | 0.021 |
| 6強 | 0.001 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.139 | 0.130 |
| 6弱以上合計 | 0.020 | 0.021 |

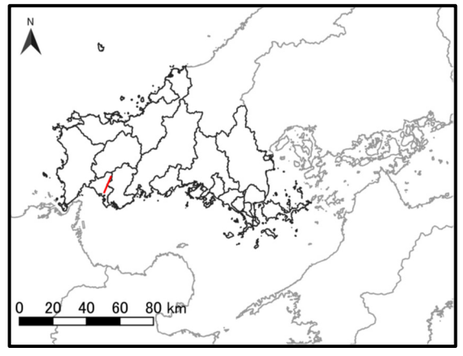
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合が
※ ：震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ：震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

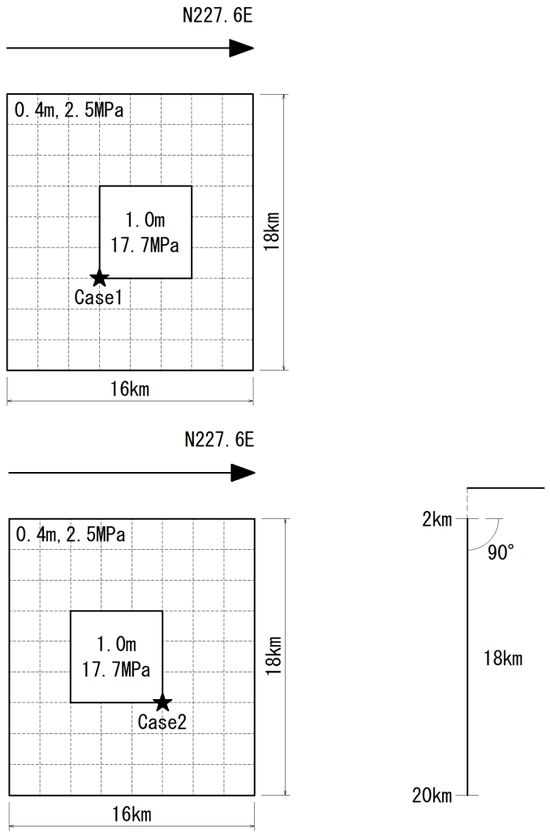
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【萩北断層，Mj=6.8】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

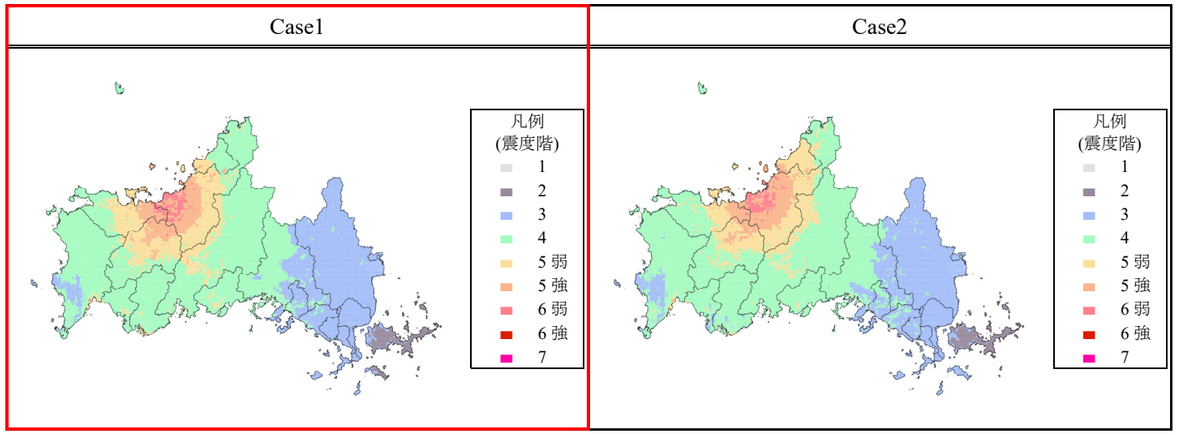
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.01 | 0.00 |
| 3 | 0.22 | 0.25 |
| 4 | 0.61 | 0.63 |
| 5弱 | 0.13 | 0.08 |
| 5強 | 0.029 | 0.021 |
| 6弱 | 0.015 | 0.017 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.044 | 0.038 |
| 6弱以上合計 | 0.015 | 0.017 |

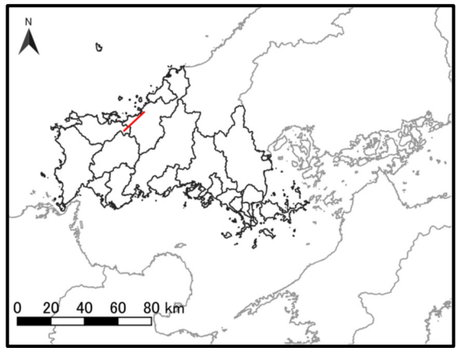
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

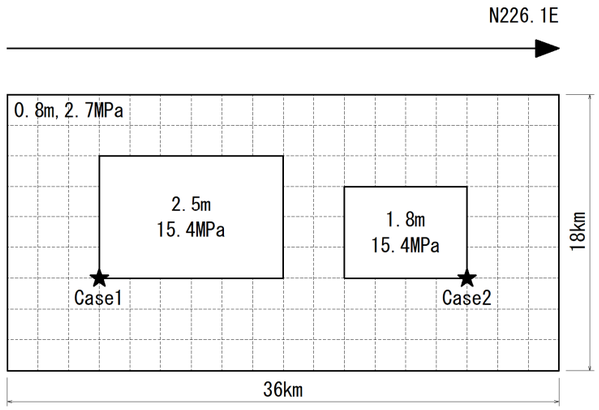
## ４．各ケースの震度分布図

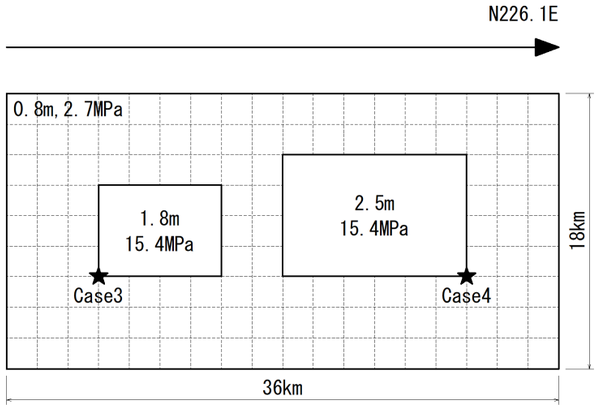


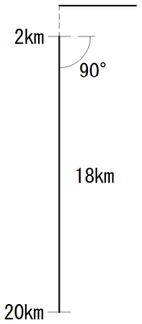



# 地震動算定ケース案【才ヶ峠断層，Mj=7.4】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

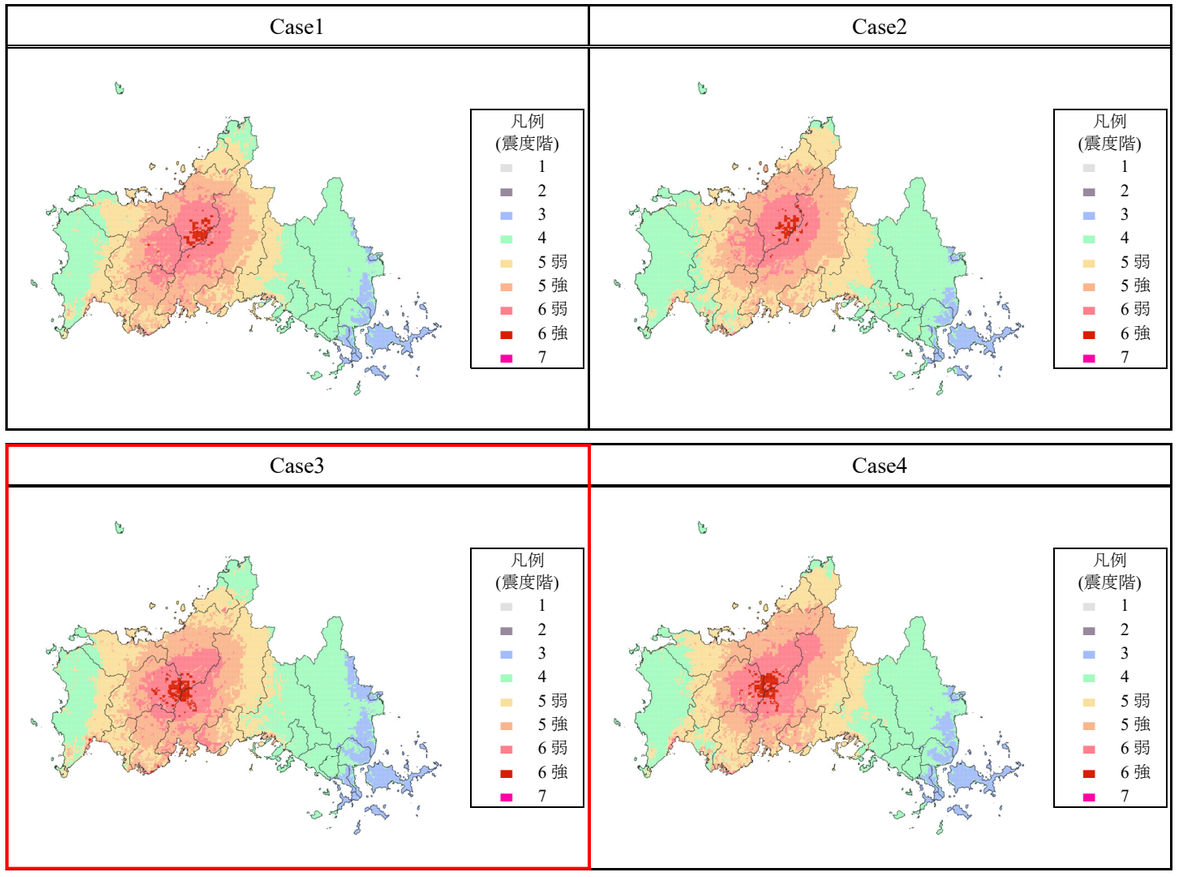
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.02 | 0.02 | 0.03 | 0.03 |
| 4 | 0.34 | 0.42 | 0.32 | 0.38 |
| 5弱 | 0.30 | 0.30 | 0.27 | 0.28 |
| 5強 | 0.216 | 0.167 | 0.225 | 0.182 |
| 6弱 | 0.127 | 0.094 | 0.129 | 0.115 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.029 | 0.020 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.344 | 0.261 | 0.383 | 0.317 |
| 6弱以上合計 | 0.128 | 0.094 | 0.158 | 0.135 |

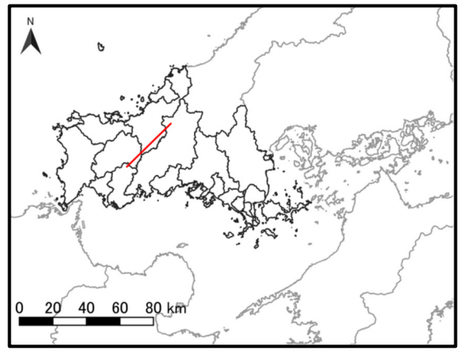
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

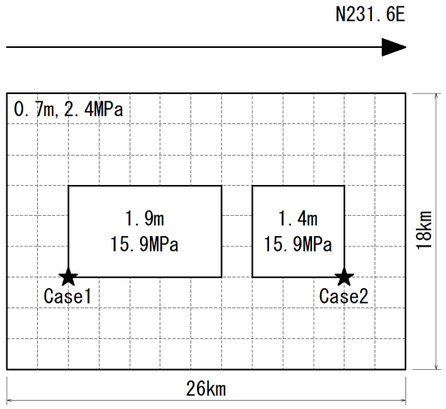
## 4．各ケースの震度分布図

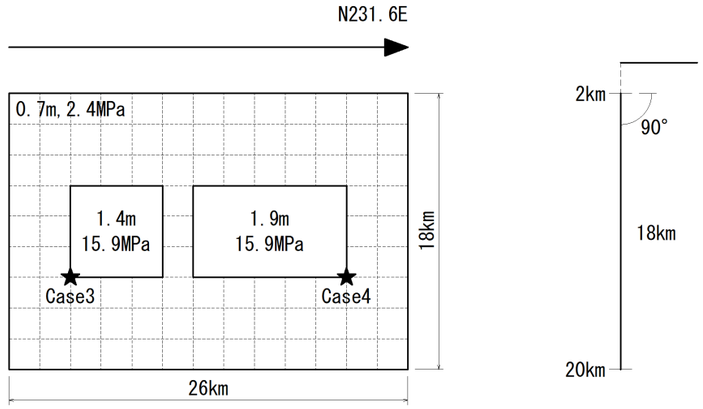


# 地震動算定ケース案【徳佐－地福断層，Mj=7.2】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

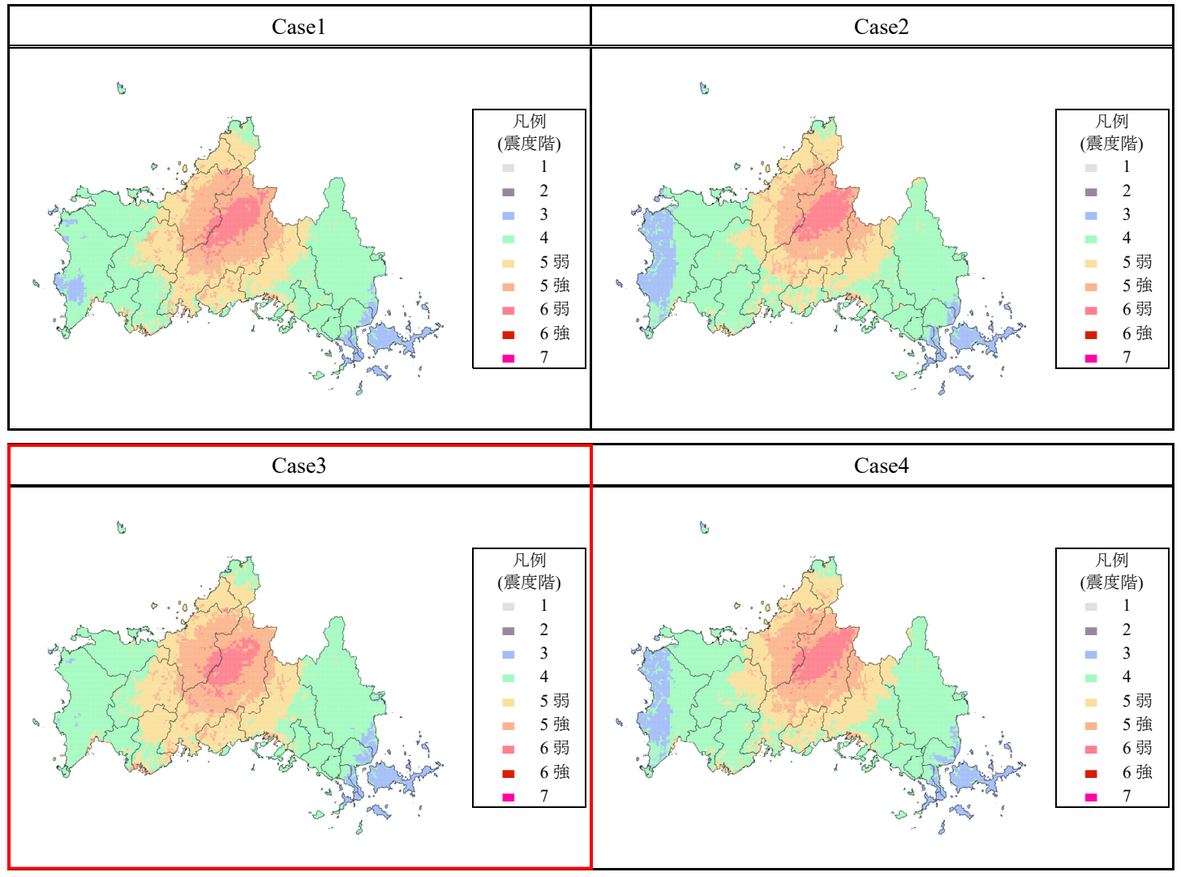
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.02 | 0.05 | 0.02 | 0.04 |
| 4 | 0.58 | 0.64 | 0.53 | 0.60 |
| 5弱 | 0.26 | 0.23 | 0.30 | 0.24 |
| 5強 | 0.137 | 0.085 | 0.134 | 0.109 |
| 6弱 | 0.011 | 0.004 | 0.020 | 0.006 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.148 | 0.088 | 0.154 | 0.115 |
| 6弱以上合計 | 0.011 | 0.004 | 0.020 | 0.006 |

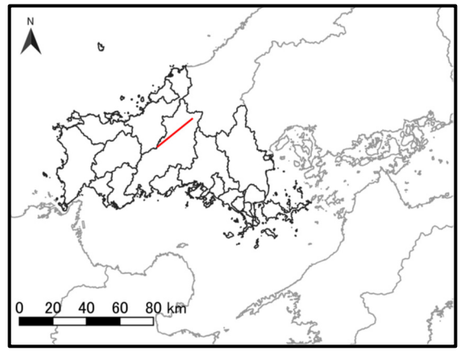
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

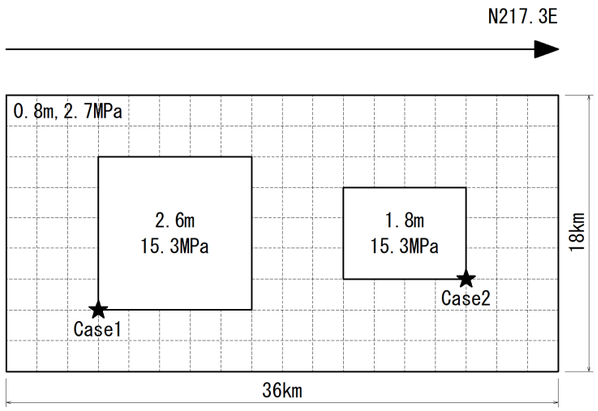
## ４．各ケースの震度分布図

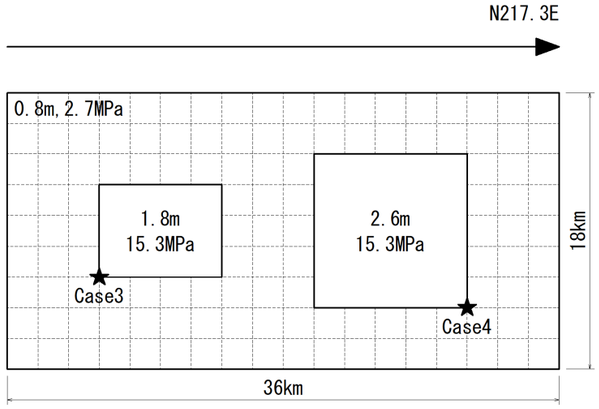


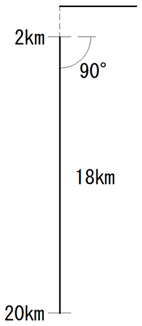



# 地震動算定ケース案【佐波川断層，Mj=7.4】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

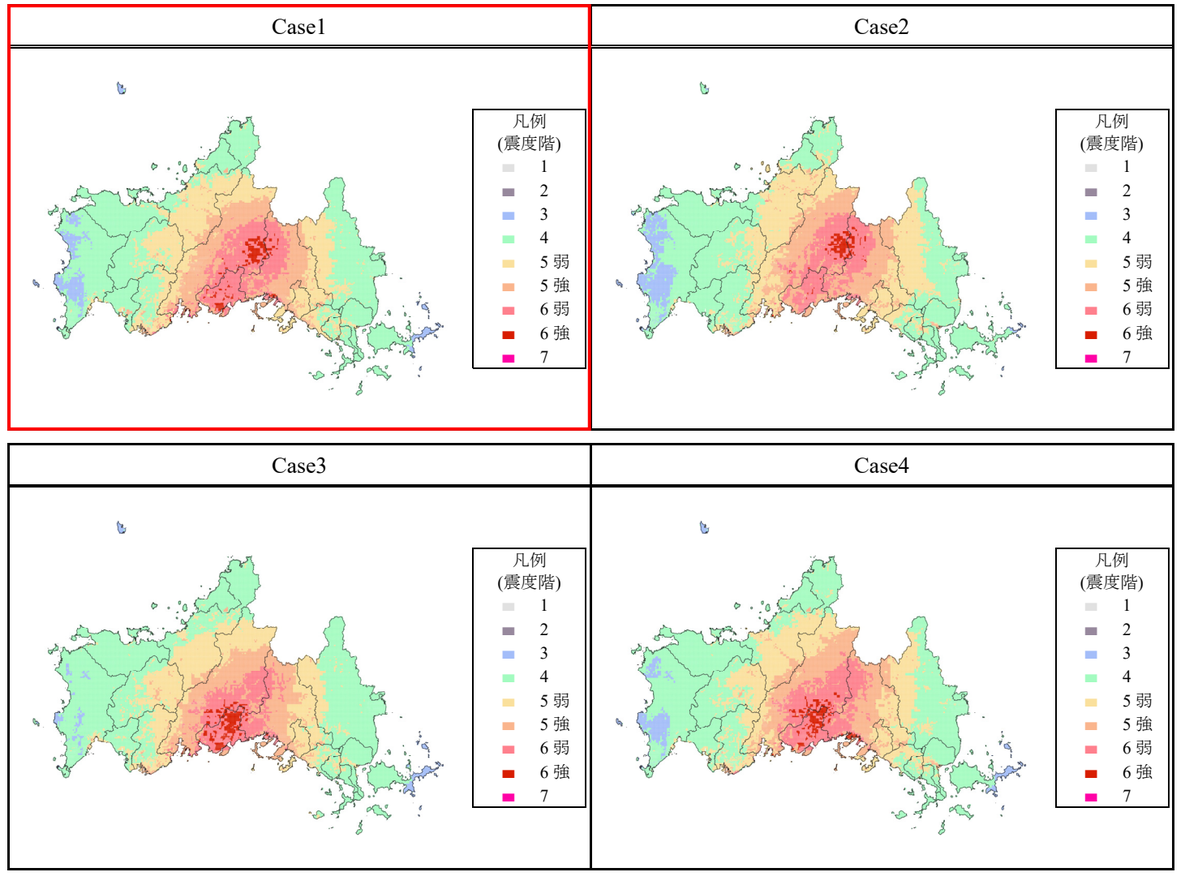
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.01 | 0.02 | 0.00 | 0.01 |
| 4 | 0.40 | 0.43 | 0.41 | 0.41 |
| 5弱 | 0.21 | 0.23 | 0.21 | 0.22 |
| 5強 | 0.246 | 0.217 | 0.206 | 0.186 |
| 6弱 | 0.108 | 0.106 | 0.130 | 0.151 |
| 6強 | 0.025 | 0.002 | 0.037 | 0.023 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.379 | 0.325 | 0.373 | 0.360 |
| 6弱以上合計 | 0.133 | 0.108 | 0.167 | 0.174 |

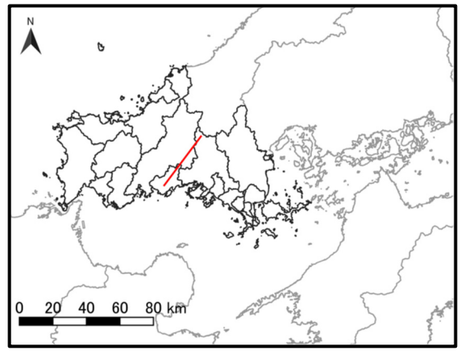
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

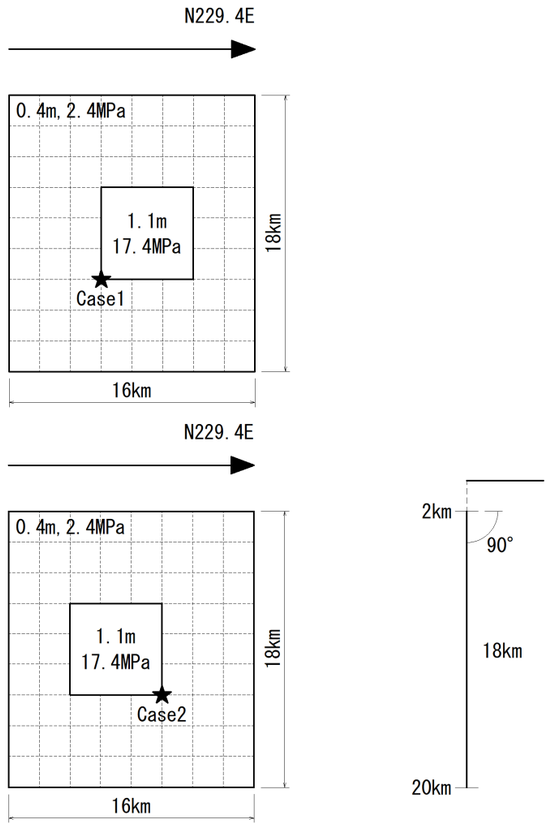
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【大河内断層，Mj=6.8】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

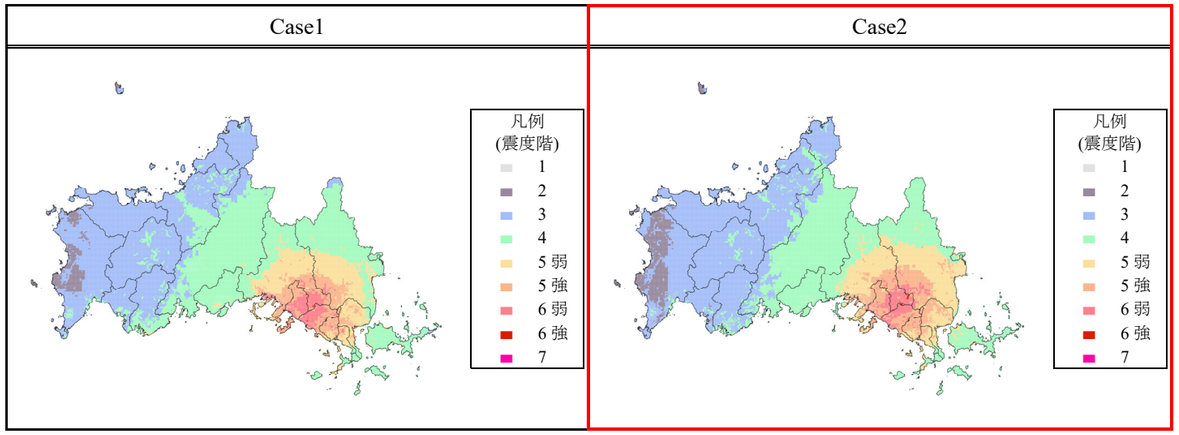
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.01 | 0.02 |
| 3 | 0.27 | 0.35 |
| 4 | 0.44 | 0.32 |
| 5弱 | 0.09 | 0.11 |
| 5強 | 0.122 | 0.138 |
| 6弱 | 0.079 | 0.064 |
| 6強 | 0.001 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.2018 | 0.2019 |
| 6弱以上合計 | 0.080 | 0.064 |

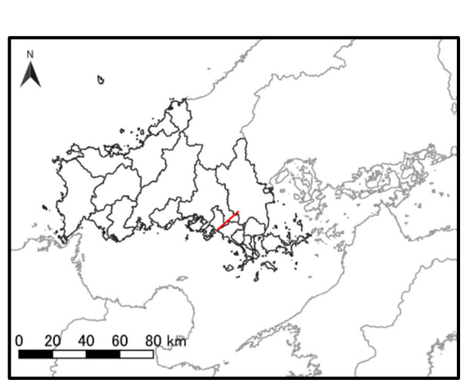
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case2」を提案する。

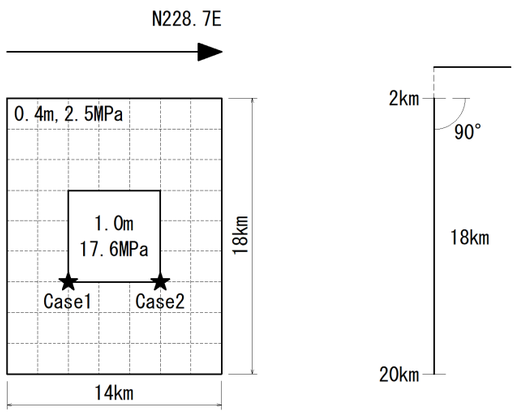
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【日積断層，Mj=6.7】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

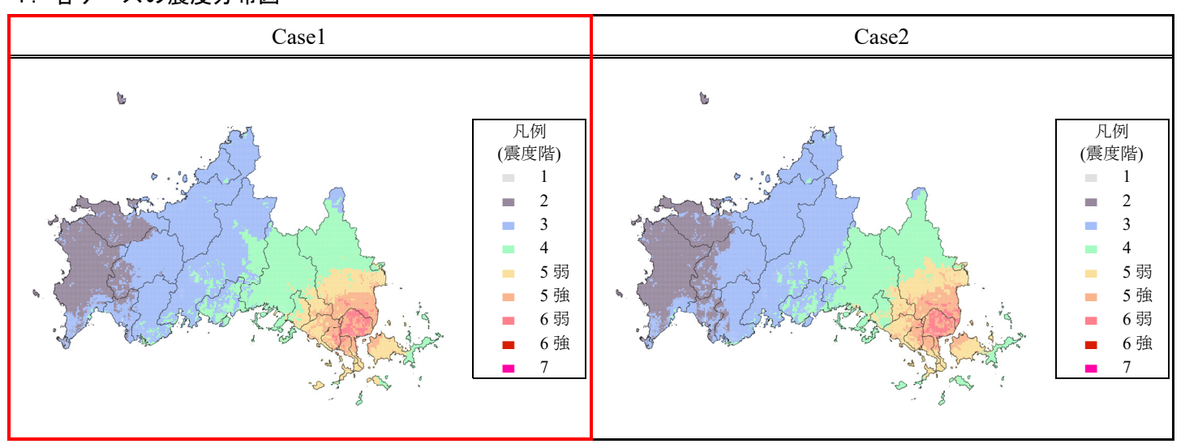
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.06 | 0.10 |
| 3 | 0.48 | 0.48 |
| 4 | 0.23 | 0.19 |
| 5弱 | 0.11 | 0.14 |
| 5強 | 0.084 | 0.072 |
| 6弱 | 0.027 | 0.023 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.111 | 0.095 |
| 6弱以上合計 | 0.027 | 0.023 |

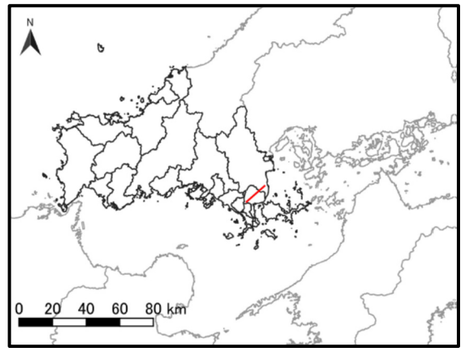
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

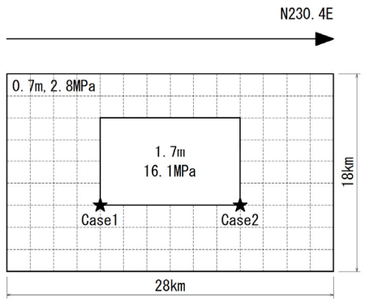
## ４．各ケースの震度分布図

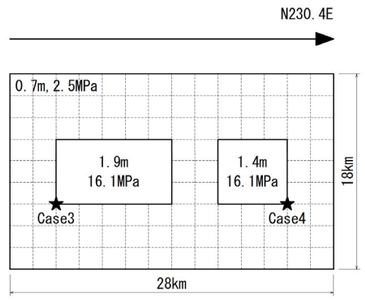


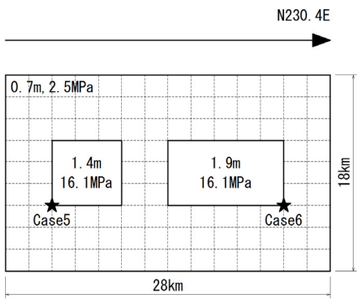



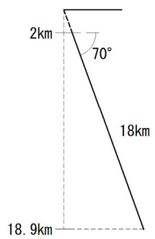
# 地震動算定ケース案【安芸灘断層帯，Mj=7.2】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

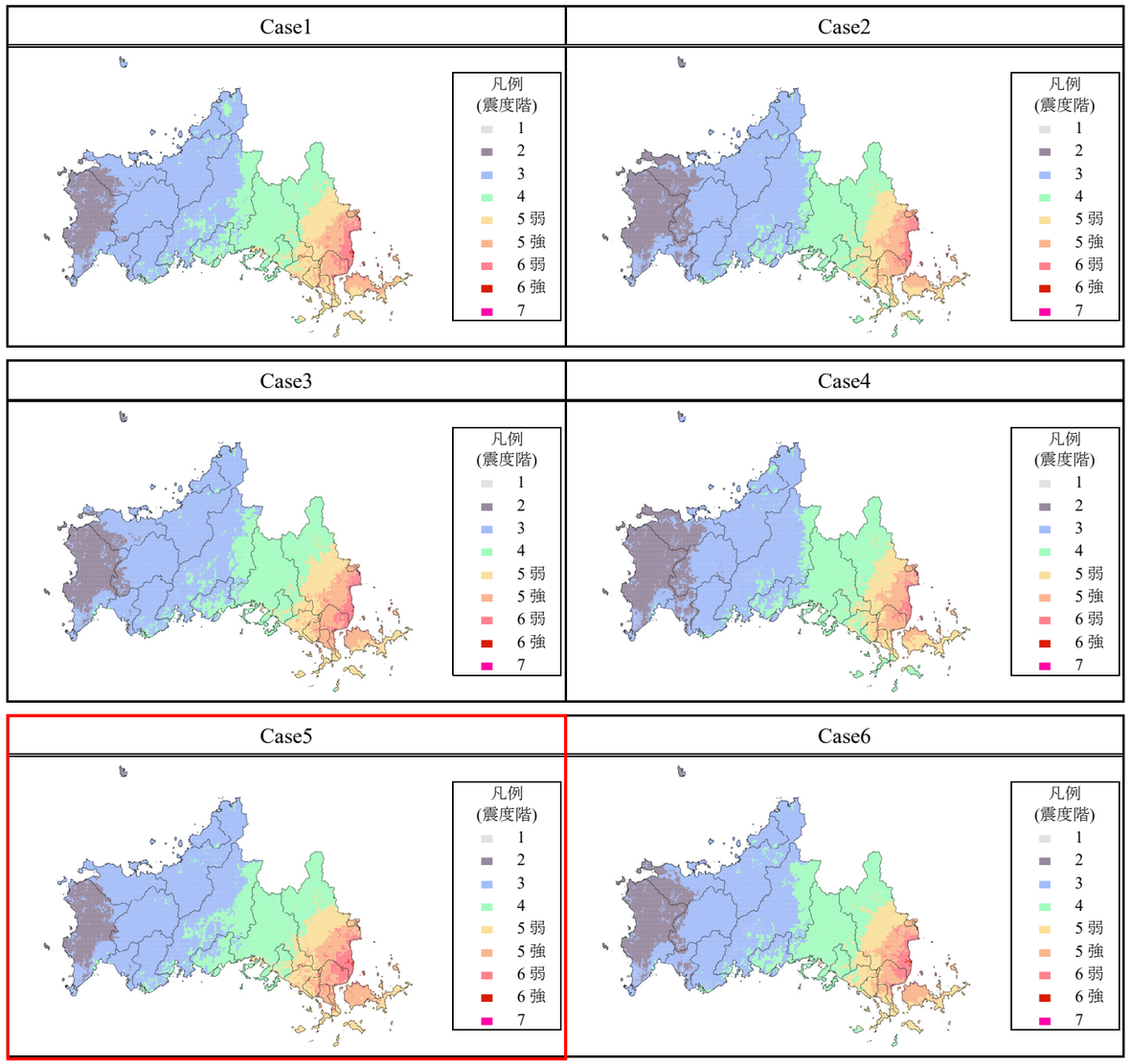
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 | Case5 | Case6 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.04 | 0.06 | 0.04 | 0.08 | 0.03 | 0.05 |
| 3 | 0.47 | 0.53 | 0.48 | 0.51 | 0.45 | 0.52 |
| 4 | 0.26 | 0.21 | 0.25 | 0.21 | 0.28 | 0.22 |
| 5弱 | 0.08 | 0.07 | 0.08 | 0.07 | 0.08 | 0.07 |
| 5強 | 0.089 | 0.069 | 0.088 | 0.090 | 0.107 | 0.096 |
| 6弱 | 0.057 | 0.058 | 0.061 | 0.036 | 0.050 | 0.041 |
| 6強 | 0.003 | 0.001 | 0.000 | 0.000 | 0.002 | 0.002 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.148 | 0.128 | 0.149 | 0.126 | 0.160 | 0.139 |
| 6弱以上合計 | 0.060 | 0.058 | 0.061 | 0.036 | 0.052 | 0.043 |

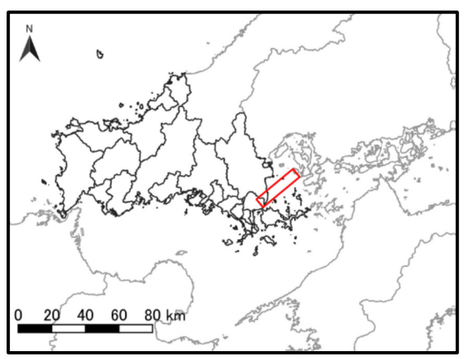
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ：震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ：震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case5」を提案する。

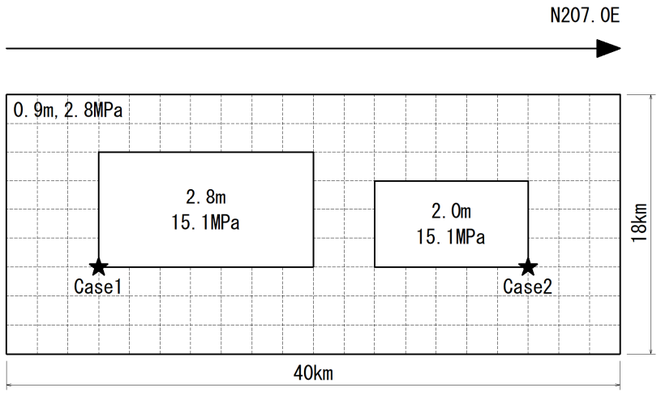
## ４．各ケースの震度分布図

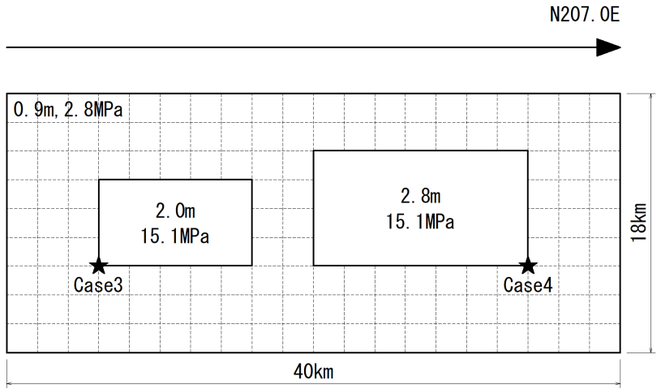


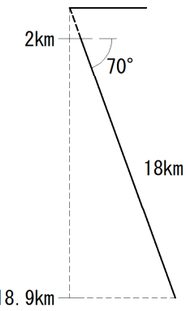



# 地震動算定ケース案【広島湾－岩国沖断層帯，Mj=7.5】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

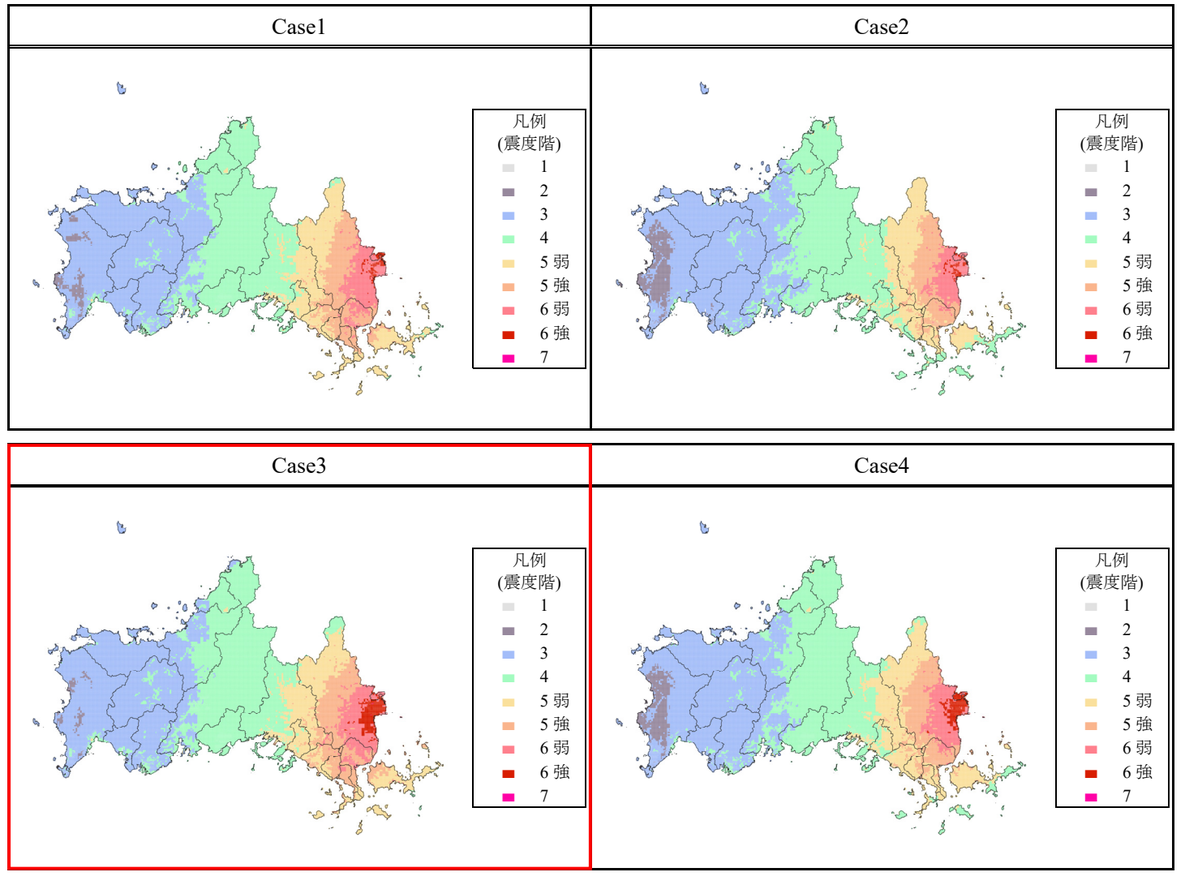
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.02 | 0.00 | 0.01 |
| 3 | 0.33 | 0.40 | 0.34 | 0.37 |
| 4 | 0.37 | 0.34 | 0.35 | 0.35 |
| 5弱 | 0.13 | 0.11 | 0.12 | 0.13 |
| 5強 | 0.065 | 0.046 | 0.077 | 0.053 |
| 6弱 | 0.069 | 0.060 | 0.047 | 0.028 |
| 6強 | 0.037 | 0.028 | 0.065 | 0.064 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.171 | 0.134 | 0.189 | 0.146 |
| 6弱以上合計 | 0.106 | 0.088 | 0.113 | 0.093 |

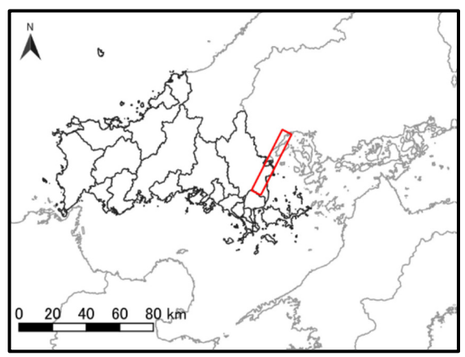
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

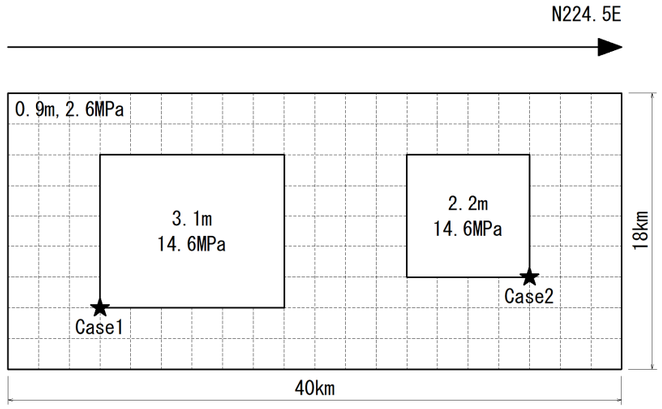
## 4．各ケースの震度分布図

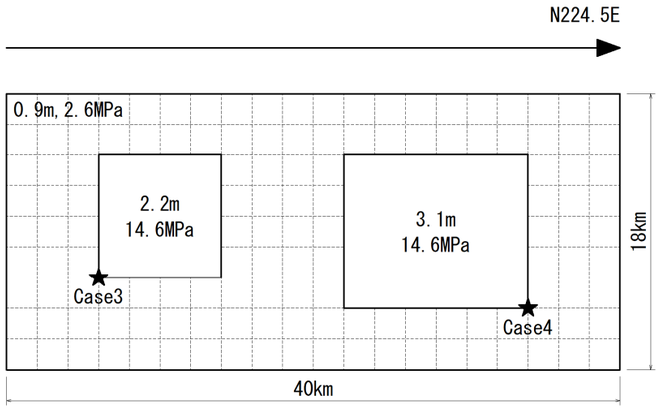


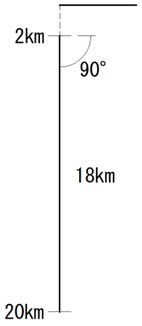



# 地震動算定ケース案【弥栄断層，Mj=7.5】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

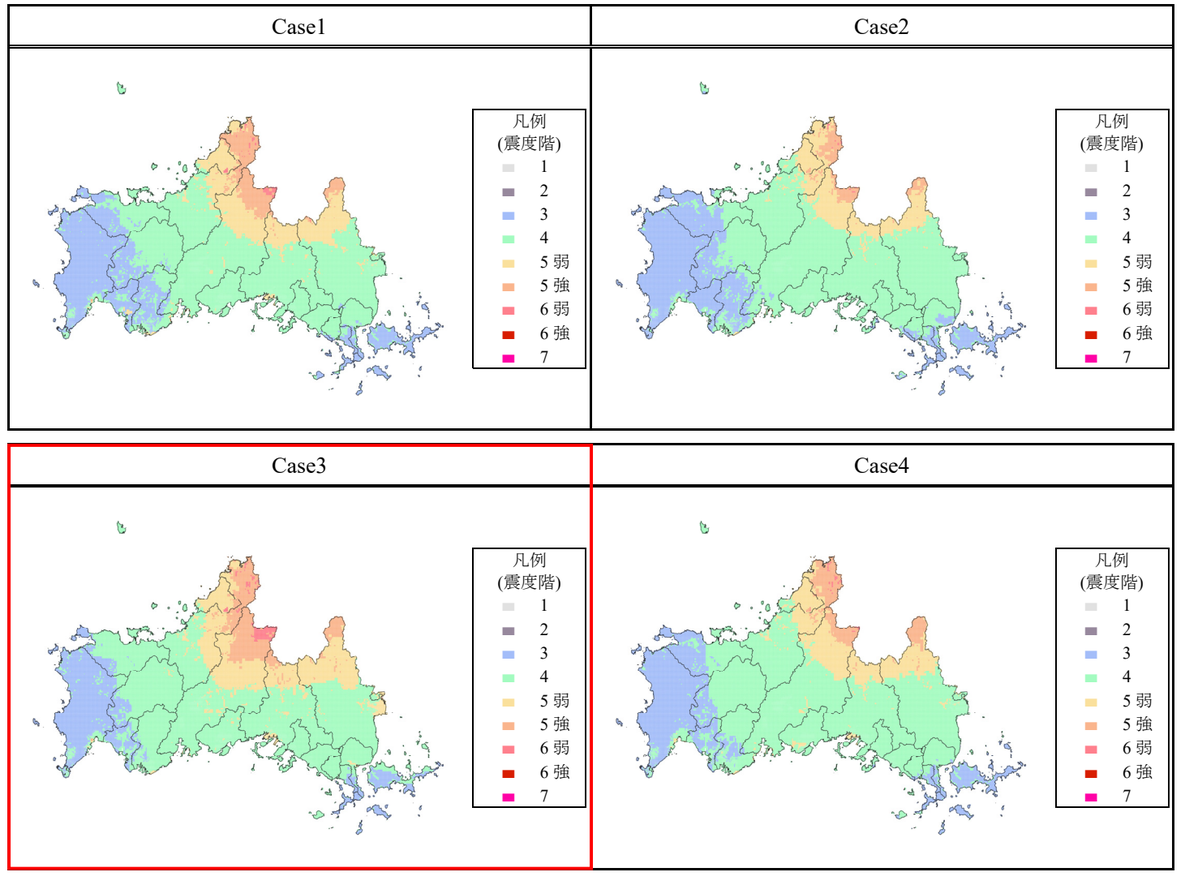
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.21 | 0.26 | 0.15 | 0.16 |
| 4 | 0.74 | 0.72 | 0.76 | 0.79 |
| 5弱 | 0.04 | 0.01 | 0.08 | 0.05 |
| 5強 | 0.005 | 0.004 | 0.007 | 0.005 |
| 6弱 | 0.001 | 0.000 | 0.002 | 0.001 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.007 | 0.004 | 0.009 | 0.006 |
| 6弱以上合計 | 0.001 | 0.000 | 0.002 | 0.001 |

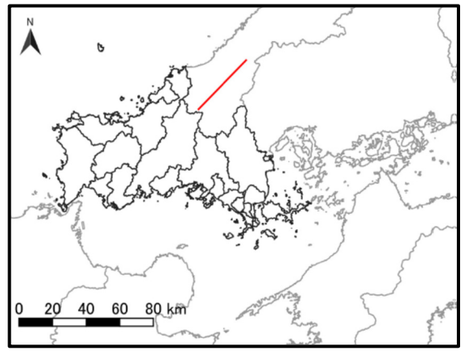
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

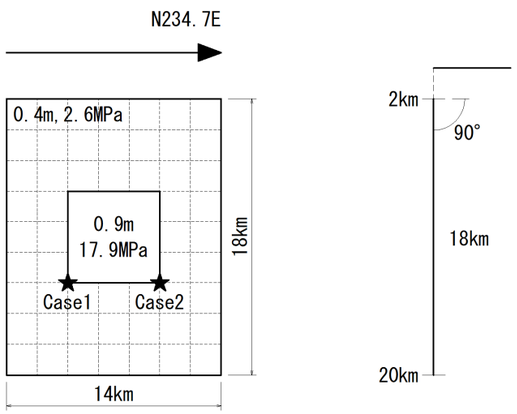
## 4．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【奈古断層，Mj=6.7】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

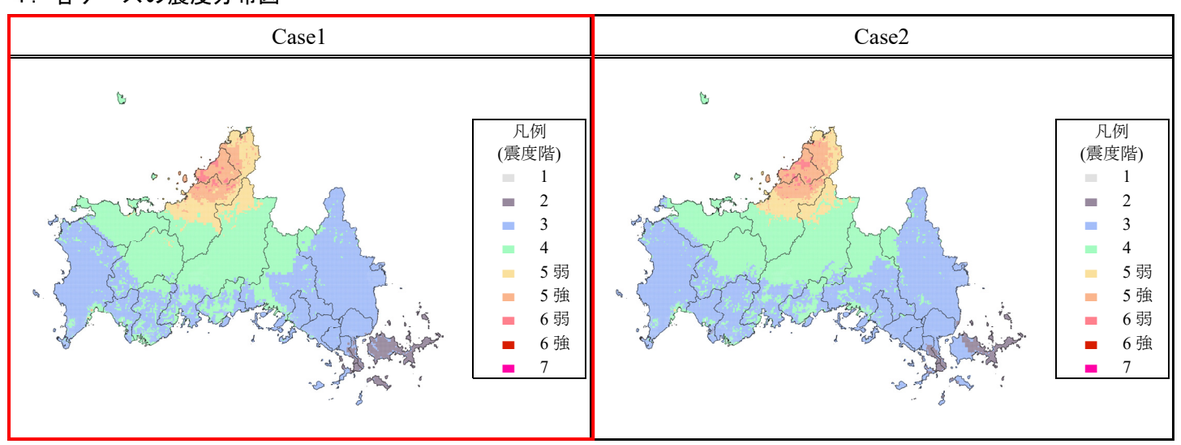
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.01 | 0.01 |
| 3 | 0.54 | 0.61 |
| 4 | 0.41 | 0.35 |
| 5弱 | 0.02 | 0.02 |
| 5強 | 0.012 | 0.011 |
| 6弱 | 0.002 | 0.001 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.014 | 0.013 |
| 6弱以上合計 | 0.002 | 0.002 |

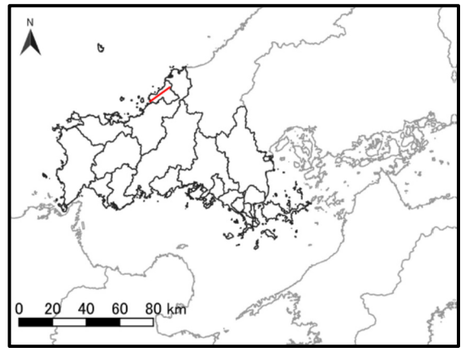
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

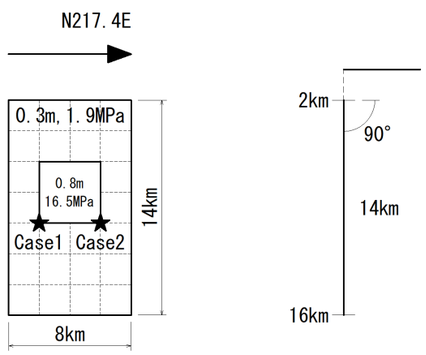
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【栄谷断層，Mj=6.3】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

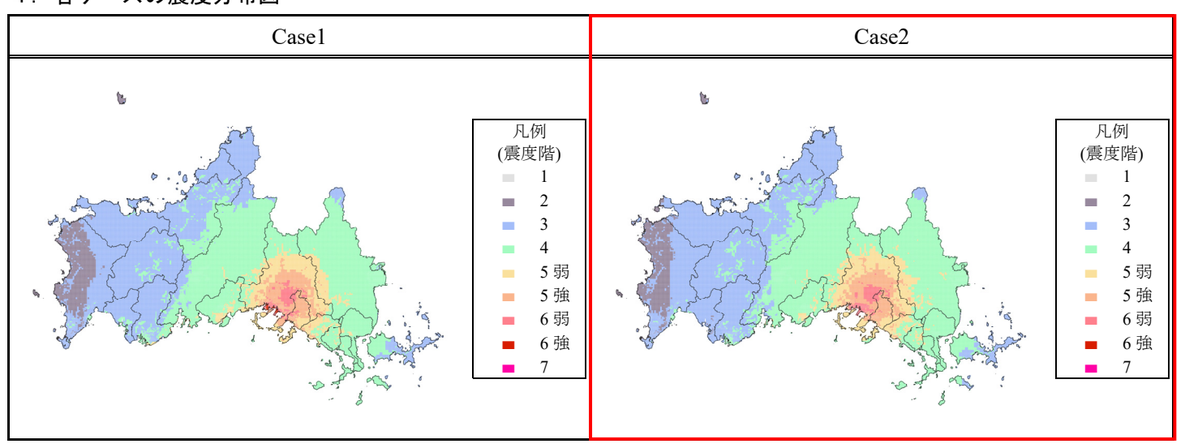
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.02 | 0.02 |
| 3 | 0.32 | 0.36 |
| 4 | 0.44 | 0.42 |
| 5弱 | 0.08 | 0.07 |
| 5強 | 0.089 | 0.083 |
| 6弱 | 0.046 | 0.053 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.1357 | 0.1361 |
| 6弱以上合計 | 0.046 | 0.053 |

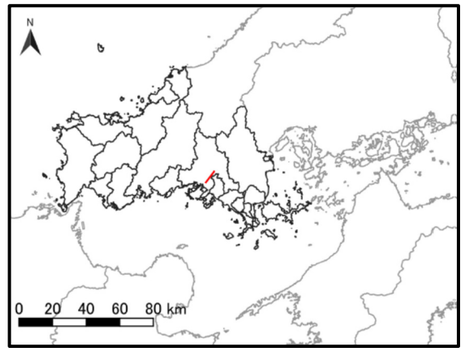
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case2」を提案する。

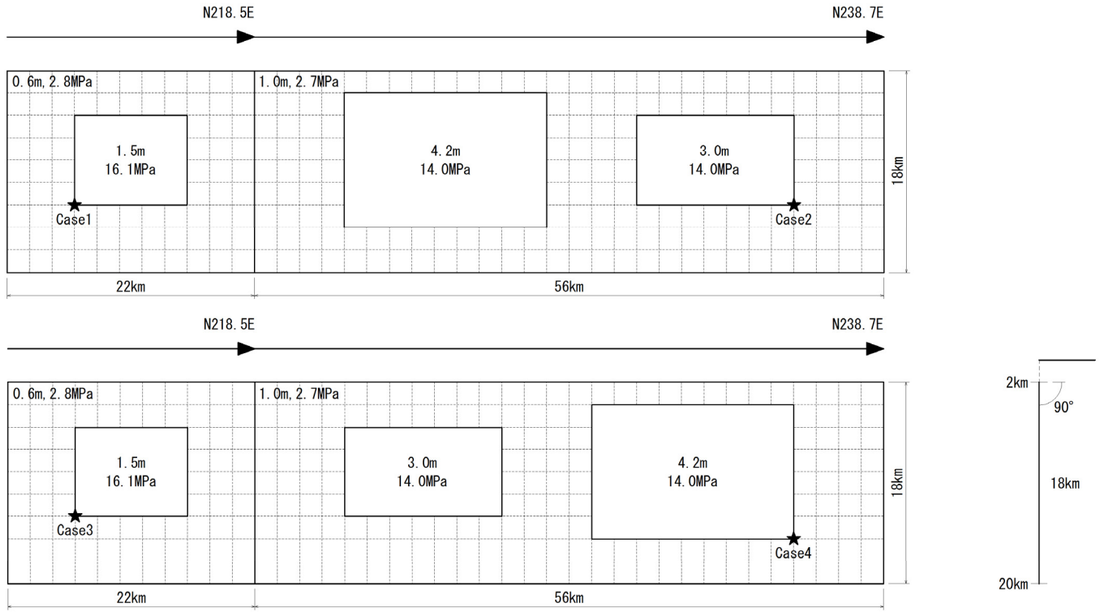
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【防予諸島沖の海底活断層（2 分割），Mj=8.0】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点







## ２．震度階ごとの曝露人口比率

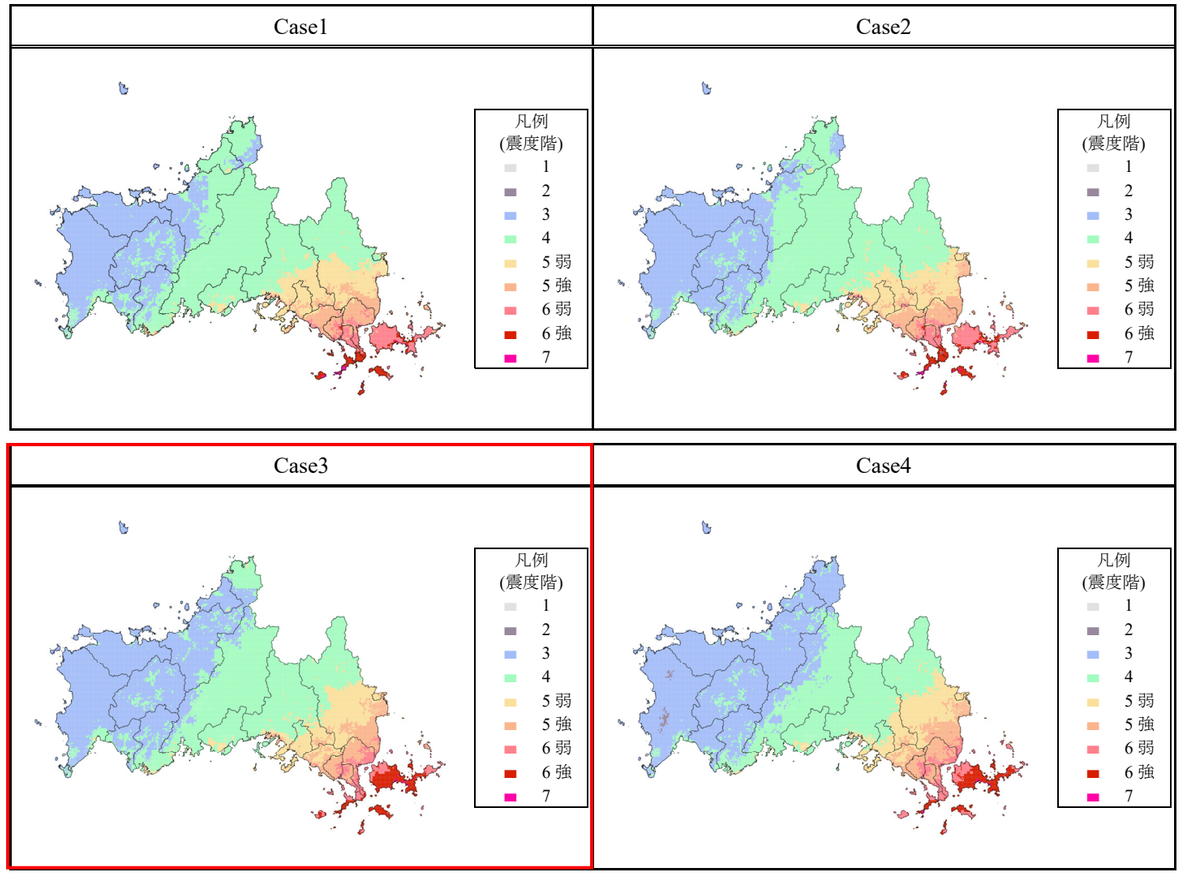
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.15 | 0.21 | 0.19 | 0.27 |
| 4 | 0.50 | 0.45 | 0.47 | 0.43 |
| 5弱 | 0.17 | 0.16 | 0.15 | 0.13 |
| 5強 | 0.115 | 0.132 | 0.142 | 0.117 |
| 6弱 | 0.047 | 0.043 | 0.039 | 0.042 |
| 6強 | 0.007 | 0.006 | 0.007 | 0.008 |
| 7 | 0.001 | 0.001 | 0.002 | 0.001 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.170 | 0.182 | 0.189 | 0.168 |
| 6弱以上合計 | 0.055 | 0.050 | 0.047 | 0.051 |

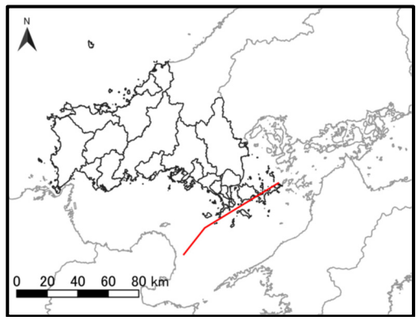
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

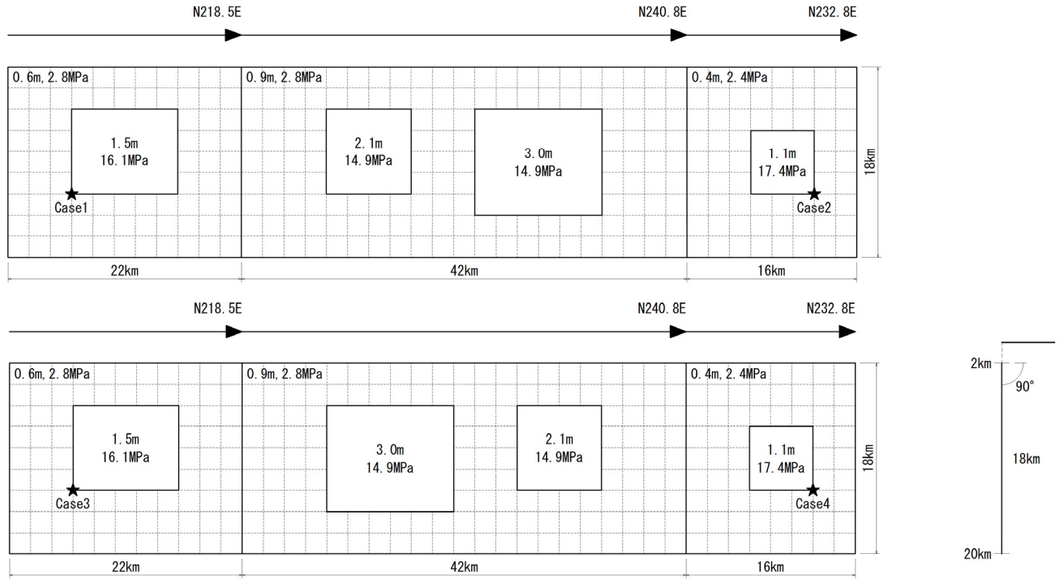
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【防予諸島沖の海底活断層（3 分割），Mj=8.0】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

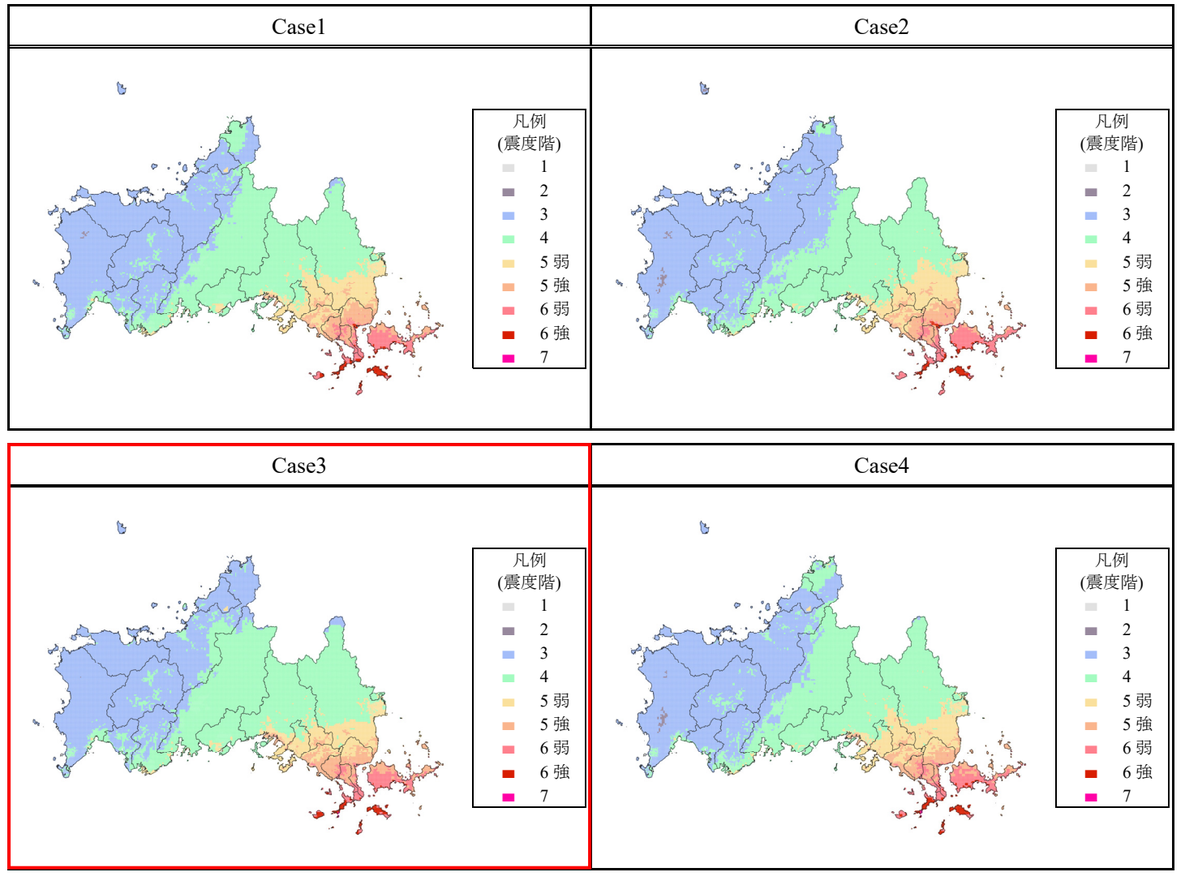
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.23 | 0.29 | 0.20 | 0.26 |
| 4 | 0.48 | 0.43 | 0.48 | 0.44 |
| 5弱 | 0.19 | 0.18 | 0.20 | 0.19 |
| 5強 | 0.070 | 0.068 | 0.091 | 0.075 |
| 6弱 | 0.031 | 0.027 | 0.022 | 0.026 |
| 6強 | 0.003 | 0.005 | 0.002 | 0.002 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.103 | 0.099 | 0.115 | 0.103 |
| 6弱以上合計 | 0.034 | 0.032 | 0.023 | 0.028 |

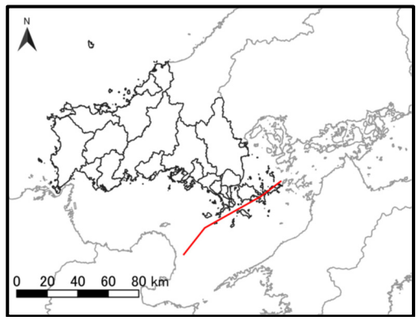
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

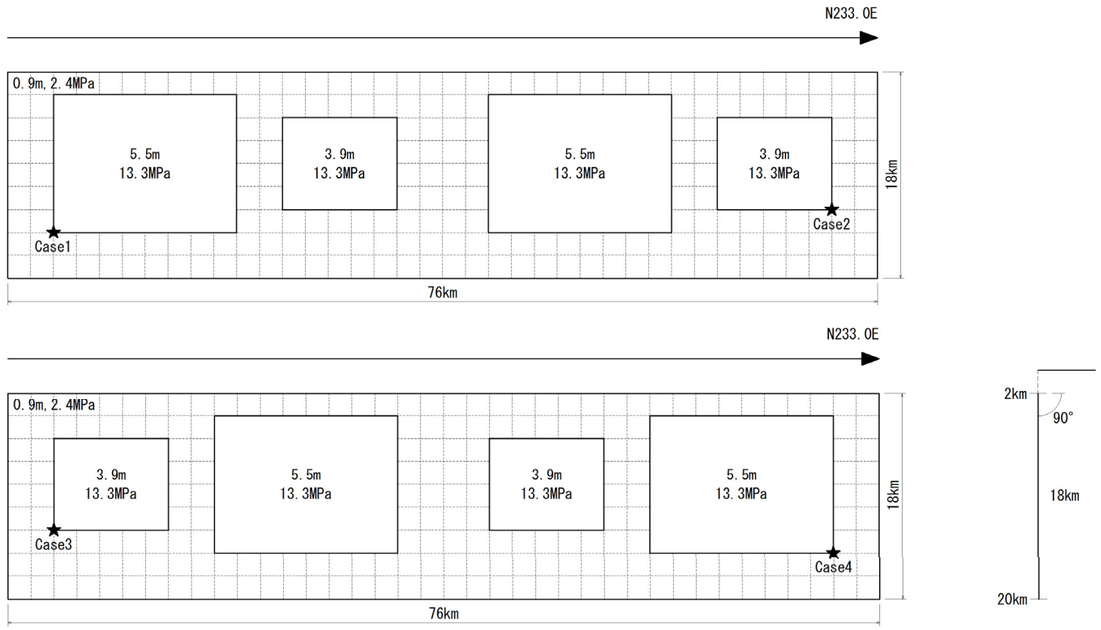
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【防予諸島沖の海底活断層（76km），Mj=7.9】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点







## ２．震度階ごとの曝露人口比率

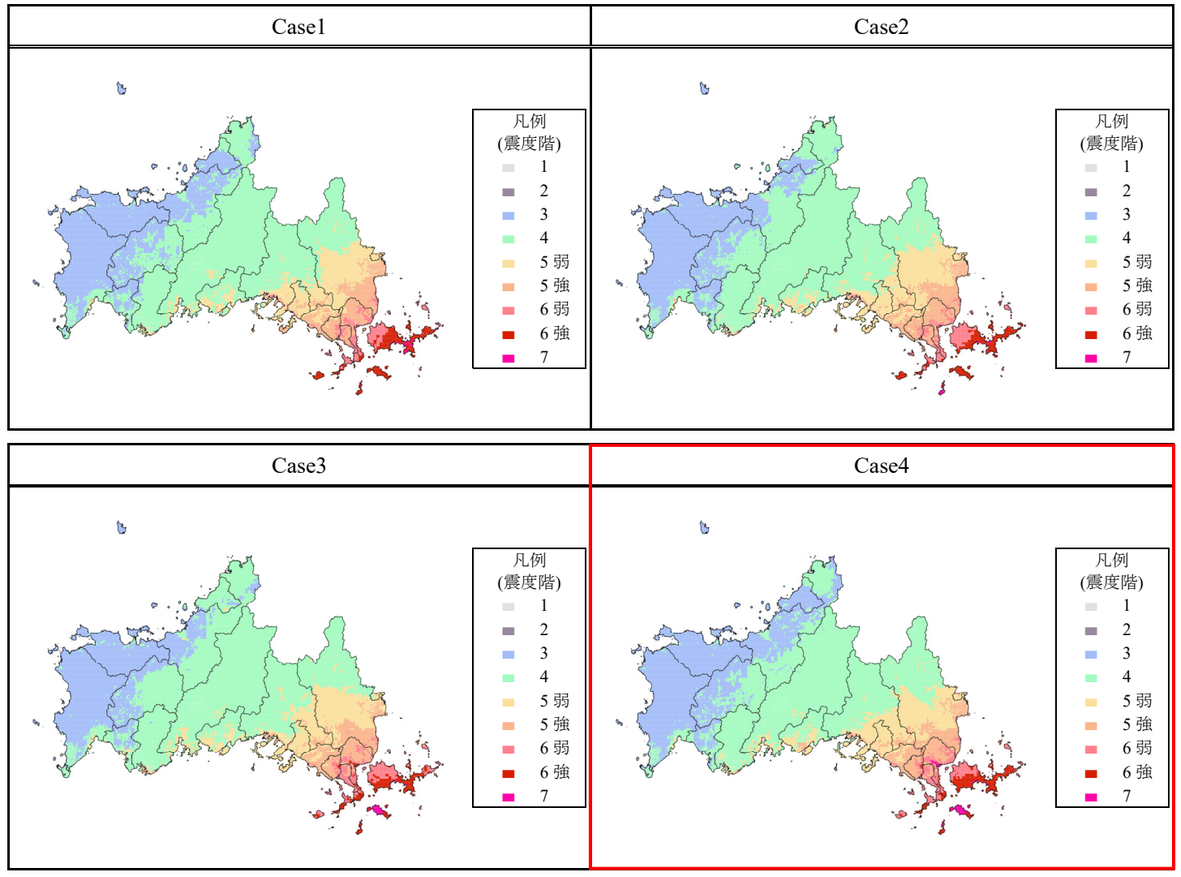
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.11 | 0.13 | 0.08 | 0.12 |
| 4 | 0.50 | 0.49 | 0.53 | 0.48 |
| 5弱 | 0.17 | 0.19 | 0.22 | 0.18 |
| 5強 | 0.168 | 0.155 | 0.122 | 0.164 |
| 6弱 | 0.039 | 0.036 | 0.040 | 0.041 |
| 6強 | 0.006 | 0.005 | 0.009 | 0.008 |
| 7 | 0.002 | 0.001 | 0.001 | 0.004 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.214 | 0.198 | 0.173 | 0.218 |
| 6弱以上合計 | 0.046 | 0.043 | 0.051 | 0.053 |

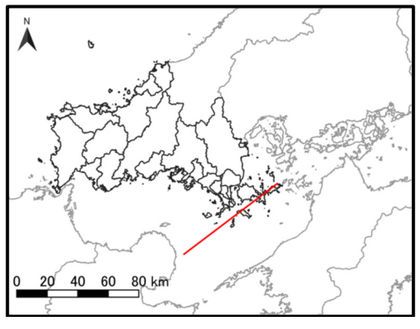
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case4」を提案する。

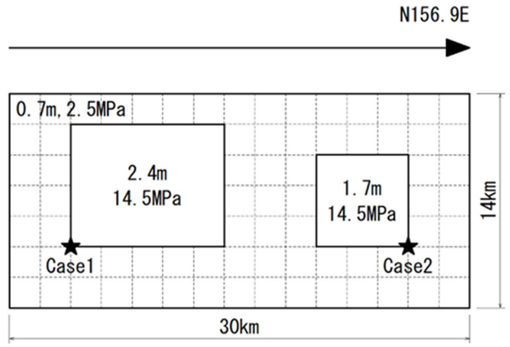
## ４．各ケースの震度分布図

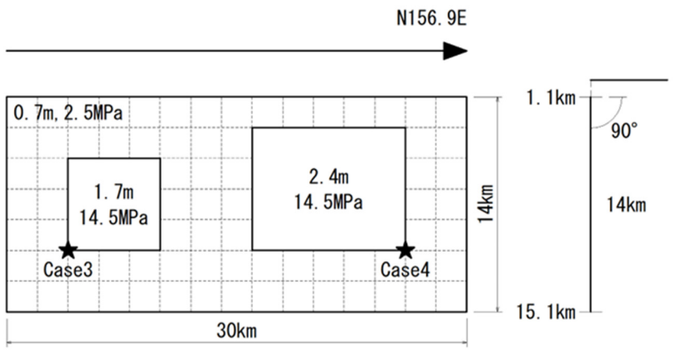


# 地震動算定ケース案【見島西縁断層，Mj=7.2】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

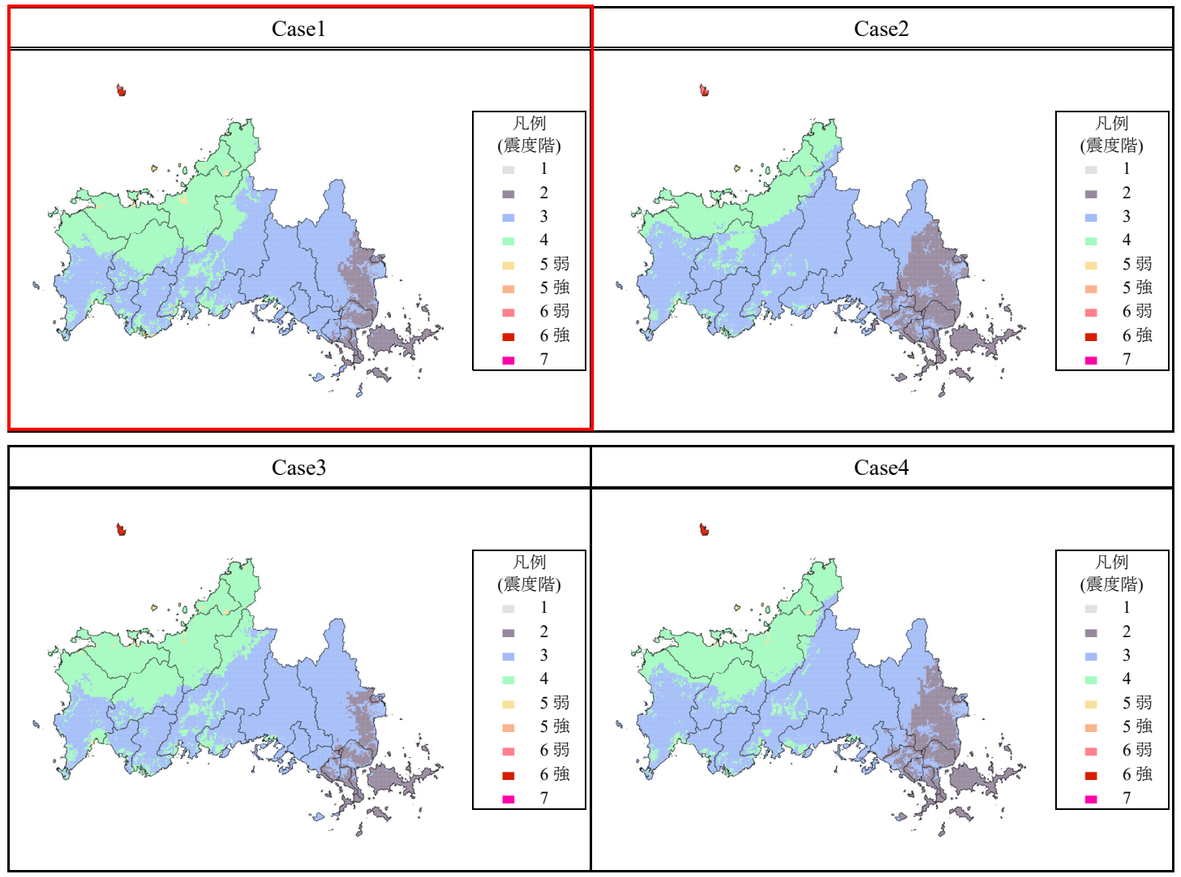
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.04 | 0.07 | 0.03 | 0.05 |
| 3 | 0.62 | 0.73 | 0.64 | 0.70 |
| 4 | 0.32 | 0.19 | 0.32 | 0.24 |
| 5弱 | 0.02 | 0.00 | 0.01 | 0.01 |
| 5強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6弱 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.001 | 0.001 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5弱以上合計 | 0.021 | 0.003 | 0.013 | 0.009 |
| 6弱以上合計 | 0.00051 | 0.00052 | 0.00051 | 0.00051 |

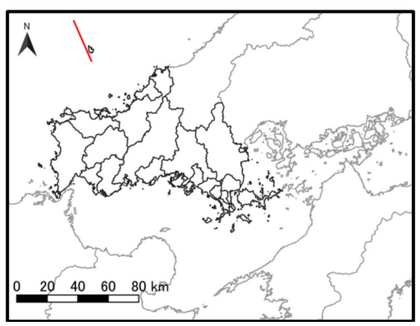
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■：震度5弱以上の曝露人口比率が最大となるケース(5強以上は同値となるため)
※ ■：震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

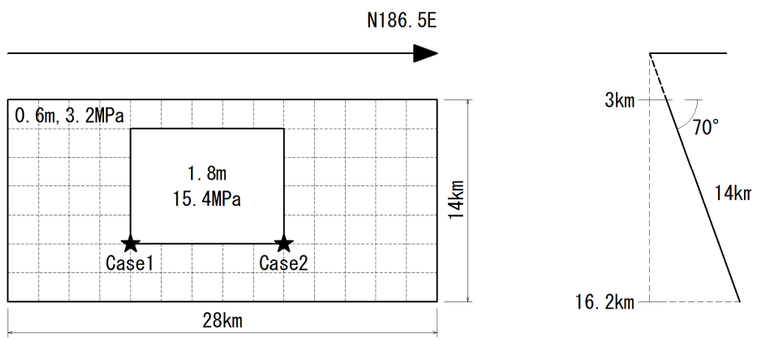
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【小倉東断層，Mj=7.1】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

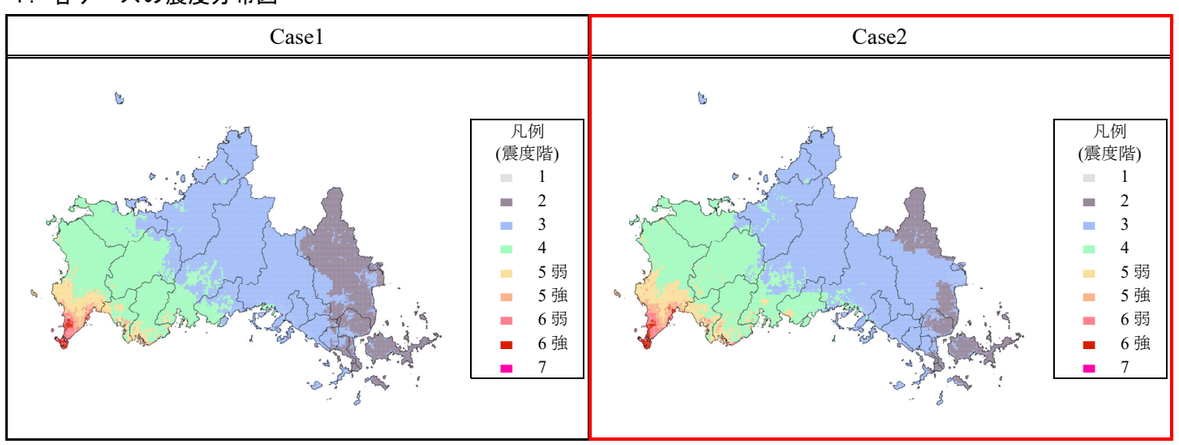
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.06 | 0.02 |
| 3 | 0.37 | 0.36 |
| 4 | 0.32 | 0.33 |
| 5弱 | 0.09 | 0.10 |
| 5強 | 0.054 | 0.069 |
| 6弱 | 0.065 | 0.067 |
| 6強 | 0.045 | 0.051 |
| 7 | 0.001 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.165 | 0.188 |
| 6弱以上合計 | 0.112 | 0.119 |

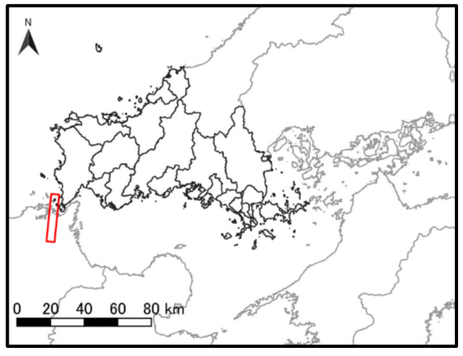
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case2」を提案する。

## ４．各ケースの震度分布図

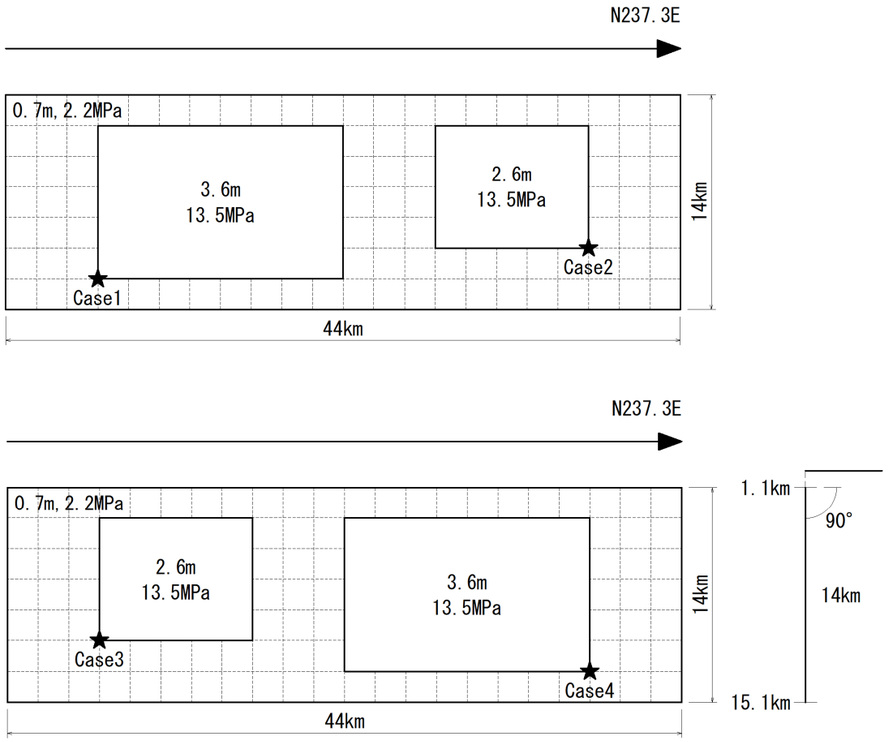


# 地震動算定結果（日本海側海底活断層）

# 地震動算定ケース案【見島付近西部断層，Mj=7.5】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

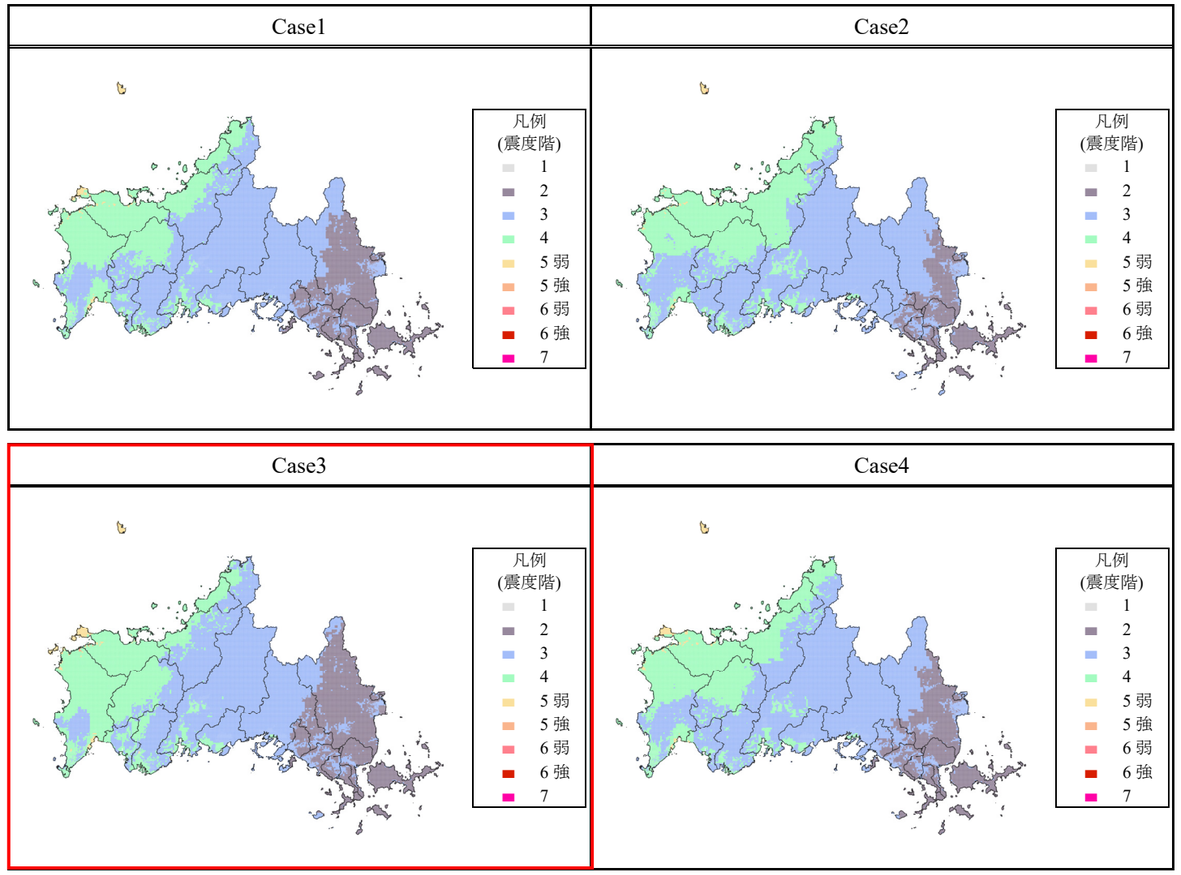
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.10 | 0.04 | 0.09 | 0.06 |
| 3 | 0.57 | 0.59 | 0.50 | 0.59 |
| 4 | 0.33 | 0.36 | 0.40 | 0.34 |
| 5弱 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.01 |
| 5強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6弱 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.000 | 0.000 | 0.0004 | 0.000 |
| 6弱以上合計 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |

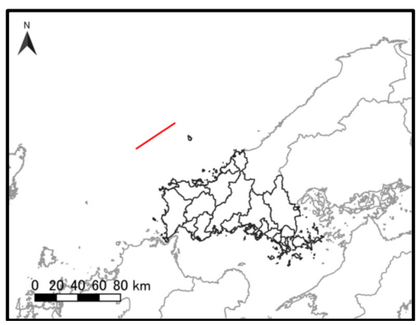
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上での曝露人口比率は全ケースで0.000となる

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case3」を提案する。

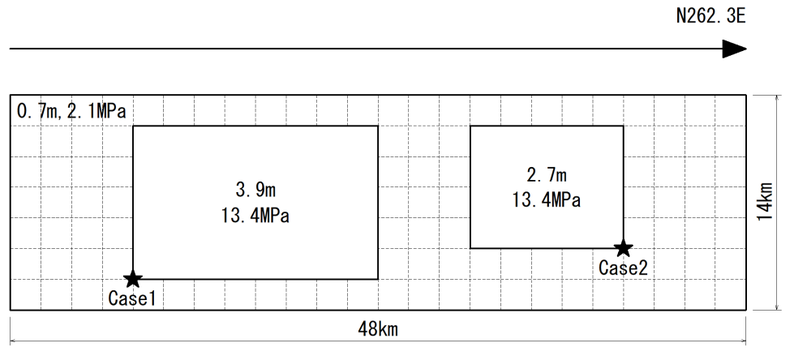
## 4．各ケースの震度分布図

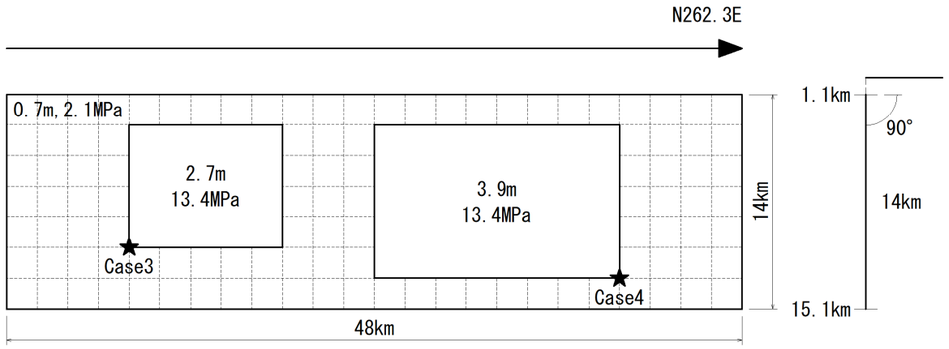


# 地震動算定ケース案【対馬海盆南方断層，Mj=7.6】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

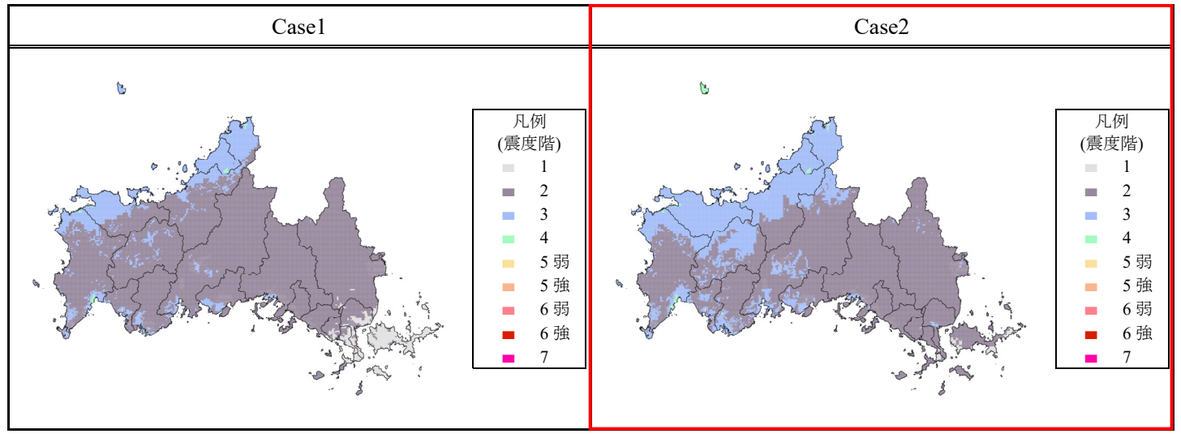
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.01 | 0.00 | 0.01 | 0.01 |
| 2 | 0.76 | 0.64 | 0.67 | 0.75 |
| 3 | 0.22 | 0.35 | 0.32 | 0.24 |
| 4 | 0.00 | 0.01 | 0.00 | 0.00 |
| 5弱 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 5強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6弱 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 4以上合計 | 0.004 | 0.007 | 0.0047 | 0.004 |
| 6弱以上合計 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |

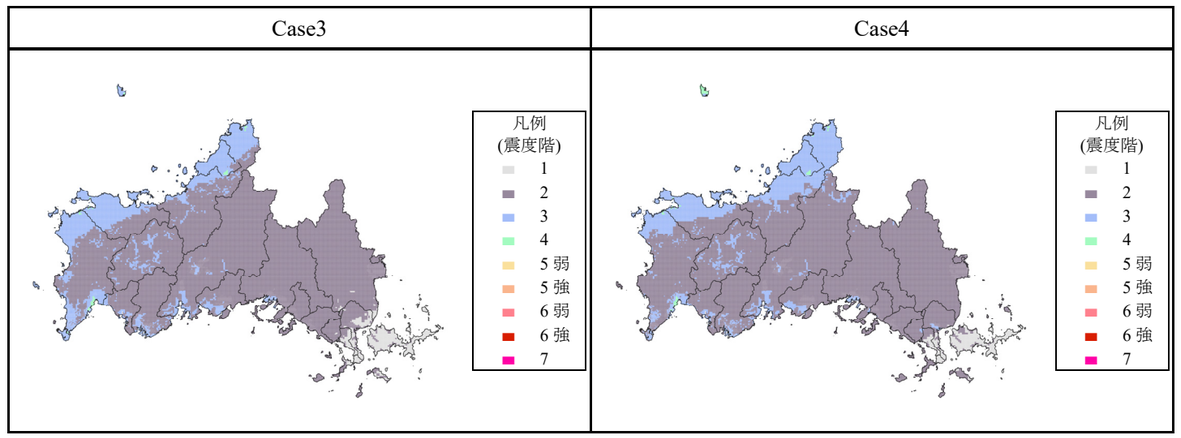
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ：震度4以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ：震度6弱以上での曝露人口比率は全ケースで0.000となる

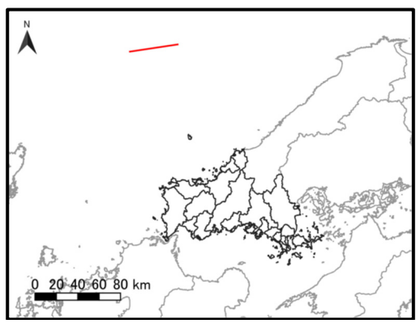
## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、最大震度となる震度 4 以上の暴露人口比率が高い「Case2」を提案する。

## 4．各ケースの震度分布図

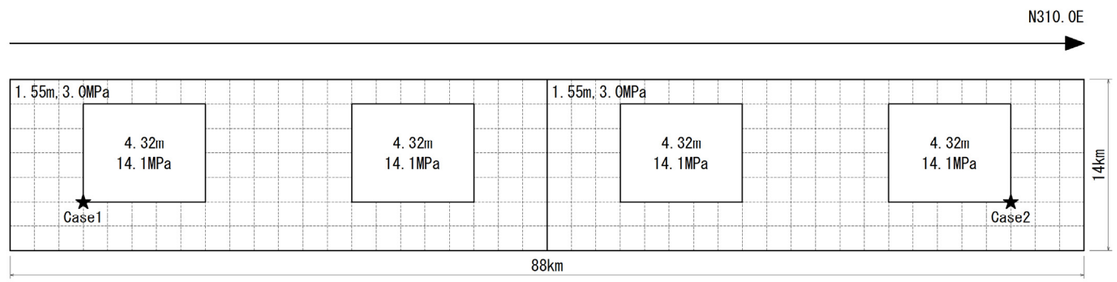


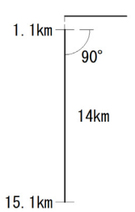



# 地震動算定ケース案【F59 断層，Mj=8.1】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

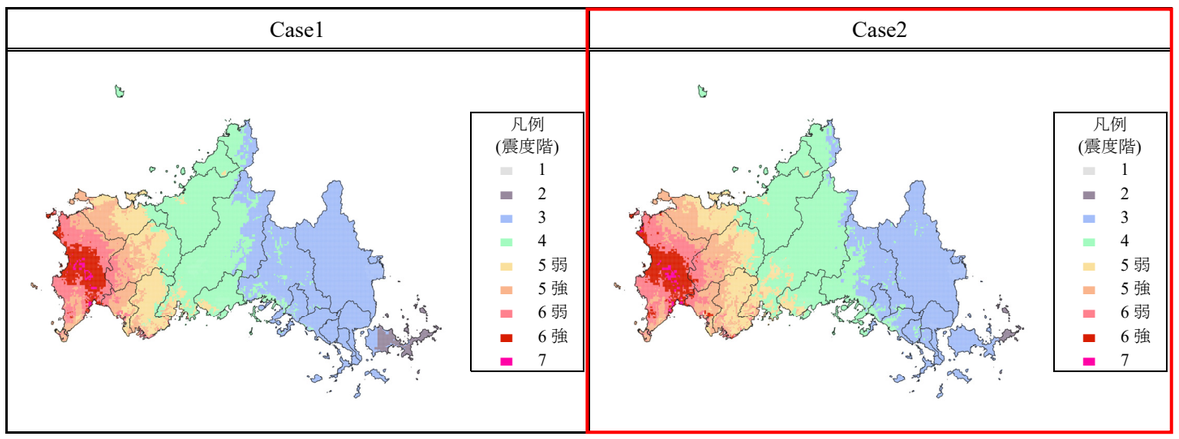
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.27 | 0.20 |
| 4 | 0.29 | 0.29 |
| 5弱 | 0.14 | 0.18 |
| 5強 | 0.148 | 0.160 |
| 6弱 | 0.099 | 0.110 |
| 6強 | 0.036 | 0.054 |
| 7 | 0.002 | 0.005 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.285 | 0.330 |
| 6弱以上合計 | 0.137 | 0.170 |

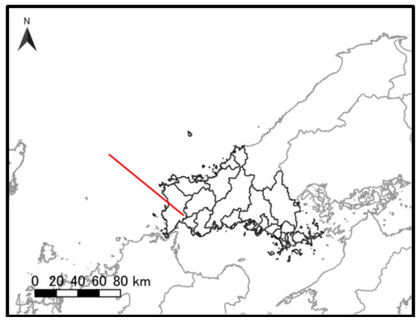
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case2」を提案する。

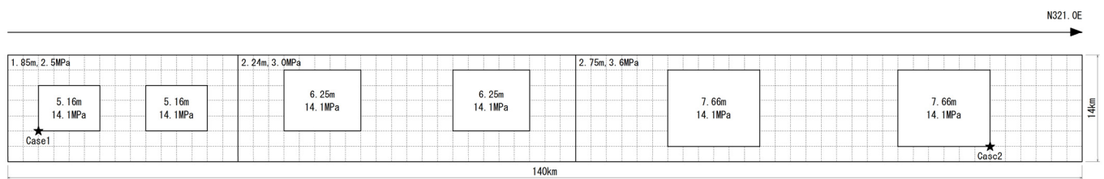
## ４．各ケースの震度分布図

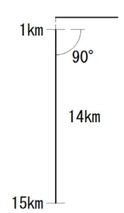


# 地震動算定ケース案【F60 断層，Mj=8.4】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

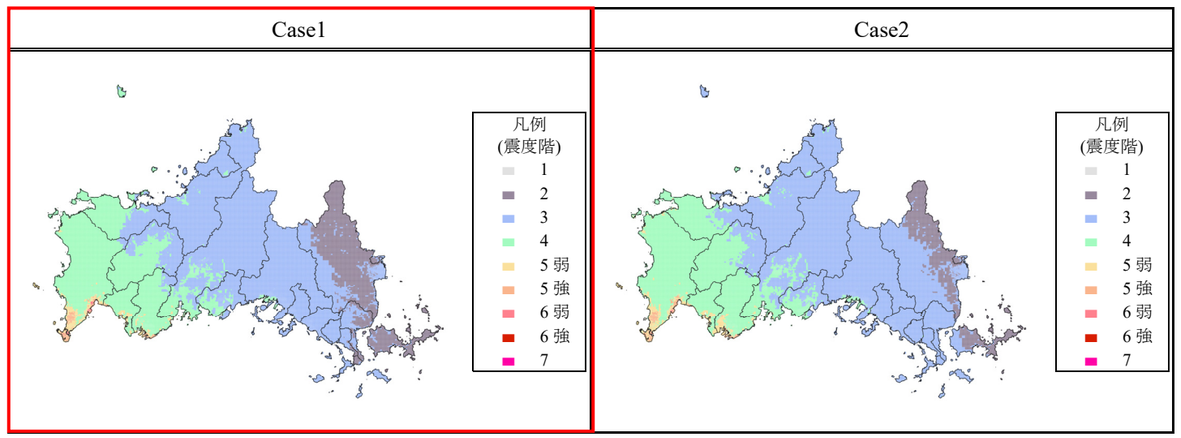
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | |
|---|---|---|
| | Case1 | Case2 |
| 0 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.03 | 0.02 |
| 3 | 0.44 | 0.40 |
| 4 | 0.36 | 0.40 |
| 5弱 | 0.11 | 0.12 |
| 5強 | 0.056 | 0.055 |
| 6弱 | 0.002 | 0.001 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.059 | 0.055 |
| 6弱以上合計 | 0.002 | 0.001 |

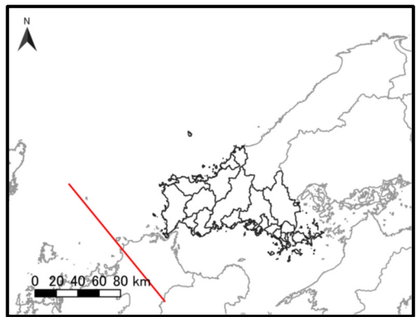
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

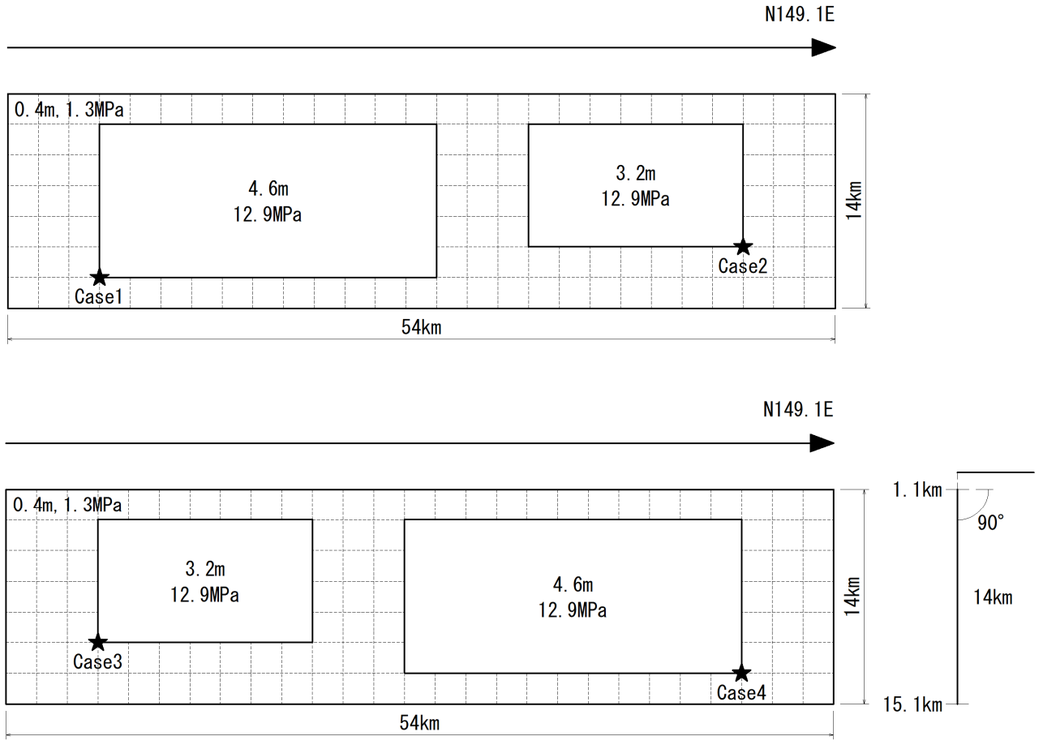
## ４．各ケースの震度分布図



# 地震動算定ケース案【F58 断層，Mj=7.7】

## １．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## ２．震度階ごとの曝露人口比率

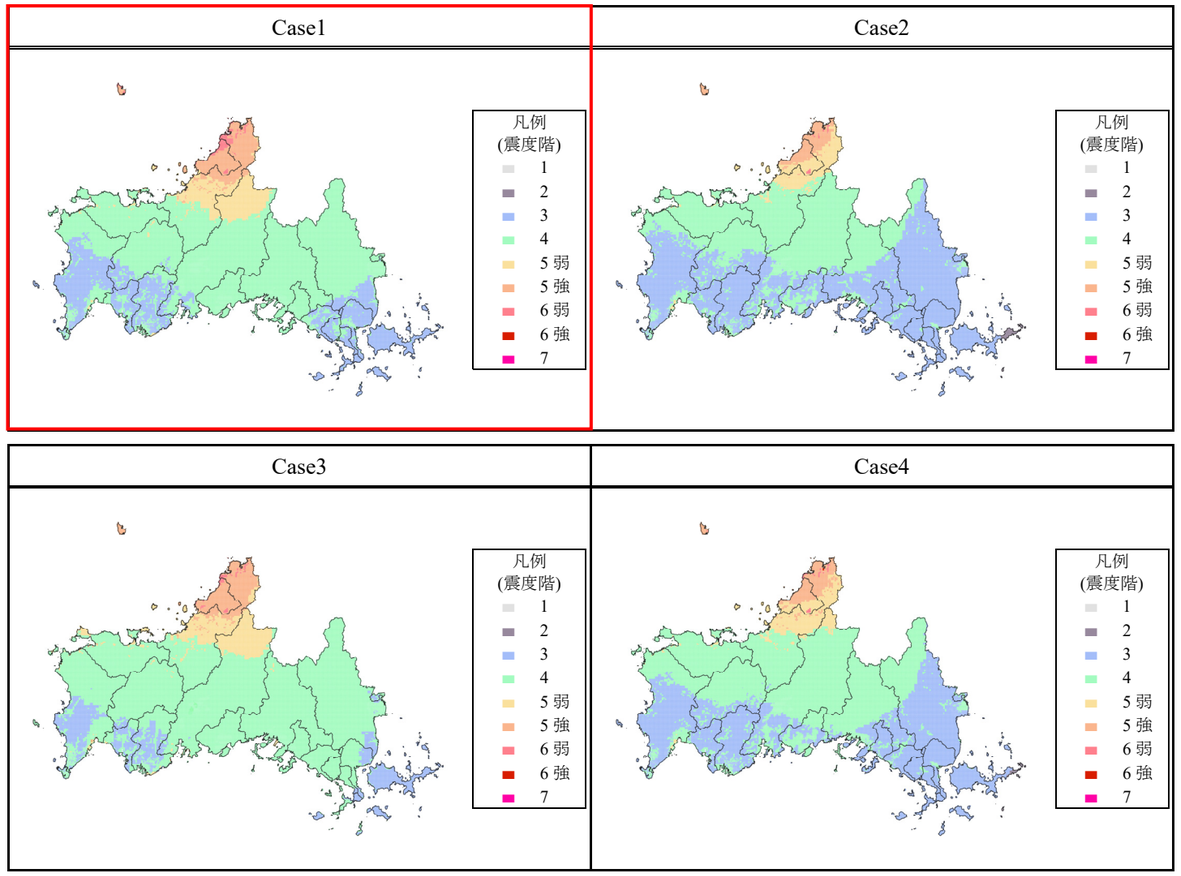
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 3 | 0.21 | 0.53 | 0.11 | 0.43 |
| 4 | 0.75 | 0.44 | 0.83 | 0.54 |
| 5弱 | 0.03 | 0.02 | 0.04 | 0.02 |
| 5強 | 0.010 | 0.003 | 0.009 | 0.005 |
| 6弱 | 0.002 | 0.001 | 0.002 | 0.001 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5強以上合計 | 0.012 | 0.004 | 0.0106 | 0.006 |
| 6弱以上合計 | 0.002 | 0.001 | 0.002 | 0.001 |

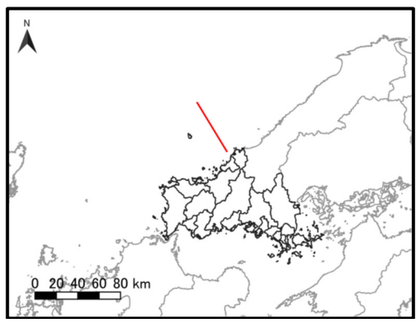
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■:震度5強以上の曝露人口比率が最大となるケース
※ ■:震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## ３．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

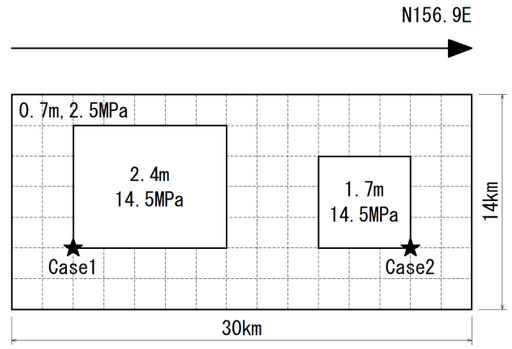
## ４．各ケースの震度分布図

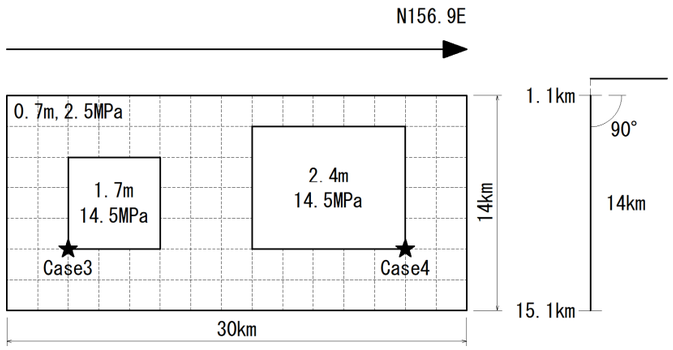


# 地震動算定ケース案【見島西縁断層，Mj=7.2】

## 1．各ケースのアスペリティの配置及び破壊開始点




## 2．震度階ごとの曝露人口比率

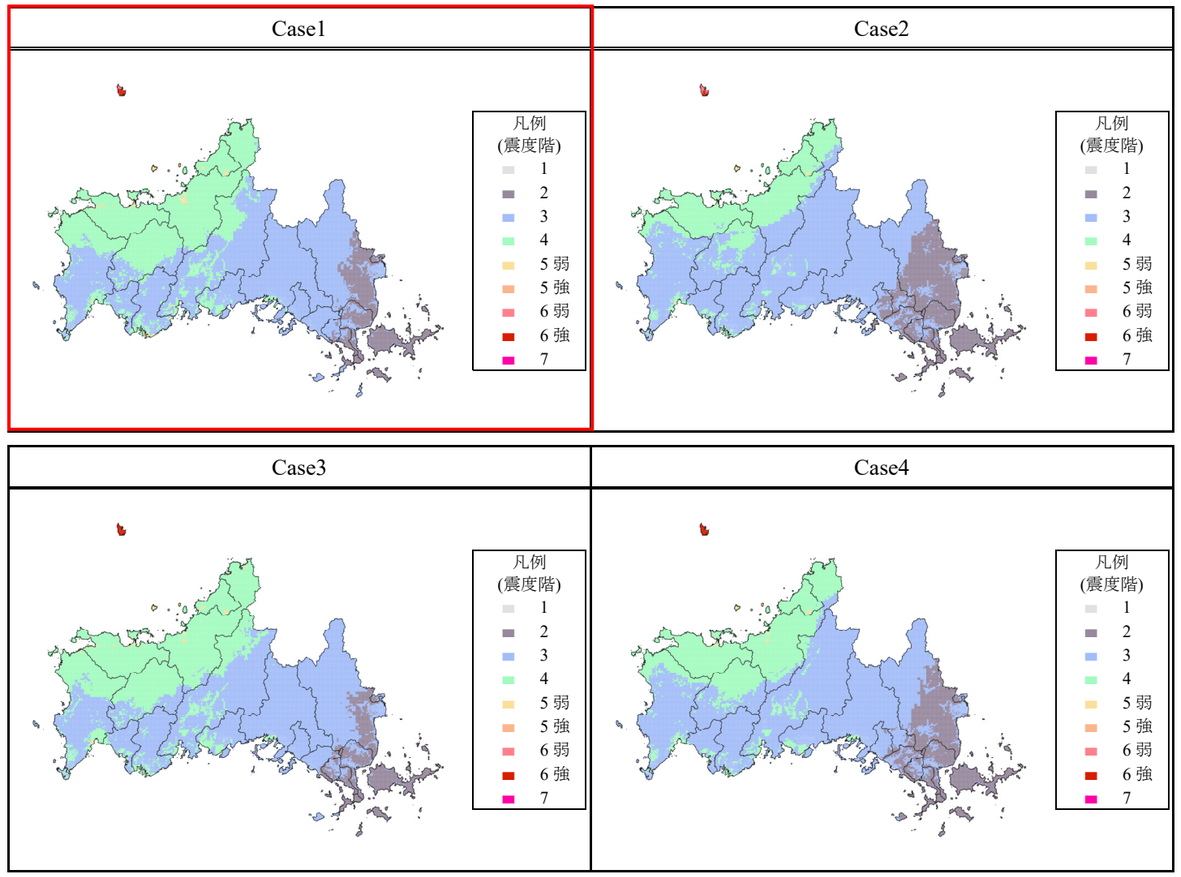
| 震度階 | 震度別曝露人口比率 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Case1 | Case2 | Case3 | Case4 |
| 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 2 | 0.04 | 0.07 | 0.03 | 0.05 |
| 3 | 0.62 | 0.73 | 0.64 | 0.70 |
| 4 | 0.32 | 0.19 | 0.32 | 0.24 |
| 5弱 | 0.02 | 0.00 | 0.01 | 0.01 |
| 5強 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6弱 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 6強 | 0.000 | 0.000 | 0.001 | 0.001 |
| 7 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 合計 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| 5弱以上合計 | 0.021 | 0.003 | 0.013 | 0.009 |
| 6弱以上合計 | 0.00051 | 0.00052 | 0.00051 | 0.00051 |

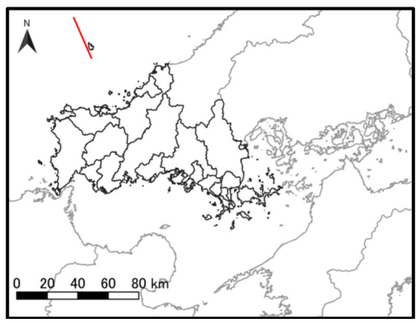
※ 小数点以下の四捨五入により合計が合わない場合がある
※ ■：震度5弱以上の曝露人口比率が最大となるケース(5強以上は同値となるため)
※ ■：震度6弱以上の曝露人口比率が最大となるケース

## 3．地震動算定ケース案

山口県地震被害想定調査における地震動算定ケースとして、建物被害が発生する震度 5 強以上の暴露人口比率が高い「Case1」を提案する。

## 4．各ケースの震度分布図



資料４

第10回
山口県地震・津波防災対策検討委員会

# 日本海の津波高の推計について

令和8年10月19日

# 本資料の内容

## ➢河川遡上を考慮する中小河川の選定について

・日本海沿岸にて22河川を選定した。

## ➢計算条件

・想定地震、計算領域、潮位、堤防条件等の各種計算条件は、前回想定及び瀬戸内の設定を踏襲する。

## ➢試算結果（沿岸の津波高さ）

・**計算データ及び計算結果（沿岸の津波高さ）は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。**

## ➢今後の方針

## ➢日本海の津波高の推計について

・日本海の想定地震について津波高をもとに選定した。

# 河川遡上を考慮する
# 中小河川の選定について

# 河川遡上を考慮する中小河川の選定について

## 「河川遡上を考慮する中小河川」の概要

- 瀬戸内の津波浸水想定では、津波の影響が大きい中小河川を選定し、より詳細な検討を進めると良いというご意見から、「河川遡上を考慮する中小河川」を選定した。今回想定においても、同様に選定する。
- 「河川遡上を考慮する中小河川」は、以下のとおり津波計算を実施する。
  - 対象河川の周辺は、最小メッシュサイズ5mの計算モデルを設定する。
  - 河川流量のデータを収集して、河川平水流量を設定する。
  - 設定した平水流量を用いて不等流計算を実施し、津波浸水予測計算における河道内初期水位の設定を行う。

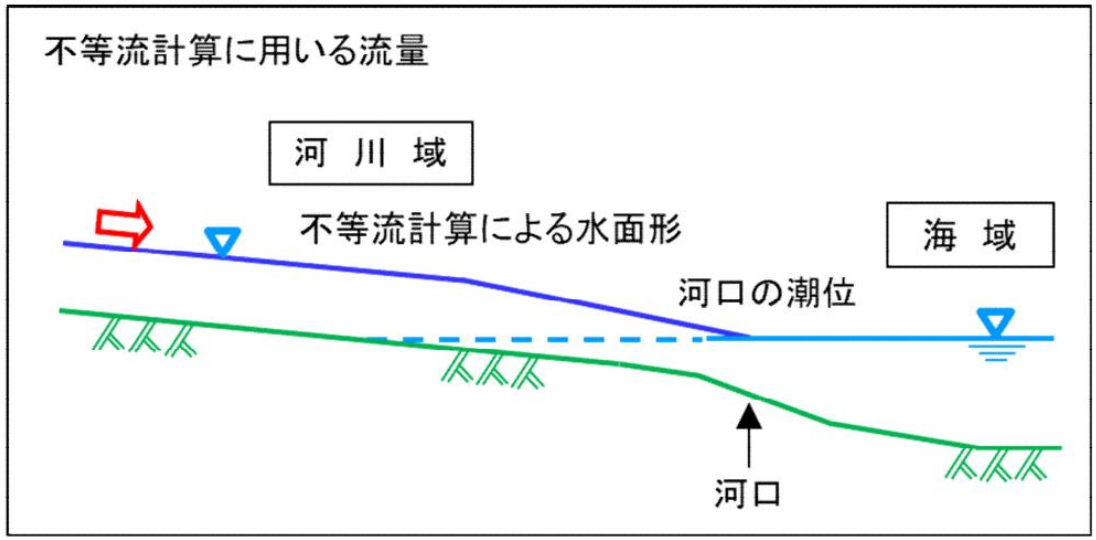



図-1　不等流計算による河川の初期水位の設定

# 前回想定において対象とした河川

## 前回想定において河川遡上を考慮した12河川

前回想定では右記の**12河川**を「**河川遡上を考慮する河川**」に設定している。

前回想定において河川遡上を考慮した河川は以下の条件を満たす河川である。

- **河口幅が 30m 以上**
- **平水流量時の等流水深が 10cm 以上**

**【留意点】**

- 「河川遡上を考慮する河川」とは、「津波の河川遡上の手引き（案）」に基づき、河床標高をモデル化し、また、河川ごとに平水流量を付与して津波計算を実施した12河川を指している。
- 平水流量を付与していなくとも河床標高はモデル化されている河川もあり、計算上、河川の遡上がシミュレートされていることに留意する必要がある。

表-1　前回想定において河川遡上を考慮した河川

| | 河川の等級 | 水系名 | 河川名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 2級河川 | 田万川水系 | 田万川 |
| 2 | | 大井川水系 | 大井川 |
| 3 | | 阿武川水系 | 阿武川（松本川） |
| 4 | | | 阿武川（橋本川） |
| 5 | | 三隅川水系 | 三隅川 |
| 6 | | 深川川水系 | 深川川 |
| 7 | | 掛淵川水系 | 掛淵川 |
| 8 | | 粟野川水系 | 粟野川 |
| 9 | | 綾羅木川水系 | 綾羅木川 |
| 10 | | 木屋川水系 | 木屋川 |
| 11 | | 厚狭川水系 | 厚狭川 |
| 12 | | 木屋川水系 | 木屋川 |

# 対象とする河川（今回）

**瀬戸内の設定手順を踏襲して、「河川遡上を考慮する河川」を抽出**

① 河口幅15m以上（5mメッシュの地形モデルで再現可能）の河川を抽出
：**計41河川**

② ①の41河川に対し、以下の10項目で得点付けを行って総合得点を算出し、影響度が大きいと想定される河川を優先的に選定（合計100点満点）
：**計22河川**

(1) 前回想定にて河床標高のモデル化を行った河川（0点／5点／10点）
(2) 前回想定にて周辺での浸水が認められた河川（0点または10点）
(3) 前回想定にて上流端流量が大きいとされた河川（0点～10点）
(4) 河川整備基本方針が策定されている河川（0点または10点）
(5) 河川整備計画が策定されている河川（0点または10点）
(6) 人口集中地区（DID地区）を流下する河川（0点または10点）
(7) 流路延長距離が大きい河川（0点～10点）
(8) 流域面積が大きい河川（0点～10点）
(9) 河口幅が大きい河川（0点～10点）
(10) 洪水浸水想定を実施している河川（0点／5点／10点）

# 対象とする河川（今回）

以下の**計22河川**を対象河川として選定した（瀬戸内の選定手順を踏襲）。

・瀬戸内の検討において選定済：5河川

・前回対象とした12河川を含む優先順位の高い河川：17河川

**17河川**

表-2　優先順位付けにより選定した河川

| 得点順位 | 等級 | 水系 | 河川一名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 2級河川 | 阿武川水系 | 阿武川（橋本川） |
| 2 | 2級河川 | 阿武川水系 | 阿武川（松本川） |
| 3 | 2級河川 | 三隅川水系 | 三隅川 |
| 4 | 2級河川 | 深川川水系 | 深川川 |
| 5 | 2級河川 | 友田川水系 | 友田川 |
| 6 | 2級河川 | 阿武川水系 | 新川 |
| 7 | 2級河川 | 綾羅木川水系 | 綾羅木川 |
| 8 | 2級河川 | 田万川水系 | 田万川 |
| 9 | 2級河川 | 阿武川水系 | 玉江川 |
| 10 | 2級河川 | 須佐川水系 | 須佐川 |
| 11 | 2級河川 | 粟野川水系 | 粟野川 |
| 12 | 2級河川 | 阿武川水系 | 月見川 |
| 13 | 2級河川 | 掛淵川水系 | 掛淵川 |
| 14 | 2級河川 | 川棚川水系 | 川棚川 |
| 15 | 2級河川 | 掛淵川水系 | 大坊川 |
| 16 | 2級河川 | 郷川水系 | 郷川 |
| 17 | 2級河川 | 大井川水系 | 大井川 |
| 18 | 2級河川 | 田万川水系 | 市味川 |
| 19 | 2級河川 | 西田川水系 | 西田川 |
| 20 | 2級河川 | 三隅川水系 | 姫田川 |
| 21 | 2級河川 | 梶栗川水系 | 梶栗川 |
| 22 | 2級河川 | 江津川水系 | 江津川 |
| 23 | 2級河川 | 黒井川水系 | 黒井川 |
| 24 | 2級河川 | 吉永川水系 | 吉永川 |
| 25 | 2級河川 | 白須川水系 | 白須川 |
| 26 | 2級河川 | 浅井川水系 | 浅井川 |
| 27 | 2級河川 | 沖田川水系 | 沖田川 |
| 28 | 2級河川 | 庄屋川水系 | 庄屋川 |
| 29 | 2級河川 | 宇田川水系 | 宇田川 |
| 30 | 2級河川 | 永田川水系 | 永田川 |
| 31 | 2級河川 | 矢玉川水系 | 矢玉川 |
| 32 | 2級河川 | 浅田川水系 | 浅田川 |
| 33 | 2級河川 | 二見川水系 | 二見川 |
| 34 | 2級河川 | 草場川水系 | 草場川 |
| 35 | 2級河川 | 津田川水系 | 津田川 |
| 36 | | | 沖田川 |
| 37 | 2級河川 | 浅井川水系 | 千ヶ場川 |
| 38 | | | 赤崎川 |
| 39 | | | 沼川 |
| 40 | | | 帆柱川 |
| 41 | 2級河川 | 掛淵川水系 | 久富川 |

※瀬戸内で選定済の河川

| 得点順位 | 等級 | 水系 | 河川一名 |
|---|---|---|---|
| - | 2級河川 | 神田川水系 | 神田川 |
| - | 2級河川 | 木屋川水系 | 木屋川 |
| - | 2級河川 | 浜田川水系 | 浜田川 |
| - | 2級河川 | 有帆川水系 | 有帆川 |
| - | 2級河川 | 厚狭川水系 | 厚狭川 |

**5河川**

：前回浸水想定にて対象とした12河川

# 対象とする河川（今回）（案）

## 選定河川位置図（優先順位上位17河川＋瀬戸内選定済5河川）

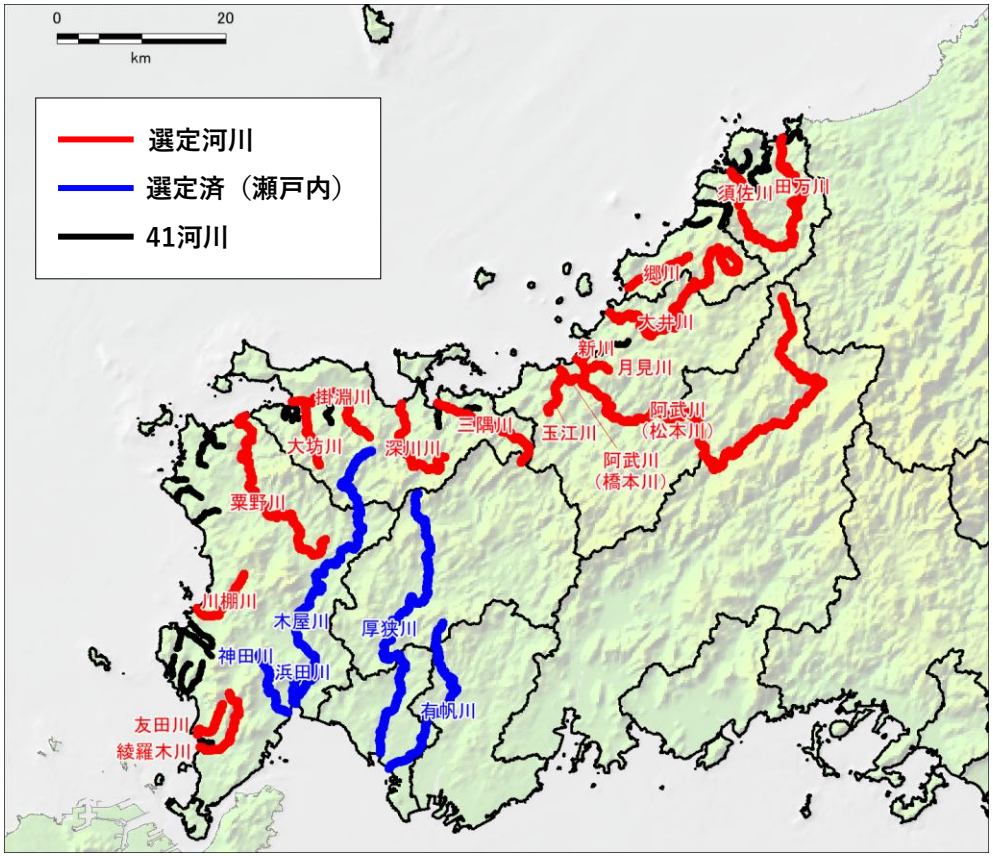



図-2　選定河川位置図

表-3　河川遡上を考慮する22河川

| 得点順位 | 等級 | 水系 | 河川一名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 2級河川 | 阿武川水系 | 阿武川（橋本川） |
| 2 | 2級河川 | 阿武川水系 | 阿武川（松本川） |
| 3 | 2級河川 | 三隅川水系 | 三隅川 |
| 4 | 2級河川 | 深川川水系 | 深川川 |
| 5 | 2級河川 | 友田川水系 | 友田川 |
| 6 | 2級河川 | 阿武川水系 | 新川 |
| 7 | 2級河川 | 綾羅木川水系 | 綾羅木川 |
| 8 | 2級河川 | 田万川水系 | 田万川 |
| 9 | 2級河川 | 阿武川水系 | 玉江川 |
| 10 | 2級河川 | 須佐川水系 | 須佐川 |
| 11 | 2級河川 | 粟野川水系 | 粟野川 |
| 12 | 2級河川 | 阿武川水系 | 月見川 |
| 13 | 2級河川 | 掛淵川水系 | 掛淵川 |
| 14 | 2級河川 | 川棚川水系 | 川棚川 |
| 15 | 2級河川 | 掛淵川水系 | 大坊川 |
| 16 | 2級河川 | 郷川水系 | 郷川 |
| 17 | 2級河川 | 大井川水系 | 大井川 |
| 瀬戸内 | 2級河川 | 神田川水系 | 神田川 |
| 瀬戸内 | 2級河川 | 木屋川水系 | 木屋川 |
| 瀬戸内 | 2級河川 | 浜田川水系 | 浜田川 |
| 瀬戸内 | 2級河川 | 有帆川水系 | 有帆川 |
| 瀬戸内 | 2級河川 | 厚狭川水系 | 厚狭川 |

：前回浸水想定にて対象とした12河川

# 計算条件

# 計算条件一覧

**前回想定及び瀬戸内の検討との整合性を鑑みて、下記のとおりの計算条件を設定する。**

表-4　前回想定、瀬戸内及び今回想定の計算条件

：前回想定から変更

| 項目 | 前回想定 | 瀬戸内 | 今回想定 |
|---|---|---|---|
| 想定地震候補<br>※次頁以降に詳細を示す | 見島付近西部断層<br>神田岬沖断層<br>見島北方沖西部断層<br>佐渡島北方沖の地震<br>F58断層<br>F59断層<br>F60断層 | 南海トラフ最大クラス<br>（ケース①②⑤⑩⑪）<br>周防灘断層群主部 | 見島付近西部断層<br>対馬海盆南方断層<br>佐渡島北方沖の地震<br>見島西縁断層<br>F58断層<br>F59断層<br>F60断層 |
| 地殻変動量 | 考慮（陸域隆起なし） | | |
| 計算メッシュサイズ | 1280m、 640m、320m、160m、 80m、 40m、 20m、10mのネスティング | 2430m、810m、270m、90m、30m、10m、5mのネスティング | |
| 最小計算メッシュサイズ | 10m | 10m、5m | |
| 初期潮位（T.P.） | 0.58m、0.88m、1.04m、1.81m | 1.04m、1.58m、1.81m | 0.58m、0.88m、1.04m、1.81m |
| 再現計算時間 | 12時間 | | |

# 想定地震

**第9回委員会資料より引用**

## 想定地震候補の設定における基本方針

表-5　想定地震候補の検討結果

| 番号 | 地震名 | 前回想定 | | 今回想定 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 想定地震候補 | 想定地震 | 想定地震候補 | 諸元の変更等 |
| ① | 見島付近西部断層 | ○ | ○ | ○ | 変更なし |
| ② | **対馬海盆南方断層** | | | ○ | **見島北方沖西部断層から変更** |
| ③ | 佐渡島北方沖の地震 | ○ | | ○ | 変更なし |
| ④ | **見島西縁断層** | | | ○ | **新規** |
| ⑤ | F58断層 | ○ | | ○ | 変更なし |
| ⑥ | F59断層 | ○ | | ○ | 変更なし |
| ⑦ | F60断層 | ○ | ○ | ○ | 変更なし |
| - | 神田岬沖断層 | ○ | | | **⑥F59断層に包含される** |
| - | 見島北方沖西部断層 | ○ | ○ | | **対馬海盆南方断層へ変更** |

※前回想定では想定地震候補のうち、津波高の比較によって想定地震を抽出

・想定地震候補：被害想定の対象とするか検討する地震

・想定地震：候補の中から、被害想定を行う対象として選定した地震

※津波高の比較によって、想定地震候補の中から、想定地震を決定予定

# 想定地震候補（1/2）

・前回想定では、日本海で想定する最大クラスの津波断層モデルついて、音波探査記録の分析などにより、見島付近西部断層、神田岬沖断層、見島北方沖西部断層、佐渡島北方沖の地震の４断層を設定した。

・今回想定では、以下の４断層を設定した。

①見島付近西部断層：変更なし

②対馬海盆南方断層
：見島北方沖西部断層から変更

③佐渡島北方沖の地震：変更なし

④見島西縁断層：新規に設定

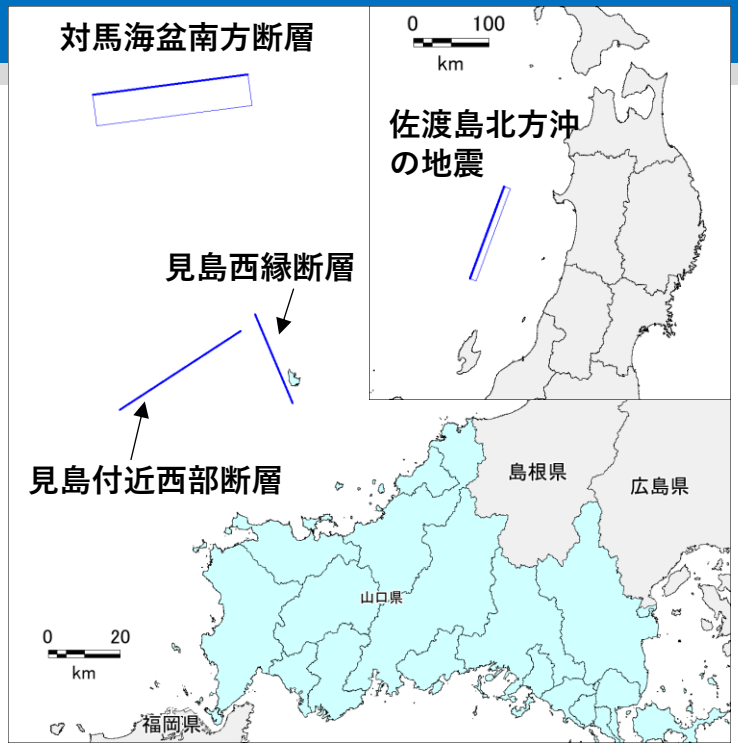



図-3　津波断層モデルの位置図

表-6　断層パラメータ

：前回想定から変更

| 断層名 | 地震の規模 | | 断層の位置 | | | 断層の大きさ | | | 断層の向き | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | M | Mw | 緯度(°) | 経度(°) | 上端深さ(km) | 長さ L(km) | 幅 W(km) | すべり量 D(m) | 走行 θ(°) | 傾斜角 δ(°) | すべり角 λ(°) |
| ①見島付近西部断層 | 7.5 | 7.2 | 34.8941 | 130.9834 | 0 | 40 | 15 | 1.93 | 237 | 90 | 90 |
| ②対馬海盆南方断層 | 7.6 | 7.0 | 35.4833 | 130.5333 | 0 | 43 | 17 | 3.49 | 82 | 60 | 270 |
| ③佐渡島北方沖の地震 | 8.4 | 7.9 | 38.9526 | 138.4098 | 0 | 131 | 17 | 9.44 | 20 | 60 | 90 |
| ④見島西縁断層 | 7.2 | 6.7 | 34.9360 | 131.0270 | 0 | 27 | 15 | 1.33 | 157 | 90 | 90 |

# 断層パラメータの設定方法

**対馬海盆南方断層及び見島西縁断層の断層パラメータを新規に設定**

**すべり量以外の設定**

地震本部による長期評価に示された内容を参考に設定した。

**すべり量の設定**

①平均変位速度と活動間隔から与える方法

以下の式により、すべり量D(m) を求める。

$D=T・V$

（D:すべり量(m)、T:活動間隔、V:平均変位速度(m/千年)）

➡ 過大あるいは過小となったため採用しない。

**②活断層の長さLとMwとの間の関係式を用いる方法**

活断層の長さＬから以下の方法によってすべり量Ｄを算定する。

(1)$\log L=0.75Mw-3.77$　（Mw:モーメントマグニチュード）

(2)$\log M_0=1.5\ Mw+9.1$　（$M_0$:地震モーメント）

(3) $D=M_0/(\mu LW)$　（μ:剛性率、L:活断層の長さ、W:活断層の幅）

# 想定地震候補（2/2）

・前回想定では、国(国土交通省、内閣府、文部科学省)の津波断層モデルを参考に、山口県日本海側の各市町において平地での最大の津波高を発生させる3断層を設定した。
  ・F58断層（山口県沖の断層、大すべり域：右）
  ・F59断層（菊川断層及び北方延長部の断層、大すべり域：中央）
  ・F60断層（西山断層及び北方延長部の断層、大すべり域：左）
・本調査においても、⑤F58断層、⑥F59断層、⑦F60断層を想定地震候補として設定した。
・断層パラメータは国の公表値を採用した。

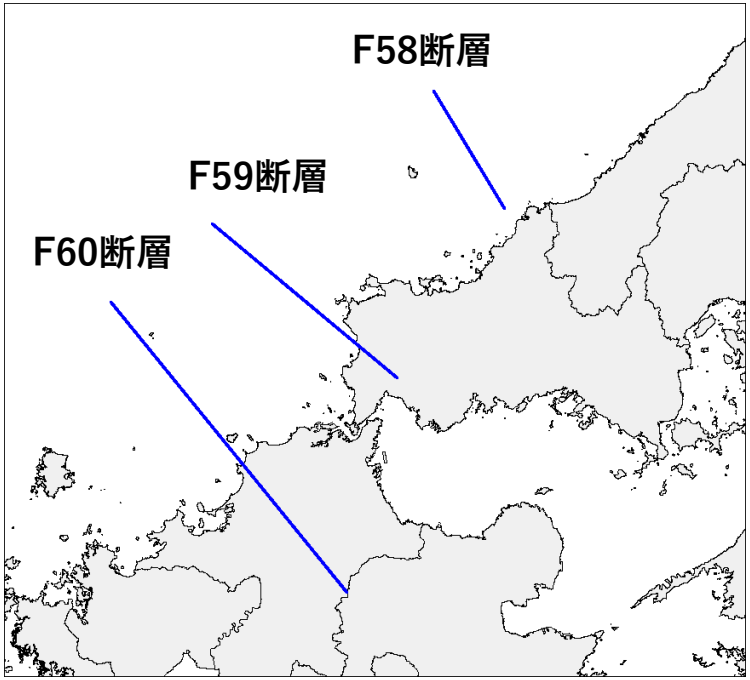


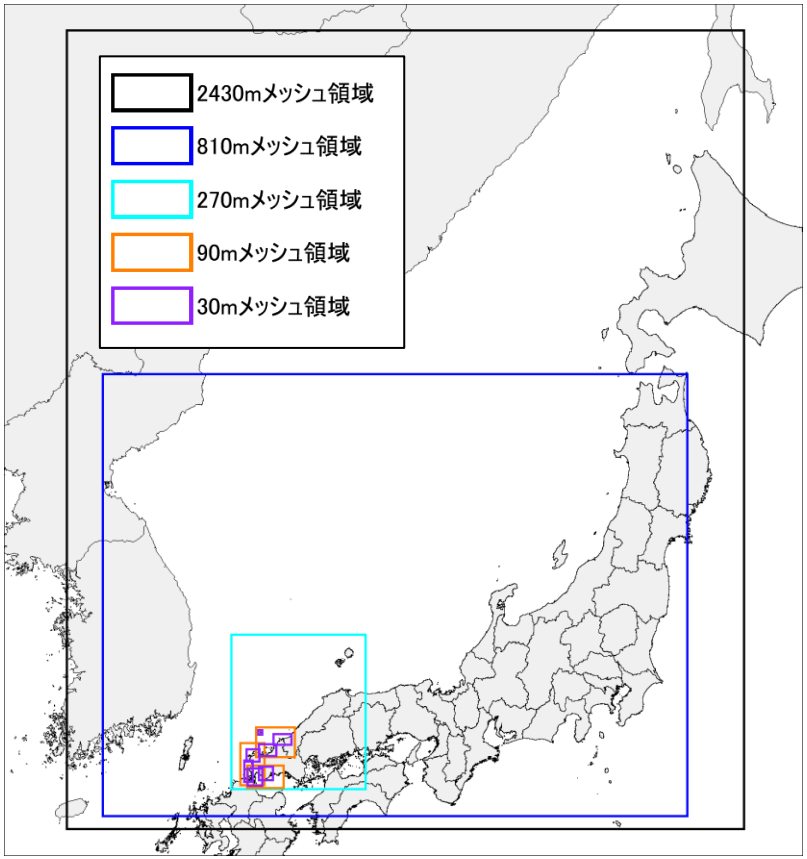

図-4　津波断層モデルの位置図

表-7　断層パラメータ

| 断層名 | 地震の規模 | 断層の位置 | | | | 断層の大きさ | | | 断層の向き | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Mw | 緯度(°) | 経度(°) | 上端深さ (km,TP) | 下端深さ (km,TP) | 長さ L(km) | 幅 W(km) | すべり量 D(m) | 走行 θ(°) | 傾斜角 δ(°) | すべり角 λ(°) |
| ⑤F58断層 | 7.13 | 34.6586 | 131.5104 | 1.1 | 15.0 | 50.1 | 13.9 | 2.63 | 329 | 90 | 325 |
| ⑥F59断層 | 7.38 | 34.1000 | 131.0833 | 1.1 | 15.0 | 87.9 | 13.9 | 3.49 | 310 | 90 | 325 |
| ⑦F60断層 | 7.59 | 33.3933 | 130.8816 | 1.0 | 15.0 | 136.9 | 14.0 | 4.60 | 321 | 90 | 325 |

# 計算対象範囲

- 2430m、810m、270m、90m、30m、10mの計算範囲を設定した。
- 「河川遡上を考慮する河川」の範囲については、5mメッシュ領域を設定する予定であり、現在データを整理中である。



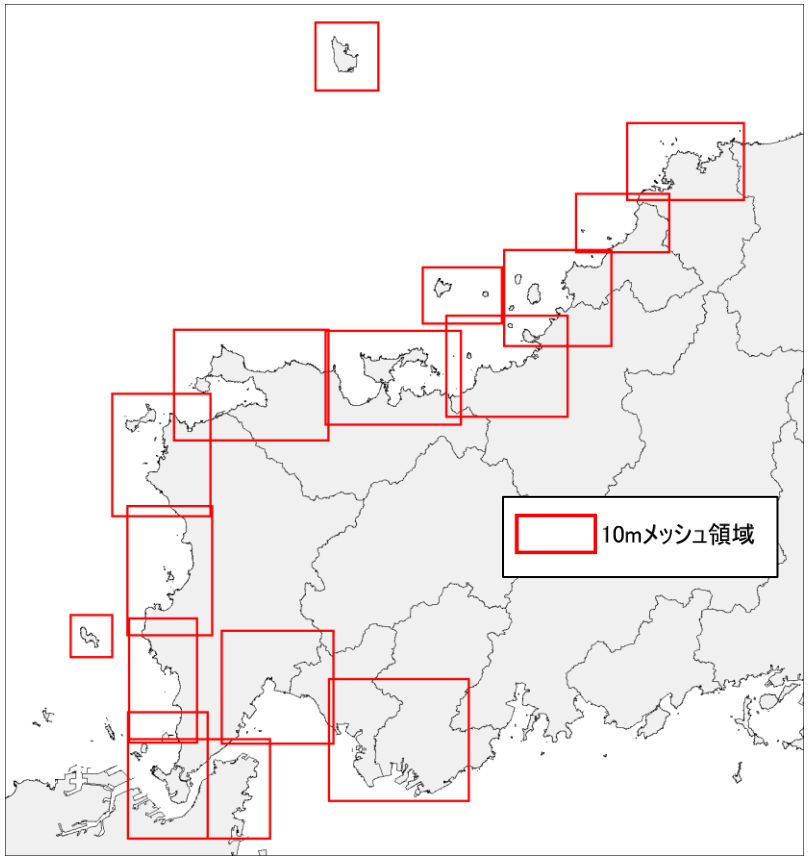




図-5　計算範囲

# 計算対象範囲（前回）

・前回想定では、1280m、 640m、320m、160m、 80m、 40m、 20m、 10mの計算範囲が設定されていた。

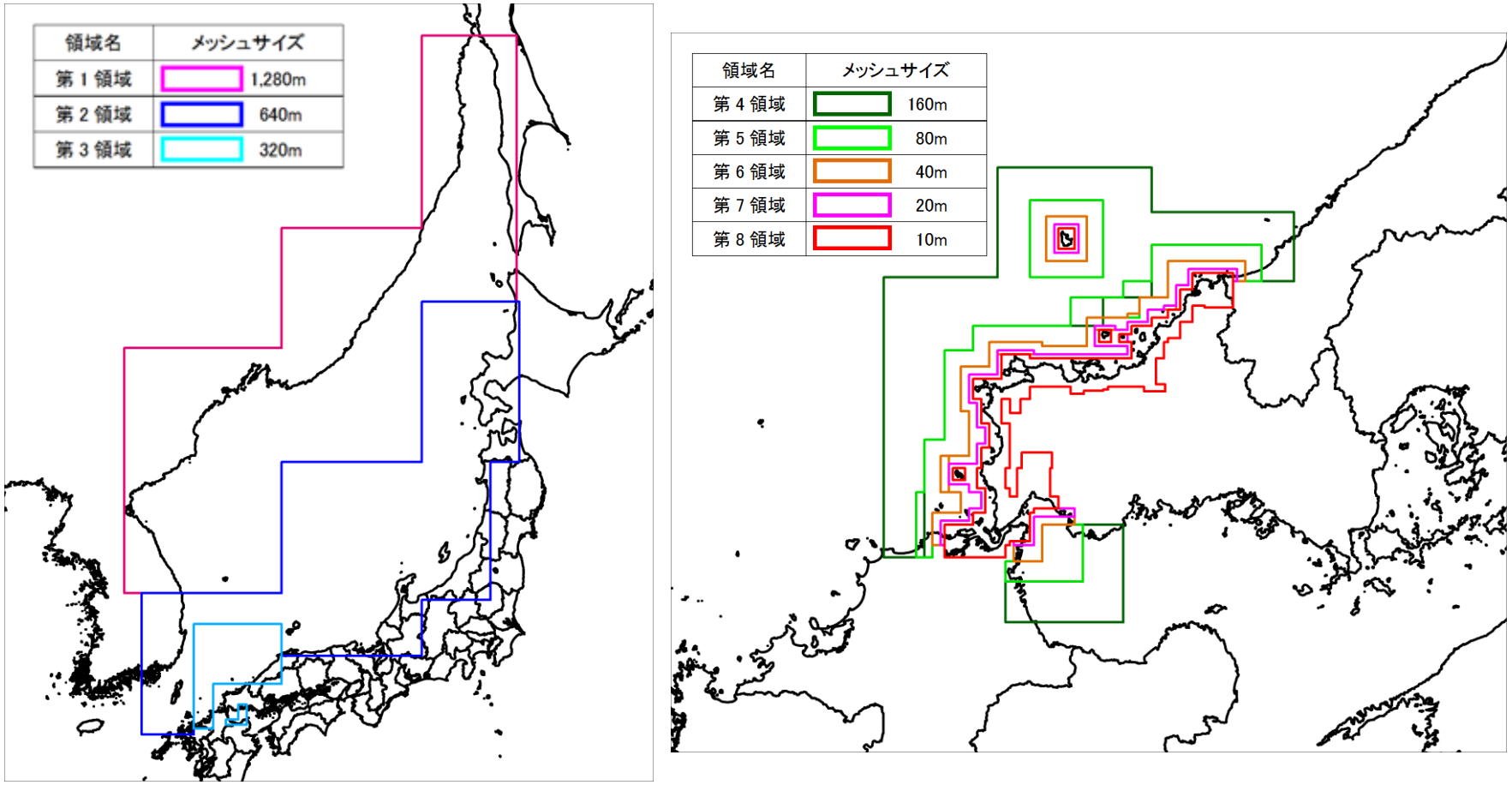



図-6　計算範囲（前回）

# 各種施設の破壊条件

## 「津波浸水想定の設定の手引き」における耐震性調査の位置づけ

堤防の耐震性調査が実施され、調査に関する資料が…
・ある場合：調査資料に記載の沈下量を反映。
・ない場合：コンクリート構造物は地震と同時に比高0まで沈下。
盛土構造物は75%沈下。越流と同時に破壊 。

➡ **山口県における堤防の耐震性調査**の実施状況とその内容を整理する。

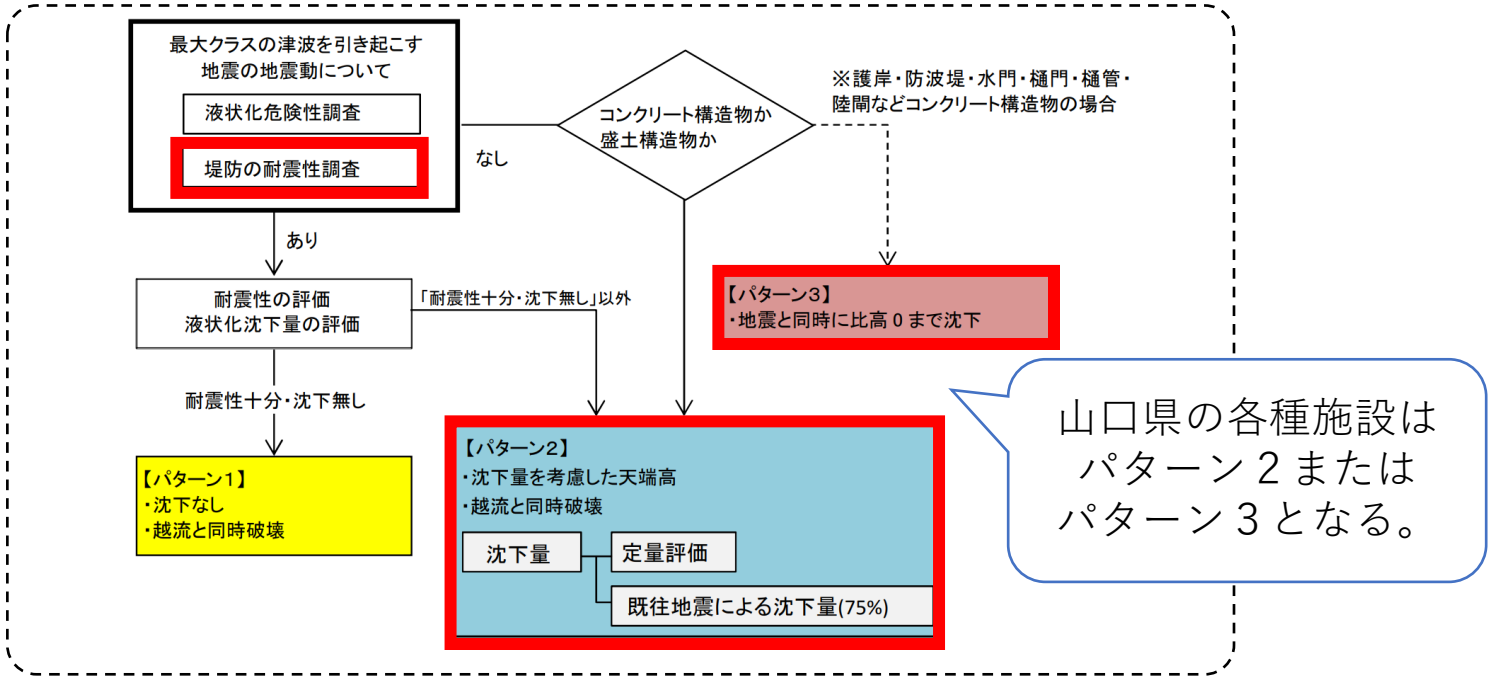



図-7　地震及び津波に対する各種施設の条件設定の考え方の例
出典：津波浸水想定の設定の手引き Ver.2.11

# 各種施設の破壊条件（前回）

## 前回想定の破壊条件の考え方

・最大クラスの津波が、悪条件下において発生し浸水が生じることを前提に地震や津波による各種施設の被災を考慮して条件設定を行った。

・震度4以上の地点の堤防部は破壊するものとした。

表-8　各種施設の破壊条件の考え方

| | H26山口県 |
|---|---|
| 地震による破壊 | 各種施設は地震発生直後（津波来襲前）に、<br>➢ パラペット等の全高が消失する。※1<br>➢ 土提、水門、樋門の天端高の75%が沈下する。※2<br>➢ 大規模な水門※3については、100%の機能消失とする。 |
| 津波による破壊 | 越流時点で<br>➢ 堤防、水門、樋門等の100%が消失する。※4 |

※1 ：パラペット等とは、10mメッシュデータで表現できない幅の狭い構造物を示す。
※2 ：パラペット等を除く土提部分の75%が沈下するものとする。
　　水門、樋門についても、隣接堤防と同等の沈下が生じるものとする。
※3 ：10mメッシュデータで表現できる程度の大規模な水門については、100%の機能消失とする。
※4 ：パラペット等を含め、堤防の100%が消失するものとする。水門、樋門についても同様とする。

# 試算条件（初期潮位）

## 計算範囲の設定

前回想定では、山口県の海岸保全施設等の設計に用いる朔望平均満潮位を基に、同程度の潮位を設定した。

**➡山口県の海岸保全基本計画の変更に係る技術検討会での朔望平均満潮位の検討結果を踏まえ、潮位を設定した（瀬戸内の設定方法を踏襲）。**

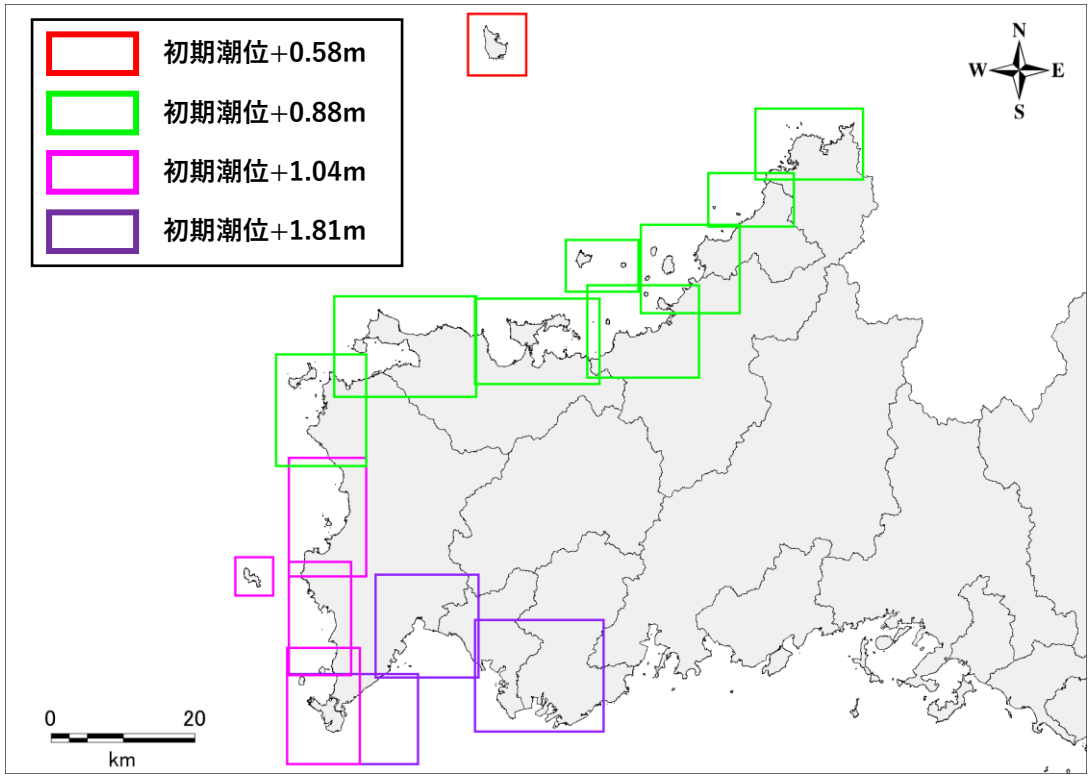



図-8　初期潮位（10mメッシュ領域）

# 試算条件（初期潮位）

## 【参考】第３回海岸保全基本計画変更に係る技術検討会（令和7年2月19日）の検討内容（抜粋）

### 気候変動を踏まえた計画外力の検討方針　【第１回検討会資料の再掲】 20

■気候変動を踏まえた計画外力の検討方針

➢ 第1回山口県海岸保全基本計画の変更に係る技術検討会において了承をいただいた、山口県沿岸における気候変動を踏まえた計画外力の検討方針を以下に示す。

| 項目 | 「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方提言　令和2年7月」本文の抜粋内容 | 外力設定に関する方針 |
|---|---|---|
| 気候変動シナリオ（海岸保全の目標） | 気候変動を踏まえた海岸保全の基本的な方針（本文P12，4.）<br>海岸保全の目標は、2℃上昇相当（RCP2.6）を前提としつつ、広域的・総合的な視点からの取組は、平均海面水位が2100年に1m程度上昇する予測（4℃上昇相当（RCP8.5））も考慮し、長期的視点から関連する分野とも連携することが重要である。 | • 2℃上昇相当を基本とする。 |
| 目標とする年 | | • 2100年を目標とする。 |
| 海面水位（朔望平均満潮位） | 高潮対策・津波対策（本文P.15,(1)）<br>平均海面水位は徐々に上昇し、その影響は継続して作用し、計画高潮位にも設計津波の水位にも影響する。長期的に、平均海面水位は上昇し、数百年単位で元に戻ることがないと予測されることから、ハード対策とソフト対策を組み合わせ、今後整備・更新していく海岸保全施設（堤防、護岸、離岸堤等）については、手戻りのないように整備・更新時点における最新の朔望平均満潮位に、施設の耐用年数の間に将来的に予測される平均海面水位の上昇量を加味するべきである。 | • 現行計画値に将来予測される平均海面水位の上昇量を加える。<br>• 朔望平均満潮位は、現行計画値を踏襲する。<br>• 海面上昇量は、「日本の気候変動2020」の2℃上昇シナリオの[illegible]値0.39mとする。 |
| 潮位偏差（計画高潮位） | 高潮対策・津波対策（本文P.15,(1)）<br>潮位偏差や高波は、台風や低気圧が発生[illegible]デル）を対象にし想定した極値が生起するかはわからない。<br>の長期変化量の予測は平均海面水位の上昇量に比べて不確実性が高いが施設設計への影響は大きい。今後、研究成果の蓄積を踏まえ、最新の研究成果やd4PDF等による気候予測結果を活用し、将来的に予測される潮位偏差や波浪を推算し対策を検討すべきである。<br>今後は気候変動を踏まえた高潮・津波に係る海岸保全及び他分野との連携について、具体的な対応を図るべきである。 | |
| 波浪（設計波） | | [illegible]の波浪推算結果の統計値から設定。<br>• 潮位偏差の設定に用いる想定台風での波浪推算値との比較も行い、統計値が妥当か確認。 |
| 津波 | | • 山口県地震・津波防災対策検討委員会報告書のL1津波水位に、目標とする2100年の平均海面水位の上昇量を加算して設定 |

・朔望平均満潮位は現行計画値を踏襲する。

図-9　朔望平均満潮位の設定
出典：第３回 山口県海岸保全基本計画変更に係る技術検討会

# 試算条件（初期潮位）

## 【参考】第３回海岸保全基本計画変更に係る技術検討会（令和7年2月19日）の検討内容（抜粋）

### 気候変動を踏まえた計画外力の検討結果　29

**■気候変動を踏まえた設計高潮位**

- 前述までの高潮推算結果を踏まえて、気候変動を踏まえた設計高潮位を設定した。
- 気候変動を踏まえた設計高潮位は、現行の設計高潮位に対して、南沿岸では0.46m～0.57m程度、北沿岸では0.43m～0.47m程度上昇することが想定される。

気候変動を踏まえた設計高潮位

| ゾーン名 | | 現行計画の設計高潮位 | | | 気候変動を踏まえた設計高潮位 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 朔望平均満潮位※1 (T.P.m) | 潮位偏差 (m) | 設計高潮位 (T.P.m) | 朔望平均満潮位※1 (T.P.m) | 海面上昇量 (m) | 気候変動考慮 潮位偏差(m) | 気候変動考慮 変化倍率※3 | 気候変動を踏まえた設計高潮位(T.P.m) |
| 山口南沿岸 | 豊関南 | 1.04～1.88 (吉母～下関) | 0.97～2.54 | 2.01～4.42 | 1.04～1.88 (吉母～下関) | 0.39 | 1.04～2.72 【+0.07～+0.18】※2 | 1.07 | 2.47～4.99 【+0.46～+0.57】 |
| | 宇部 | 1.62～1.80 (埴生～丸尾) | 2.10～2.60 | 3.72～4.40 | 1.62～1.80 (埴生～丸尾) | 0.39 | 2.25～2.78 【+0.15～+0.18】 | 1.07 | 4.26～4.97 【+0.54～+0.57】 |
| | 山口 | 1.54～1.62 (山口～三田尻) | 2.20～2.50 | 3.76～4.12 | 1.54～1.62 (山口～三田尻) | 0.39 | 2.35～2.68 【+0.15～+0.18】 | 1.07 | 4.30～4.69 【+0.54～+0.57】 |
| | 周南 | 1.47～1.52 (徳山～光) | 2.13～2.41 | 3.60～3.90 | 1.47～1.52 (徳山～光) | 0.39 | 2.28～2.58 【+0.15～+0.17】 | 1.07 | 4.14～4.46 【+0.54～+0.56】 |
| | 柳井 | 1.42～1.53 (平生～久賀) | 1.40～2.40 | 2.80～3.93 | 1.42～1.53 (平生～久賀) | 0.39 | 1.50～2.57 【+0.10～+0.17】 | 1.07 | 3.37～4.49 【+0.49～+0.56】 |
| | 岩国 | 1.71～1.80 (柱島～岩国) | 1.60～1.95 | 3.31～3.70 | 1.71～1.80 (柱島～岩国) | 0.39 | 1.71～2.09 【+0.11～+0.14】 | 1.07 | 3.81～4.23 【+0.50～+0.53】 |
| 山口北沿岸 | 豊関北 | 0.88～1.04 (室津下～阿川) | 0.91～0.97 | 1.79～2.01 | 0.88～1.04 (室津下～阿川) | 0.39 | 0.97～1.04 【+0.06～+0.07】 | 1.07 | 2.24～2.47 【+0.45～+0.46】 |
| | 長門 | 0.85～0.88 (大浦～野波瀬) | 0.80～0.84 | 1.65～1.70 | 0.85～0.88 (大浦～野波瀬) | 0.39 | 0.86～0.90 【+0.06】 | 1.07 | 2.10～2.17 【+0.43～+0.47】 |
| | 萩 | 0.58～0.75 (三見～見島) | 0.71～0.90 | 1.18～1.68 | 0.58～0.75 (三見～見島) | 0.39 | 0.76～0.96 【+0.05～+0.06】 | 1.07 | 1.73～2.10 【+0.44～+0.45】 |

※1：朔望平均満潮位は、「海岸・河川事業における設計潮位（瀬戸内海沿岸）について,2003年」、「日本海沿岸の潮位基準の改訂について,2008年」から設定
※2：【】の数値は、現行計画値からの差分
※3：現行台風経路時の将来変化倍率（平均値）

朔望平均満潮位は、「海岸・河川事業における設計潮位（瀬戸内海沿岸）について,2003年」、「日本海沿岸の潮位基準の改訂について,2008年」から設定。

図-10　朔望平均満潮位の設定
出典：第３回 山口県海岸保全基本計画変更に係る技術検討会

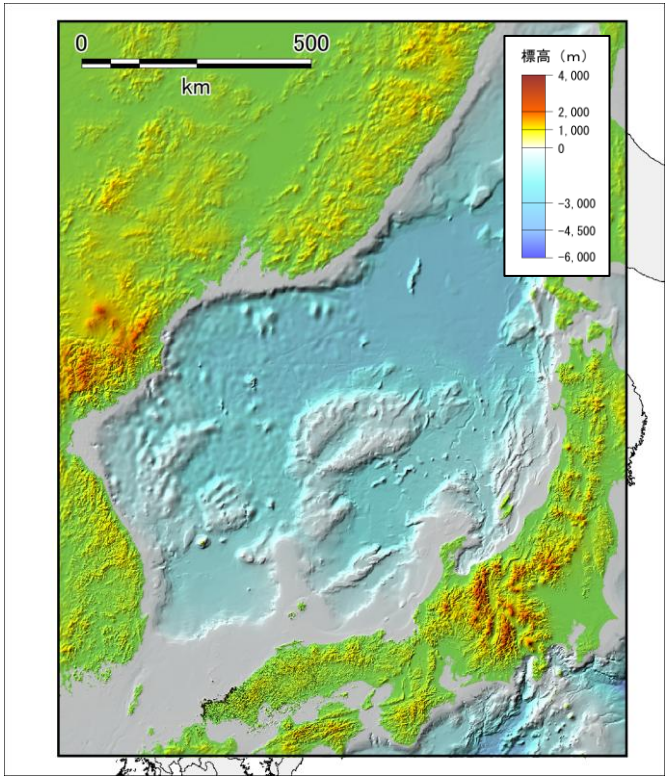
# 沿岸の津波高さの試算

# 計算モデル

以下のデータより海域の地形データを整理して、沿岸の津波高さを算出した。

・前回想定

・M7000シリーズ



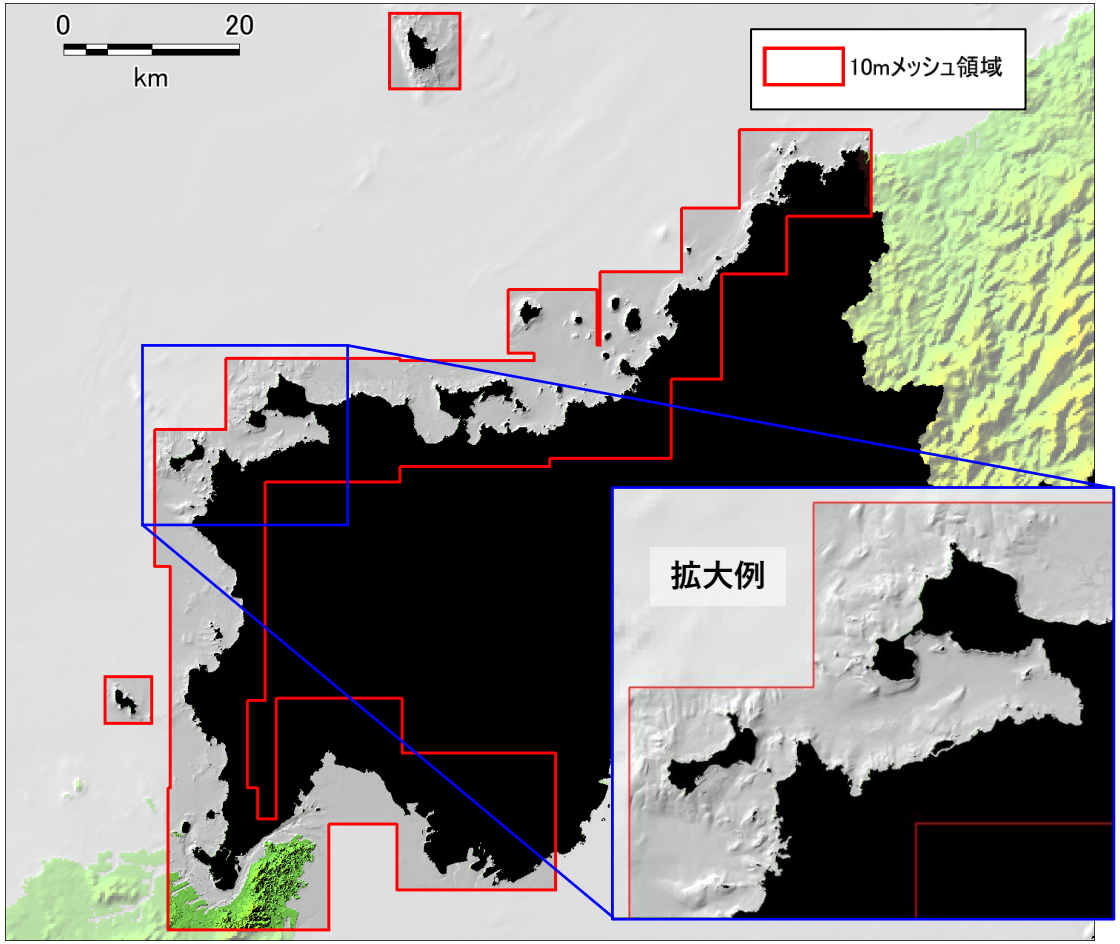
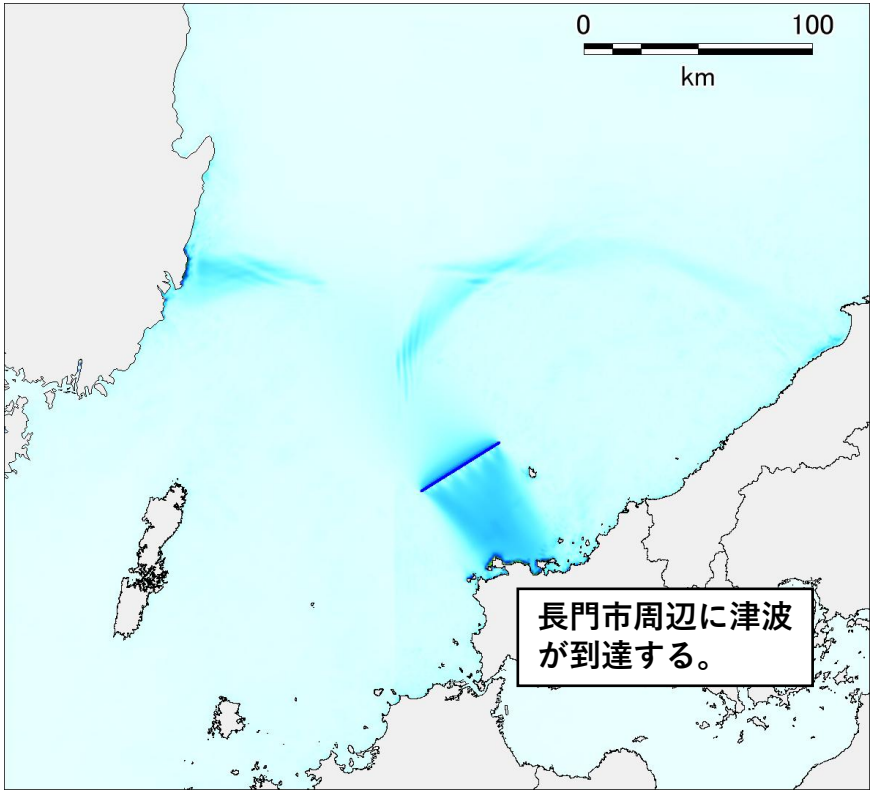




図-11　海域の地形データ（今回）

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 海域の最大水位分布図（1/3）

### ①見島付近西部断層




### ②対馬海盆南方断層

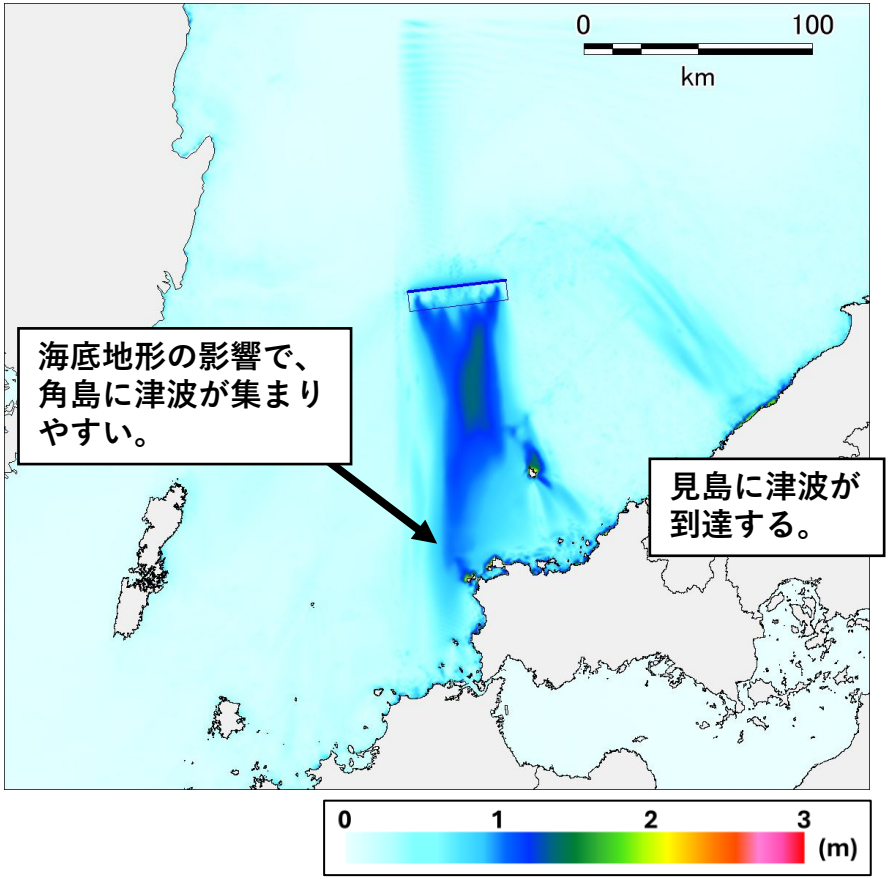
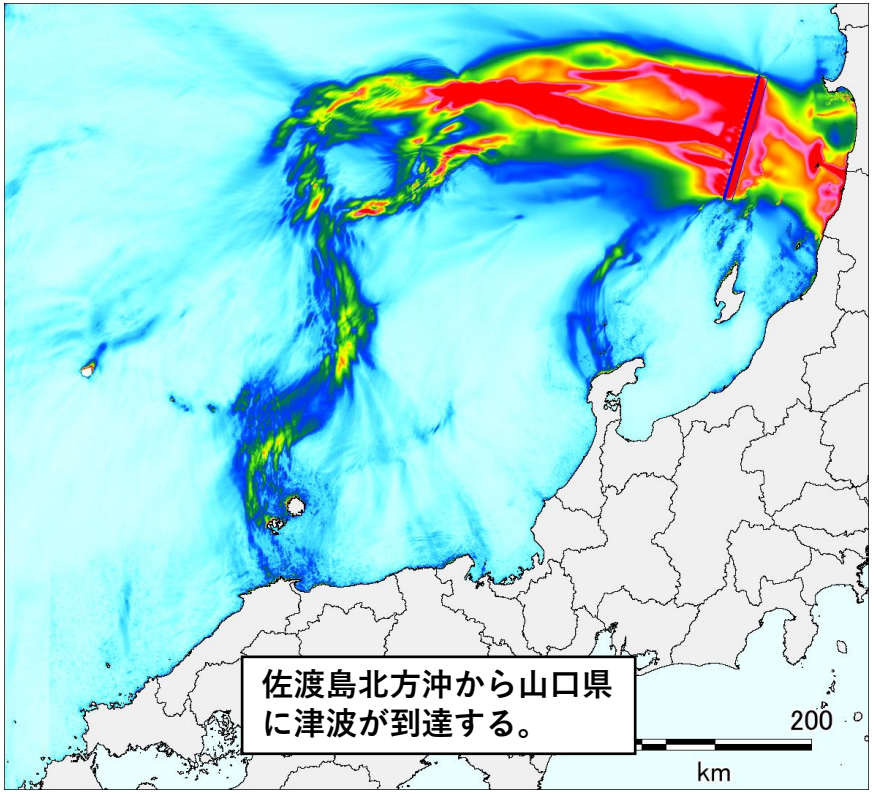



図-12　海域の最大水位分布

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 海域の最大水位分布図（2/4）

### ③佐渡島北方沖の地震




### ④見島西縁断層

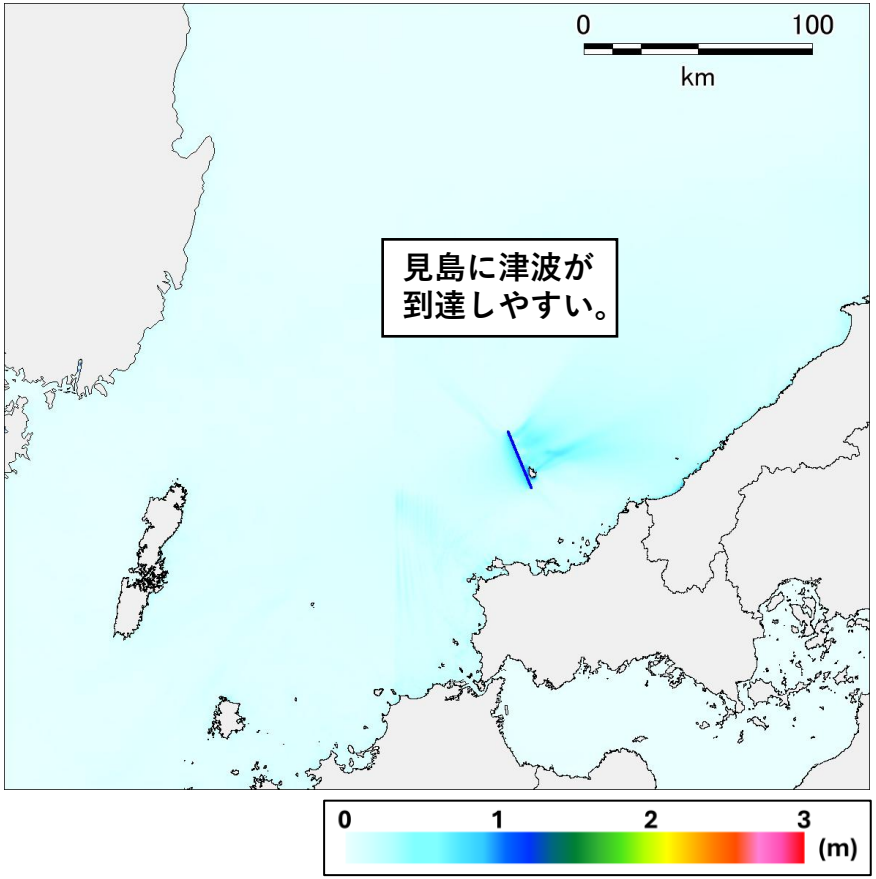
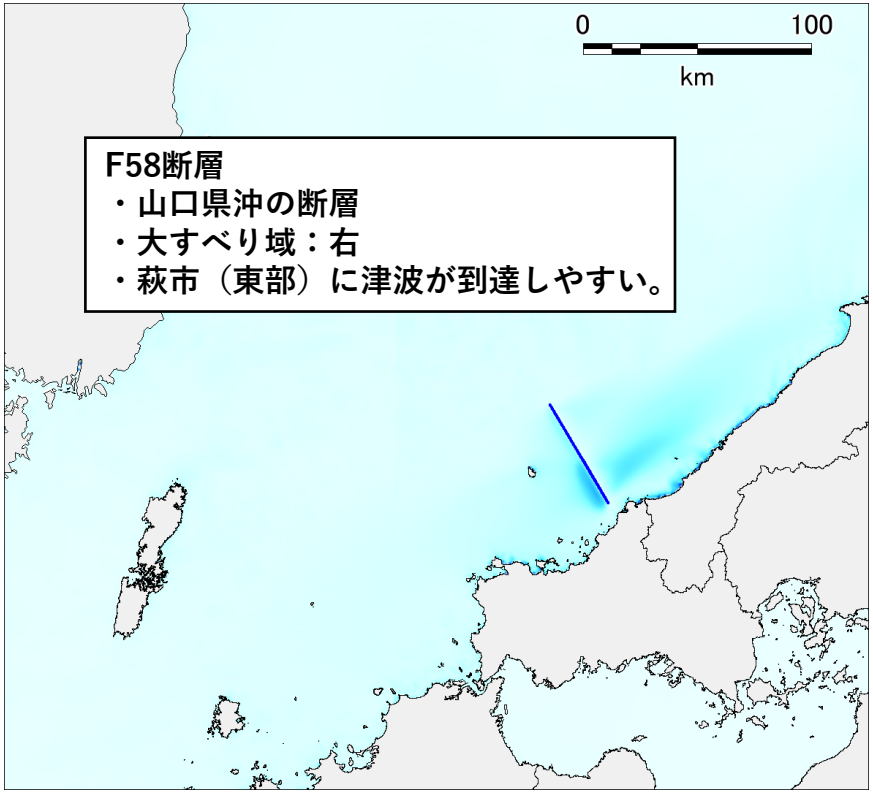



図-13　海域の最大水位分布

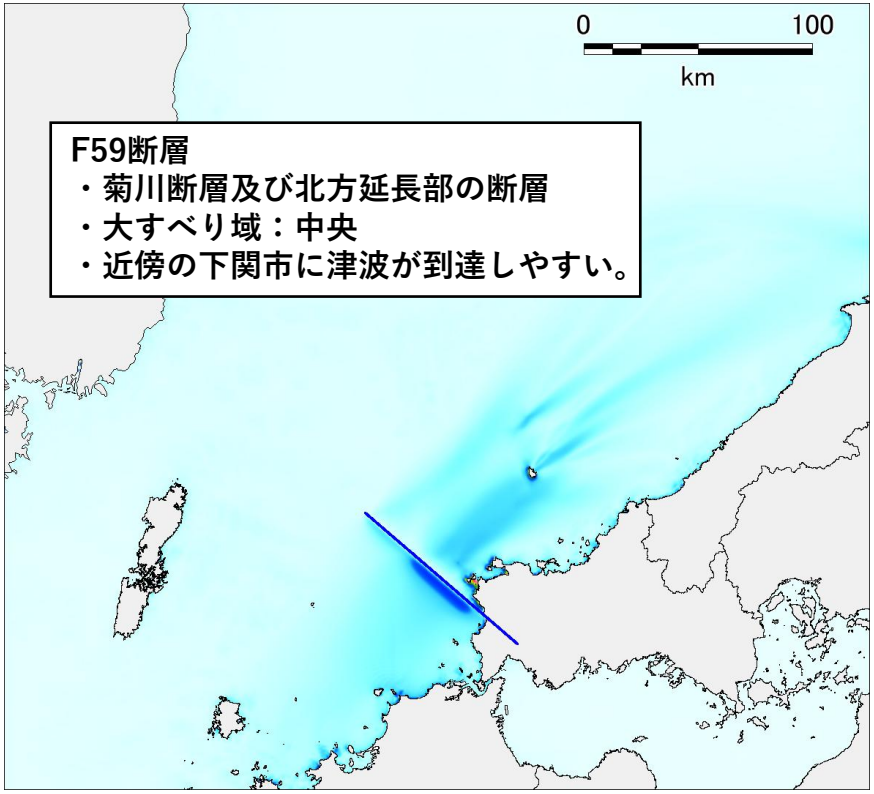
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 海域の最大水位分布図（2/3）

### ⑤F58断層




### ⑥F59断層



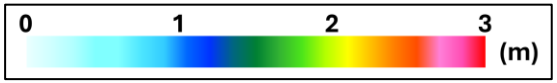
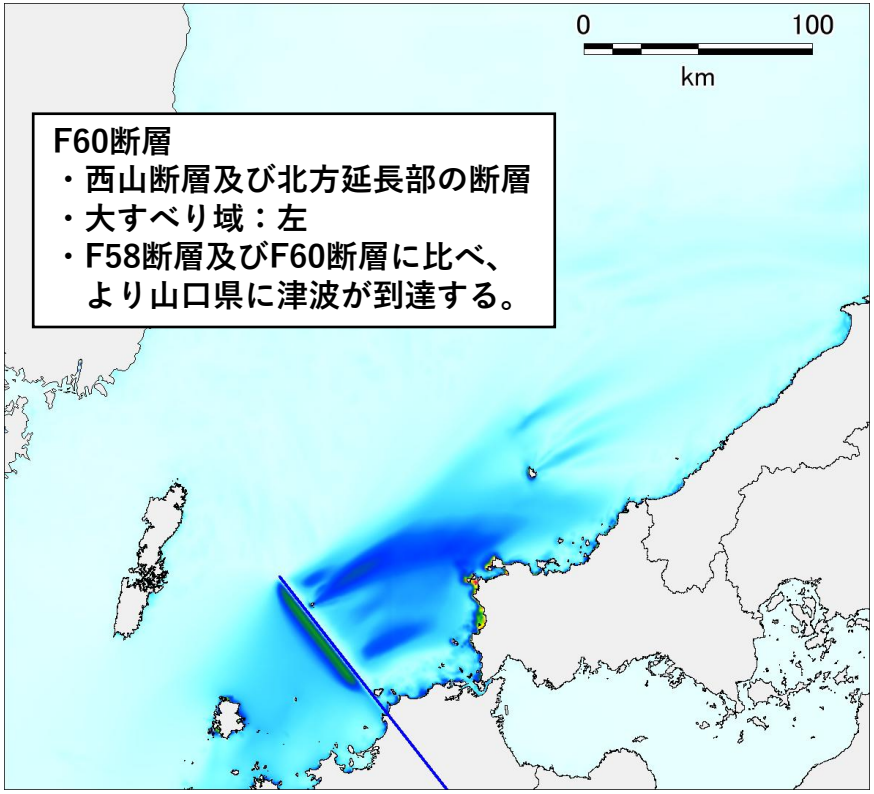




図-14　海域の最大水位分布

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 海域の最大水位分布図（3/3）

### ⑦F60断層



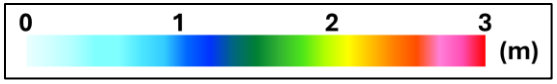




図-15　海域の最大水位分布

# 試算結果

**本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。**

## 漁港別最大津波水位

海岸線から沖合約30m地点における各漁港における最高津波水位を示す。

表-9　漁港別最大津波水位

| 市町 | 代表地点名 | 見島付近西部断層 | | 対馬海盆南方断層 | | 佐渡島北方沖の地震 | | 見島西縁断層 | | F58断層 | | F59断層 | | F60断層 | | 最大 | | 市町における最大津波水位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 最高津波 | | 最高津波 | | 最高津波 | | 最高津波 | | 最高津波 | | 最高津波 | | 最高津波 | | 最高津波 | | |
| | | 水位(m) | うち津波波高(m) | 水位(m) | うち津波波高(m) | 水位(m) | うち津波波高(m) | 水位(m) | うち津波波高(m) | 水位(m) | うち津波波高(m) | 水位(m) | うち津波波高(m) | 水位(m) | うち津波波高(m) | 水位(m) | うち津波波高(m) | |
| 下関市 | 下関漁港 | 1.6 | 0.6 | 2.8 | 1.8 | 1.9 | 0.9 | 1.4 | 0.4 | 1.5 | 0.5 | 2.0 | 1.0 | 2.9 | 1.9 | 2.9 | 1.9 | 4.6 |
| | 安岡漁港 | 1.5 | 0.5 | 3.1 | 2.1 | 1.9 | 0.9 | 1.4 | 0.4 | 1.5 | 0.5 | 2.0 | 1.0 | 2.9 | 1.9 | 3.1 | 2.1 | |
| | 小串漁港 | 1.7 | 0.7 | 3.2 | 2.2 | 2.0 | 1.0 | 1.4 | 0.4 | 1.5 | 0.5 | 1.6 | 0.6 | 4.4 | 3.4 | 4.4 | 3.4 | |
| | 特牛港 | 1.8 | 0.9 | 3.3 | 2.4 | 1.9 | 1.0 | 1.3 | 0.4 | 1.5 | 0.6 | 4.6 | 3.7 | 4.2 | 3.3 | 4.6 | 3.7 | |
| | 角島港 | 1.7 | 0.8 | 3.7 | 2.8 | 2.2 | 1.3 | 1.3 | 0.4 | 1.5 | 0.6 | 4.2 | 3.3 | 4.1 | 3.2 | 4.2 | 3.3 | |
| | 阿川漁港 | 2.7 | 1.8 | 3.5 | 2.6 | 2.0 | 1.1 | 1.3 | 0.4 | 1.5 | 0.6 | 3.0 | 2.1 | 3.6 | 2.7 | 3.6 | 2.7 | |
| 長門市 | 掛淵漁港 | 2.5 | 1.6 | 3.1 | 2.2 | 1.9 | 1.0 | 1.4 | 0.5 | 1.7 | 0.8 | 3.9 | 3.0 | 4.3 | 3.4 | 4.3 | 3.4 | 4.6 |
| | 川尻漁港 | 4.1 | 3.2 | 4.6 | 3.7 | 2.6 | 1.7 | 1.5 | 0.6 | 3.3 | 2.4 | 2.3 | 1.4 | 3.5 | 2.6 | 4.6 | 3.7 | |
| | 黄波戸漁港 | 3.0 | 2.1 | 2.7 | 1.8 | 1.9 | 1.0 | 1.2 | 0.3 | 1.6 | 0.7 | 1.7 | 0.8 | 2.0 | 1.1 | 3.0 | 2.1 | |
| | 湊漁港 | 2.9 | 2.0 | 2.7 | 1.8 | 1.9 | 1.0 | 1.3 | 0.4 | 1.9 | 1.0 | 2.0 | 1.1 | 2.6 | 1.7 | 2.9 | 2.0 | |
| | 仙崎漁港 | 2.9 | 2.0 | 3.2 | 2.3 | 2.4 | 1.5 | 1.4 | 0.5 | 2.8 | 1.9 | 2.3 | 1.4 | 2.8 | 1.9 | 3.2 | 2.3 | |
| | 野波瀬漁港 | 1.8 | 0.9 | 2.2 | 1.3 | 1.9 | 1.0 | 1.1 | 0.2 | 1.4 | 0.5 | 1.4 | 0.5 | 1.8 | 0.9 | 2.2 | 1.3 | |
| 萩市 | 三見漁港 | 3.3 | 2.4 | 3.6 | 2.7 | 2.6 | 1.7 | 1.3 | 0.4 | 1.6 | 0.7 | 1.7 | 0.8 | 2.4 | 1.5 | 3.6 | 2.7 | 7.0 |
| | 萩港（浜崎） | 2.9 | 2.0 | 3.8 | 2.9 | 2.7 | 1.8 | 1.3 | 0.4 | 2.0 | 1.1 | 2.3 | 1.4 | 3.1 | 2.2 | 3.8 | 2.9 | |
| | 大井漁港 | 1.9 | 1.0 | 3.2 | 2.3 | 3.1 | 2.2 | 1.2 | 0.3 | 1.5 | 0.6 | 1.7 | 0.8 | 2.7 | 1.8 | 3.2 | 2.3 | |
| | 見島漁港 | 1.8 | 1.2 | 7.0 | 6.4 | 5.0 | 4.4 | 4.4 | 3.8 | 2.4 | 1.8 | 3.7 | 3.1 | 3.0 | 2.4 | 7.0 | 6.4 | |
| | 須佐漁港 | 1.8 | 0.9 | 2.7 | 1.8 | 3.2 | 2.3 | 1.6 | 0.7 | 1.9 | 1.0 | 2.3 | 1.4 | 3.1 | 2.2 | 3.2 | 2.3 | |
| | 江崎漁港 | 2.0 | 1.1 | 2.1 | 1.2 | 3.6 | 2.7 | 1.8 | 0.9 | 2.9 | 2.0 | 2.9 | 2.0 | 3.8 | 2.9 | 3.8 | 2.9 | |
| 阿武町 | 奈古漁港 | 1.8 | 0.9 | 2.9 | 2.0 | 3.2 | 2.3 | 1.4 | 0.5 | 1.7 | 0.8 | 2.2 | 1.3 | 3.0 | 2.1 | 3.2 | 2.3 | 3.8 |
| | 宇田郷漁港 | 1.8 | 0.9 | 3.5 | 2.6 | 3.1 | 2.2 | 1.5 | 0.6 | 1.4 | 0.5 | 2.1 | 1.2 | 3.8 | 2.9 | 3.8 | 2.9 | |

**漁港別最大津波水位の最大値は、**
**対馬海盆南方断層で見島漁港における7.0m**

・海岸線から沖合約30m地点における津波の水位
・小数点以下第２位を切り上げ

# 試算結果

**本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。**

## 漁港別最大津波水位（前回想定における想定地震との比較）

- 前回想定の最大値　**6.0m**（見島北方沖西部断層）
- 今回想定の最大値　**7.0m**（対馬海盆南方断層）←

**山口県に対して、より影響の大きい断層に変更したため、最大値が前回想定よりも大きくなった。**

表-10　漁港別最大津波水位の前回想定との比較

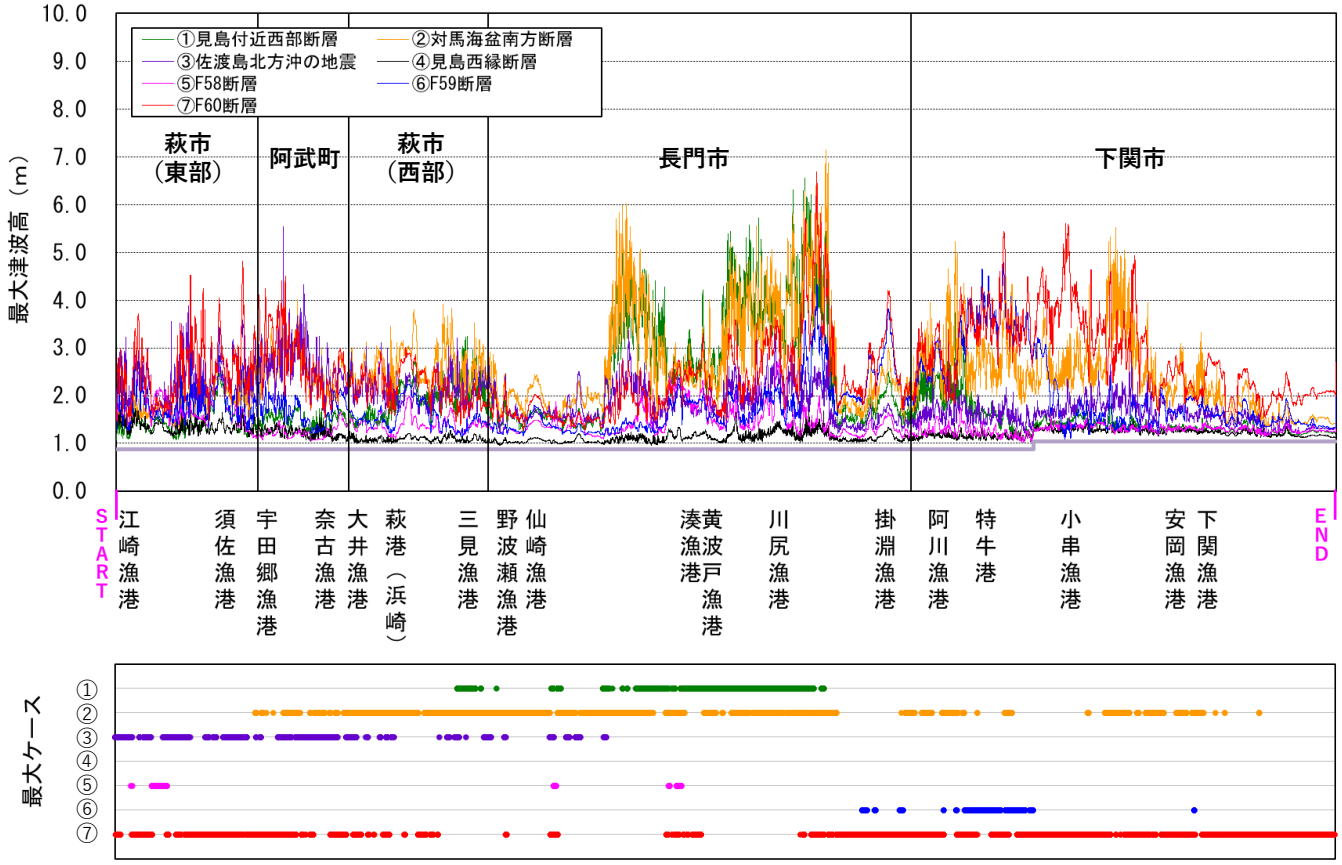
| 市町 | 代表地点名 | 見島付近西部断層 | | | | 見島北方沖西部断層 | | 対馬海盆南方断層 | | F60断層 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 前回想定 | | 今回想定 | | 前回想定 | | 今回想定 | | 前回想定 | | 今回想定 | |
| | | 最高津波水位(m) | うち津波波高(m) | 最高津波水位(m) | うち津波波高(m) | 最高津波水位(m) | うち津波波高(m) | 最高津波水位(m) | うち津波波高(m) | 最高津波水位(m) | うち津波波高(m) | 最高津波水位(m) | うち津波波高(m) |
| 下関市 | 下関漁港 | 2.1 | 1.0 | 1.6 | 0.6 | 2.0 | 0.9 | 2.8 | 1.8 | 2.7 | 1.6 | 2.9 | 1.9 |
| | 安岡漁港 | 2.2 | 1.1 | 1.5 | 0.5 | 2.2 | 1.1 | 3.1 | 2.1 | 2.7 | 1.7 | 2.9 | 1.9 |
| | 小串漁港 | 2.4 | 1.4 | 1.7 | 0.7 | 2.4 | 1.3 | 3.2 | 2.2 | 4.4 | 3.4 | 4.4 | 3.4 |
| | 特牛港 | 2.2 | 1.3 | 1.8 | 0.9 | 2.1 | 1.2 | 3.3 | 2.4 | 3.9 | 3.0 | 4.2 | 3.3 |
| | 角島港 | 1.9 | 1.0 | 1.7 | 0.8 | 2.4 | 1.5 | 3.7 | 2.8 | 3.8 | 2.9 | 4.1 | 3.2 |
| | 阿川漁港 | 2.7 | 1.8 | 2.7 | 1.8 | 2.4 | 1.5 | 3.5 | 2.6 | 3.5 | 2.6 | 3.6 | 2.7 |
| 長門市 | 掛淵漁港 | 2.5 | 1.6 | 2.5 | 1.6 | 1.9 | 1.0 | 3.1 | 2.2 | 4.2 | 3.3 | 4.3 | 3.4 |
| | 川尻漁港 | 4.4 | 3.5 | 4.1 | 3.2 | 3.3 | 2.4 | 4.6 | 3.7 | 3.3 | 2.4 | 3.5 | 2.6 |
| | 黄波戸漁港 | 3.1 | 2.2 | 3.0 | 2.1 | 2.1 | 1.2 | 2.7 | 1.8 | 2.0 | 1.1 | 2.0 | 1.1 |
| | 湊漁港 | 2.9 | 2.0 | 2.9 | 2.0 | 2.0 | 1.1 | 2.7 | 1.8 | 2.6 | 1.7 | 2.6 | 1.7 |
| | 仙崎漁港 | 2.9 | 2.1 | 2.9 | 2.0 | 2.4 | 1.5 | 3.2 | 2.3 | 2.8 | 1.9 | 2.8 | 1.9 |
| | 野波瀬漁港 | 1.9 | 1.0 | 1.8 | 0.9 | 2.0 | 1.1 | 2.2 | 1.3 | 1.6 | 0.8 | 1.8 | 0.9 |
| 萩市 | 三見漁港 | 3.8 | 2.9 | 3.3 | 2.4 | 3.3 | 2.4 | 3.6 | 2.7 | 2.3 | 1.4 | 2.4 | 1.5 |
| | 萩港（浜崎） | 3.0 | 2.1 | 2.9 | 2.0 | 2.9 | 2.1 | 3.8 | 2.9 | 3.0 | 2.1 | 3.1 | 2.2 |
| | 大井漁港 | 2.8 | 1.9 | 1.9 | 1.0 | 3.8 | 2.9 | 3.2 | 2.3 | 2.7 | 1.8 | 2.7 | 1.8 |
| | 見島漁港 | 1.7 | 1.2 | 1.8 | 1.2 | 6.0 | 5.5 | 7.0 | 6.4 | 3.4 | 2.9 | 3.0 | 2.4 |
| | 須佐漁港 | 2.6 | 1.7 | 1.8 | 0.9 | 2.6 | 1.7 | 2.7 | 1.8 | 3.4 | 2.5 | 3.1 | 2.2 |
| | 江崎漁港 | 2.8 | 1.9 | 2.0 | 1.1 | 4.0 | 3.2 | 2.1 | 1.2 | 3.4 | 2.6 | 3.8 | 2.9 |
| 阿武町 | 奈古漁港 | 3.4 | 2.5 | 1.8 | 0.9 | 3.6 | 2.7 | 2.9 | 2.0 | 3.0 | 2.1 | 3.0 | 2.1 |
| | 宇田郷漁港 | 3.5 | 2.6 | 1.8 | 0.9 | 3.6 | 2.7 | 3.5 | 2.6 | 4.1 | 3.2 | 3.8 | 2.9 |

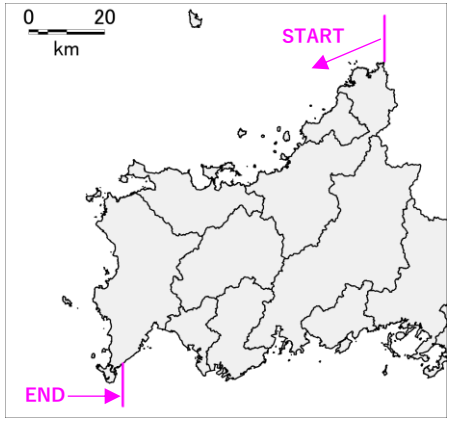
・海岸線から沖合約30m地点における津波の水位　・小数点以下第２位を切り上げ

# 試算結果

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 沿岸の津波高さ




最大ケースとなる地点多数
①見島付近西部断層
②対馬海盆南方断層
⑦F60断層

最大ケースが限定的
③佐渡島北方沖の地震
：崖地や背後地盤高が高い
⑤F58断層：江崎漁港
⑥F59断層：特牛港周辺

最大ケースなし
④見島西縁断層

図-16　沿岸津波高分布

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 最大津波高発生地点の特性（佐渡島北方沖の地震）

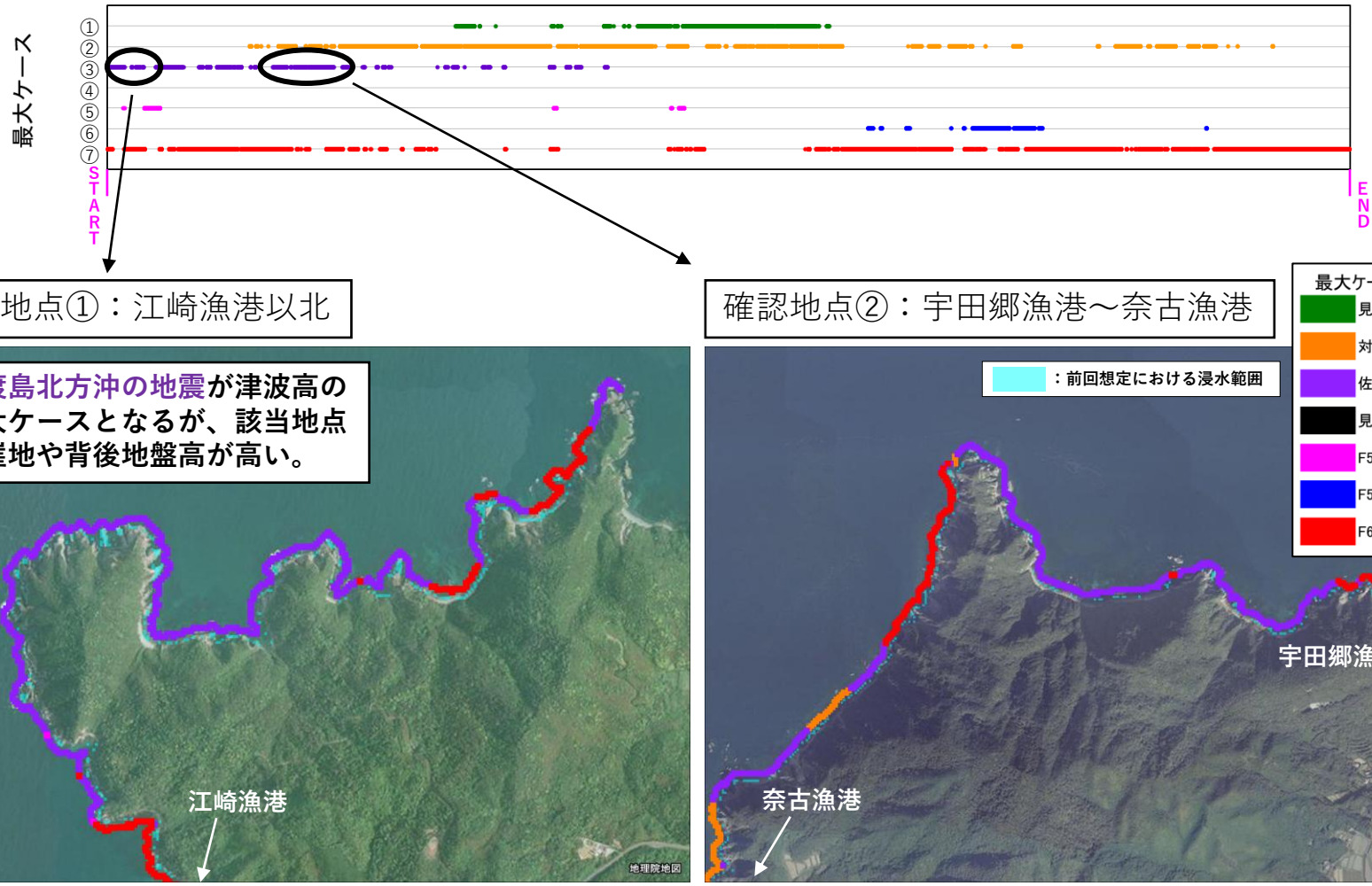
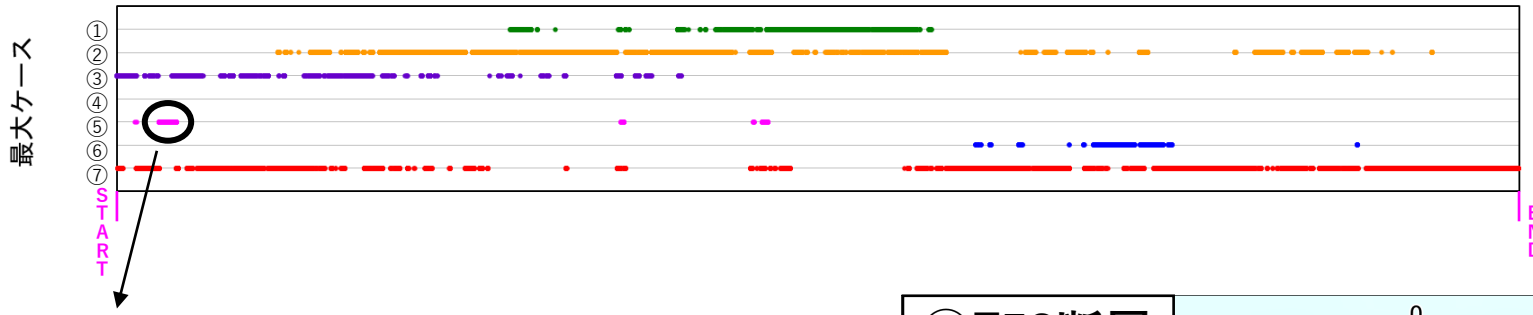


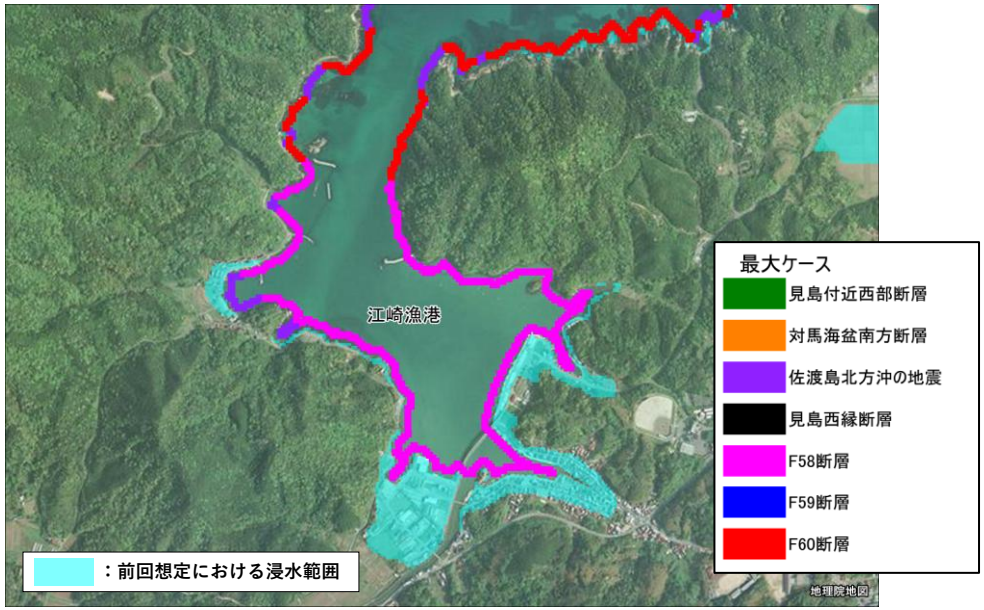

図-17　最大津波高発生地点の特性（佐渡島北方沖の地震）

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 最大津波高発生地点の特性（佐渡島北方沖の地震）




確認地点③：江崎漁港



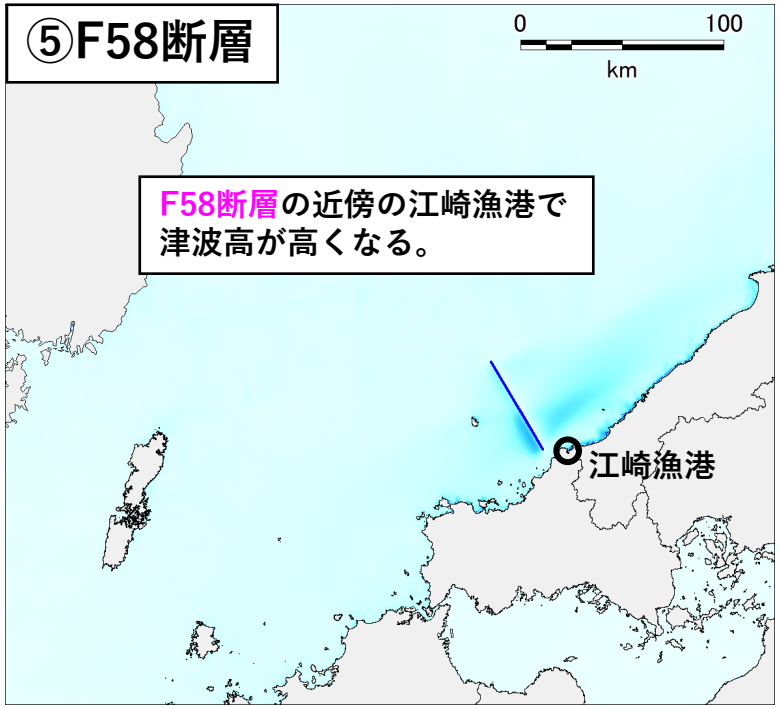
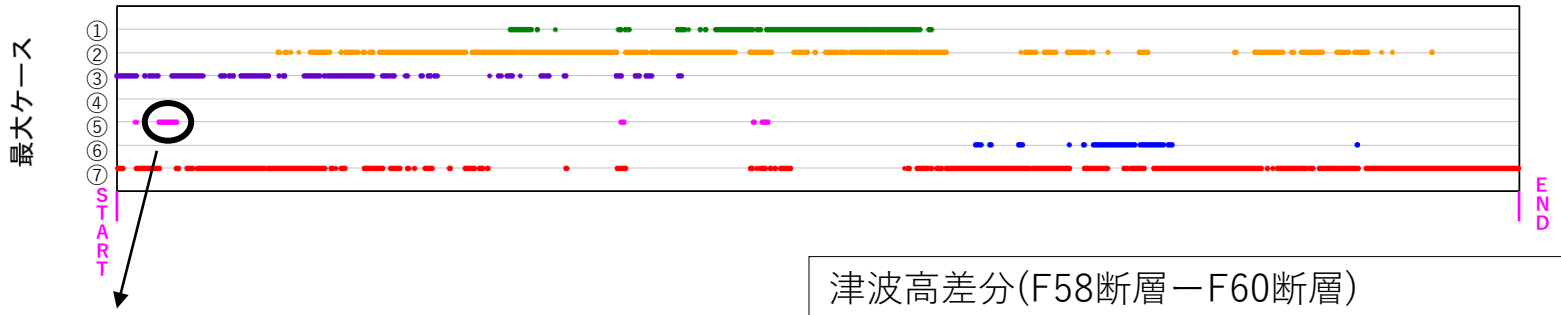




図-18　最大津波高発生地点（F58断層）

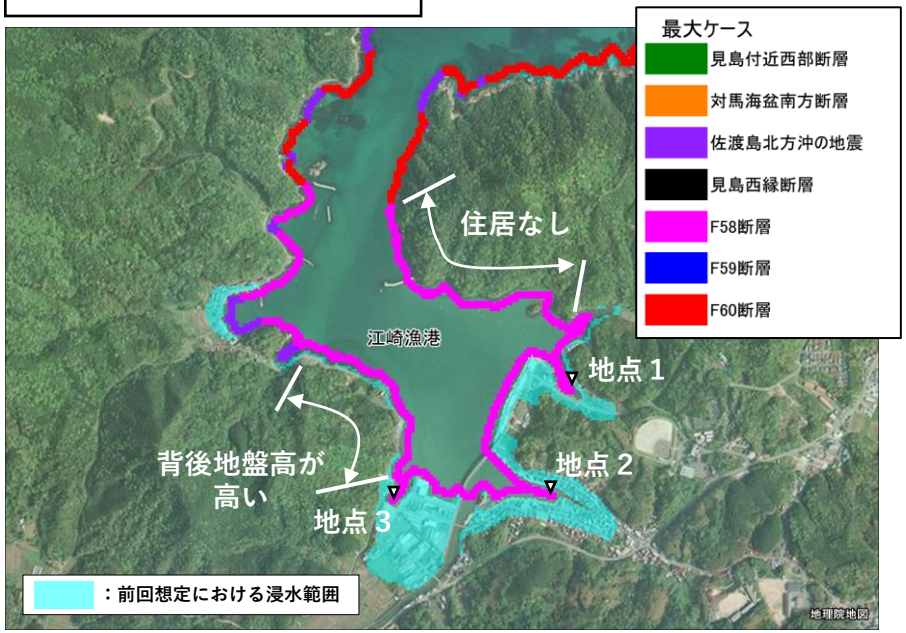
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 最大津波高発生地点の特性（佐渡島北方沖の地震）




確認地点③：江崎漁港

津波高差分(F58断層－F60断層)
地点１：約20cm　地点２：約22cm　地点３：約30cm



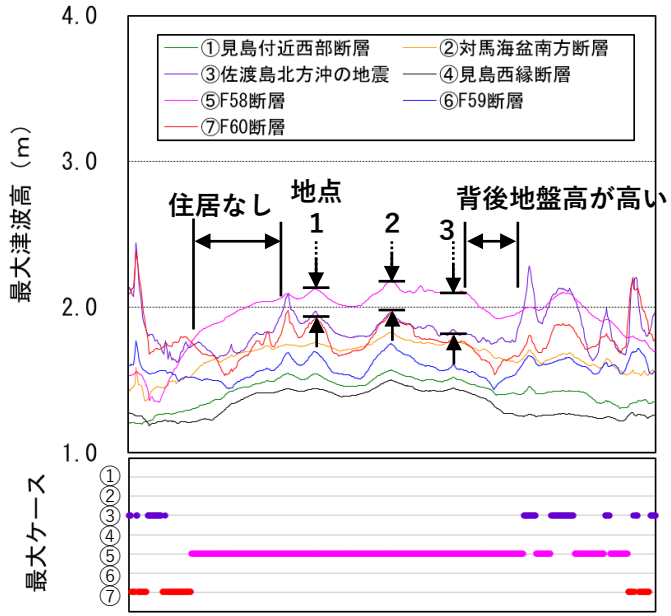
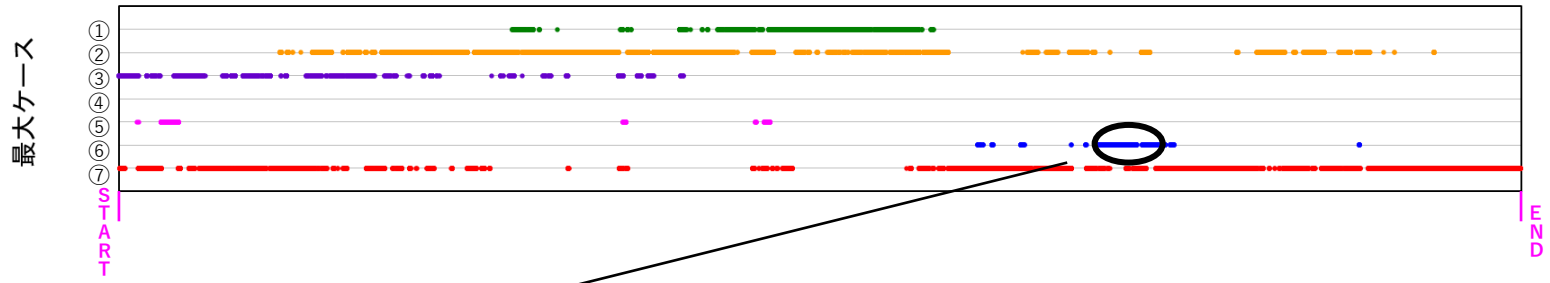



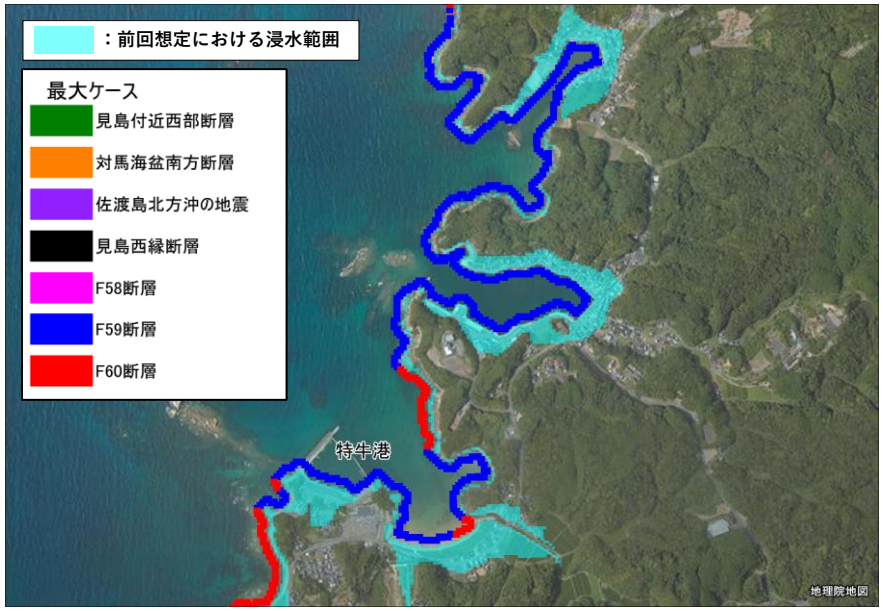

図-19　最大津波高発生地点（F58断層）

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 最大津波高発生地点の特性（佐渡島北方沖の地震）




確認地点④：特牛港



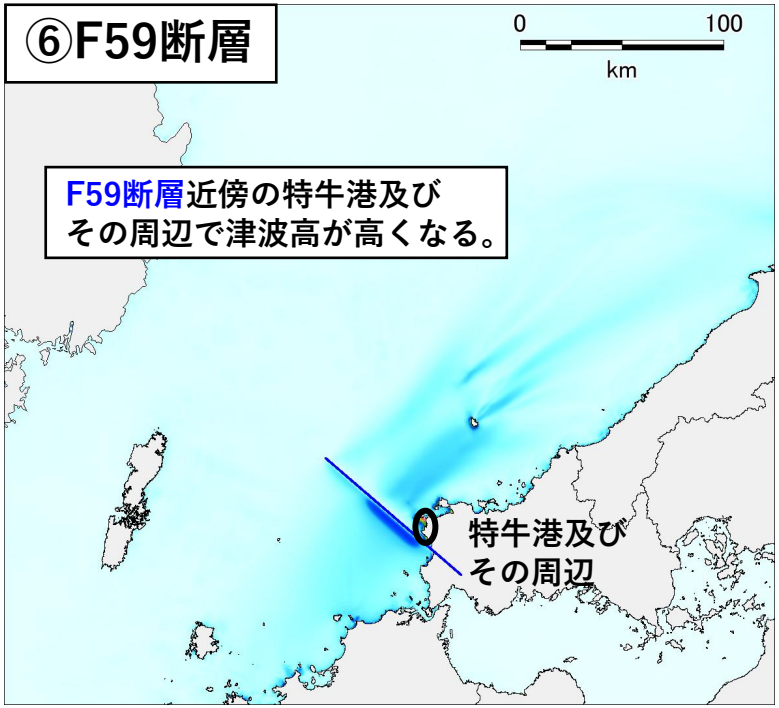
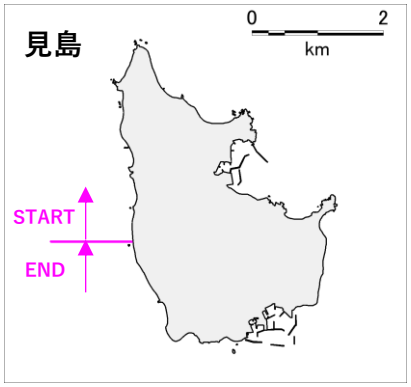



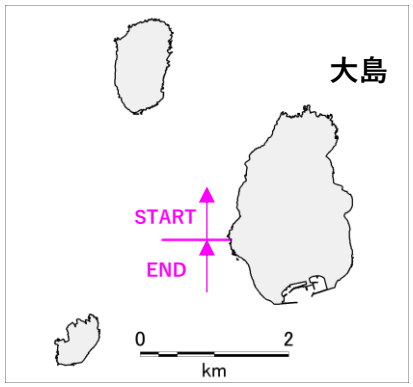

図-20　最大津波高発生地点（F59断層）

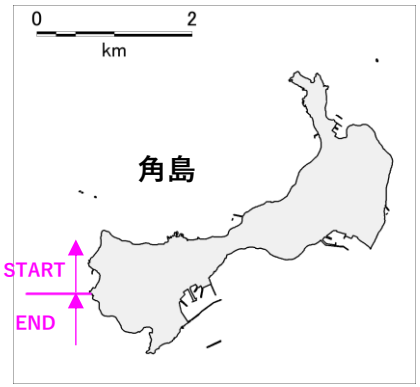
# 試算結果

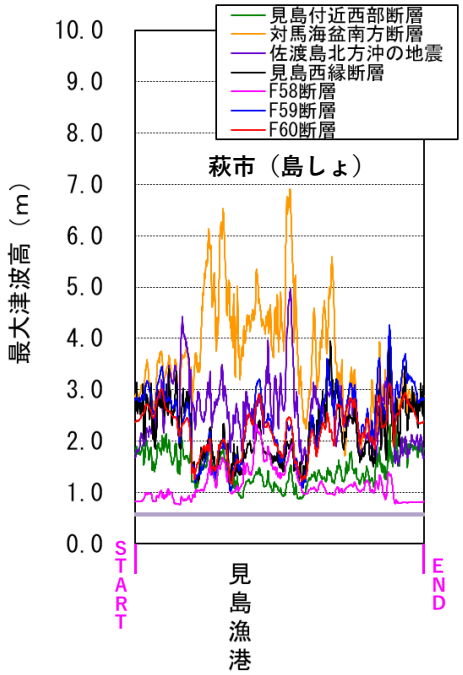
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

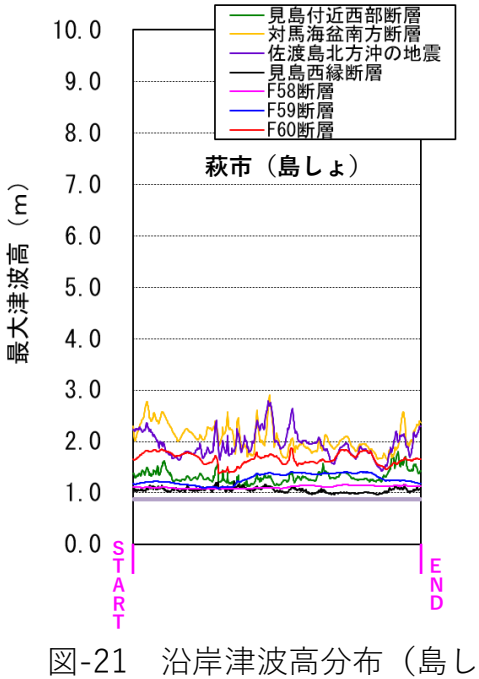
## 沿岸の津波高さ（島しょ）



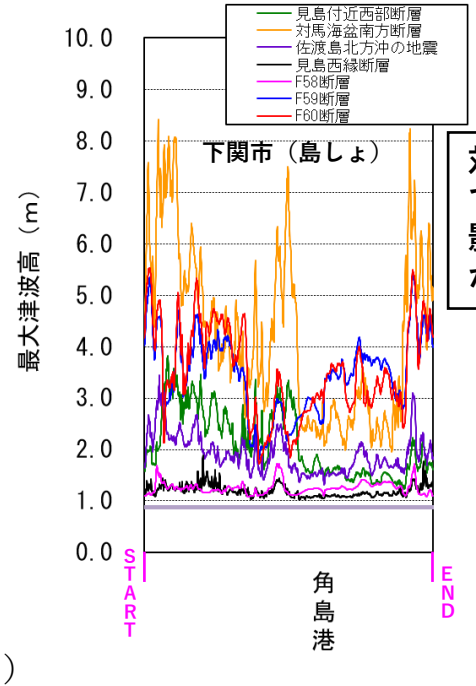




図-21　沿岸津波高分布（島しょ）

対馬海盆南方断層では、海底地形の影響で角島に津波が集まりやすい。

# 今後の方針

# 今後の方針

- 本計算に向けた計算データの作成・修正
  - 5mメッシュのデータ整理
  - 粗度データの整理
  - 堤防データの整理
- 浸水の算出
  - 浸水範囲、浸水面積、津波到達時間　等
- 本計算
  - 津波浸水想定図の作成に向けた本計算の実施

# 参考資料

# 河川遡上を考慮する
# 中小河川の選定について（詳細）

# 対象とする河川の順位付け

**津波影響範囲へ流下する41河川（河口幅15m以上）（一級河川、二級河川、その他河川）を抽出し、対象とする河川を選定**

⇒以下の10項目で得点付けを行って総合得点を算出し、影響度が大きいと想定される河川を優先的に選定（各項目10点満点で、 合計100点満点で算出）

①前回想定にて河床標高のモデル化を行った河川

測量、縦横断、台帳などデータを元にモデル化・・ 10点

周辺地盤高-3mでモデル化・・・・・・・・・・・・ 5点

モデル化対象外・・・・・・・ 0点

②前回想定にて周辺での浸水が認められた河川

浸水あり・・・・・・・・・・ 10点

浸水なし・・・・・・・・・・ 0点

③前回想定にて上流端流量が大きいとされた河川

得点=満点（10点）×（当該河川の上流端流量／上流端流量の最大値）

# 対象とする河川の順位付け

**津波影響範囲へ流下する41河川（河口幅15m以上）（一級河川、二級河川、その他河川）を抽出し、対象とする河川を選定**

⇒以下の10項目で得点付けを行って総合得点を算出し、影響度が大きいと想定される河川を優先的に選定（各項目10点満点で、 合計100点満点で算出）

④河川整備基本方針が策定されている河川

策定済・・・・・・・・・・・・ 10点

未策定・・・・・・・・・・・・ 0点

⑤河川整備計画が策定されている河川

策定済・・・・・・・・・・・・ 10点

未策定・・・・・・・・・・・・ 0点

⑥人口集中地区（DID地区）を流下する河川

人口集中地区を流下する・・・ 10点

人口集中地区を流下しない・・ 0点

⑦流路延長距離が大きい河川

得点=満点（10点）×（当該河川の流路延長距離／流路延長距離の最大値）

# 対象とする河川の順位付け

**津波影響範囲へ流下する41河川（河口幅15m以上）（一級河川、二級河川、その他河川）を抽出し、対象とする河川を選定**

⇒以下の10項目で得点付けを行って総合得点を算出し、影響度が大きいと想定される河川を優先的に選定（各項目10点満点で、 合計100点満点で算出）

⑧流域面積が大きい河川

得点=満点（10点）×（当該河川の流域面積／流域面積の最大値）

⑨河口幅が大きい河川

得点=満点（10点）×（当該河川の河口幅／河口幅の最大値）

⑩洪水浸水想定を実施している河川

全区域で実施・・・・・・・・ 10点

一部区域で実施・・・・・・・ 5点

実施していない・・・・・・・ 0点

# 対象とする河川（今回）（案）

➢総合得点を算出し、影響度が大きいと想定される河川を優先的に選定
（各項目10点満点で、合計100点満点で算出）

得点内訳

【参考】表-1　総合得点順により選定した河川の得点内訳（1～20位までを表示）

| 河川の等級 | 水系名 | 河川名 | モデル化優先順位（日本海側） | 総合得点 | 前回浸水想定時の河床標高モデル化 | 前回浸水想定の浸水の有無 | 前回浸水想定時の上流端流量(m3/s) | 基本方針 | 整備計画 | 人口集中地区の流下 | 流路延長（m） | 流域面積（km2） | 河口幅（m） | 洪水浸水想定実施状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2級河川 | 阿武川水系 | 阿武川（橋本川） | 1 | 82.24 | ○ | ○ | 9.07 | ○ | ○ | ○ | 5,000 | 694.8 | 56 | ○ |
| 2級河川 | 阿武川水系 | 阿武川（松本川） | 2 | 80.60 | △ | ○ | 3.89 | ○ | ○ | ○ | 82,200 | 694.8 | 45 | ○ |
| 2級河川 | 三隅川水系 | 三隅川 | 3 | 64.44 | ○ | ○ | 1.72 | ○ | ○ | | 13,930 | 58.9 | 343 | ○ |
| 2級河川 | 深川川水系 | 深川川 | 4 | 57.67 | ○ | ○ | 2.09 | ○ | ○ | | 16,040 | 67.2 | 84 | ○ |
| 2級河川 | 友田川水系 | 友田川 | 5 | 56.82 | △ | ○ | 0.15 | ○ | ○ | ○ | 4,100 | 9.3 | 35 | ○ |
| 2級河川 | 阿武川水系 | 新川 | 6 | 55.97 | △ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 800 | 694.8 | 30 | |
| 2級河川 | 綾羅木川水系 | 綾羅木川 | 7 | 54.40 | ○ | × | 0.62 | ○ | ○ | ○ | 9,500 | 37.9 | 69 | ○ |
| 2級河川 | 田万川水系 | 田万川 | 8 | 53.71 | △ | ○ | 2.11 | ○ | ○ | | 28,860 | 122.5 | 38 | ○ |
| 2級河川 | 阿武川水系 | 玉江川 | 9 | 51.17 | × | × | | ○ | ○ | ○ | 4,100 | 694.8 | 23 | ○ |
| 2級河川 | 須佐川水系 | 須佐川 | 10 | 46.93 | △ | ○ | 0.25 | ○ | ○ | | 4,800 | 13.5 | 30 | ○ |
| 2級河川 | 粟野川水系 | 粟野川 | 11 | 43.16 | ○ | ○ | 3.05 | | | | 29,760 | 185.9 | 120 | ○ |
| 2級河川 | 阿武川水系 | 月見川 | 12 | 41.00 | × | × | | ○ | ○ | ○ | 1,480 | 694.8 | 28 | |
| 2級河川 | 掛淵川水系 | 掛淵川 | 13 | 39.28 | ○ | ○ | 1.91 | | | | 12,950 | 142.1 | 122 | ○ |
| 2級河川 | 川棚川水系 | 川棚川 | 14 | 33.53 | ○ | ○ | 0.43 | | | | 8,580 | 26.2 | 56 | ○ |
| 2級河川 | 掛淵川水系 | 大坊川 | 15 | 29.98 | △ | ○ | 0.59 | | | | 7,500 | 142.1 | 47 | ○ |
| 2級河川 | 郷川水系 | 郷川 | 16 | 28.22 | △ | ○ | 0.33 | | | | 9,330 | 22.1 | 48 | ○ |
| 2級河川 | 大井川水系 | 大井川 | 17 | 24.91 | △ | × | 2.24 | | | | 36,400 | 122.0 | 43 | ○ |
| 2級河川 | 田万川水系 | 市味川 | 18 | 22.68 | × | × | 0.06 | ○ | ○ | | 2,000 | 122.5 | 21 | |
| 2級河川 | 西田川水系 | 西田川 | 19 | 22.32 | ○ | ○ | 0.14 | | | | 3,600 | 8.6 | 55 | |
| 2級河川 | 三隅川水系 | 姫田川 | 20 | 21.73 | × | × | 0.11 | ○ | ○ | | 1,700 | 58.9 | 19 | |

# 対象とする河川（今回）（案）

➢総合得点を算出し、影響度が大きいと想定される河川を優先的に選定
（各項目10点満点で、合計100点満点で算出）

得点内訳

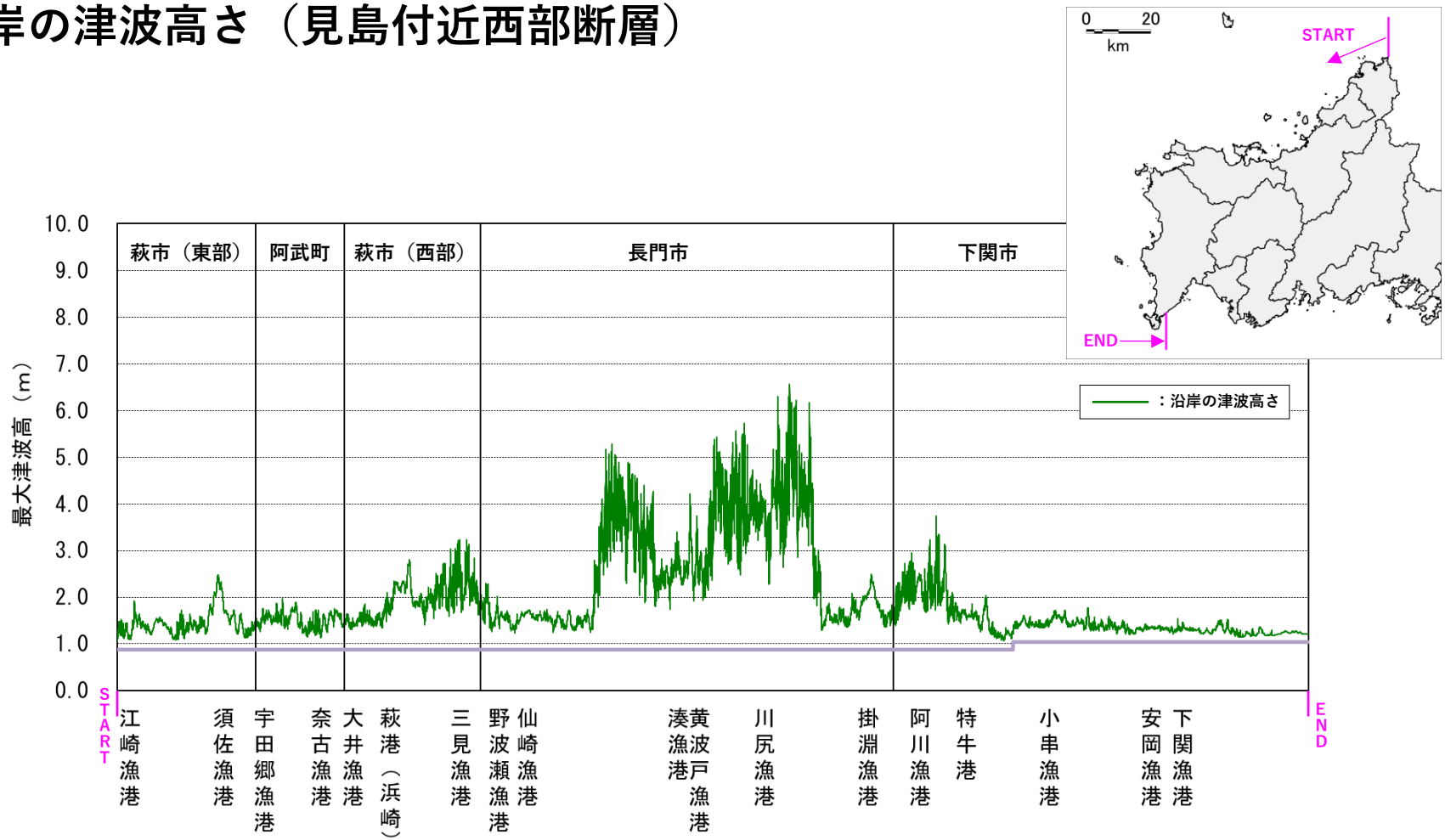
【参考】表-2　総合得点順により選定した河川の得点内訳（21～41位までを表示）

| 河川の等級 | 水系名 | 河川名 | モデル化優先順位（日本海側） | 総合得点 | 前回浸水想定時の河床標高モデル化 | 前回浸水想定の浸水の有無 | 前回浸水想定時の上流端流量(m3/s) | 基本方針 | 整備計画 | 人口集中地区の流下 | 流路延長（m） | 流域面積（km2） | 河口幅（m） | 洪水浸水想定実施状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2級河川 | 梶栗川水系 | 梶栗川 | 21 | 20.79 | × | ○ | | | | ○ | 1,500 | 4.0 | 19 | |
| 2級河川 | 江津川水系 | 江津川 | 22 | 17.76 | △ | ○ | 0.26 | | | | 8,100 | 14.1 | 44 | |
| 2級河川 | 黒井川水系 | 黒井川 | 23 | 17.35 | △ | ○ | 0.24 | | | | 4,200 | 14.4 | 47 | |
| 2級河川 | 吉永川水系 | 吉永川 | 24 | 17.18 | △ | ○ | 0.12 | | | | 4,200 | 7.3 | 49 | |
| 2級河川 | 白須川水系 | 白須川 | 25 | 16.87 | △ | ○ | 0.17 | | | | 3,100 | 9.4 | 40 | |
| 2級河川 | 浅井川水系 | 浅井川 | 26 | 16.62 | △ | ○ | | | | | 1,700 | 2.7 | 47 | |
| 2級河川 | 沖田川水系 | 沖田川 | 27 | 11.50 | × | ○ | 0.19 | | | | 4,400 | 11.7 | 20 | |
| | | 沖田川 | 27 | 11.50 | × | ○ | | | | | | | 24 | |
| 2級河川 | 庄屋川水系 | 庄屋川 | 28 | 11.37 | × | ○ | | | | | 5,200 | 10.4 | 20 | |
| 2級河川 | 宇田川水系 | 宇田川 | 29 | 11.34 | × | ○ | 0.16 | | | | 3,000 | 8.9 | 23 | |
| 2級河川 | 永田川水系 | 永田川 | 30 | 11.26 | × | ○ | 0.09 | | | | 2,200 | 5.5 | 28 | |
| 2級河川 | 矢玉川水系 | 矢玉川 | 31 | 11.21 | × | ○ | 0.16 | | | | 2,800 | 10.0 | 19 | |
| 2級河川 | 浅田川水系 | 浅田川 | 32 | 11.04 | × | ○ | 0.1 | | | | 2,000 | 3.3 | 22 | |
| 2級河川 | 二見川水系 | 二見川 | 33 | 11.04 | × | ○ | | | | | 2,380 | 9.3 | 21 | |
| 2級河川 | 草場川水系 | 草場川 | 34 | 10.96 | × | ○ | | | | | 1,500 | 3.4 | 25 | |
| 2級河川 | 津田川水系 | 津田川 | 35 | 10.89 | × | ○ | | | | | 3,200 | 2.4 | 16 | |
| 2級河川 | 浅井川水系 | 千ヶ場川 | 37 | 10.68 | × | ○ | | | | | 1,400 | 2.7 | 16 | |
| | | 赤崎川 | 38 | 10.67 | × | ○ | 0 | | | | | | 23 | |
| | | 沼川 | 39 | 10.50 | × | ○ | | | | | | | 17 | |
| | | 帆柱川 | 40 | 10.47 | × | ○ | | | | | | | 16 | |
| 2級河川 | 掛淵川水系 | 久富川 | 41 | 8.87 | △ | × | 0.26 | | | | 4,000 | 142.1 | 36 | |

# 試算結果

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 沿岸の津波高さ（見島付近西部断層）

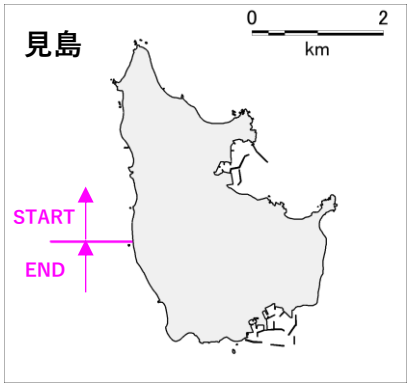


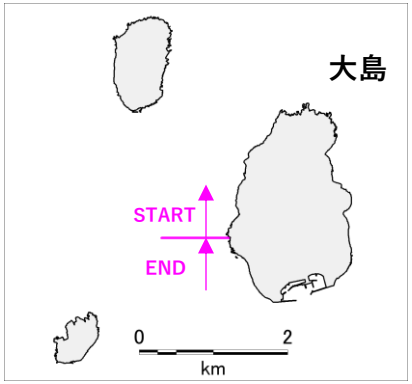

【参考】図-1　沿岸津波高分布（見島付近西部断層）

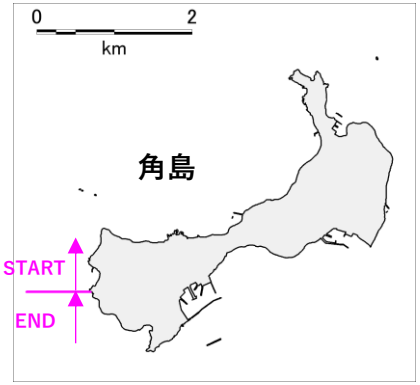
# 試算結果

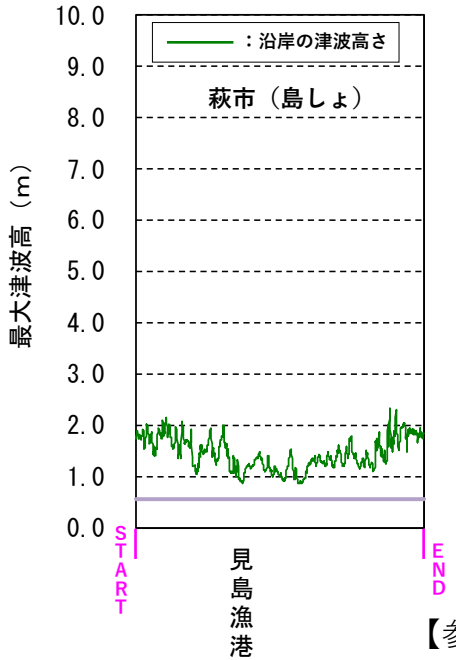
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

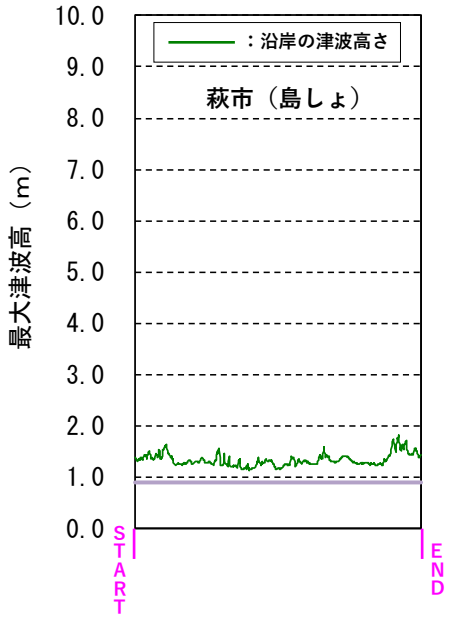
## 沿岸の津波高さ（見島付近西部断層・島しょ）

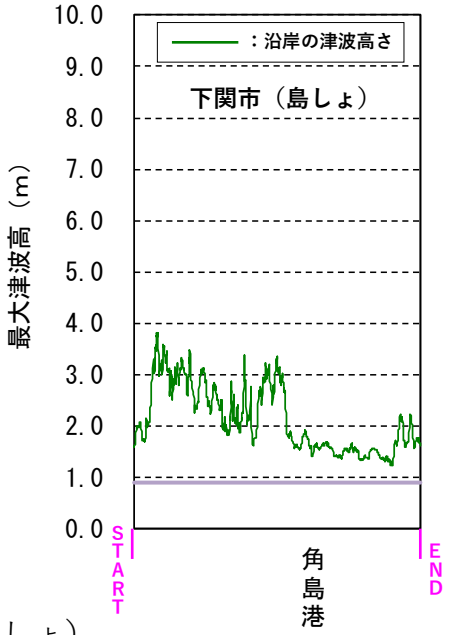


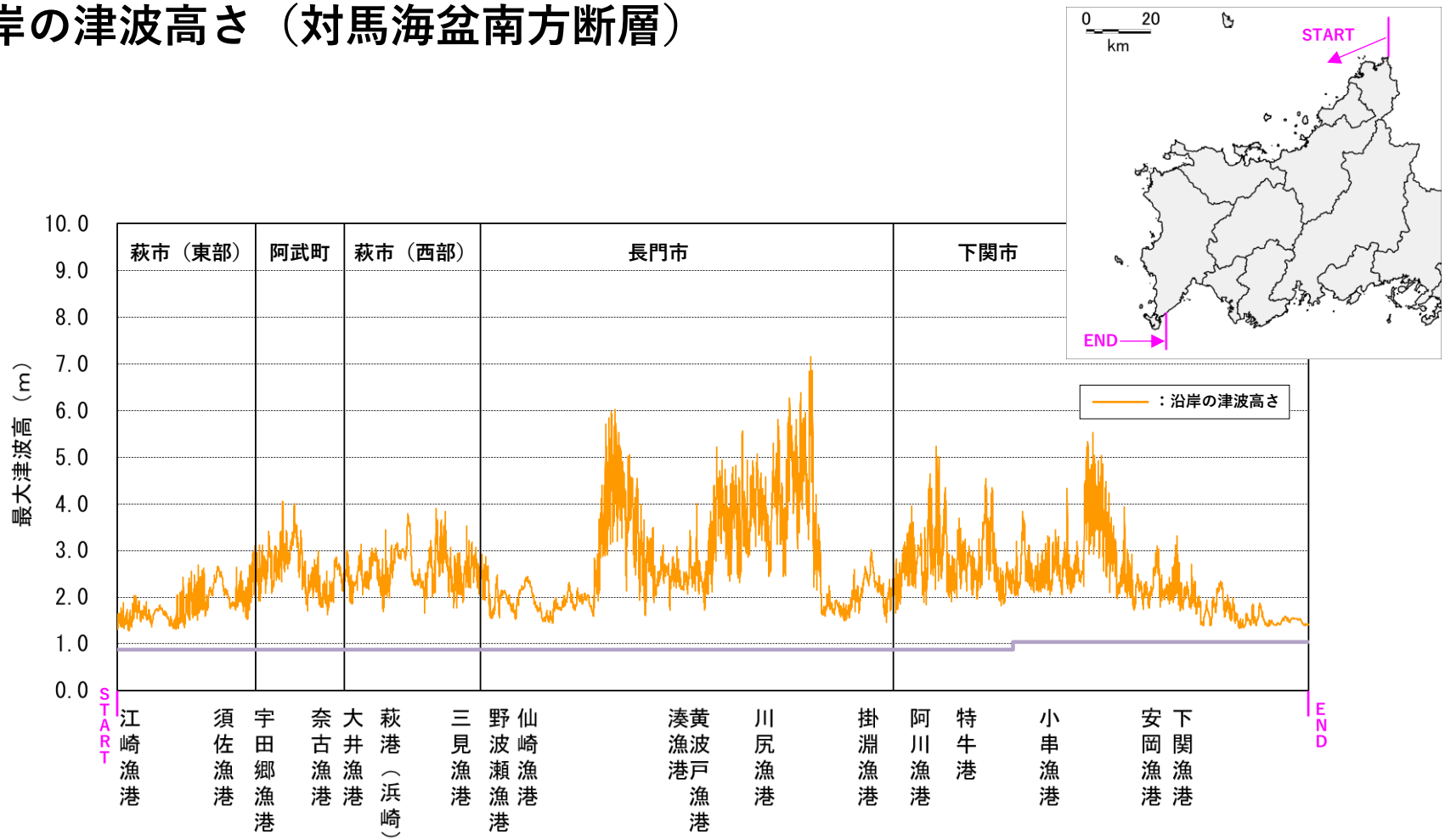




【参考】図-2　沿岸津波高分布（見島付近西部断層、島しょ）

# 試算結果

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 沿岸の津波高さ（対馬海盆南方断層）

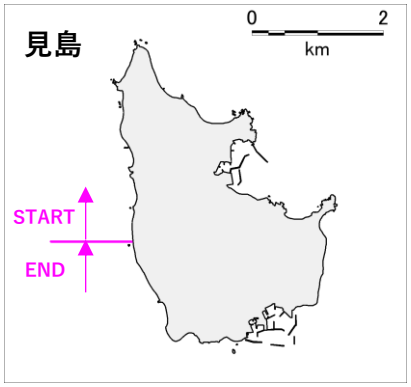


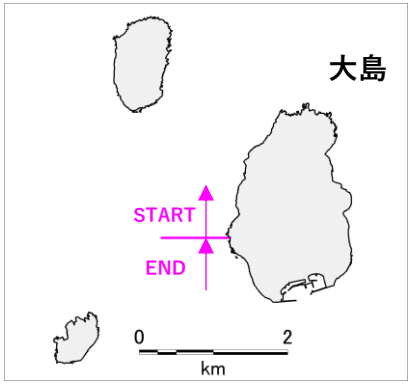

【参考】図-3　沿岸津波高分布（対馬海盆南方断層）

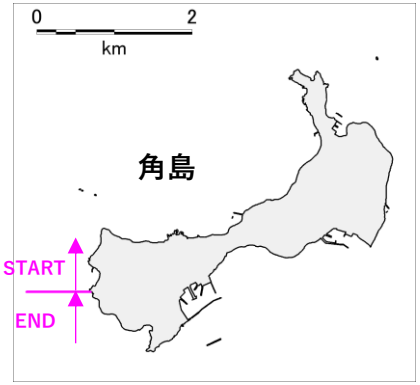
# 試算結果

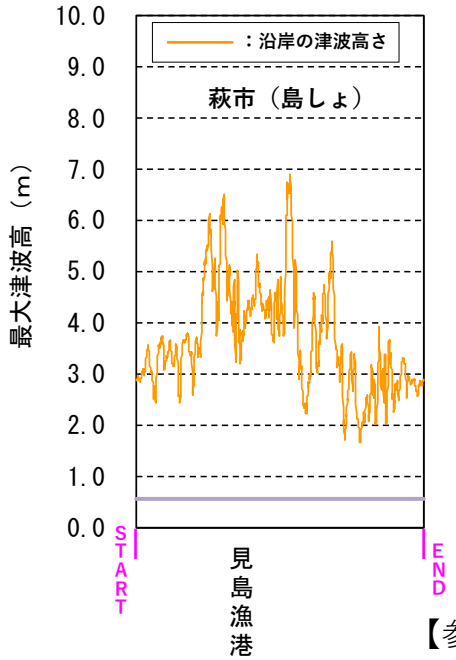
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

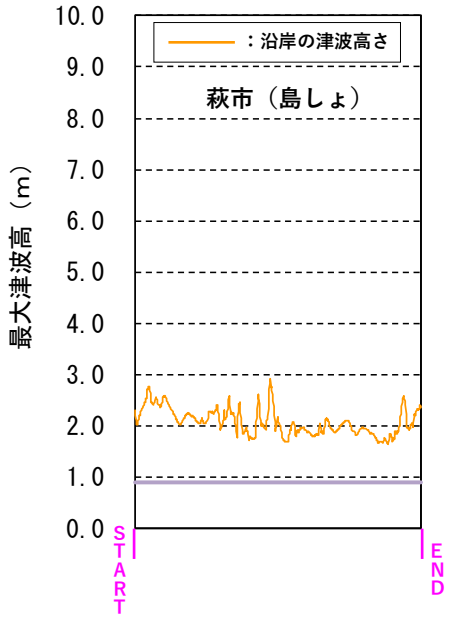
## 沿岸の津波高さ（対馬海盆南方断層・島しょ）

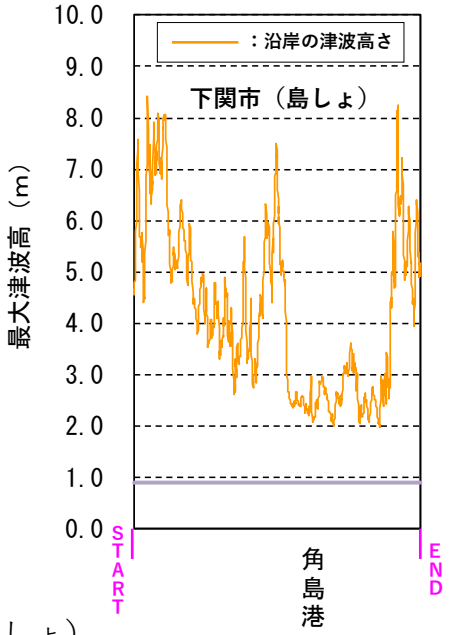


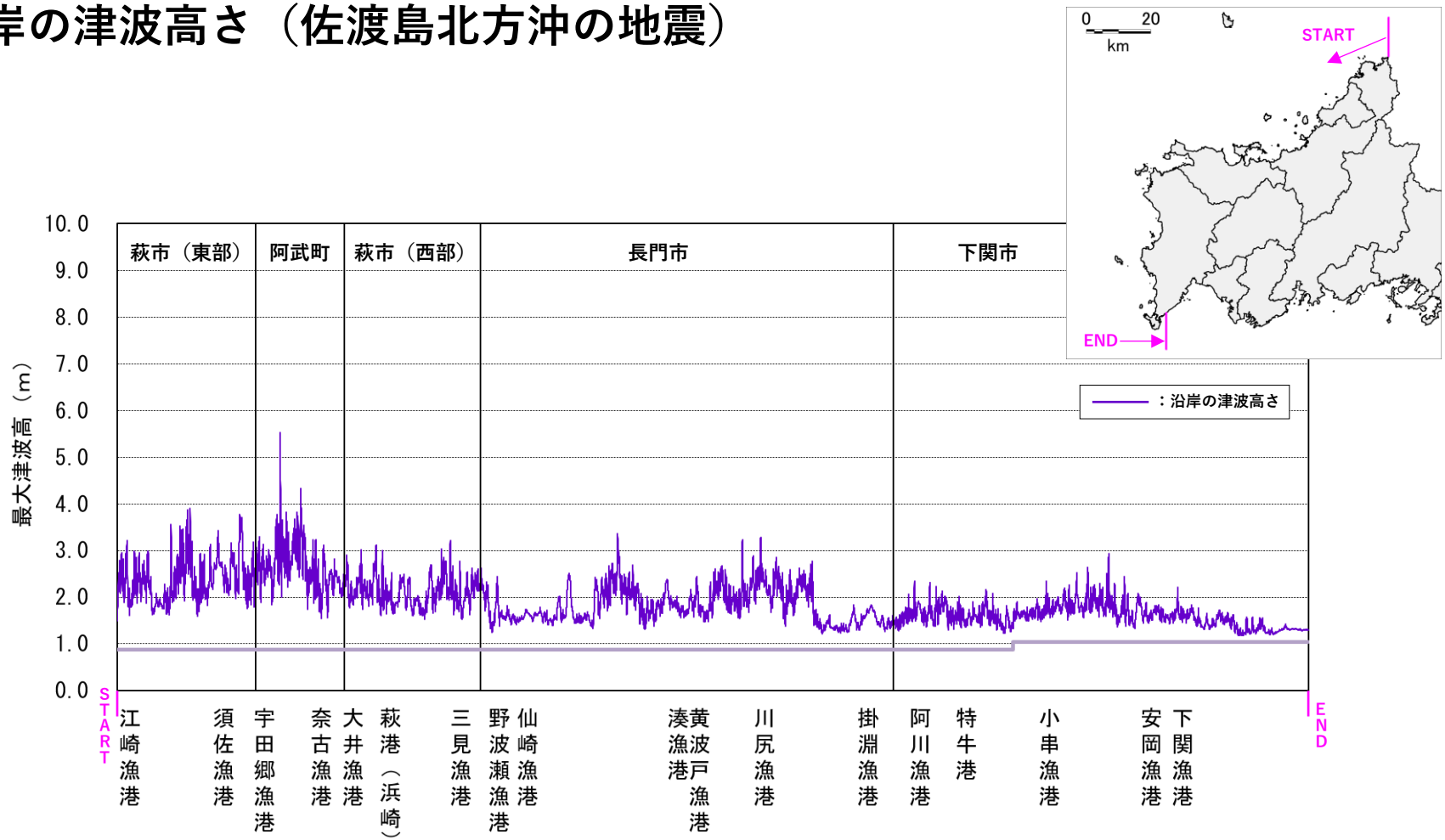




【参考】図-4　沿岸津波高分布（対馬海盆南方断層、島しょ）

# 試算結果

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 沿岸の津波高さ（佐渡島北方沖の地震）

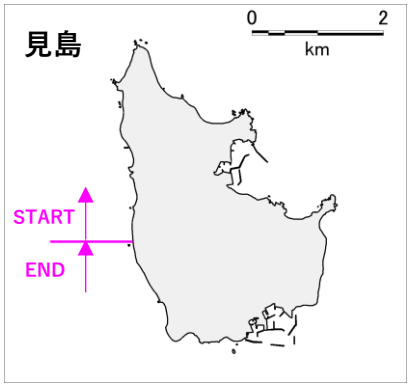


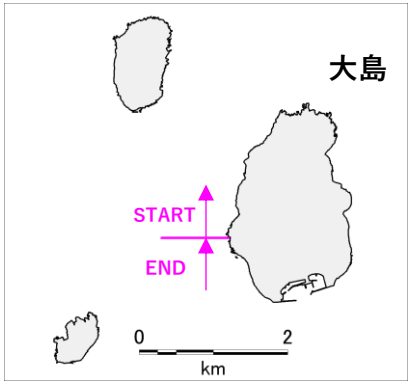

【参考】図-5　沿岸津波高分布（佐渡島北方沖の地震）

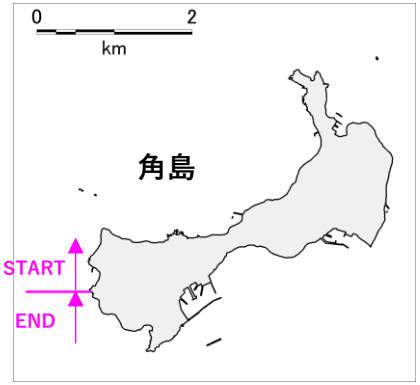
# 試算結果

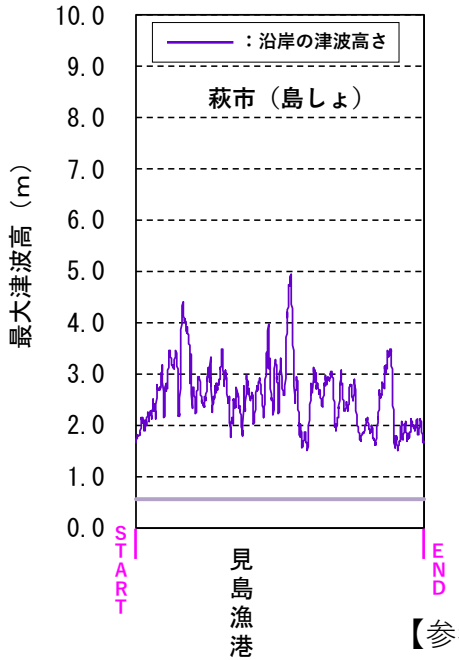
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

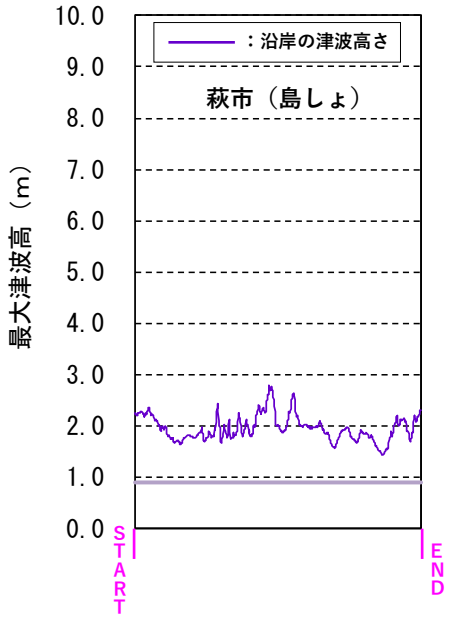
## 沿岸の津波高さ（佐渡島北方沖の地震・島しょ）

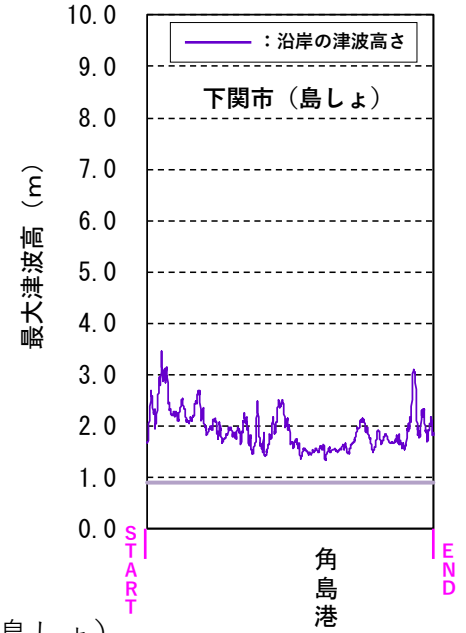


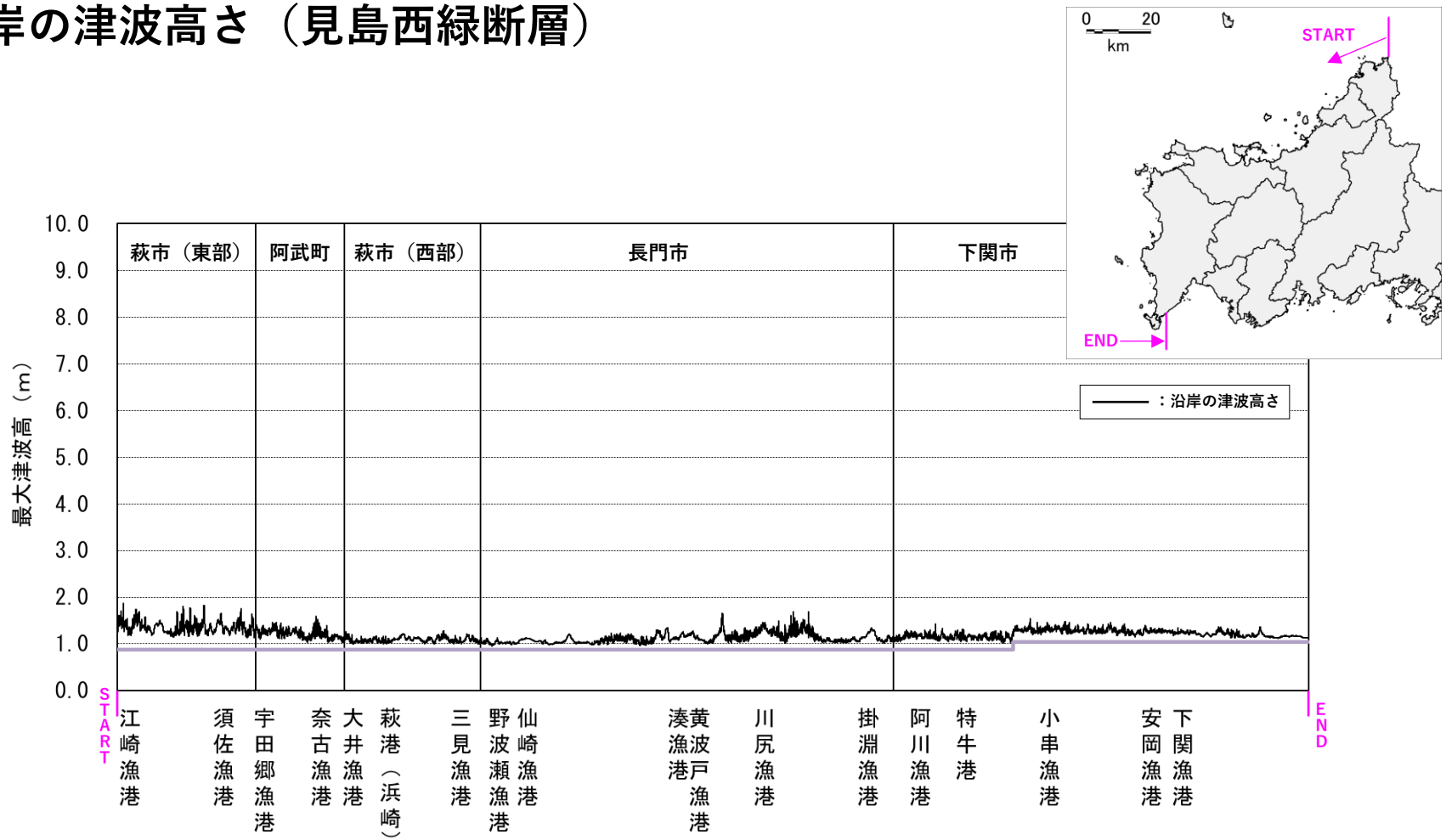




【参考】図-6　沿岸津波高分布（佐渡島北方沖の地震、島しょ）

# 試算結果

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 沿岸の津波高さ（見島西緑断層）

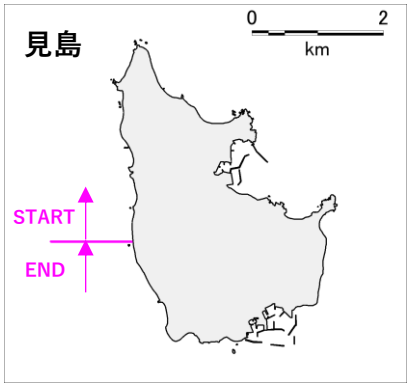


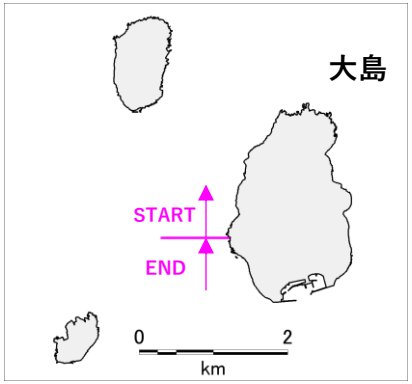

【参考】図-7　沿岸津波高分布（見島西緑断層）

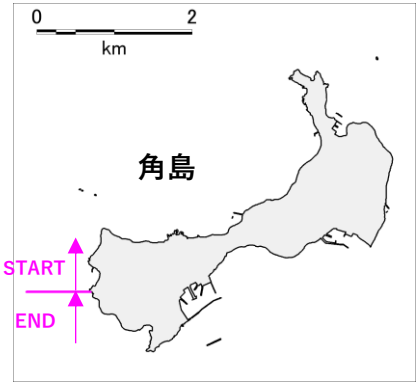
# 試算結果

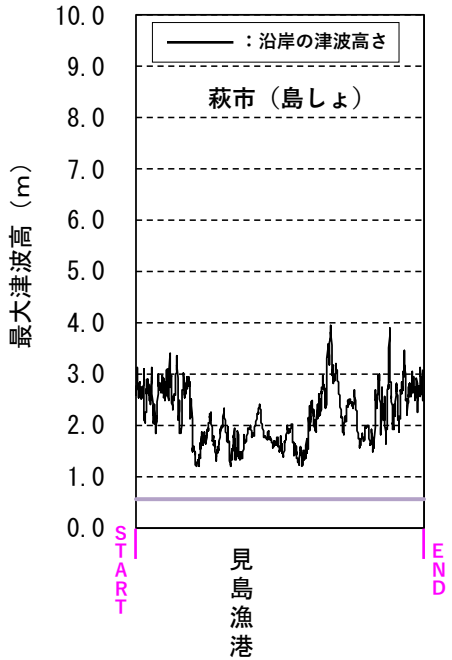
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

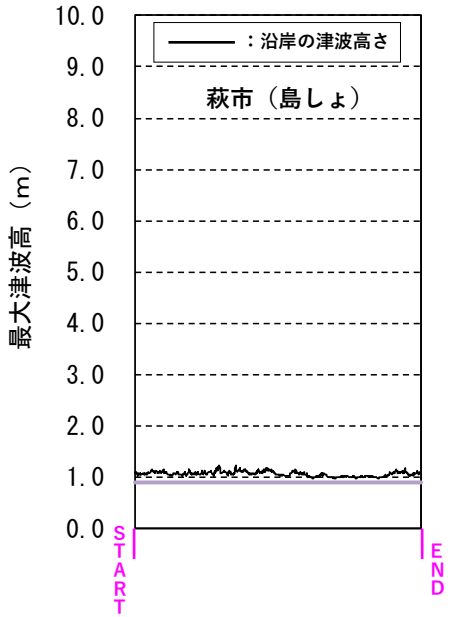
## 沿岸の津波高さ（見島西緑断層・島しょ）

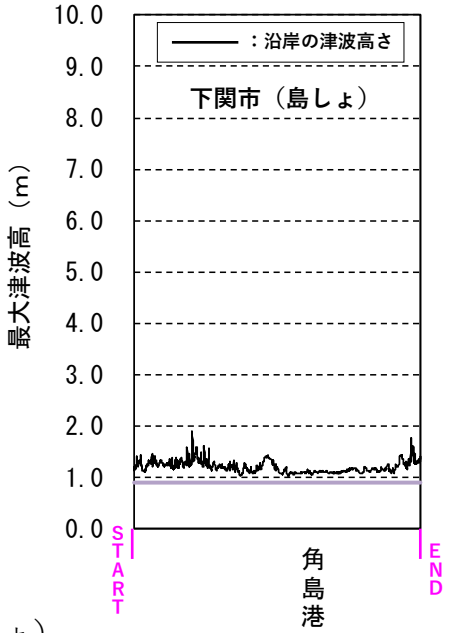


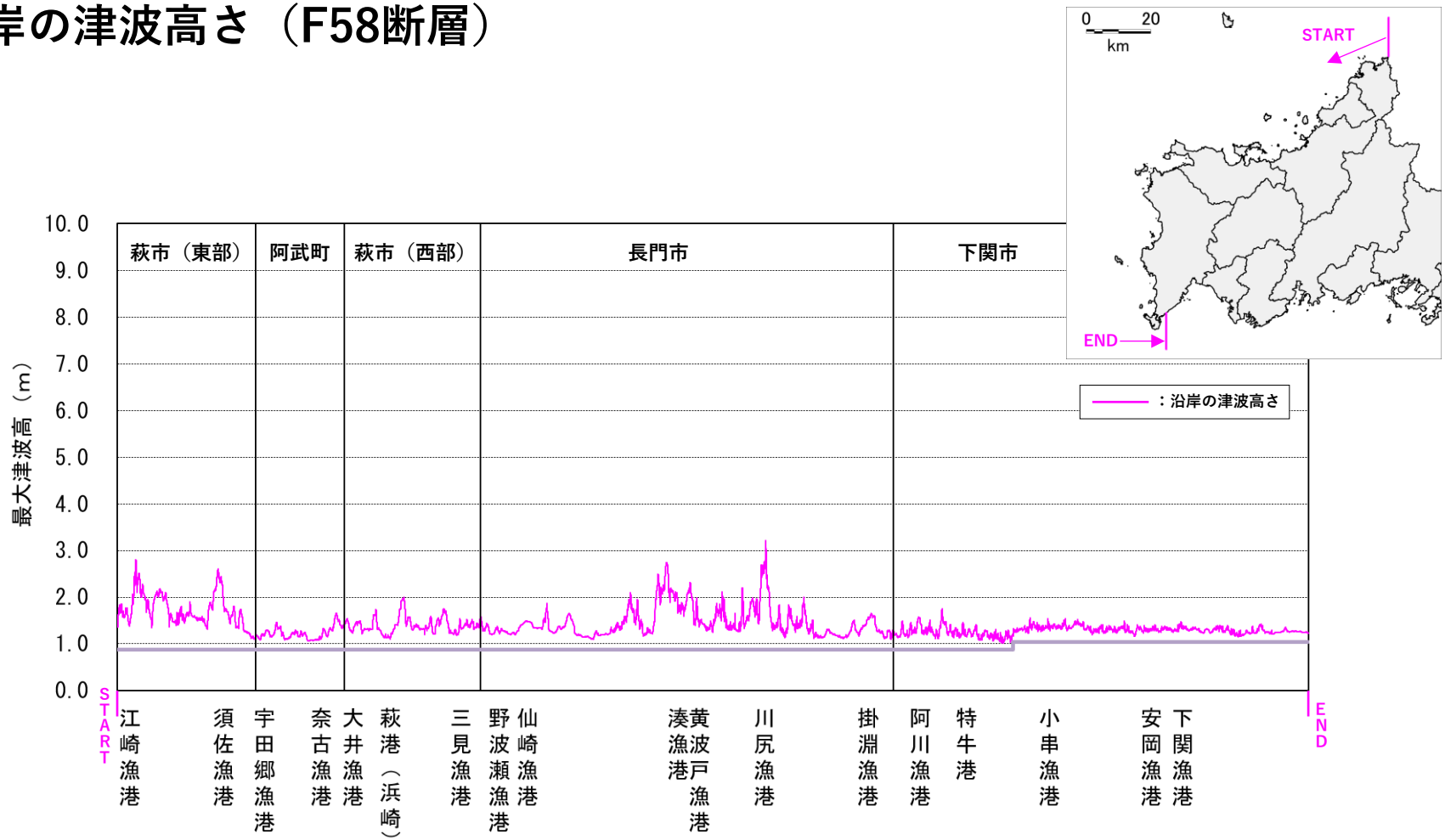




【参考】図-8　沿岸津波高分布（見島西緑断層、島しょ）

# 試算結果

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 沿岸の津波高さ（F58断層）

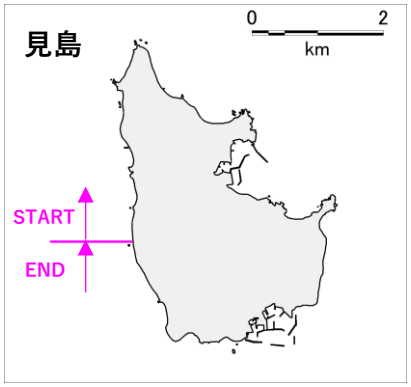


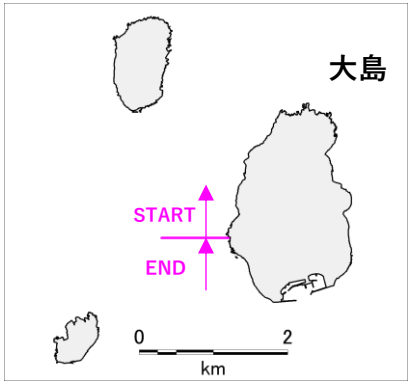

【参考】図-9　沿岸津波高分布（F58断層）

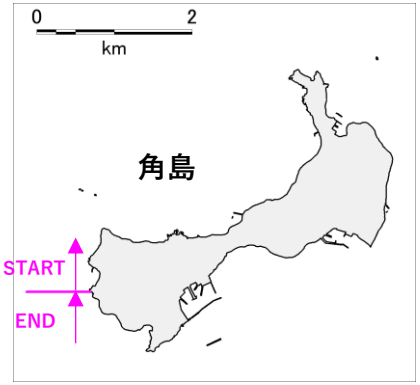
# 試算結果

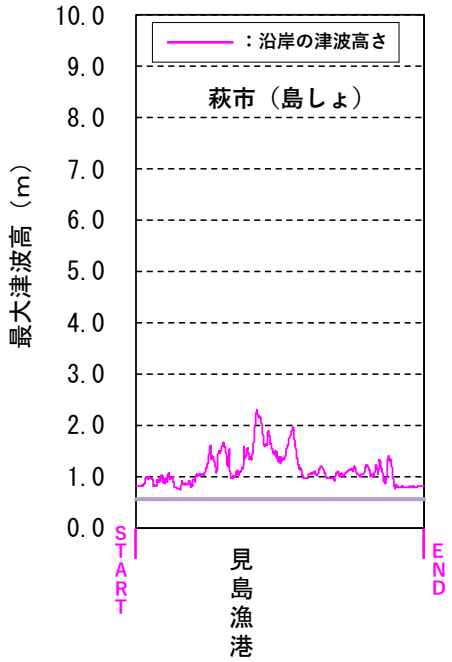
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

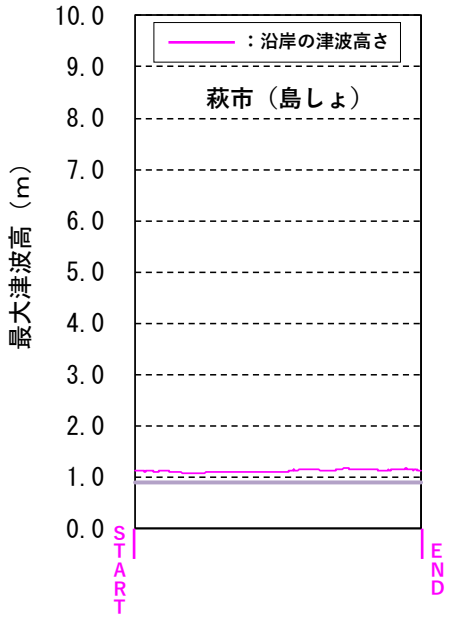
## 沿岸の津波高さ（F58断層・島しょ）

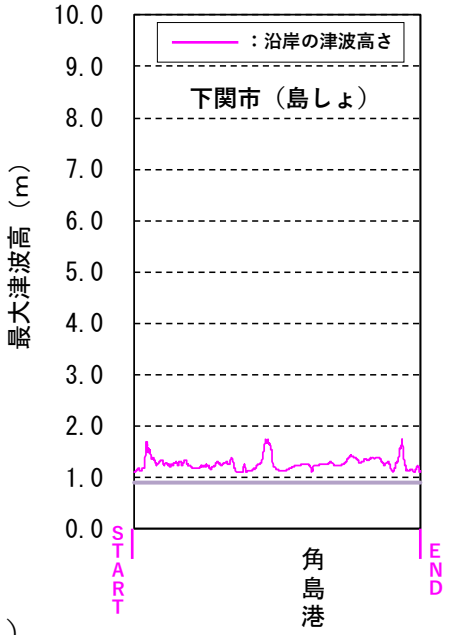


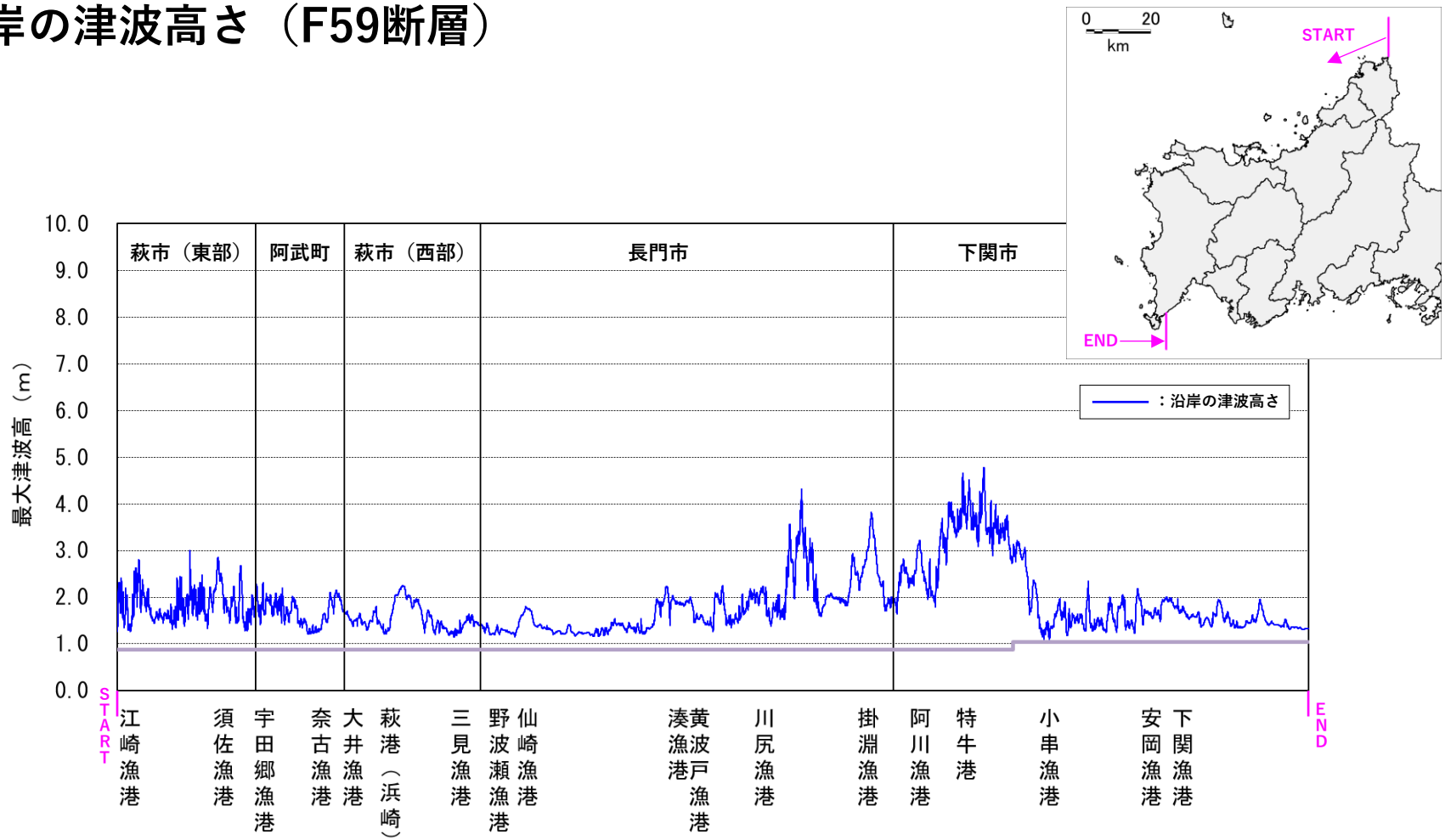




【参考】図-10　沿岸津波高分布（F58断層、島しょ）

# 試算結果

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 沿岸の津波高さ（F59断層）

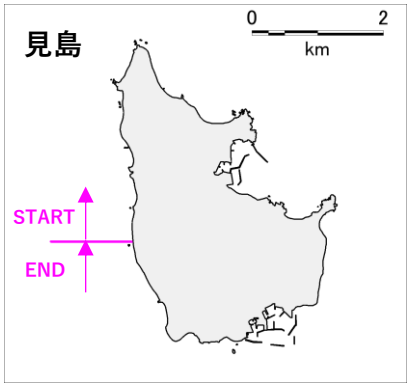


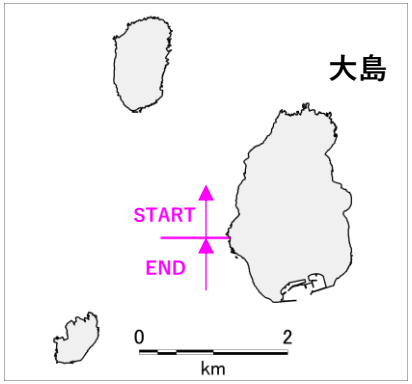

【参考】図-11　沿岸津波高分布（F59断層）

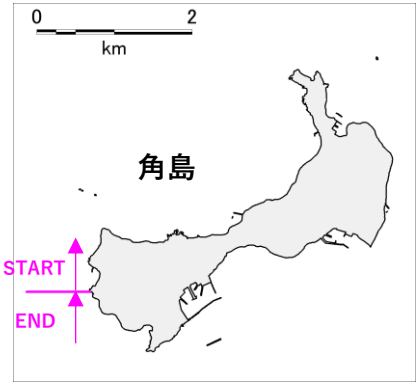
# 試算結果

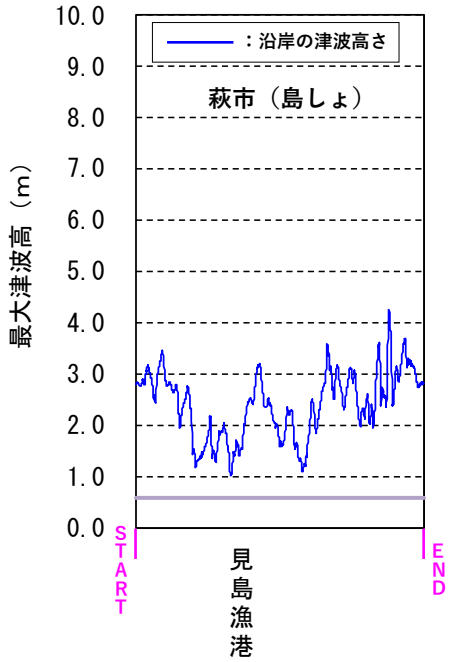
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

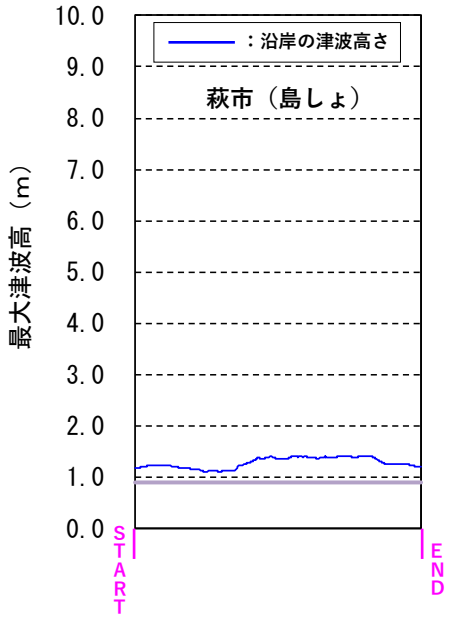
## 沿岸の津波高さ（F59断層・島しょ）

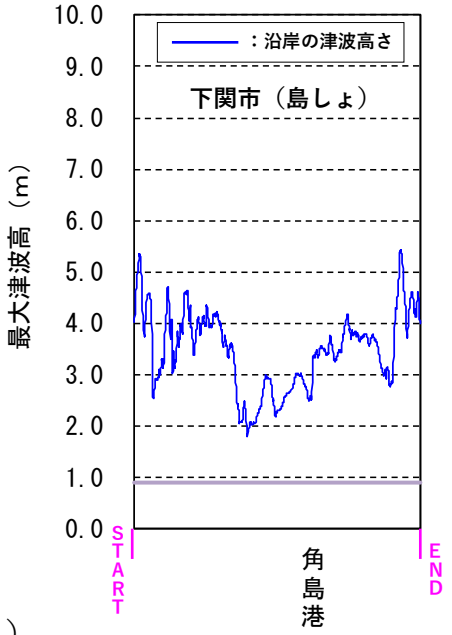


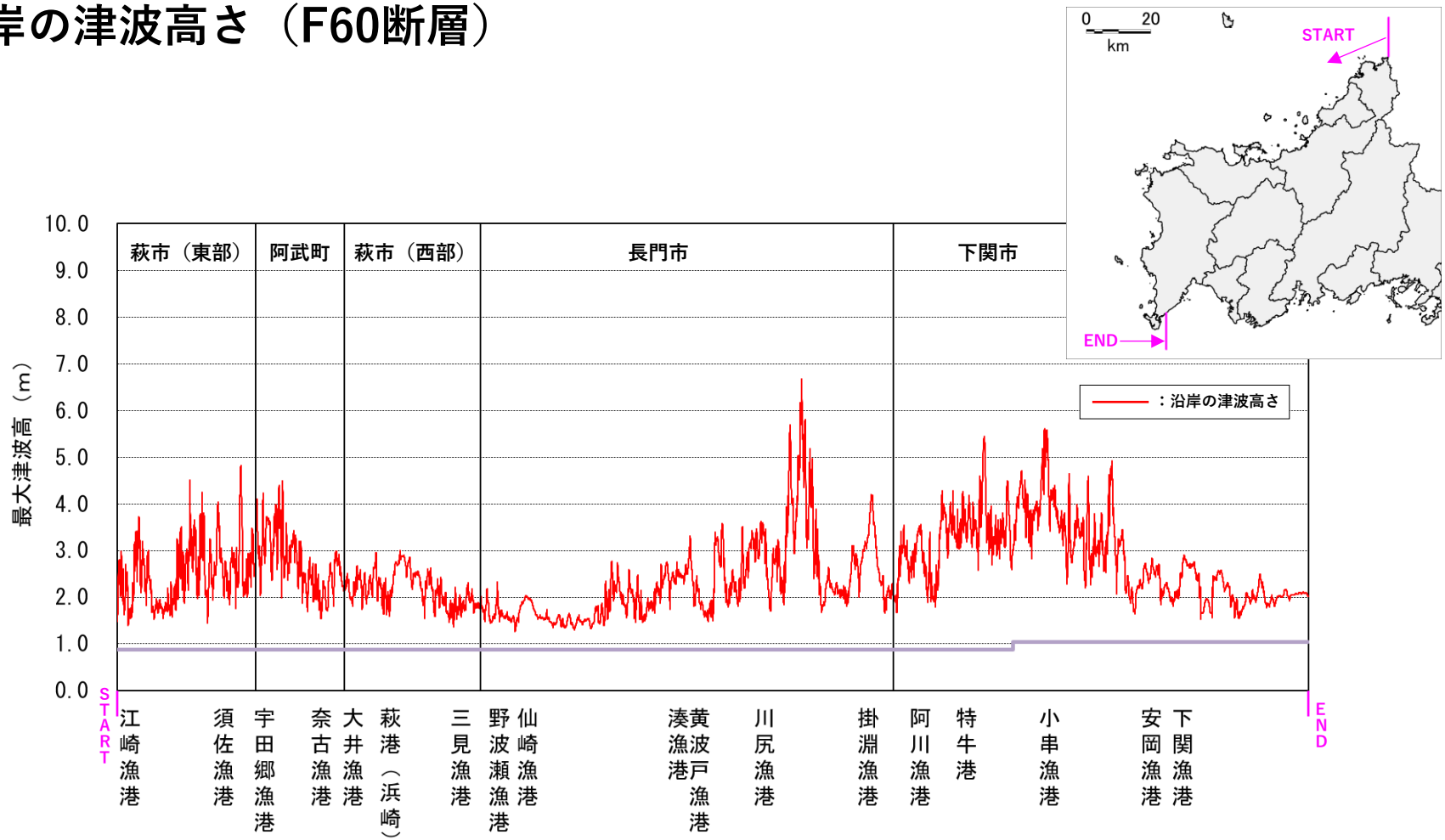




【参考】図-12　沿岸津波高分布（F59断層、島しょ）

# 試算結果

本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

## 沿岸の津波高さ（F60断層）

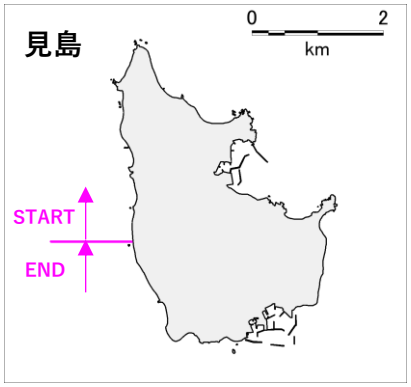


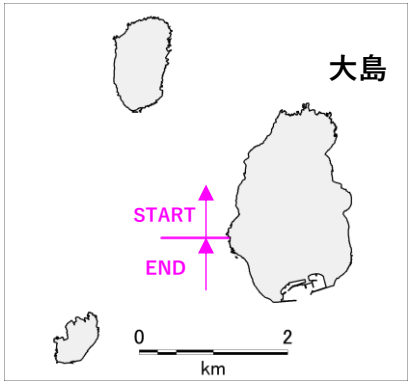

【参考】図-13　沿岸津波高分布（F60断層）

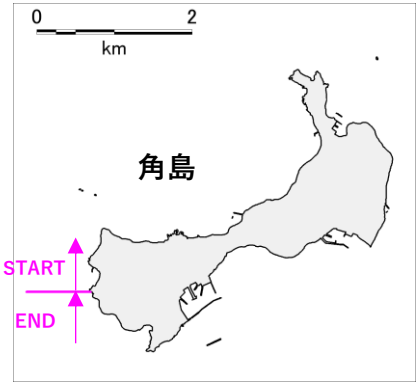
# 試算結果

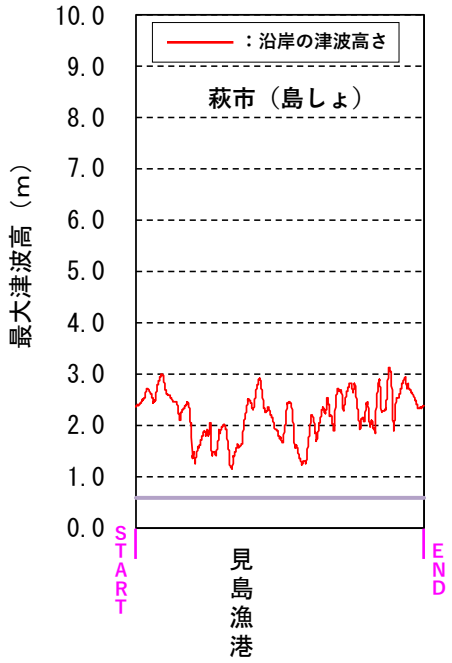
本資料は暫定であり、今後変わり得ることに御留意ください。

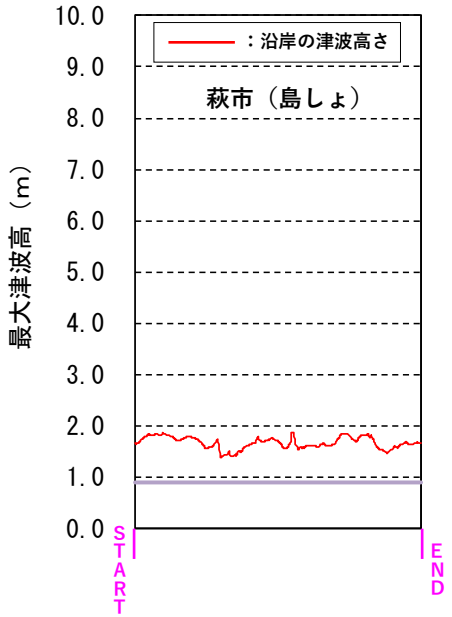
## 沿岸の津波高さ（F60断層・島しょ）

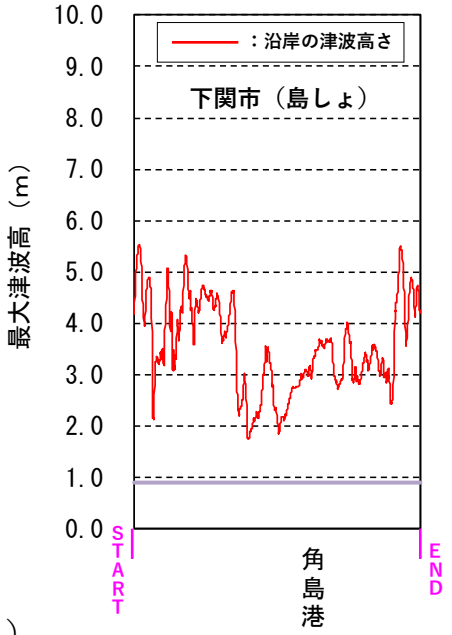



【参考】図-14　沿岸津波高分布（F60断層、島しょ）

# 日本海の想定地震について

# 日本海の想定地震について

## 日本海の想定地震の選定

・日本海側海底活断層の想定地震選定のため「漁港別最大津波水位」を下表のとおり取りまとめた。

表-3 漁港別最大津波水位

| No | 断層名 | 算定項目 | 市町名称 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 下関市 | | | | | | 萩市 | | | | | |
| | | | 下関漁港 | 安岡漁港 | 小串漁港 | 特牛港 | 角島港 | 阿川漁港 | 三見漁港 | 萩港（浜崎） | 大井漁港 | 見島漁港 | 須佐漁港 | 江崎漁港 |
| 1 | ① 見島付近西部断層 | 津波高（m） | 1.6 | 1.5 | 1.7 | 1.8 | 1.7 | 2.7 | 3.3 | 2.9 | 1.9 | 1.8 | 1.8 | 2.0 |
| 2 | ③ 対馬海盆南方断層 | 津波高（m） | 2.8 | 3.1 | 3.2 | 3.3 | 3.7 | 3.5 | 3.6 | 3.8 | 3.2 | 7.0 | 2.7 | 2.1 |
| 3 | ④ 佐渡島北方沖の地震 | 津波高（m） | 1.9 | 1.9 | 2.0 | 1.9 | 2.2 | 2.0 | 2.6 | 2.7 | 3.1 | 5.0 | 3.2 | 3.6 |
| 4 | ⑤ F59断層（② 神田岬沖断層を包含） | 津波高（m） | 2.0 | 2.0 | 1.6 | 4.6 | 4.2 | 3.0 | 1.7 | 2.3 | 1.7 | 3.7 | 2.3 | 2.9 |
| 5 | ⑥ F60断層 | 津波高（m） | 2.9 | 2.9 | 4.4 | 4.2 | 4.1 | 3.6 | 2.4 | 3.1 | 2.7 | 3.0 | 3.1 | 3.8 |
| 6 | ⑦ F58断層 | 津波高（m） | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.6 | 2.0 | 1.5 | 2.4 | 1.9 | 2.9 |
| 7 | ⑧ 見島西縁断層 | 津波高（m） | 1.4 | 1.4 | 1.4 | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 1.2 | 4.4 | 1.6 | 1.8 |

| No | 断層名 | 算定項目 | 市町名称 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長門市 | | | | | | 阿武町 | |
| | | | 掛淵漁港 | 川尻漁港 | 黄波戸漁港 | 湊漁港 | 仙崎漁港 | 野波瀬漁港 | 奈古漁港 | 宇田郷漁港 |
| 1 | ① 見島付近西部断層 | 津波高（m） | 2.5 | 4.1 | 3.0 | 2.9 | 2.9 | 1.8 | 1.8 | 1.8 |
| 2 | ③ 対馬海盆南方断層 | 津波高（m） | 3.1 | 4.6 | 2.7 | 2.7 | 3.2 | 2.2 | 2.9 | 3.5 |
| 3 | ④ 佐渡島北方沖の地震 | 津波高（m） | 1.9 | 2.6 | 1.9 | 1.9 | 2.4 | 1.9 | 3.2 | 3.1 |
| 4 | ⑤ F59断層（② 神田岬沖断層を包含） | 津波高（m） | 3.9 | 2.3 | 1.7 | 2.0 | 2.3 | 1.4 | 2.2 | 2.1 |
| 5 | ⑥ F60断層 | 津波高（m） | 4.3 | 3.5 | 2.0 | 2.6 | 2.8 | 1.8 | 3.0 | 3.8 |
| 6 | ⑦ F58断層 | 津波高（m） | 1.7 | 3.3 | 1.6 | 1.9 | 2.8 | 1.4 | 1.7 | 1.4 |
| 7 | ⑧ 見島西縁断層 | 津波高（m） | 1.4 | 1.5 | 1.2 | 1.3 | 1.4 | 1.1 | 1.4 | 1.5 |

※小数点以下第2位を切り上げ

：各漁港における最大津波高（m）

# 日本海の想定地震について

## 日本海の想定地震の選定

・「漁港別最大津波水位」をふまえ、日本海側の想定地震は以下の5地震を選定した。

① 見島付近西部断層

③ 対馬海盆南方断層

④ 佐渡島北方沖の地震

⑤ F59断層（② 神田岬沖断層を包含）

⑥ F60断層

・下表には参考までに震度5強以上の曝露人口比率と最大計測震度を示した。

表-4 想定地震（被害想定用断層）の設定（日本海側海底活断層）

| No | 断層名 | ケース | 算定項目 | 市町名称 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 算定項目による断層選定 | | 前回調査(H20.3)での想定地震 | 被害想定実施断層 | 備 考（決定理由等） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 下関市 | 宇部市 | 山口市 | 萩市 | 防府市 | 下松市 | 岩国市 | 光市 | 長門市 | 柳井市 | 美祢市 | 周南市 | 山陽小野田市 | 周防大島町 | 和木町 | 上関町 | 田布施町 | 平生町 | 阿武町 | 県全体 | 地 震 | 津 波 | | | |
| 1 | ① 見島付近西部断層 | Case3 | 曝露人口比率 | 0.002 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.005 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.0004 | | ○ | ○ | | |
| | | | 最大計測震度 | 5.1 | 4.7 | 4.7 | 5.0 | 4.0 | 3.2 | 3.0 | 2.9 | 5.3 | 2.8 | 4.1 | 3.5 | 4.4 | 2.7 | 2.7 | 2.7 | 2.9 | 2.9 | 4.5 | 5.3 | | | | | |
| 2 | ③ 対馬海盆南方断層 | Case2 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.007 | | ○ | ○ | | |
| | | | 最大計測震度 | 4.4 | 3.6 | 3.4 | 4.0 | 3.0 | 2.8 | 2.6 | 2.4 | 3.9 | 2.5 | 2.9 | 2.8 | 3.2 | 2.4 | 2.5 | 2.2 | 2.5 | 2.5 | 4.0 | 4.4 | | | | | |
| 3 | ④ 佐渡島北方沖の地震 | — | — | 既往調査(H26)は津波浸水のみを評価し、地震動の評価は行っていないため、本調査も地震動は対象外とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | — | | ○ | | | |
| | | | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | — | | | | | |
| 4 | ⑤ F59断層（② 神田岬沖断層を包含） | Case2 | 曝露人口比率 | 0.997 | 0.600 | 0.035 | 0.000 | 0.028 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.451 | 0.000 | 0.757 | 0.000 | 0.825 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.330 | ○ | ○ | | | |
| | | | 最大計測震度 | 7.0 | 6.0 | 5.9 | 4.7 | 5.0 | 4.1 | 3.8 | 3.8 | 6.2 | 3.5 | 6.1 | 4.4 | 6.4 | 3.4 | 3.2 | 3.5 | 3.6 | 3.5 | 4.8 | 7.0 | | | | | |
| 5 | ⑥ F60断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.298 | 0.011 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.015 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.059 | | ○ | ○ | | |
| | | | 最大計測震度 | 5.7 | 5.3 | 4.9 | 4.0 | 4.1 | 3.5 | 3.0 | 3.3 | 4.4 | 3.2 | 4.1 | 3.8 | 5.2 | 3.0 | 2.7 | 3.4 | 3.4 | 3.4 | 3.9 | 5.7 | | | | | |
| 6 | ⑦ F58断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.284 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.001 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.928 | 0.012 | ○ | | | | |
| | | | 最大計測震度 | 4.8 | 4.5 | 5.1 | 6.0 | 4.2 | 4.1 | 4.3 | 3.8 | 5.1 | 3.8 | 4.5 | 4.4 | 4.3 | 4.1 | 3.8 | 3.5 | 3.8 | 3.8 | 6.0 | 6.0 | | | | | |
| 7 | ⑧ 見島西縁断層 | Case1 | 曝露人口比率 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.016 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.021 | ○ | | | | |
| | | | 最大計測震度 | 4.7 | 4.8 | 4.6 | 6.2 | 4.0 | 3.7 | 3.3 | 3.2 | 5.0 | 3.0 | 4.2 | 4.2 | 4.4 | 3.1 | 2.8 | 2.9 | 3.0 | 2.9 | 4.9 | 6.2 | | | | | |

設定中